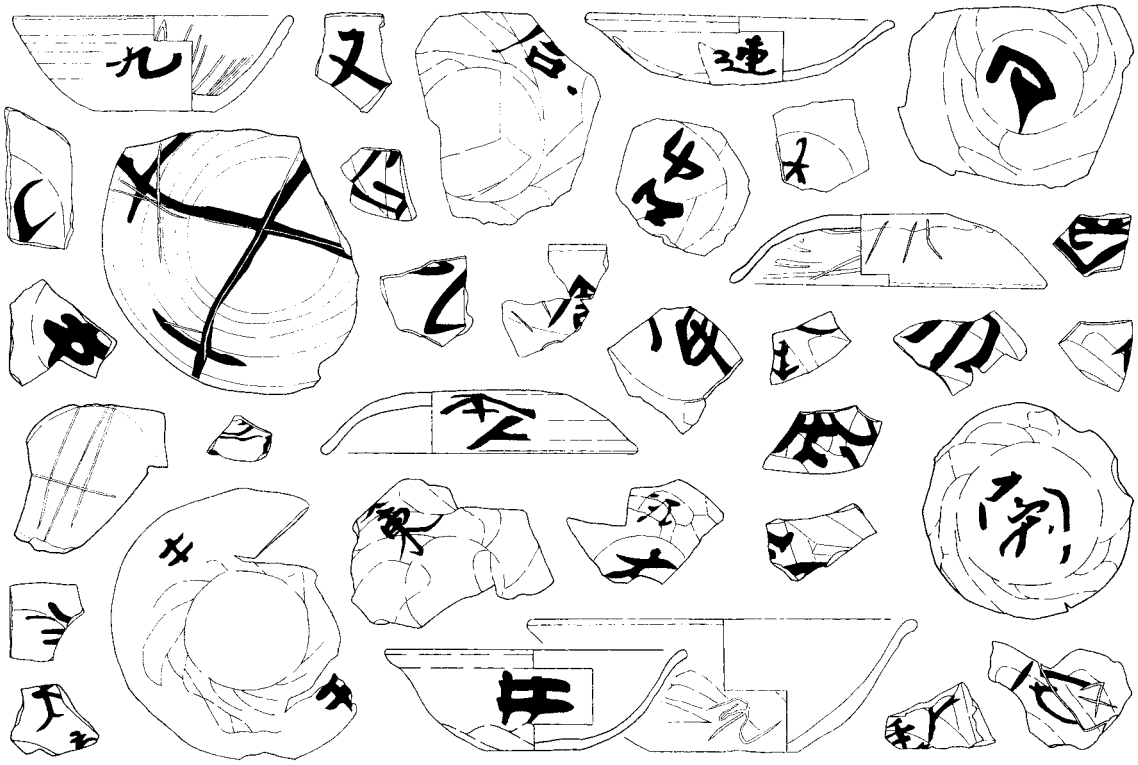
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 282 集

滝沢遺跡（第２次）

たき　ざわ　い　せき

一般国道１３７号吉田河口湖バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書



２０１２．３

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部

滝沢遺跡（第２次）

たき　ざわ　い　せき

一般国道１３７号吉田河口湖バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書

２０１２．３

山梨県教育委員会

山梨県県土整備部

滝沢遺跡　第２次発掘調査のあらまし

新御坂トンネル手前から見える河口地区（平成 21 年 9 月 10 日撮影）

滝沢遺跡の立地する南都留郡富士河口湖町の河口地区は、駿河国（静岡県）を通過する東海道と甲斐国を結ぶ古代の官道「甲斐路」または「御坂路」と呼ばれる道路が通っていたといわれ、平安時代の法典『延喜式（えんぎしき）』に記載された、中央（都）との連絡に使用する馬を用意するための施設「河口駅」（甲斐国三駅の１つ）があったといわれています。

滝沢遺跡の発掘調査は、今回が２回目（第２次調査）になります。平成１７（２００５）年度に国道１３７号河口２期バイパス建設工事に先立ち行われた第１次調査では、弥生時代から平安時代にかけての遺跡であることが明らかになりました。中でも平安時代（９世紀～１０世紀頃）の竪穴住居跡が１５軒発見されており、この遺跡一帯が官道に沿って広がっていた平安時代の集落であったことが考えられます。

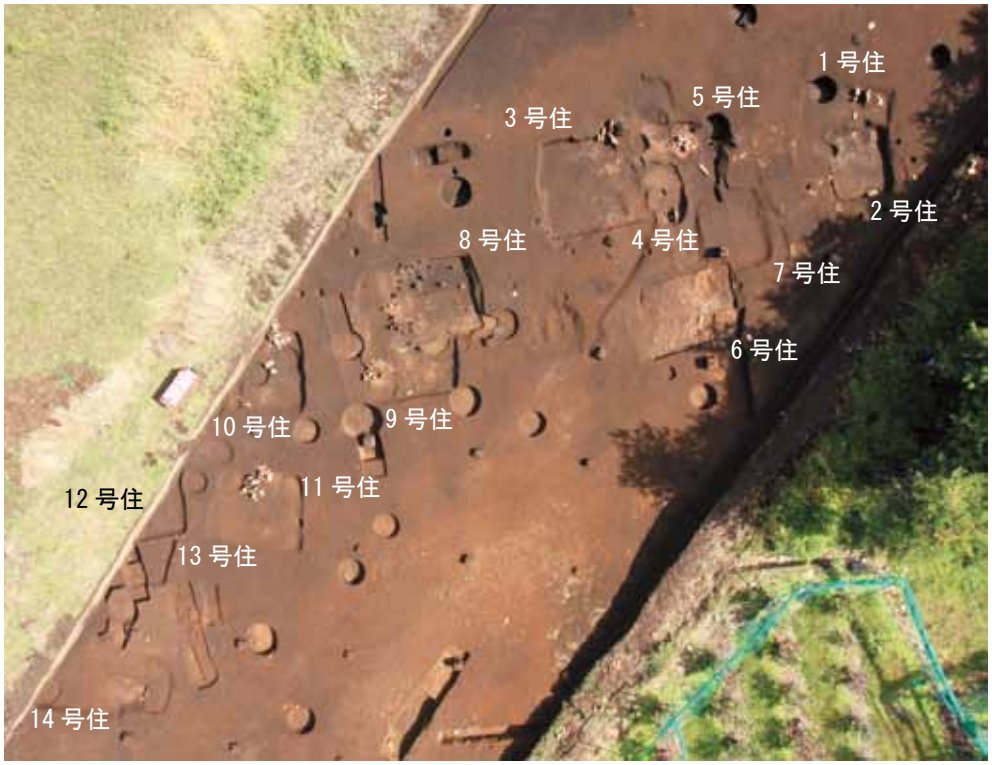
今回の第２次調査は、富士吉田市新倉（あらくら）からトンネルを抜けて河口２期バイパスへつながる吉田河口湖バイパス建設工事に先立って行われました。ちょうど第１次調査区域Ⅰ区～Ⅲ区の東側に接することから、続けてⅣ区・Ⅴ区と調査区域を設定しました。このあたりは、御坂山・三ツ峠山の南麓で、河口湖の北東部の標高８４０ｍから８５１ｍにかけての緩やかな斜面上に立地しており、遺跡から富士山は見えませんが、黒岳（１７９２.７ｍ）をはじめ御坂山地を一望することができます。

Ⅴ区　全景（南から撮影：奥は御坂山地）

中心となるⅤ区は、幅２０ｍ、長さ１３５ｍにわたって調査され、地表下１.２ｍ前後の層から平安時代（９世紀

Ｖ区　全景（東から撮影：奥は河口湖）

末～１０世紀代）の竪穴住居跡１５軒、集石１基、溝状遺構１条、弥生時代から平安時代にかけての焼土遺構４基、中世以降の掘立柱建物跡１棟、土坑４４基、溝状遺構２条、時期不明の竪穴状遺構１基などが発見されました。住居跡は御坂峠を望むように南北方向に帯状に１４軒が広がっており、同じ場所に何回も建て替えられている住居もあります。確認面から床面まで、深い住居で６０cmほどもあり、良好な状態で発見されています。カマドの遺（のこ）りも良く、真っ赤に焼けた土が厚く堆積していました。分析したところ、コイ、ウグイなど淡水魚の骨片が見つかりました。住居跡やその周辺からは、網につける長さ４cmほどの土製の錘（すい）（おもり）が出土していることから、近くの川や河口湖で漁をしていたことが考えられます。



Ｖ区　平安時代住居跡の配置

これらの住居跡などからは、「甲斐型（かいがた）土器」と呼ばれるこの時代の甲斐国の特徴

Ｖ区　調査風景

Ｖ区　１号・２号住居跡（手前が２号）

Ｖ区　５号住居跡１号カマドを断ち割った状況

Ｖ区　５号住居跡２号カマド

Ｖ区　10号住居跡カマド

Ｖ区　14号住居跡カマド内の土器

的な素焼きの赤い土師器が大量に出土しました。中には、墨で文字が書かれた「墨書土器」や、釘などの鋭利な道具で「川」という文字や、まじない・魔よけの記号と考えられる格子状の線がつけられた「刻書土器」も数多くあります。「川」の刻書は「河口」の地名を表している可能性も考えられ、これらは滝沢遺跡の性格の一端を現しているものと考えられます。他にも窯で焼かれ灰色をした須恵器や釉薬（うわぐすり）をかけた陶器、土製の錘、小刀や釘・鏃などの鉄製品もあります。東側の山際では弥生時代の土器が出土し、中央から西側にかけては平安時代の土器とともに古墳時代の土器も多く出土しました。縄文土器もあります。西端は河川の氾濫による砂礫で覆われていましたが、それでも平安時代の住居跡が１軒発見されました。

Ⅴ区出土　墨書土器

Ⅴ区出土　刻書土器

一方、先行して行われたⅣ区の調査では、弥生時代の一辺７ｍほどの方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）が１基発見されました。方形周溝墓は、周りに溝を掘って方形に区画し、内部に土を盛り遺体を埋葬した弥生時代の代表的な墓制ですが、今回発見されたものは、周溝の四隅が切れる、東海道沿いの地域で多く見られるタイプのもので、方形周溝墓の甲府盆地への波及ルートを考える上で重要です。周溝から土器は全く出土していませんが、周辺から弥生時代中期の土器片がわずかですが出土しており、この時期に造られたと見られます。しかし、方形周溝墓は通常、ムラの集団の墓として群をなして造られますが、隣接する第１次調査Ⅲ区において１基も確認されていないことなどの問題点はありますが、現状では郡内地域で初めての、さらに県内最古の方形周溝墓になります。

Ⅴ区出土　土錘

Ⅳ区　１号方形周溝墓

第１次・第２次調査では「河口駅」に直接関わるような建物跡や遺物は発見されませんでしたが、滝沢遺跡は平成２３年度も発掘調査が行われており、さらに調査は続きます。今後これらの成果を通じて「河口駅」、さらにはこの地域の歴史について改めて考えていく必要があります。

序　文

本書は、2009（平成 21）年度に実施した、南都留郡富士河口湖町に所在する滝沢遺跡の発掘調査報告書です。この調査は、山梨県県土整備部が行う一般国道 137 号吉田河口湖バイパス建設工事に伴うもので、富士山北麓にあたる御坂山地の御坂山・三ツ峠山の南麓で、河口湖北東部の緩斜面にあります。また、遺跡が所在する富士河口湖町河口地区は、古代の官道「甲斐路」または「御坂路」が通っていたといわれ、平安時代の法典『延喜式』に記載された甲斐国三駅の一つ「河口駅」が置かれた地と推定されています。

滝沢遺跡は、2005（平成 17）年度に国道 137 号河口２期バイパス建設工事に先立ち第１次調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡が 15 軒発見されており、この遺跡一帯が官道に沿って広がっていた集落であったことが明らかになっています。第２次となる今回の調査では、前回の調査区域Ⅰ区～Ⅲ区の東側に隣接することから、続けてⅣ区・Ⅴ区と設定し調査を進めました。

その結果、Ⅴ区では第１次調査と同時期の竪穴住居跡 15 軒、集石遺構１基、溝状遺構１条、縄文・古墳・平安時代の焼土遺構４基、中世以降の掘立柱建物跡１棟、土坑 44 基、溝状遺構２条、時期不明の竪穴状遺構１基などが発見されました。出土した遺物のうち、平安時代の土器には墨書・刻書が多数確認されましたが、その中でも「川」という文字やまじない・魔除けの記号がつけられた刻書土器の多さは特筆すべきものがあります。平安時代では土器の他に、刀子や釘・鏃などの鉄製品もあり、今回も漁労具の土錘がまとまって出土しています。また、縄文時代から弥生時代、古墳時代にかけての土器も数多く見られます。

一方、先行して行われたⅣ区の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓１基が発見されました。方形周溝墓は、山梨の弥生時代を代表する伝統的な墓制ですが、郡内地域では初めての発見となり、さらに県内ではこれまで弥生時代中期にさかのぼる方形周溝墓はなく最古のものになり、甲府盆地への波及ルートを考える上で重要な発見となりました。

これらの遺構・遺物は、この地域一帯が太古の時代から多くの人々とともにさまざまな文物が交流した、交通の要衝であったことを物語っています。近年の発掘調査により、河口地区の古代集落の様相が徐々に明らかになってきており、今回も新たな資料が提供されたことになります。そして、今後の調査研究の進展とともに「河口駅」、さらには富士河口湖町の歴史について考える上で、本報告書が多くの方々に御活用いただければ幸いです。

最後に、調査にあたって御指導・御協力いただいた関係機関並びに調査・整理作業に従事された方々に厚く御礼申し上げます。

2012 年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　平　賀　孝　雄

例　　言

1　本書は山梨県南都留郡富士河口湖町河口地内に所在する滝沢遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、一般国道 137 号吉田河口湖バイパス建設工事に伴う事前調査であり、山梨県県土整備部より山梨県教育委員会が委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査・整理作業・報告書作成をを実施したものである。

3　発掘調査にあたった組織は次のとおりである。

調査主体　　山梨県教育委員会

調査機関　　山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者　平成 21 年度　小林健二（主査・文化財主事）・古川明日香（非常勤嘱託）

整理作業　　平成 21 年度　小林健二（主査・文化財主事）・古川明日香（非常勤嘱託）

　　平成 22 年度　小林健二（主査・文化財主事）・小林万里子（副主査・文化財主事）

4　発掘調査期間および整理作業期間は以下のとおりである。

平成 21 年度　発　掘　調　査　平成 21 年 5 月 28 日～ 10 月 28 日

　　基礎的整理作業　平成 21 年 12 月 2 日～平成 22 年 3 月 26 日

平成 22 年度　本格的整理作業　平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 3 月 25 日

5　本書の執筆・編集は小林健二が行った。なお、自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その報告原稿を第 4 章に掲載した。

6　遺構写真・調査風景写真は小林が撮影した。

7　報告書掲載遺物写真撮影はスタジオトータルアイに委託し、一部を小林が撮影した。

8　発掘調査における世界測地系座標に基づく基準杭・グリッド杭設定・標高杭設定については昭和測量株式会社に委託した。

9　Ｖ区の鳥瞰写真等航空写真撮影及び写真測量図化については株式会社テクノプランニングに委託した。

10　Ｖ区 5 号住居跡 2 号カマド、9 号住居跡・10 号住居跡・11 号住居跡のカマド微細図作成については株式会社シン技術コンサルに委託した。

11　本報告書に関わる記録図面・写真・出土遺物などは一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

12　発掘調査および整理作業においては次の方々・機関にご協力・ご教示を賜った。記して感謝の意を表す次第である。（順不同、所属・敬称略）

小澤美和子、櫛原功一、杉本悠樹　永田亮一、林宏、平野修、古屋勝男、渡辺寛、富士河口湖町教育委員会、河口地区公民館、フジコンストラクト株式会社

13　発掘作業・整理作業参加者は以下の通りである。

発掘作業員　浅倉潤子、天野日出夫、石川泰永、奥脇敏昭、奥脇正志、栗原礼子、駒谷清子、沢登淳子、新垣幸雄、鈴木俊夫、田辺明徳、外川昌宏、中村文子、西尾国夫、萩原里江子、林冨雄、古屋生代、堀内駒雄、正木なつ子、山脇照良

整理作業員　栗原礼子、土井みさほ、萩原里江子、正木なつ子

凡　　例

1　本報告書の遺構・遺物の挿図縮尺は原則として以下の通りである。

〔遺構〕　全体図・遺構外出土遺物分布図：1/300、竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・方形周構墓・集石・溝状遺構・土坑・ピット：1/60、カマド：1/30、焼土：1/20

〔遺物〕　土器：1/3、土製品・石器・石製品・鉄製品：1/2

2　住居跡や土坑などの遺構番号は、第２次調査において順次付したものであり、第１次調査の遺構番号とは連続していない。なお、調査区域名およびグリッド番号は第１次調査から連続して付したものである。

3　調査区は世界測地系座標によって設定しており、全体図中におけるグリッド名と別に付した数値は座標線の数値である。よって南北のグリッド線および図中の北印は真北を指す。

4　遺構挿図中に用いたスクリーントーンのうち、カマド微細図の構築石材にドットのあるものは溶岩を示す。他のものは図中にそれぞれ示してある。また遺物のドットは●が土器、■は土製品、○は石器・石製品、△は鉄製品を示し、番号はそれぞれ遺構ごとの遺物図版の番号と対応している。遺構外出土遺物分布図についても同様である。

5　遺物挿図中、土器類の断面図において黒く塗りつぶしてあるものは須恵器、スクリーントーンは灰釉陶器・緑釉陶器を示す。また土器類の器面に用いたスクリーントーンは黒色処理、赤色塗彩された範囲を示す。

6　遺構断面図中のレベルポイント部分にある数字は標高（単位はm）を示す。

7　土器観察表中の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』1990 年度版による。

目　次

滝沢遺跡　第２次発掘調査のあらまし
序文
例言
凡例
目次
第１章　調査の経緯・経過……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の目的と課題……2
　第３節　発掘調査の経過……2
　第４節　室内調査等の経過……3
　第５節　調査に係る事務手続き……3
第２章　遺跡の位置と環境……4
　第１節　地理的環境……4
　第２節　歴史的環境……4
第３章　調査の方法と成果……6
　第１節　調査の方法……6
　第２節　基本層序……6
　第３節　Ⅳ区の遺構と遺物……10
　　第１項　方形周溝墓……10
　　第２項　出土遺物……10
　第４節　Ⅴ区の遺構と遺物……16
　　第１項　竪穴住居跡……16
　　第２項　集石……22
　　第３項　竪穴状遺構……22
　　第４項　焼土……22
　　第５項　掘立柱建物跡……23
　　第６項　溝状遺構……23
　　第７項　土坑・ピット……24
　　第８項　遺構外出土遺物……24
第４章　自然科学分析……146
第５章　総　括……156
　第１節　平安時代の遺構・遺物について……156
　第２節　弥生時代・古墳時代の
　　遺構・遺物について……157

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置と周辺の遺跡……5
第 2 図　滝沢遺跡遺構配置図・グリッド配置図　7
第 3 図　基本層序確認地点……8
第 4 図　基本土層断面図……9
第 5 図　Ⅳ区全体図……11
第 6 図　Ⅳ区出土遺物分布図……12
第 7 図　Ⅳ区１号方形周溝墓……13
第 8 図　Ⅳ区出土遺物……14
第 9 図　Ⅴ区１号住居跡⑴・２号住居跡⑴……26
第 10 図　Ⅴ区１号住居跡⑵・２号住居跡⑵……27
第 11 図　Ⅴ区３号住居跡⑴・
　　４号住居跡⑴・５号住居跡⑴……28
第 12 図　Ⅴ区３号住居跡⑵・
　　４号住居跡⑵・５号住居跡⑵……29
第 13 図　Ⅴ区３号住居跡⑶・
　　４号住居跡⑶・５号住居跡⑶……30
第 14 図　５号住居跡⑷……31
第 15 図　Ⅴ区６号住居跡⑴・７号住居跡⑴……32
第 16 図　Ⅴ区６号住居跡⑵・７号住居跡⑵……33
第 17 図　Ⅴ区８号住居跡⑴・９号住居跡⑴……34
第 18 図　Ⅴ区８号住居跡⑵・９号住居跡⑵……35
第 19 図　Ⅴ区８号住居跡⑶・９号住居跡⑶……36
第 20 図　Ⅴ区 10 号住居跡⑴……37
第 21 図　Ⅴ区 10 号住居跡⑵……38
第 22 図　Ⅴ区 11 号住居跡……39
第 23 図　Ⅴ区 12 号住居跡・13 号住居跡……40
第 24 図　Ⅴ区 14 号住居跡⑴……41
第 25 図　Ⅴ区 14 号住居跡⑵・15 号住居跡……42
第 26 図　Ⅴ区１号集石⑴……43
第 27 図　Ⅴ区１号集石⑵・１号竪穴状遺構……44
第 28 図　Ⅴ区１～４号焼土・１号掘立柱建物跡　45
第 29 図　Ⅴ区１～３号溝状遺構・１～７号土坑　46
第 30 図　Ⅴ区８・10 ～ 26 号土坑……47
第 31 図　Ⅴ区 27 ～ 45 号土坑……48
第 32 図　Ⅴ区遺構外出土遺物分布図……49 ～ 50
第 33 図　Ⅴ区出土土器 (1) ……51
第 34 図　Ⅴ区出土土器 (2) ……52
第 35 図　Ⅴ区出土土器 (3) ……53
第 36 図　Ⅴ区出土土器 (4) ……54
第 37 図　Ⅴ区出土土器 (5) ……55
第 38 図　Ⅴ区出土土器 (6) ……56
第 39 図　Ⅴ区出土土器 (7) ……57
第 40 図　Ⅴ区出土土器 (8) ……58
第 41 図　Ⅴ区出土土器 (9) ……59

第 42 図　Ⅴ区出土土器 (10)…… 60
第 43 図　Ⅴ区出土土器 (11)…… 61
第 44 図　Ⅴ区出土土器 (12)…… 62
第 45 図　Ⅴ区出土土器 (13)…… 63
第 46 図　Ⅴ区出土土器 (14)…… 64
第 47 図　Ⅴ区出土土器 (15)…… 65
第 48 図　Ⅴ区出土土器 (16)…… 66
第 49 図　Ⅴ区出土土器 (17)…… 67
第 50 図　Ⅴ区出土土器 (18)…… 68
第 51 図　Ⅴ区出土土器 (19)…… 69
第 52 図　Ⅴ区出土土器 (20)…… 70
第 53 図　Ⅴ区出土土器 (21)…… 71
第 54 図　Ⅴ区出土土器 (22)…… 72
第 55 図　Ⅴ区出土土器 (23)…… 73
第 56 図　Ⅴ区出土土器 (24)…… 74
第 57 図　Ⅴ区出土土器 (25)…… 75
第 58 図　Ⅴ区出土土器 (26)…… 76
第 59 図　Ⅴ区出土土器 (27)…… 77
第 60 図　Ⅴ区出土土器 (28)…… 78
第 61 図　Ⅴ区出土土器 (29)…… 79
第 62 図　Ⅴ区出土土器 (30)…… 80
第 63 図　Ⅴ区出土土器 (31)…… 81
第 64 図　Ⅴ区出土土器 (32)…… 82
第 65 図　Ⅴ区出土土器 (33)…… 83
第 66 図　Ⅴ区出土土器 (34)…… 84
第 67 図　Ⅴ区出土土器 (35)…… 85
第 68 図　Ⅴ区出土土器 (36)…… 86
第 69 図　Ⅴ区出土土器 (37)…… 87
第 70 図　Ⅴ区出土土器 (38)…… 88
第 71 図　Ⅴ区出土土器 (39)…… 89
第 72 図　Ⅴ区出土土器 (40)…… 90
第 73 図　Ⅴ区出土土器 (41)…… 91
第 74 図　Ⅴ区出土土器 (42)…… 92
第 75 図　Ⅴ区出土土器 (43)…… 93
第 76 図　Ⅴ区出土土器 (44)…… 94
第 77 図　Ⅴ区出土土器 (45)…… 95
第 78 図　Ⅴ区出土土器 (46)…… 96
第 79 図　Ⅴ区出土土器 (47)…… 97
第 80 図　Ⅴ区出土土器 (48)…… 98
第 81 図　Ⅴ区出土土器 (49)…… 99
第 82 図　Ⅴ区出土土器 (50)…… 100
第 83 図　Ⅴ区出土土器 (51)…… 101
第 84 図　Ⅴ区出土土器 (52)…… 102
第 85 図　Ⅴ区出土土器 (53)…… 103
第 86 図　Ⅴ区出土土器 (54)…… 104
第 87 図　Ⅴ区出土土器 (55)…… 105
第 88 図　Ⅴ区出土土器 (56)…… 106
第 89 図　Ⅴ区出土土器 (57)…… 107
第 90 図　Ⅴ区出土土器 (58)…… 108
第 91 図　Ⅴ区出土土器 (59)…… 109
第 92 図　Ⅴ区出土土器 (60)…… 110
第 93 図　Ⅴ区出土土器 (61)…… 111
第 94 図　Ⅴ区出土土器 (62)…… 112
第 95 図　Ⅴ区出土土器 (63)…… 113
第 96 図　Ⅴ区出土土製品 …… 114
第 97 図　Ⅴ区出土石器・石製品 (1) …… 115
第 98 図　Ⅴ区出土石器・石製品 (2) …… 116
第 99 図　Ⅴ区出土鉄製品 …… 117
付　　図　滝沢遺跡Ⅴ区全体図

表 目 次

第 1 表　Ⅳ区土器観察表 …… 15
第 2 表　Ⅴ区土坑一覧表 …… 24
第 3 表　Ⅴ区ピット一覧表 …… 25
第 4 表　Ⅴ区土器観察表 …… 118
第 5 表　Ⅴ区土製品観察表 …… 144
第 6 表　Ⅴ区石器・石製品観察表 …… 145
第 7 表　Ⅴ区鉄製品観察表 …… 145
第 8 表　放射性炭素年代測定結果 …… 147
第 9 表　暦年較正結果 …… 147
第 10 表　微細物分析・種実同定結果 …… 150
第 11 表　検出分類群一覧 …… 152
第 12 表　骨同定結果 …… 152
第 13 表　甲斐型土器による編年対照表 …… 157

第１章　調査の経緯・経過

第１節　調査に至る経緯

滝沢遺跡の発掘調査は、これまで山梨県県土整備部（旧山梨県土木部）による南都留郡富士河口湖町河口地区内の一般国道 137 号河口２期バイパス建設事業に伴う第１次調査と、本報告書にある同国道吉田河口湖バイパス建設事業に伴う第２次調査が行われている。

河口２期バイパスは、河口地内を通過している国道 137 号を東に迂回することにより、同地区内及び富士五湖地域の交通混雑の解消、甲府圏域と富士北麓圏域間の連帯強化、また事故危険箇所の解消を目的とした、延長 3.2km の２車線バイパスである。

このバイパス建設工事に先立ち、平成 14（2002）年度に対象地で試掘調査が行われ、周知の遺跡であった滝沢遺跡の範囲追加部分の他に、新たに塚越遺跡・炭焼遺跡・井坪遺跡の計４遺跡が確認されたことから、翌平成 15（2003）年度から 17（2005）年度にかけてこれらの遺跡の発掘調査が実施された。この間には、さらに新発見の疱橋遺跡・谷抜遺跡の試掘調査・本調査も行われており、河口２期バイパスは平成 22（2010）年 12 月 16 日に供用開始となった。

一方、吉田河口湖バイパスは、富士五湖地域の交通混雑の解消と富士山噴火等災害時の甲府方面への避難ルートの確保を目的とした、富士吉田市新倉から富士河口湖町河口までの延長 3.0km（その内、新倉トンネル延長 2,476 m）の２車線バイパスである。富士吉田側から新倉トンネルを抜けて河口２期バイパスへと繋がる計画であるが、この間の河口湖側トンネル坑口までの用地全域が滝沢遺跡の範囲に含まれることから、河口湖側からのトンネル掘削工事に先立ち、平成 20 年（2008）年 12 月に河口２期バイパス建設用地で未買収だった区域を含む河口湖側トンネル坑口までのバイパス本線と、その北側に接してトンネル内へ電気を供給するための施設建設予定地を含めた 5,900㎡余りを対象に改めて試掘調査を行った結果、縄文時代から平安時代にかけての遺物包含層と古墳時代から平安時代にかけての文化層が確認され、対象地のほぼ全域の発掘調査が必要となった。

これを受け、県教育委員会学術文化財課と県土整備部で協議を行い、吉田河口湖バイパス本線部分と、電気施設部分を２年次に分けて平成 21（2009）年度以降発掘調査を行うことで了解され、覚書が交わされた。そして第２次調査として、河口２期バイパス建設用地で未買収だった区域を第１次調査から続けてⅣ区、吉田河口湖バイパス本線部分をⅤ区と調査区域を設定した。なお、その後の工事工程の関係から、電気施設部分の発掘調査はさらに２年次に分けて平成 23（2011）年度以降調査を実施することとなった。

この他、富士吉田側トンネル坑口前のバイパス用地内の試掘調査を平成 22（2010）年１月に行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

Ⅳ区　調査前
（南西から：左側は工事中の河口２期バイパス）

Ⅴ区　調査前
（北西から：奥の山は新倉トンネル河口湖側坑口）

第２節　調査の目的と課題

滝沢遺跡は、第１次調査において平安時代の竪穴住居跡 15 件などが発見され、集落遺跡であることが明らかになっている。第２章でも触れるが、本遺跡の立地する富士河口湖町の河口地区は、駿河国を通過する東海道と甲斐国を結ぶ古代の官道「甲斐路」または「御坂路」が通っていたといわれ、平安時代の法典『延喜式』に記載された甲斐国三駅の１つ「河口駅」があったといわれている。また本遺跡の他に、河口２期バイパス関連５遺跡の調査でも、縄文時代から近世に至るまでの多種多様な遺構・遺物が発見されている。このことは、この地域一帯が縄文時代以来、多くの人々とともに様々な文物が交流したことを示しており、まさに交通の要衝であったことにほかならない。

このような地理的・歴史的背景が存在する中で、第２次調査では試掘調査のデータをもとに、第１次調査に続く平安時代集落の拡がりとともに、縄文・弥生・古墳各時代の遺構・遺物の状況を記録保存することを目的とする。また、平安時代集落の変遷から、古代のこの地域の歴史の一端を捉え、さらには「河口駅」について考えることを課題とする。

第３節　発掘調査の経過

第２次調査に先立ち、平成 21 年４月８日に県土整備部富士・東部建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる現地協議を行い、調査範囲・調査工程、及び現場事務所プレハブ等の設置場所などを確認した。準備段階の５月７日には、第１次調査Ⅲ区に隣接するⅣ区において、水路付け替え工事に伴う立会調査を行った。そして、5 月 28 日にプレハブ等の設置、29 日に発掘機材等の搬入を行い、6 月２日からⅣ区の調査を開始した。

まず、６月２日・３日の２日間で重機による表土剥ぎを行い、6 月４日と８日には測量基準杭、ベンチマーク、グリッド杭を設置した。これと平行して人力による遺構確認、遺構精査、遺構・遺物の測量などの作業を行い、６月 19 日に全景の写真撮影を行い調査を終了した。

Ⅳ区　重機による表土剥ぎ

次に、Ⅴ区の表土剥ぎはⅣ区の表土剥ぎ終了後の６月４日から 26 日まで行い、6 月 17･18 日に測量基準杭、ベンチマーク、グリッド杭を設置した。Ⅳ区の調査が終了した 6 月 19 日からは人力による遺構確認、遺構精査、遺構・遺物の測量を進めた。調査中の排土にはベルトコンベアーを用いた。そして、遺構が面的に堀り上がった状態で、10 月１日にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影・測量を行った。さらに、10 月９日・15 日には５号住居跡１号カマド、及び９号・10 号・11 号住居跡のカマド微細図作成に伴うデジタル写真計測を実施し、他の測量作業を経て、発掘機材・プレハブ等の撤収を含め 10 月 28 日に第２次調査はすべて終了した。なお、調査終了後、富士・東部建設事務所の了解を得て、Ⅴ区５号住居跡２号カマドの構築石材を地元の富士河口湖町教育委員会へ譲渡している。

一方この間には、埋蔵文化財センターによる一般の方々を対象とした普及事業として、８月 22 日に発掘体験セミナーを開催し、午前の部・午後の部合わせて 40 名余りの参加があった。空中写真撮影終了後の 10 月３日には現地見学会を開催し、50 名の参加があり、10 月 24 日には 2009 年度上半期遺跡調査発表会（山梨県考古学協会と共催）において、第２次調査の成果をいち早く紹介した。この他、県立考古博物館との共催で毎年開催している「やまなしの遺跡展」が平成 22 年３月 13 日～４月 12 日まで開催され、第２次調査の出土品を速報的に展示した。

第４節　室内調査等の経過

整理作業風景（土器の接合・復元）

室内での調査は、平成 21 年度は発掘調査終了後の平成 21 年 12 月２日から平成 22 年３月 26 日まで基礎的整理作業を実施し、平成 22 年度は平成 22 年７月１日から平成 23 年３月 25 日まで本格的整理作業を実施した。平成 23 年度は担当者による残された原稿執筆と編集作業を行い、３月末に本報告の刊行となった。

各年度の作業内容は、平成 21 年度は出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業、図面整理及び鉄製品保存処理、平成 22 年度は前年度やり残した遺物の復元、実測・拓本、遺構・遺物実測図のトレース、図版作成及び遺物の写真撮影を行った。

また、発掘調査・整理作業の段階で抽出したＶ区の各資料について、平成 21 年度には自然科学分析として炭化材のＡＭＳ年代測定・同定、土壌（焼土）の微細物分析、炭化種子同定、平成 22 年度には住居跡カマド微細図の編集・図化、遺物写真撮影の業務委託を行った。

第５節　調査に係る事務手続き

第２次調査にあたっては、文化財保護法に基づく報告・通知の他、発掘調査の成果に係る報告を行った。それらの事務手続きは以下の通りである。

〔平成 21 年度〕

・平成 21 年５月 28 日　文化財保護法第 99 条第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第 148 号：埋蔵文化財発掘調査の報告について）

・平成 21 年 10 月 29 日　文化財保護法第 100 条第２項の規定により埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、富士吉田警察署長への通知を依頼（教埋文第 568 号：埋蔵文化財発見の通知について）

・平成 21 年 11 月２日　発掘調査の終了報告を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第 577 号：吉田河口湖バイパス建設に伴う発掘調査結果について）

・平成 22 年３月 25 日　発掘調査実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第 957 号：吉田河口湖バイパス建設に伴う発掘調査実績報告書の提出について）

〔平成 22 年度〕

・平成 23 年３月 22 日　本格的整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第 977 号：吉田河口湖バイパス建設に伴う発掘調査実績報告書の提出について）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

滝沢遺跡の所在する南都留郡富士河口湖町河口は、同町の北東部の河口湖北岸に位置し、御坂山塊の南麓地域にある（第１図６）。富士河口湖町は、平成 15（2003）年 11 月に河口湖町・勝山村・足和田村の３町村が合併して誕生し、平成 18（2006）年３月には上九一色村が分村合併した。小字の「河口」は町村合併以前は旧河口湖町の大字であり、昭和の合併以前は河口村と称した。近世においては川口村とも表記されている。北には黒岳（1,792.7 m）、御坂山（1,596 m）、三ツ峠山（1,785.2 m）などの山々が連なり、これらの斜面に降った雨水は沢を伝わり河川となり、河口地区において河口湖に流入している。同じ地区には西から梨川、西川、寺川、六首川、鯉の水川、山の神川の６本の河川があり、それらの河川が運んだ土砂等が扇状地の地形を湖岸に形成している。滝沢遺跡は、山の神川と鯉の水川に挟まれた標高 840 mから 851 mにかけての緩やかな斜面上に位置しており、湖南地域が溶岩に覆われ河川が全くないのとは対照的である。

第２節　歴史的環境

滝沢遺跡の西側を通過する国道 137 号は旧鎌倉往還（第１図）であり、河口集落はこの往還の難所である御坂峠の南に位置し、古くから峠を越える前後の人々が寄宿する宿場町として賑わってきた。特に中世以降は、富士山信仰の高揚に伴い、中部・北陸方面の道者が多く、近世までを通じて最盛期には 140 軒を超える御師集落として繁栄した。

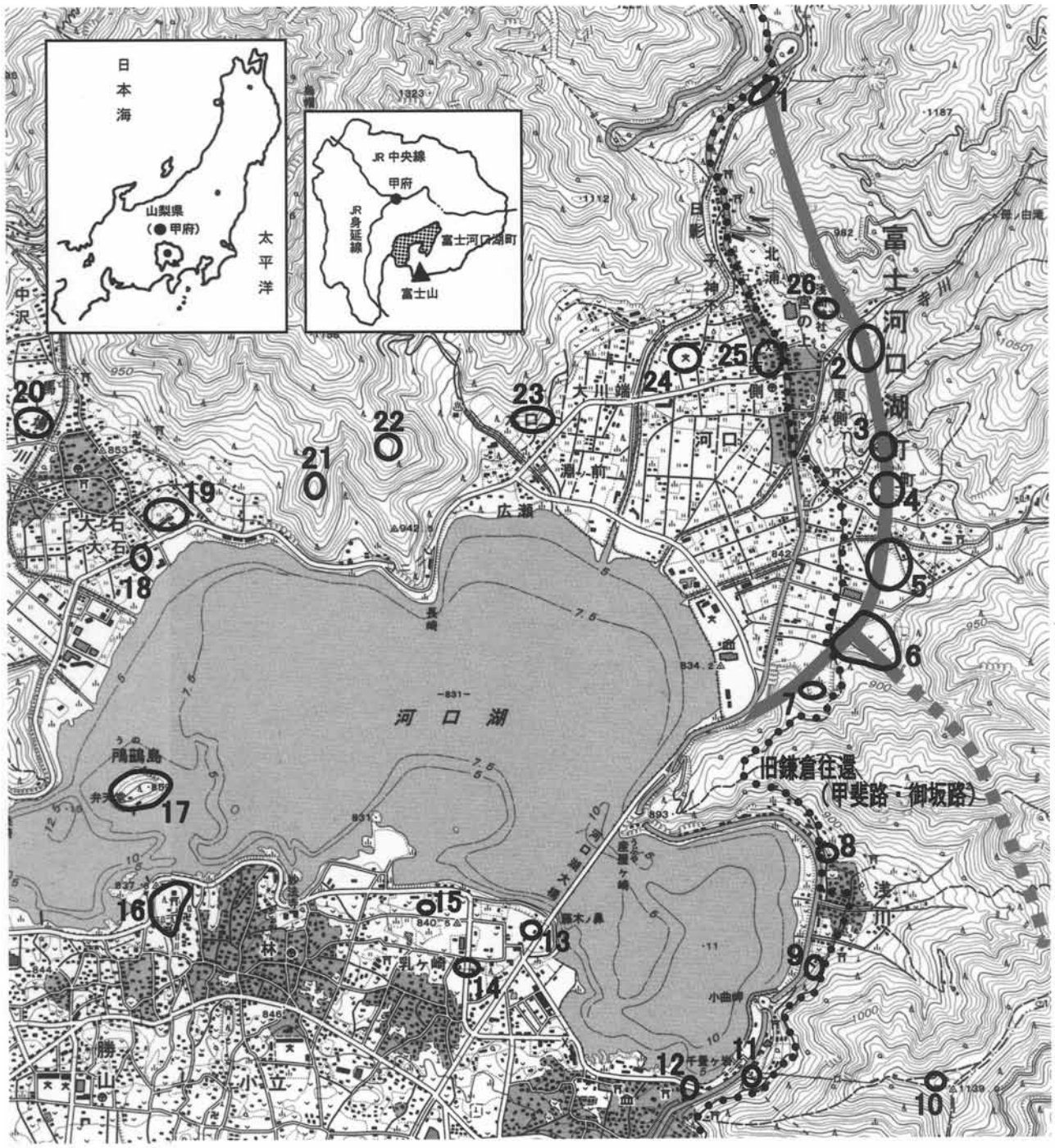
鎌倉往還は、古代には東海道の支路である官道甲斐路（または御坂路）として河口地内を通っていたが、この地に平安時代の法典『延喜式』「巻 28 兵部省諸国駅伝馬条」に記載された、甲斐国三駅の一つ「河口駅」が置かれていたと推定されている。また、富士山信仰の拠点として知られる河口浅間神社は、平安時代の貞観６（864）年の富士山噴火の翌年に八代郡に創建された浅間神社が起源であると伝えられており、平成 23（2011）年２月７日に国指定史跡となった富士山の構成要素の一つとなっている。

河口地内において古代の様相が明らかにり始めるのは、やはり平成 15（2003）年以降の河口２期バイパス建設工事に伴う発掘調査を待たなければならない。滝沢遺跡をはじめ疱橋遺跡（第１図１）・谷抜遺跡（２）・塚越遺跡（３）・炭焼遺跡（４）・井坪遺跡（５）は縄文時代から近世にかけての遺跡であるが、塚越遺跡で縄文時代後期の柄鏡形敷石住居跡や晩期の竪穴住居跡、弥生時代中期初頭の土器集中や焼土跡が発見されるなど、河川堆積物や火山灰が厚く堆積した地表下２～３mの地点に縄文時代・弥生時代の遺構・遺物が存在することが明らかになっている。河口湖中に浮かぶ鵜の島で発見された鵜の島遺跡（17）は、昭和 20 年代後半から 40 年代にかけて発掘調査が行われ、縄文時代晩期から弥生時代前期を中心とした遺跡として学史的にも有名である。これらは、奈良時代に官道が整備されるはるか以前に既に交通路が存在していたことを示しており、多くの人々とともにさまざまな文物が交流したことを物語っている。道は御坂峠を経由し、甲府盆地、さらに信濃方面へと続いていたのである。

この他、富士河口湖町町教育委員会により、個人住宅建設に伴う試掘調査や下水道工事等に伴う立会調査が行われ、「川」の字が墨書された奈良時代の須恵器や製塩土器などが出土した西川遺跡（25）など、小規模な調査ながらも着実に成果を上げている。宮ノ上遺跡（26）は、山梨県埋蔵文化財センターが平成 21（2009）年度から３年間にわたって実施した「山岳信仰遺跡分布調査」において新たに発見された遺跡である。

【参考文献】

・角川日本地名大辞典編纂委員会 1984『角川日本地名大辞典　19　山梨県』角川書店
・杉本悠樹 2010「富士河口湖町河口　西川遺跡の調査成果について」・2011「富士河口湖町西川遺跡出土の古代製塩土器について」『山梨県考古学協会誌』第 19 号・第 20 号　山梨県考古学協会



1. 疱橋遺跡（縄文～近世）
2. 谷抜遺跡（縄文・平安～近世）
3. 塚越遺跡（縄文・弥生・近世）
4. 炭焼遺跡（古墳・平安～近世）
5. 井坪遺跡（縄文・平安）
6. 滝沢遺跡（縄文～平安）
7. 追坂遺跡（縄文）
8. 老坂遺跡（縄文）
9. 宮の下遺跡（縄文～古墳）
10. 天女山烽火台（中世）
11. 東電放水路遺跡（縄文）
12. 船津浜中村遺跡（縄文）
13. 梨宮公園遺跡（縄文）
14. 鳥原遺跡（弥生）
15. 宝司塚遺跡（弥生）
16. 宮里遺跡（縄文）
17. 鵜の島遺跡（縄文～古墳）
18. 大石鐘つき戸（中世）
19. 大石遺跡（縄文）
20. 水木原遺跡（縄文）
21. 大石の城山（中世）
22. 広瀬の城古山（中世）
23. 金山遺跡（縄文）
24. 大築地遺跡（縄文）
25. 西川遺跡（縄文・奈良・平安）
26. 宮ノ上遺跡（平安～近世）

第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1／25,000）

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

既に第１章でも触れたとおり、第２次調査は第１次調査区域のⅠ区～Ⅲ区の東側に隣接することから、続けて調査区域を設定したが、現在の道路で分断されているため、Ⅳ区・Ⅴ区とに分け設定した（第２図）。調査区の規模は、Ⅳ区が南北４～ 50 m、東西 27 mで 350㎡、Ⅴ区は南北 20 m、東西 100 ～ 135 mで 2,670㎡である。

調査の方法は、重機により表土を除去することから始め、試掘調査のデータをもとに遺物包含層または遺構確認面まで除去した。グリッドは世界測地系座標に基づき、第１次調査時に設定された一辺５mのグリッドを延長し設定した。調査区の南北方向にアラビア数字で１・２・３…、東西方向に西からアルファベットの大文字でＡ・Ｂ・Ｃ…の順（Ｚ以降はＡＡ・ＡＢ…）で記号を付けており、それぞれが交差する地点をＡ－１グリッド、Ｂ－１グリッドのように表している。座標値については、Ⅳ区のＡＤ－ 27 グリッドでＸ＝－ 53150 m（南北）、Ｙ＝ 25115 m（東西）、Ⅴ区のＡＰ－ 17 グリッドでＸ＝－ 53200 m（南北）、Ｙ＝ 25175 m（東西）となっている。標高は、調査区外の５ヶ所（Ⅳ区１ヶ所・Ⅴ区４ヶ所）に任意にベンチマークを設定し、このうちＡＤ－ 31 グリッド内で 842.50 m、ＡＯ－ 19 グリッド内で 846.80 m、ＡＷ－９グリッド内で 850.00 mをそれぞれ測る。

その後、人力による掘り下げを進め、遺構確認面の精査を行い、発見された遺構については、土層観察用のベルトを設定し、あるいは半裁して掘削した。各遺構については、平面図・土層断面図などを作成し、出土遺物の位置を記録した。調査の進捗状況及び発見された遺構・遺物の状況は、35 ミリ一眼レフカメラや小型のデジタルカメラで撮影した。そして、各調査区が面的に掘り上がった状態で鳥瞰及び俯瞰写真撮影を行い、Ⅴ区の調査区全体図の作成には、空中写真撮影による測量・図化を行った。

第２節　基本層序

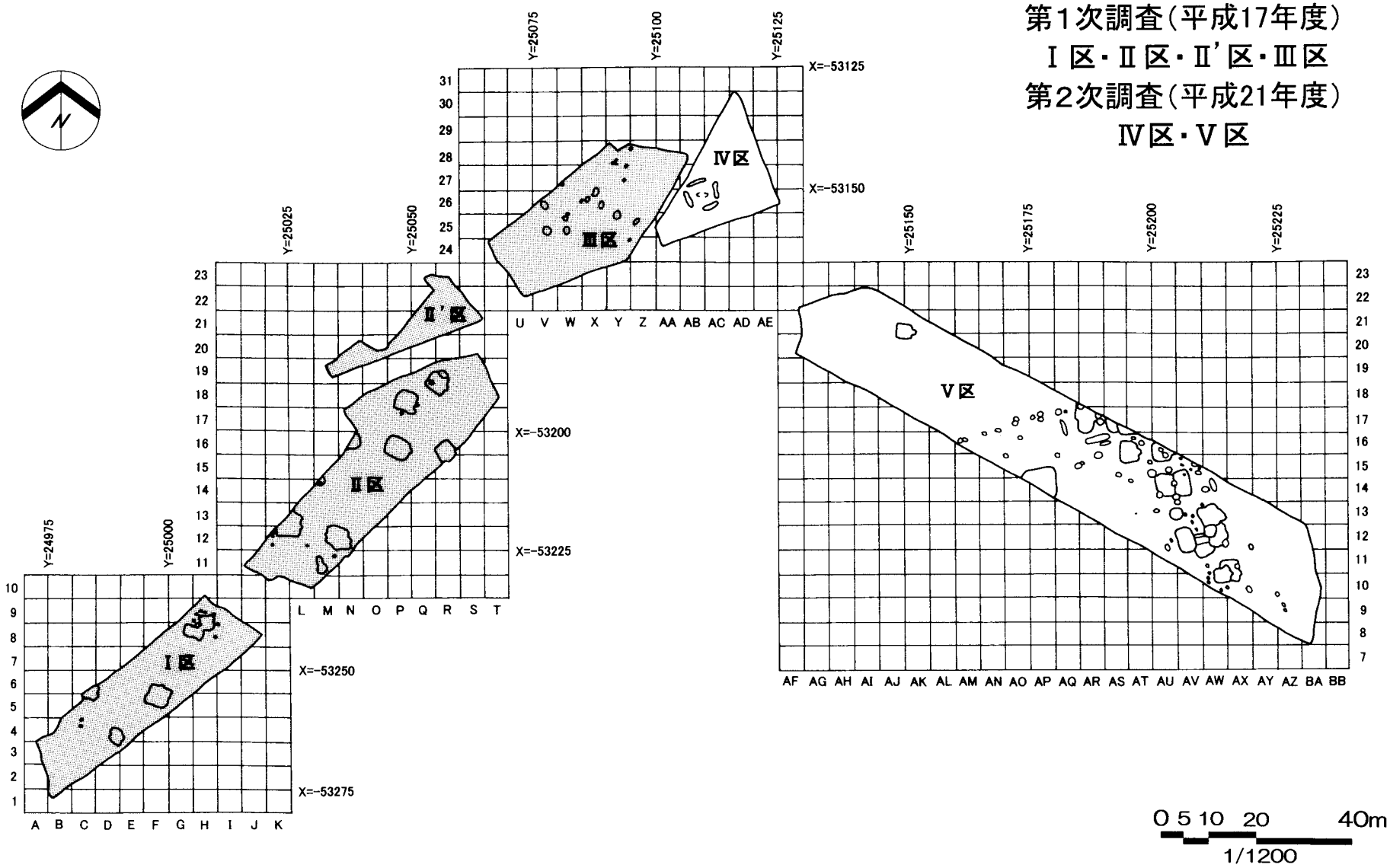
第２次調査では、Ⅳ区で８層、Ⅴ区で 26 層の堆積が確認された（第３・４図）。調査区域が東西に長く、Ⅳ区は低地に、Ⅴ区は山側の緩斜面にあるため堆積状況は異なり、Ⅴ区の中でも東側（山側）と西側（Ⅳ区側）では違いがある。よって、第１次調査同様、ここでも各区毎に基本土層を設定しておく。

〔Ⅳ区西壁（Ａ地点）〕

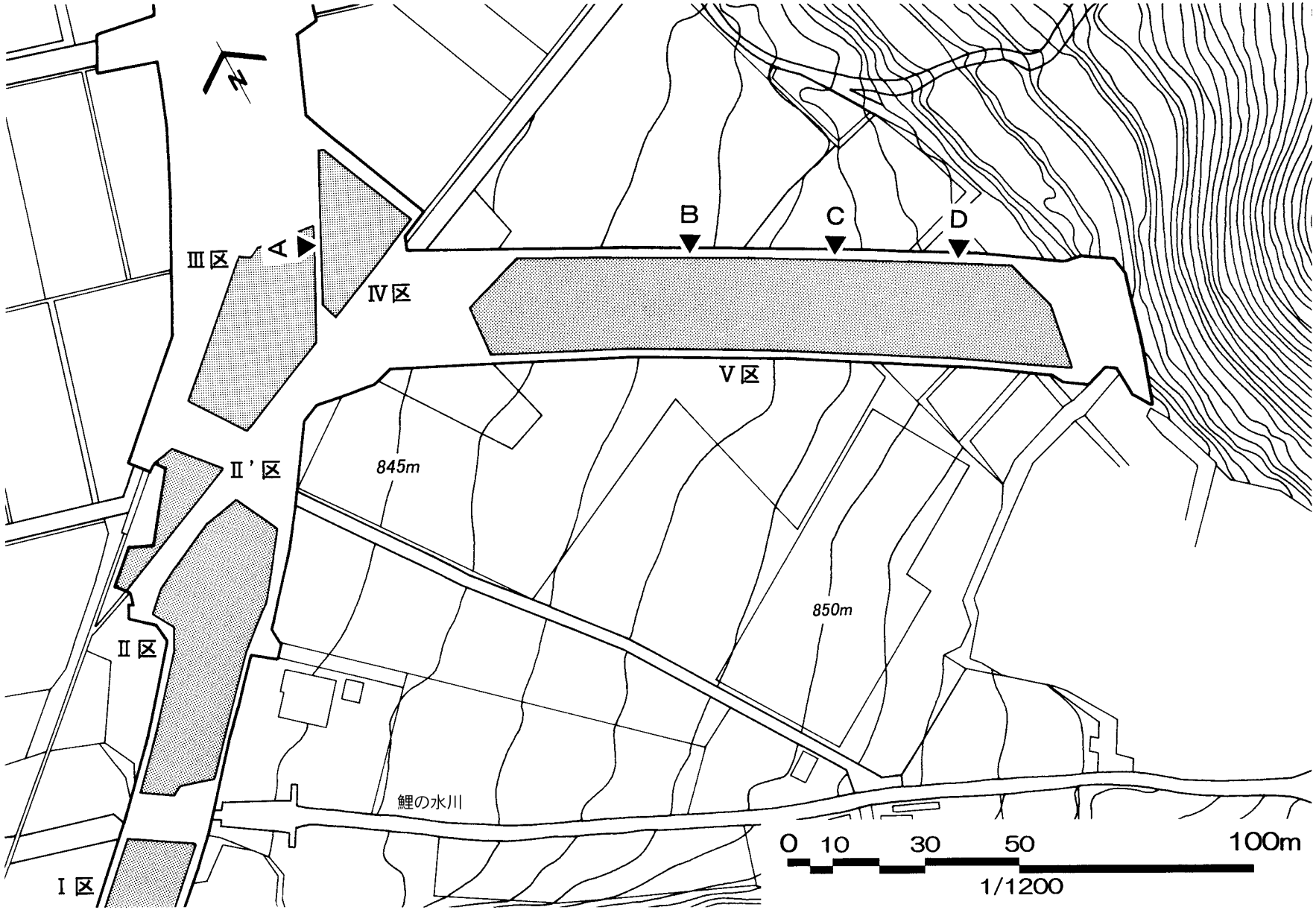
Ⅳ区の西壁はⅢ区に接しており、基本的にⅢ区と同じ土層堆積である。Ⅳ１層（表土：耕作土）はⅣ１層に、Ⅳ２層はⅢＢ１層に、Ⅳ３層・Ⅳ４層はⅢＢ２層に、Ⅳ５層はⅢＢ３層に、Ⅳ６層はⅢＢ４層に、Ⅳ７層・Ⅳ８層はⅢＢ５層に、それぞれ対応する。いずれの層も砂質であるが、Ⅳ７層直上で弥生時代中期の土器が出土しており、この面で方形周溝墓が確認された。またⅢ区では、ⅢＢ層（Ⅳ２層）以下はいずれもスコリア粒子を少量または微量に含んでいるが、Ⅳ区においては明確に確認できなかった。

〔Ⅴ区北壁（Ｂ・Ｃ・Ｄ地点）〕

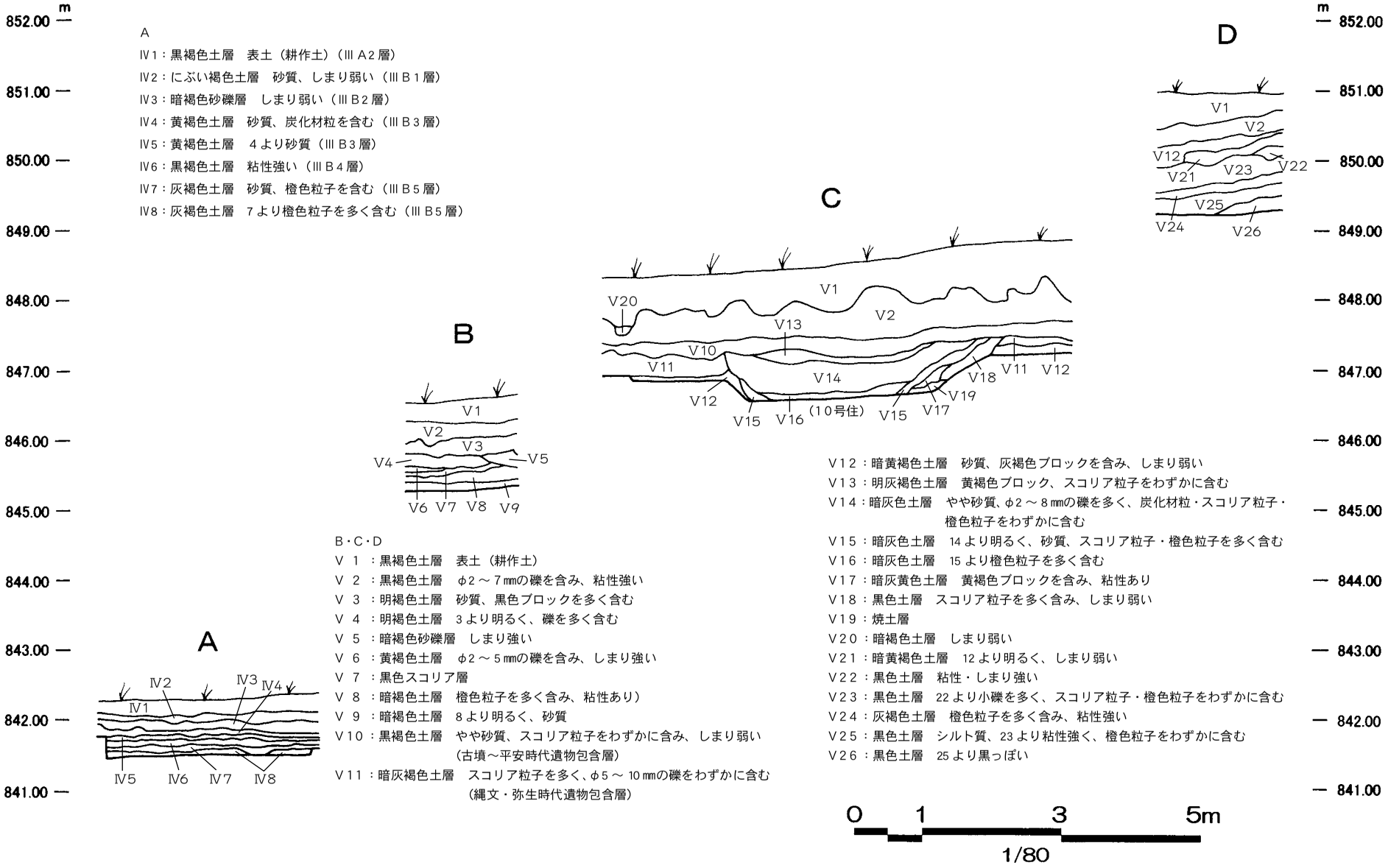
Ⅴ区は東西に長い調査区であり、下段（西側）のＢ地点、中段のＣ地点、上段（山側）のＤ地点で層位を確認した。Ｂ地点の表土Ⅴ１層とⅤ２層より下層は砂礫を含み、Ⅴ４層以下は薄く、Ｂ地点よりさらに西側は氾濫による砂礫層が堆積しており、竪穴住居跡が１軒確認されたのみである（15 号住居跡）。Ｃ地点一帯は安定した土層堆積であり、地表下１m前後の遺物包含層（Ⅴ 10 層）は厚く、古墳・平安時代の遺物が大量に出土しており、下層のⅤ 12 層にかけて縄文土器もわずかに出土している。試掘調査の結果からも、この状況はⅣ区外北側にかけてさらに続くと見られる。土層断面では、Ⅴ 11 層から平安時代の竪穴住居跡の掘り込みが確認できるが（10 号住居跡）、Ⅴ 10 層との区別が難しく、遺構のプランはⅤ 12 層で確認し、掘削している。このⅤ 12 層はＤ地点では地表下 60㎝ほどでⅤ 21 層として確認されるが、北壁側では遺構・遺物は確認できず、南壁側に行くと弥生時代中期の土器を多く含んでいる。さらに下層になると堅くしまった黒色土の堆積が続き、Ⅴ 25 層～Ⅴ 26 層中において１号焼土が確認され、地山のローム層となる。



第2図　滝沢遺跡遺構配置図・グリッド配置図



第3図　基本層序確認地点


m
852.00
851.00
850.00
849.00
848.00
847.00
846.00
845.00
844.00
843.00
842.00
841.00
A
Ⅳ1：黒褐色土層　表土（耕作土）（Ⅲ A2 層）
Ⅳ2：にぶい褐色土層　砂質、しまり弱い（Ⅲ B 1 層）
Ⅳ3：暗褐色砂礫層　しまり弱い（Ⅲ B 2 層）
Ⅳ4：黄褐色土層　砂質、炭化材粒を含む（Ⅲ B 3 層）
Ⅳ5：黄褐色土層　4より砂質（Ⅲ B 3 層）
Ⅳ6：黒褐色土層　粘性強い（Ⅲ B 4 層）
Ⅳ7：灰褐色土層　砂質、橙色粒子を含む（Ⅲ B 5 層）
Ⅳ8：灰褐色土層　7より橙色粒子を多く含む（Ⅲ B 5 層）
B
C
D
Ⅳ1
Ⅳ2
Ⅳ3
Ⅳ4
Ⅳ5
Ⅳ6
Ⅳ7
Ⅳ8
V1
V2
V3
V4
V5
V6
V7
V8
V9
V10
V11
V12
V13
V14
V15
V16
V17
V18
V19
V20
V21
V22
V23
V24
V25
V26
（10号住）
B・C・D
V 1 ：黒褐色土層　表土（耕作土）
V 2 ：黒褐色土層　φ2 ～ 7 mmの礫を含み、粘性強い
V 3 ：明褐色土層　砂質、黒色ブロックを多く含む
V 4 ：明褐色土層　3より明るく、礫を多く含む
V 5 ：暗褐色砂礫層　しまり強い
V 6 ：黄褐色土層　φ2 ～ 5 mmの礫を含み、しまり強い
V 7 ：黒色スコリア層
V 8 ：暗褐色土層　橙色粒子を多く含み、粘性あり）
V 9 ：暗褐色土層　8より明るく、砂質
V10：黒褐色土層　やや砂質、スコリア粒子をわずかに含み、しまり弱い
（古墳～平安時代遺物包含層）
V11：暗灰褐色土層　スコリア粒子を多く、φ5 ～ 10 mmの礫をわずかに含む
（縄文・弥生時代遺物包含層）
V12：暗黄褐色土層　砂質、灰褐色ブロックを含み、しまり弱い
V13：明灰褐色土層　黄褐色ブロック、スコリア粒子をわずかに含む
V14：暗灰色土層　やや砂質、φ2 ～ 8 mmの礫を多く、炭化材粒・スコリア粒子・
橙色粒子をわずかに含む
V15：暗灰色土層　14より明るく、砂質、スコリア粒子・橙色粒子を多く含む
V16：暗灰色土層　15より橙色粒子を多く含む
V17：暗灰黄色土層　黄褐色ブロックを含み、粘性あり
V18：黒色土層　スコリア粒子を多く含み、しまり弱い
V19：焼土層
V20：暗褐色土層　しまり弱い
V21：暗黄褐色土層　12より明るく、しまり弱い
V22：黒色土層　粘性・しまり強い
V23：黒色土層　22より小礫を多く、スコリア粒子・橙色粒子をわずかに含む
V24：灰褐色土層　橙色粒子を多く含み、粘性強い
V25：黒色土層　シルト質、23より粘性強く、橙色粒子をわずかに含む
V26：黒色土層　25より黒っぽい
0
1
3
5m
1/80

第4図　基本層断面図

第３節　Ⅳ区の遺構と遺物

Ⅳ区は、第１次調査のⅢ区の東に接しており、Ⅲ区同様微高地下にある。ここでは郡内地域では初めてとなる弥生時代の方形周溝墓１基が検出され、周辺から弥生土器片がわずかに出土している。古墳時代の遺構や平安時代の遺構・遺物は発見されていない。

第１項　方形周溝墓

１号方形周溝墓（第５・７図）

〔位置〕Ⅳ区中央やや西寄り、ＡＢ－26・27 グリッド、ＡＣ－26・27 グリッドに位置する。遺構確認面はⅣ７層である。

〔形状・規模〕四隅に陸橋部を持つタイプで、周溝を含む外側で東西 6.8 m、南北 6.4 m、周溝を含まない内側の方台部で東西 5.0 m、南北 4.9 m、周溝内墳丘側の下端では東 5.2 西m、南北 5.1 mを測る、正方形の周溝墓である。周溝は幅は東周溝･南周溝で 0.95 m、西周溝で 1.0 m、北周溝で 0.8 mを測る。深さは東周溝で 20㎝、西周溝で 25㎝、南周溝で 15㎝、北周溝で 12㎝を測る。確認面から浅く、溝底が残るのみであるが、断面はＵ字形もしくは鍋底形と考えられる。確認面であるⅣ７層は削平されており、墳丘は確認できなかった。

〔主体部〕方台部中央に、東西方向に主軸をもつ土坑が確認された。長軸 2.05 m、深さ㎝ 45 ～ 48㎝を測る。土坑内の土層堆積も自然堆積に近い状況であり、試掘トレンチにより土坑中央が切られているため詳細は不明であるが、トレンチ東側は円形になるようにも見え、別の土坑の可能性もある。

〔その他の施設〕

東周溝に切られるように浅い落ち込みがあるが、土坑かどうか、また周溝墓に伴うものかは不明。

〔遺物出土状況〕周溝・主体部からは出土遺物はなく、南東コーナー際から弥生土器小破片（甕か）がわずかに出土している。

〔時期〕弥生時代中期前葉

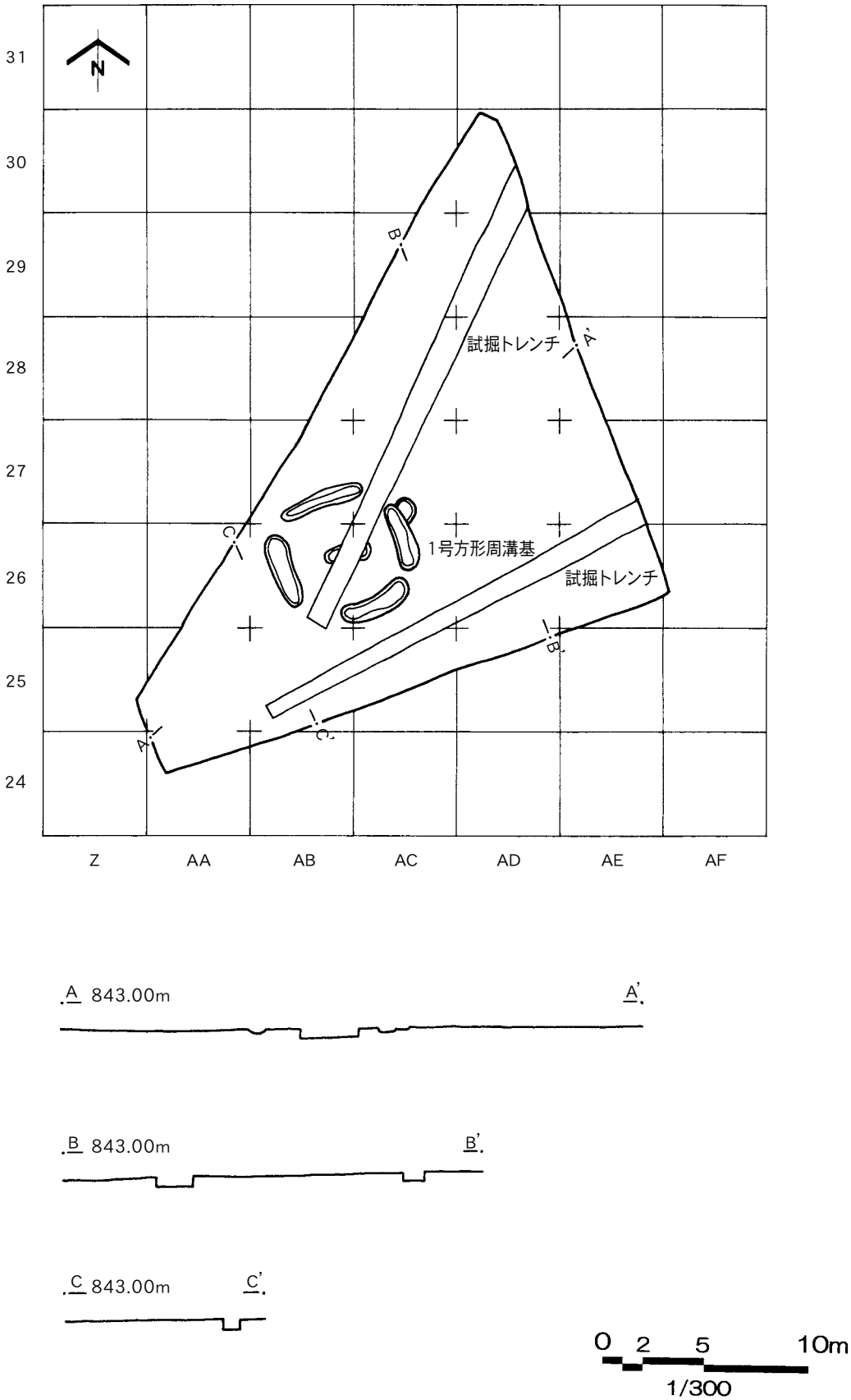
第２項　出土遺物（第６・８図、第１表）

調査区中央部ＡＣ－27 グリッド、ＡＤ－26・27 グリッドと北側隅ＡＣ・ＡＤ－30 グリッドの遺構確認面Ⅳ７層直上から、弥生時代中期前葉の土器が比較的まとまって出土しており、これらを１号方形周溝墓の時期決定の根拠とした。

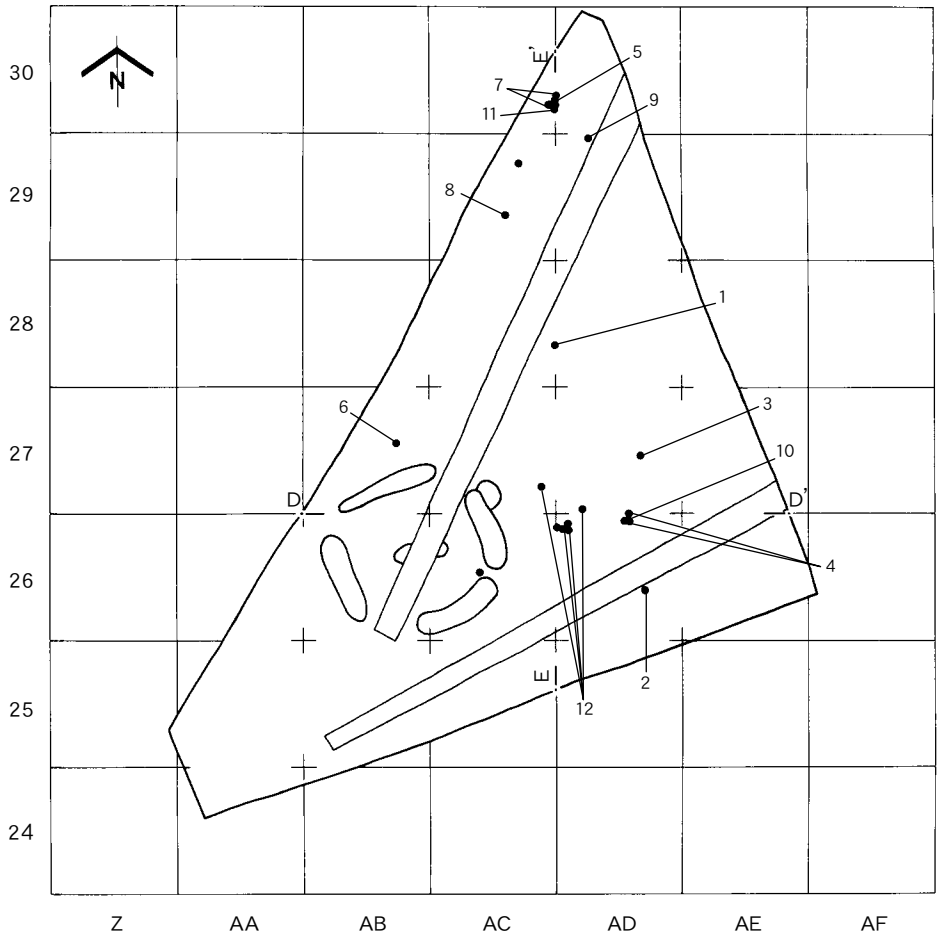
１・２は東海東部丸子式の壺の肩部～胴部の破片、３～ 11 は条痕文の甕もしくは壺の破片である。12 は内・外面とも丁寧な横ミガキを施した浅鉢で、系譜的にはさらに時期を遡る可能性もある。

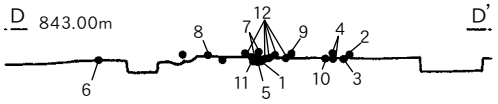
13 は表土から採集した古墳時代前期の台付甕の頸部～体部の破片、14 は試掘調査時にトレンチから出土した縄文時代中期中葉の有孔鍔付土器の破片である。

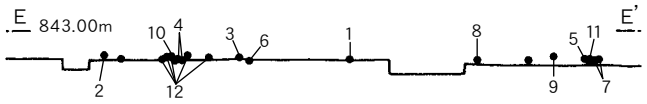
以上から、１号方形周溝墓の帰属時期は弥生時代中期前葉と捉えることが可能であり、これは現状では県内最古の方形周溝墓となる。

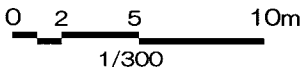

31
30
29
28
27
26
25
24
Z
AA
AB
AC
AD
AE
AF
N
試掘トレンチ
1号方形周溝基
試掘トレンチ
A
A'
B
B'
C
C'
A 843.00m
A'
B 843.00m
B'
C 843.00m
C'
0 2 5 10m
1/300

第5図　Ⅳ区　全体図

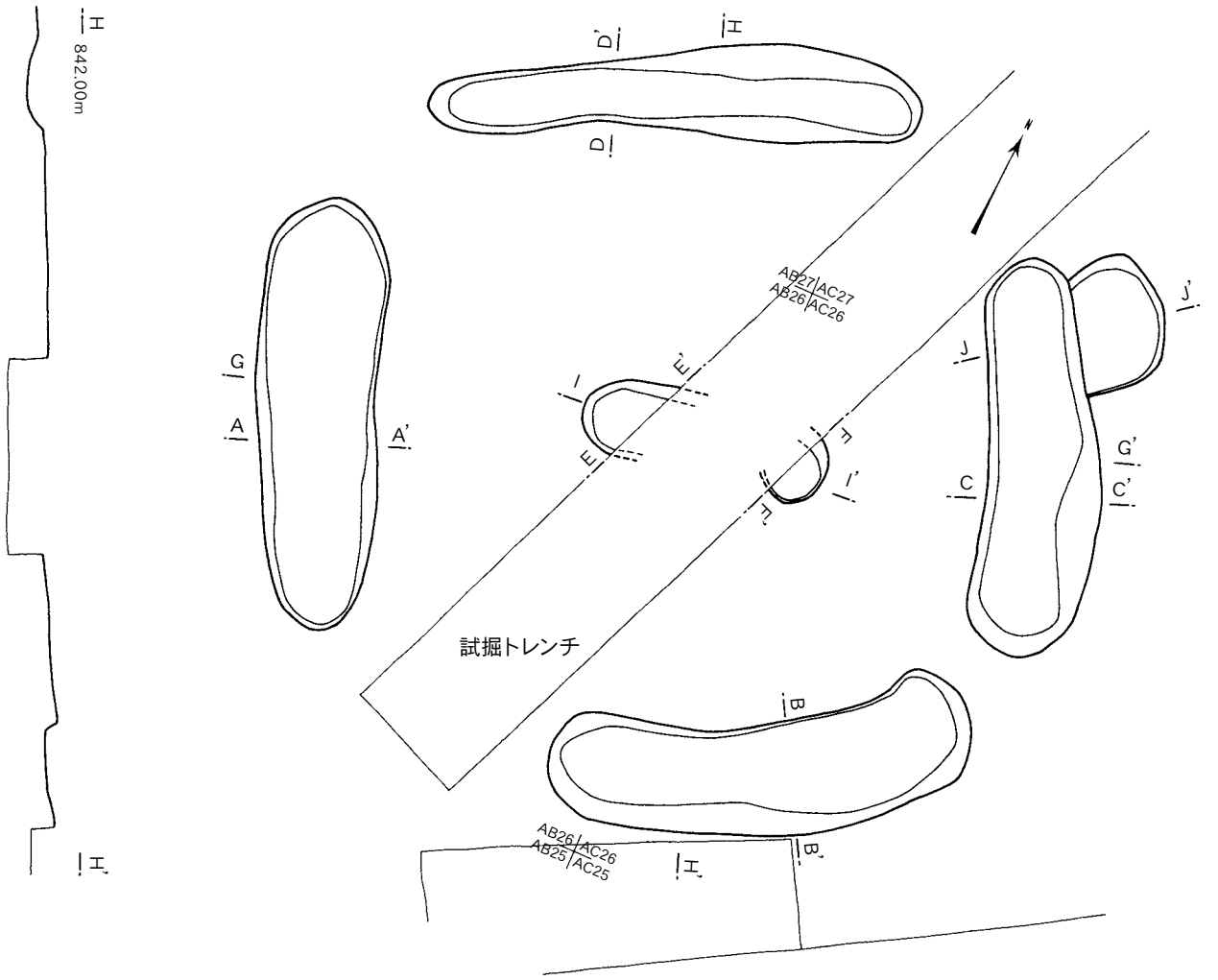


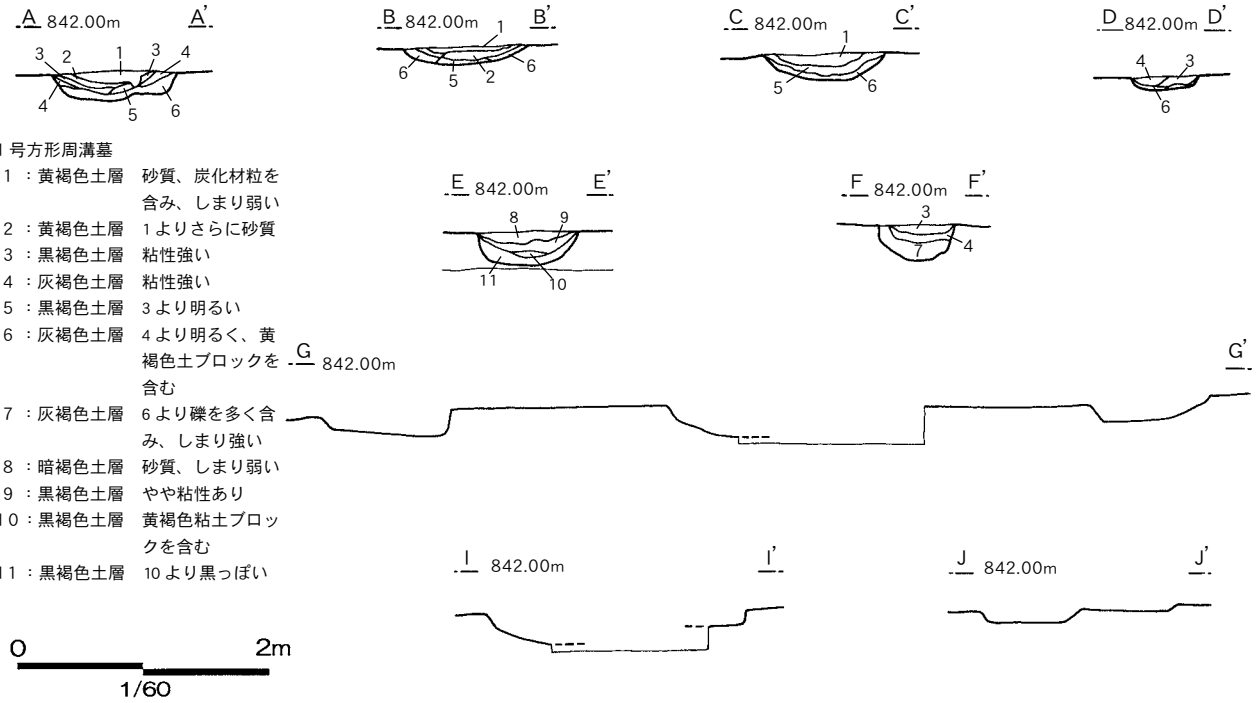






第6図　Ⅳ区　出土遺物分布図

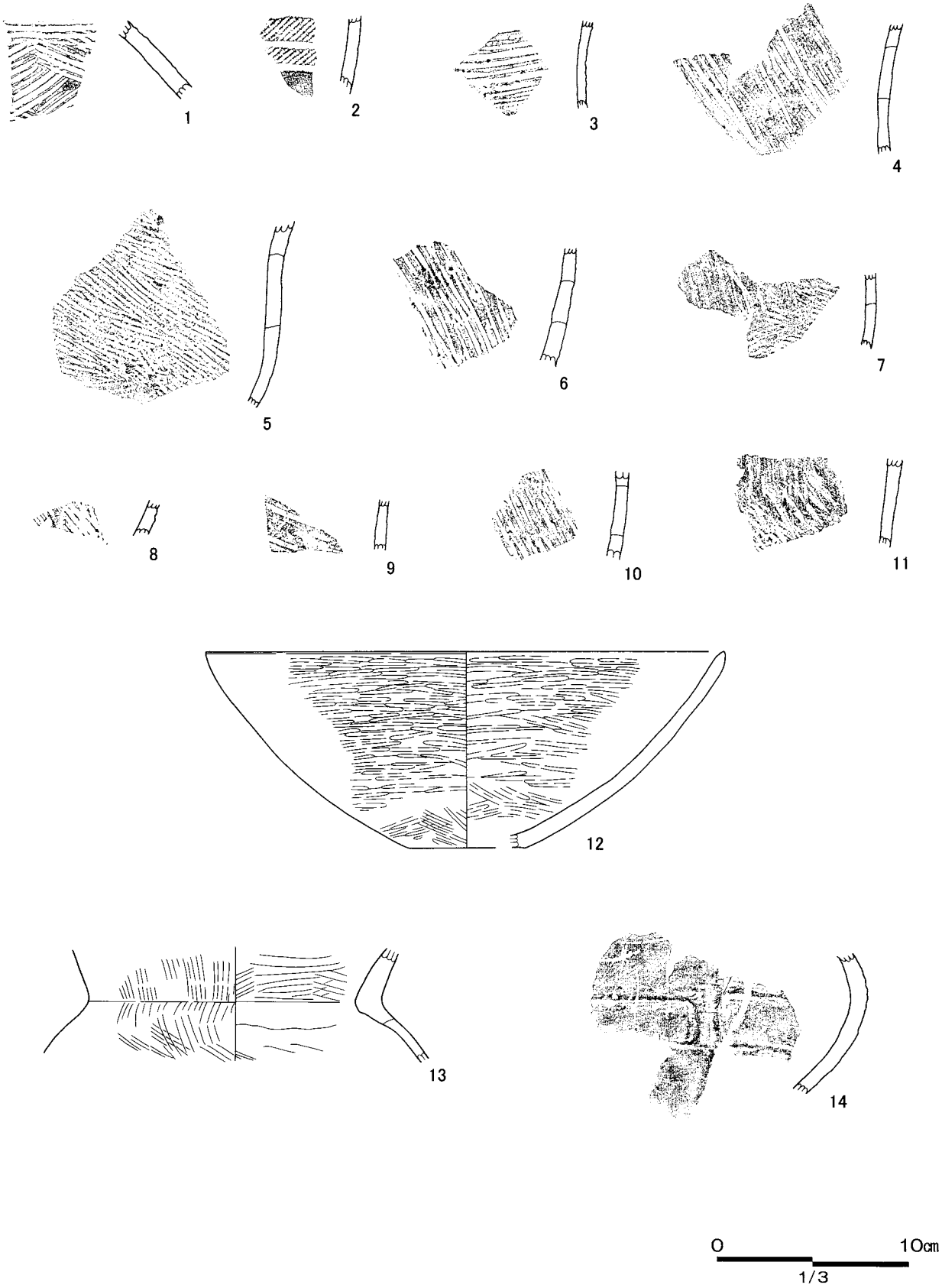




1号方形周溝墓

1 ：黄褐色土層　砂質、炭化材粒を含み、しまり弱い
2 ：黄褐色土層　1よりさらに砂質
3 ：黒褐色土層　粘性強い
4 ：灰褐色土層　粘性強い
5 ：黒褐色土層　3より明るい
6 ：灰褐色土層　4より明るく、黄褐色土ブロックを含む
7 ：灰褐色土層　6より礫を多く含み、しまり強い
8 ：暗褐色土層　砂質、しまり弱い
9 ：黒褐色土層　やや粘性あり
10：黒褐色土層　黄褐色粘土ブロックを含む
11：黒褐色土層　10より黒っぽい

第7図　Ⅳ区　1号方形周溝基



第8図　Ⅳ区　出土遺物

第１表　Ⅳ区土器観察表

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色調	胎土	焼成	時期	備考
							口径	底径	器高							
8	1	AC-28	P6	弥生土器	壺	胴部破片	－	－	－	平行沈線文、条痕文	ナデ	外：黒色 7.5YR2/1 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	白色粒子・金色雲母	良	弥生中期前葉	丸子式
8	2	AD-26	P10	弥生土器	壺	胴部破片	－	－	－	磨消縄文、沈線文	ナデ	外：黒色 10YR2/1 内：黒褐色 10YR2/2	金色雲母	良	弥生中期前葉	丸子式
8	3	AD-27	P18	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ナデ	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	黒色粒子・白色粒子・金色雲母	良	弥生中期前葉	
8	4	AD-26	P7・8	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ナデ	にぶい褐色 7.5YR5/4	黒色粒子・白色粒子	良	弥生中期前葉	
8	5	AC-30	P20	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ヘラナデ	にぶい褐色 7.5YR5/4	白色粒子	良	弥生中期前葉	
8	6	AB-27	P17	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ナデ	灰黄褐色 10YR4/2	金色雲母	良	弥生中期前葉	
8	7	AC-30	P1・22	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ヘラナデ	外：灰黄褐色 10YR4/2 内：黒色 10YR2/2	白色粒子	良	弥生中期前葉	
8	8	AC-29	P5	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ナデ	外：褐色 7.5YR4/6 内：にぶい黄褐色 10YR5/3	黒色粒子・金色雲母	良	弥生中期前葉	
8	9	AD-29	P3	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ヘラナデ	外：黒褐色 10YR3/1 内：明赤褐色 5YR4/4	金色雲母	良	弥生中期前葉	
8	10	AD-26	P9	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	条痕文	ナデ	外：灰黄褐色 10YR4/2・黒色 10YR2/1 内：灰黄褐色 10YR6/3	白色粒子	良	弥生中期前葉	
8	11	AC-30	P2	弥生土器	壺	胴部破片	－	－	－	条痕文、ヘラミガキ	ヘラナデ	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：黒褐色 10YR3/1	白色粒子	良	弥生中期前葉	
8	12	AC-27 AD-26・27	P11・12・14・15・19・27	弥生土器	浅鉢	破片	26.8	6.2	10.1	横方向の丁寧なヘラミガキ、底部ナデ	横方向の丁寧なヘラミガキ	外：黒褐色 10YR3/1・にぶい黄褐色 10YR5/3 内：黒色 2.5YR3/1・明黄褐色 2.5Y6/6	白色粒子をわずかに含み堅緻	良	弥生中期前葉	復元・反転実測
8	13	表土	表土	土師器	台付甕	頸部～体部破片	－	－	－	頸部ヨコナデ、体部粗いタテ・ナナメハケ	頸部粗いヨコハケ、体部ナデ・ナナメハケ	明褐色 7.5YR5/6	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
8	14	試掘１号トレンチ	1T	縄文土器	有孔鍔付土器	胴部破片	－	－	－	隆帯による区画	ナデ	外：明赤褐色 2.5YR5/6・にぶい黄褐色 10YR5/4 内：にぶい黄褐色 10YR5/4	白色粒子	良	縄文中期中葉	勝坂式後半

第４節　Ｖ区の遺構と遺物

Ｖ区では，平安時代の竪穴住居跡 15 軒、集石１基、溝状遺構１条、縄文・古墳・平安時代の焼土４基、中世以降と見られる掘立柱建物跡１棟・溝状遺構３条・土坑 44 基、平安時代以降のピット 32 基、時期不明の竪穴状遺構１基が発見された。

第１項　竪穴住居跡

１号住居跡（第９・10・33 図、第３・４表）

〔位置〕 Ｖ区東側、ＡＷ－ 11 グリッド、ＡＸ－ 10・11 グリッドに位置する。南西側を２号住居跡に、北東側を３号土坑に切られる。

〔形状・規模〕 東西 4.0 m×南北 4.2 mの方形。

〔床の状態〕 遺構確認面からの深さ 12㎝。カマド周辺はしっかりしているが、他はやや軟弱。

〔柱穴〕 住居外北西コーナー付近で１基（Pit11）確認された。他は不明。

〔カマド〕 東壁中央やや南寄り。石組カマドで、天井石・袖石が残存、住居南東コーナーにも石材が散乱。燃焼部には広範囲に焼土層が残る。

〔遺物出土状況〕 土師器杯・皿・甕があるが、出土量は少なく、床面出土の皿（６）以外は小破片が多い。覆土中より墨書された土師器杯（５）、刻書のある杯（２・４）が出土。９は弥生時代中期の壺である。

〔時期〕 ９世紀第２四半期～第３四半期。

２号住居跡（第９・10・33 ～ 36・97・99 図、第３・４・６・７表）

〔位置〕 Ｖ区東側、ＡＷ－ 10・11 グリッド、ＡＸ－ 10・11 グリッドに位置する。北東側で１号住居跡を切る。

〔形状・規模〕 東西 3.55 m×南北 3.19 mの隅丸方形。

〔床の状態〕 遺構確認面からの深さ 37㎝。全体的に堅く、特に南西コーナー付近は堅固である。北西コーナーには炭化材が確認され、自然科学分析を行ったところ、強度が高いトネリコ属であることが判り、住居構築材として利用されていたと考えられる。また、ＡＭＳによる年代測定の結果では、８世紀後半～９世紀後半の年代値が得られており、土器編年とも整合する。

〔柱穴〕 住居外の南～西側で６基（Pit ４～９）確認された。Pit10 は別の遺構と考えられる。

〔カマド〕 東壁中央南寄りに１基（１号カマド）と、北壁コーナー近くに１基（２号カマド）ある。１号カマドは溶岩を含む石組で、周辺にも散乱。天井石が前面を塞ぐように置かれていた。燃焼部を含め広範囲に焼土層が広がっている。２号カマドは構築石材がなく、当初は別の遺構（９号土坑）と捉えていたが、掘削すると良好な焼土層とともに土師器甕破片がまとまって出土したことから、カマドの掘り込みと判明した。石組であったと見られるが、１号カマドに造り替える際に除去されたと思われる。なお、２号カマド内の焼土を分析したところ、獣類の骨片及びイネの穎片が検出されている。

〔その他〕 南壁の一部と西壁～北壁の壁下には周溝が巡る。西壁下周溝にはやや大きめの平石が置かれていた。また、南壁の南西コーナー寄りの壁外に階段状の施設がある。

〔遺物出土状況〕 土師器杯・内黒杯・皿・甕があり、カマドを中心に多く出土している。墨書された土師器皿（11 ～ 13）が出土。甕は同一個体と思われるものもあるが、可能な限り実測した。この他、叩き石（石７）や釘（鉄 22）、流れ込みと見られる縄文～弥生時代の石鏃（石１・２）がある。

〔時期〕 ９世紀後半（第４四半期）。

３号住居跡（第 11 ～ 13・37・38・96・99 図、第３～５・７表）

〔位置〕 Ｖ区東側、ＡＶ－ 13 グリッド、ＡＷ－ 12・13 グリッド、ＡＸ－ 13 グリッドに位置する。南側を４・

５号住居跡に切られる。
〔**形状・規模**〕東西 5.2 m×南北不明の方形。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 54㎝。全面的にやや軟弱。
〔**柱穴**〕住居外の西～北側に４基（Pit12 ～ 15）確認された。Pit15 は４号住居跡に伴うものかもしれない。
〔**カマド**〕東壁中央やや南寄り。石組みカマドで袖石が残存。天井石は外されているが、遺存状況は良い。広範囲に焼土層・灰層が堆積しており、自然科学分析の結果では、魚類の鰭棘等の破片や炭化材が確認されている。
〔**その他**〕西壁の北西コーナー寄りの壁外に２号住居跡と同様の階段状施設があり、東壁のカマド北側脇には棚状施設がある。
〔**遺物出土状況**〕土師器杯・皿・甕、須恵器長頸壺があり、カマドを中心にまとまって出土している。１はカマド内の焼土層に置かれたような状態で出土しており、「九」の墨書が鮮明に残る。また、南側の袖の外側脇から出土している皿（15）は、内・外面とも器面が激しく荒れている。24 は相模型の甕で、９号住居跡カマド出土破片とも接合している。また､床面から６点の土錘が出土（土１～６）。刀子（鉄１）は鞘の木質が残存している。土師器の 28 は古墳時代の壺である。
〔**時期**〕９世紀第２四半期～第３四半期。

４号住居跡（第 11 ～ 13・38・39・96 図、第３～５表）
〔**位置**〕Ⅴ区東側、ＡＷ－ 12 グリッドに位置する。北側で３号住居跡を、東側で５号住居跡を切る。
〔**形状・規模**〕東西 2.9 m×南北 2.9 mの隅丸方形と考えられる小型の住居。北壁の立ち上がりはセクションベルトで確認できた。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 32㎝。全面的にやや軟弱。
〔**柱穴**〕住居外の南～南西コーナー側に２基（Pit15･16）があるが、特に Pit16 は住居から離れすぎているため、６号住居跡に伴うものか、別の遺構の可能性が高い。
〔**カマド**〕南西コーナーにある。石組みで廃棄された状態と思われ袖石が散乱していたが、支脚は残っていた。住居南壁のカマド脇に浅いピットがあるが、火床からこのピットまで焼土が広がっていた。
〔**その他**〕床面中央やや南寄りに長軸 40㎝、短軸 28㎝、深さ 10㎝ほどのピットがあるが、これは３号住居跡に伴っていた柱穴かもしれない。
〔**遺物出土状況**〕土師器杯・皿・甕・小甕、台付甕、須恵器瓶、土錘（土７）があり、住居内のほぼ全域で出土している。皿（19）には「連」が墨書されている。
〔**時期**〕10 世紀第２四半期。

５号住居跡（第 11 ～ 14・40 ～ 44・96・99 図、第４・５・７表）
〔**位置**〕Ⅴ区東側、ＡＷ－ 12・ＡＸ－ 12 グリッドに位置する。北側で３号住居跡を、西側で７号住居跡・１号溝状遺構を切り、さらに４号住居跡に切られる。南東コーナーは８号土坑に切られる。
〔**形状・規模**〕東西 3.8 m（推定）×南北 4.6 mの隅丸方形。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 45㎝。全面的に堅くしまっている。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕北壁中央やや東寄りに１基（１号カマド）と、住居内中央東寄りに１基（２号カマド）ある。いずれも石組みである。１号カマドは東側を中心に破壊されており、石材が散乱していたが、天井石は一部残されており、甕が煙道側へ押しつぶされたような状況で出土した。燃焼部には焼土層・灰層が厚く堆積しており、自然科学分析の結果では、これらから炭化材とともにウグイ・コイといった淡水魚や獣類の骨片が検出されている。土錘を使った漁猟が近くの河川や河口湖で行われていたことがわかる。
　２号カマドは住居の壁ではなく、内側に構築されたやや小型のもので、袖石の上に長方形の天井石が１枚架構

された状態で検出された。住居内の南側床面にも同規格の置かれており、これも天井石の一部と見られる。長軸1.1 m、短軸0.9 mの楕円形の掘り込みの中に支脚が残されていた。この掘り込み及び周囲の床面の広範囲に焼土が見られ、カマド内の焼土からは魚類の椎骨片などが検出されている。

〔その他〕 南壁の一部壁下には周溝が巡り、１号カマド東側の床面に長軸60㎝、短軸35㎝、深さ15㎝ほどの楕円形のピットがある。また、東壁に長さ2.2 mほどにわたって棚状の施設がある。

〔遺物出土状況〕 ２基のカマドを中心に、土師器杯・内黒杯・皿・甕・小甕があり、特に、２号カマド及びその周辺から大量に出土した。杯には刻書が見られ（10・11・13)、覆土出土の皿には墨書も散見出来る（27・28)。18は信州系内黒土器で、10と17の杯と３枚重なって出土したが、割れた破片がカマド内で焼成を受け、褐色になっている。他に１号カマド内から土錘（土８）が、２号カマドの天井石の上から刀子（鉄２）も出土している。

〔時期〕 ９世紀末～10世紀初頭。

６号住居跡（第15・16・45～47・96・97・99図、第３～７表）

〔位置〕 Ｖ区東側、ＡＵ－12・ＡＶ－11・12グリッドに位置する。南東側で７号住居跡・１号溝状遺構を切る。

〔形状・規模〕 東西3.57 m×南北5.25 mの隅丸長方形。

〔床の状態〕 遺構確認面からの深さ25㎝、北側は堅くしまっている。南西コーナーと北西の壁際の一部に炭化材が確認された。自然科学分析を行い、樹種はトネリコ属同様強度が高いブナ属であることが明らかになった。また、ＡＭＳによる年代測定の結果では、２号住居跡と同じく８世紀後半～９世紀後半の年代値が得られた。

〔柱穴〕 住居外の東側で２基（Pit16・17)、西側で１基（Pit19)、南側で１基（Pit19）がそれぞれ確認された。このうちPit16は住居からやや離れており、７号住居跡もしくは１号溝状遺構に伴うものかもしれない。またPit18も、南壁に切られるようにあることから、別の遺構の可能性もある。

〔カマド〕 南東コーナー近くにあり、５号住居跡２号カマドと同様に壁から離れて構築されていたと見られる。長軸1.14 m、短軸0.95 m、深さ35㎝ほどの不整形な掘り込みで、石材と土器片が散乱していた。やはり焼土層が全面にあり、自然科学分析ではアワ・キビ（近似種)、イネ科の炭化種実や炭化材、魚類の鰭棘・骨片等が確認されている。

〔その他〕 東壁と北東コーナーにかけてと、南壁の下には周溝が巡り、北壁外に沿って階段状もしくは棚状の施設がある。また、南西コーナーにはごく浅い直径35㎝ほどの円形ピットがある。

〔遺物出土状況〕 土師器杯・皿・内黒高台付皿・甕・小甕・台付甕、須恵器長頸壺、灰釉陶器椀、土錘（土９・10)、刀子（鉄３・４）があり、この住居跡もカマドを中心に多量に出土している。墨書･刻書土器も多く、「川」の字が刻書された内黒高台付皿（36)、三本線と一本線が交差した刻書（１・９･22）は、滝沢遺跡を特徴づける遺物といえる。北西コーナーからは「本人」の墨書のある皿（29）が出土している。53は武蔵型の甕で、胴部外面がヘラ削りされた薄い器壁を持つ。この他、流れ込みと見られる縄文～弥生時代の石鏃（石３）がある。

〔時期〕 ９世紀末～10世紀初頭。

７号住居跡（第15・16・37図、第４表）

〔位置〕 Ｖ区東側、ＡＶ－11･12グリッド、ＡＷ－11･12グリッドに位置する。北側を１号溝状遺構に切られ、東側は４・５号住居跡に、さらに西側壁北半分を６号住居跡に切られる。

〔形状・規模〕 東西3.65 m×南北4.4 mの隅丸方形。

〔床の状態〕 遺構確認面からの深さ25㎝。床面は軟弱である。

〔柱穴〕 なし。

〔カマド〕 不明。

〔その他〕 １号溝状遺構の上に掘り込まれたピット２基（Pit16・17）のうち、Pit16は切り合い関係から本住居

跡に伴うものとしておく。
〔**遺物出土状況**〕量的には少なく、覆土中から小破片での出土がほとんどである。土師器杯・皿・甕の他、４～８は古墳時代のものである。
〔**時期**〕９世紀第３四半期頃か。

８号住居跡（第 17 ～ 19・48 ～ 51・96 図、第４・５表）
〔**位置**〕Ⅴ区東側、ＡＵ－ 14 グリッド、ＡＶ－ 14･15 グリッドに位置する。北西側で９号住居跡を切り、南東コーナーを 12 号土坑に、西壁中央を 15 号土坑に、北東コーナーを１号掘立柱建物跡（Pit29）にそれぞれ切られる。
〔**形状・規模**〕東西 3.85 m×南北 5.66 mの大型隅丸長方形。北壁の外側を巡るプランがあり、当初は別の住居の重複を考えたが、土層断面からは明確な切り合いが見られないことから、付属の施設と考え１軒の住居とした。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 53㎝。南側は比較的堅くしまっている。北西コーナー近くに焼土が薄広がる。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕北壁のほぼ中央にあり、溶岩を含む構築石材がわずかに残る。直径１m、深さ 20㎝ほどの円形の掘り込みが確認でき、壁に沿って土器が出土した。掘り込みから前面にかけて、焼土とともに灰層が広がっていた。
〔**その他**〕西壁の一部壁下に周溝が巡る。なた、カマドの西側、北壁に接して不整形な落ち込みがあり、土器が多数出土。北壁の外側にはテラス状の施設が広がる。
〔**遺物出土状況**〕土師器杯・高台付杯・内黒杯・皿・耳皿・蓋・内黒鉢・甕・小甕、須恵器小壺（薬壺）が出土しており、多くの器種が確認できる。土錘も４点ある（土 11 ～ 14）。カマドとその周辺の他、東壁付近の床面からも多くの出土があった。このうち、7 の杯と 11 の皿に「刀」の墨書が見られ、12 の皿と 14 の耳皿には、「川」の刻書がある。15 の内黒鉢は北西コーナー壁際から出土。30・31 はロクロ整形の壺であり、32 の薬壺はやや浮いて出土している。33 ～ 35 は古墳時代前期のＳ字甕の破片、36 は壺、37 は古墳時代中期の杯である。
〔**時期**〕９世紀第４四半期。

９号住居跡（第 17 ～ 19・52・96・97 図、第４～６表）
〔**位置**〕Ⅴ区東側、ＡＵ－ 14・15 グリッド、ＡＶ－ 14・15 グリッドに位置する。南東側を８号住居跡・15 号土坑に、南西コーナーを 14 号土坑に、さらに北壁を 17・18 号土坑・試掘トレンチに切られている。
〔**形状・規模**〕東西 4.37 m×南北 4.25 mの方形。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 43㎝。８号住居跡と同様、南側が堅くしまっている。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕北壁中央やや西寄りにある。石組みカマドと思われるが、８号住居跡同様構築石材はほとんど残っておらず、長軸 1.15 m、短軸 0.87 mの掘り込みと焼土の広がりが確認できた。自然科学分析では、焼土内から炭化材が確認されている。
〔**その他**〕８号住居跡と同様にカマドの西側、北壁に接して不整形な落ち込みがあるが、土器は見られない。南壁の中央に、入り口階段状の施設がわずかに確認できた。
〔**遺物出土状況**〕８号住居跡に比べると少ないが、土師器杯・皿・甕、須恵器杯・甕などがある。カマド北端から出土した破片は、３号住居跡の相模型甕に接合している。２の杯には「力」の墨書があり、17 は非常に薄い器壁をもつ甕で、相模型に類似した外来系の甕と見られる。20 は陶器の大型甕の肩部破片で、内面に鉄釉が見られる。この他、土錘（土 15・16）、流れ込みの石鏃（石４）もある。
〔**時期**〕９世紀第２四半期。

10 号住居跡（第 20・21・53 ～ 55、第４表）
〔**位置**〕Ⅴ区東側、ＡＵ－ 15・16 グリッド、ＡＶ－ 15 グリッドに位置する。19・20 号土坑に切られ、３分の

１ほどはＶ区調査区外にある。
〔**形状・規模**〕東西 4.03 m×南北 3.65 m（推定）の隅丸方形。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 45㎝。全体的に堅くしまっている。
〔**柱穴**〕入り口と見られる西壁側の両コーナー付近には、直径 30 ～ 40㎝ほどの円形のピットがあるが浅く、柱穴の可能性は低い。
〔**カマド**〕東壁中央やや南寄りにある。溶岩を含み、天井石など多くの構築石材が残っており、一部の石材は被熱の影響か白く変色していた。燃焼部として直径 70㎝、深さ 25㎝ほど浅い掘り込みがあるが、燃焼部より周辺に焼土が多く見られた。自然科学分析では、炭化材とともにマメ科の種子が検出されている。
〔**その他**〕北壁の壁下には周溝がわずかに確認できる。
〔**遺物出土状況**〕土師器杯･内黒杯･皿･甕･小甕､須恵器長頸壺があり､カマドとその周辺から多量に出土している。墨書・刻書はほとんど見られない。５の内黒杯は、５号住居跡出土の信州系内黒杯同様に、割れた破片がカマド内で焼成を受け、褐色になっている。８の皿は残存部に５ヶ所の穿孔が見られる。16 の甕は、カマドの掛け口から落ちて割れたような状態で出土しており、他にも複数の甕が出土している。
〔**時期**〕９世紀末～ 10 世紀初頭。

11 号住居跡（第 22・56・57 図、第４表）
〔**位置**〕Ｖ区東側、ＡＳ－ 15・16 グリッド、ＡＴ－ 15・16 グリッドに位置する。
〔**形状・規模**〕東西 3.52 m×南北 4.36 mの隅丸方形。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 16㎝。全面的に軟弱。中央北よりと西壁側に焼土層が広がる。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕東壁中央にある。溶岩を含む袖石が残存しており、カマド前にも散乱。北側の袖には、構築材として土師器甕が転用されていた。焼土は、内部の掘り込みや焚き口付近にも確認されなかった。
〔**その他**〕南壁の中央やや西寄りと南東・南西コーナー、床面中央西寄り、カマド北側に円形・不整形の落ち込みがあるが、明確な施設といえるものではないだろう。
〔**遺物出土状況**〕住居北西側とカマド及びその周辺から土師器杯･皿･甕･羽釜、灰釉陶器の椀･瓶が出土している、これらの器種構成は、Ｖ区の住居跡の中では最も新しい段階の様相を示している。21 は古墳時代前期の壺の口縁部である。
〔**時期**〕10 世紀第３四半期。

12 号住居跡（第 23・57・58 図、第４表）
〔**位置**〕Ｖ区中央やや東側の北壁、ＡＳ－ 16･17 グリッド、ＡＴ－ 16 グリッドに位置する。13 号住居跡を切り、２分の１ほどはＶ区調査区外にある。
〔**形状・規模**〕東西 3.0 m×南北 2.7 m（いずれも推定）の隅丸方形と考えられる。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 22㎝。やや軟弱。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕不明。Ｖ区調査区外と思われる。
〔**遺物出土状況**〕住居全体の半分の調査のため出土遺物は少ないが、ほぼ全域から土師器杯･皿、甕の出土がある。特に南壁下に沿って杯・皿が重なって出土している。２の杯には「＃」の墨書がはっきりと見える。
〔**時期**〕10 世紀第２四半期。

13 号住居跡（第 23・58・99 図、第４・７表）
〔**位置**〕Ｖ区中央やや東側の北壁、ＡＳ－ 16・17 グリッドに位置する。東側を 12 号住居跡に、北側を試掘ト

レンチに切られる。北側３分の１ほどはＶ区調査区外にある。12 号住居跡のプランが続いていると思われたが、切り合いが平面でも確認することが出来た。
〔**形状・規模**〕不整形なプランのため不明であるが、東西・南北とも３ｍほどの 12 号住居跡と同様な形状が考えられる。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 28㎝。12 号住居跡に比べ堅くしまっている。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕不明。12 号住居跡に切られているか、Ｖ区調査区外と思われる。
〔**遺物出土状況**〕住居範囲が限られているため出土遺物は少なく、覆土中からのものがほとんどである。土師器杯・皿、須恵器蓋、刀子（鉄５）がある。小破片であるが３・４の杯には刻書が確認出来る。
〔**時期**〕９世紀第３四半期か。

14 号住居跡（第 24・25・58 ～ 60 図）
〔**位置**〕Ｖ区北壁側中央、ＡＲ－ 16･17 グリッド、ＡＳ－ 17 グリッドに位置する。東側の一部を 28･29 号土坑に、北西コーナーを 30 号土坑に切られる。北側４分の１ほどはＶ区調査区外にある。
〔**形状・規模**〕東西 3.7 ｍ×南北 4.3 ｍのほどの隅丸整方形のプランを想定し、南側で別の遺構と切り合っていると思われたが、段差があるものの、セクションベルトで明確な切り合いは確認できなかった。出土遺物の状況などからも課題が残るが、南北 6.3 ｍほどの不整長方形としておく。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 30㎝。北側は比較的堅くしまっているが、南側は深さ 15 ～ 40㎝と平坦ではなく、砂利っぽい。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕東壁中央にあり、確認面からの掘り込みは 42㎝ある。破壊され、石材が散乱していたが、出土遺物は多い。燃焼部より外側で焼土が確認された。
〔**その他**〕西壁の南側に接して、長軸 92㎝、短軸 60㎝、深さ 20㎝の不整楕円形の土坑がある。出入り口に関わるものか。その南側には深さ 43㎝の土坑状の落ち込みがあるが、プランがはっきりしない。
〔**遺物出土状況**〕平安時代の土器はカマドを中心に多く出土している。土師器杯・皿・甕・小甕、があり、５の皿には刻書が見られる。古墳時代の土器も多く、13・14・17 は前期の壺、15・16 はＳ字甕、18 は中期の杯である。
〔**時期**〕10 世紀第２四半期。

15 号住居跡（第 25・60・61・99 図、第４・７表）
〔**位置**〕Ｖ区西側、ＡＪ－ 20･21 グリッド、ＡＫ－ 20･21 グリッドに位置する。北東側を試掘トレンチに切られる。Ｖ区の中ではもっとも西側にあり、他の住居跡とは離れている。周囲は砂礫層に覆われ、河川氾濫の後しばらくしてから造られたと考えられるが、なかなかプランを捉えることが出来ず、カマドの存在から判断した。
〔**形状・規模**〕東西 4.0 ｍ×南北 3.26 ｍの隅丸長方形。
〔**床の状態**〕遺構確認面からの深さ 10㎝。床下が砂礫層であり、砂利っぽい。
〔**柱穴**〕なし。
〔**カマド**〕東壁中央に構築されている。石材の多くは外されていたが支脚が残っており、燃焼部の掘り込み全面に焼土が確認された。基盤の粘土や煙道も明確であり、遺存状況は極めて良好である。
〔**遺物出土状況**〕確認面から浅い住居であったが、カマドを中心に土師器杯･甕が出土している。２の杯には「キ」の墨書がある。刀子（鉄６）には、鞘の木質が残っていた。
〔**時期**〕９世紀第２四半期。

第２項　集石

１号集石（第 26・27・61 ～ 64・97 ～ 99 図、第４・６・７表）

〔**位置**〕Ｖ区東側、ＡＯ－ 14・15 グリッド、ＡＰ－ 14・15 グリッド、ＡＱ－ 14・15 グリッドに位置する。

〔**形状・規模**〕東西 7.23 m×南北 6.5 m（推定）の大型で、方形に近いが不整形なプラン。土器片と共に礫や焼土が集中して確認されたことから、当初は住居跡と考えたが、壁の立ち上がりが緩く窪地状であることから、遺構名称を「集石」とした。

〔**内部の状況**〕遺構確認面からの深さ 35㎝前後、住居跡のような床面ではなく、堅くしまった砂礫混じりの土層面である。柱穴はなく、北西コーナー近くに楕円形の小ピットがあるが、明確なものではない。北東側の広範囲で大小の礫が浮いた状態で検出されたようにように見えるが、やや深く掘削したため本来はもう少し浅い窪地である。またこれらの礫は、住居跡で使用されているカマドの構築石材と同様のもので、積み重ねられていたり、天井石に使われるような長方形の平石も多数見られた。しかし、これらはカマドを破壊したというよりも、不要になったカマドの構築石材をまとめて廃棄したような状態であった。さらに､これらの間に２箇所の焼土と共に、長さ 40㎝ほどの炭化材も確認された。自然科学分析を行ったところ、６号住居跡と同じブナ属と樹種同定されており、年代測定の結果では、２・６号住居跡と同じく８世紀後半～９世紀後半の年代値が得られている。

〔**遺物出土状況**〕北東側を除く全域で出土している。礫と混在していたものも多数ある。土師器杯・皿・甕・小甕・台付甕、須恵器甕、灰釉陶器椀の他、磨石（石８）、砥石（石 12）、刀子（鉄８・９）、釘（鉄 15）もある。土器類には、編年的に見て何段階かの時間差が認められる。墨書が顕著な８の杯は、交差する墨書の後に同じように刻書を施している。17 の皿も同様である。18・20 の皿にも刻書が見られる。43 は古墳時代前期の鉢、44 は同後期の甕である。

〔**時期**〕９世紀第２四半期。

第３項　竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（第 27・64 図、第３・４表）

〔**位置**〕Ｖ区東側、ＡＵ－ 13 グリッド、ＡＶ－ 13 グリッドに位置する。

〔**形状・規模**〕長軸 3.1 m×短軸 2.45 mの不整形なプランで、遺構確認面からの深さは最大で 43㎝。断面形は皿状であるが、土坑東壁の一部が緩いものの壁のように立ち上がり、掘り込んだ状況が確認出来ることから「竪穴状遺構」とした。底面は凹凸があり、北と東の上端にはピットが２基が伴っているが（Pit23・24)、別の遺構であろう。

〔**遺物出土状況**〕北東側を除く全域で出土している。平安時代の土師器杯（１～３）・鉢（４）・甕（５)、古墳時代の土師器壺（６）・甕（９）・杯（11）が混在している。

〔**時期**〕不明（平安時代か）

第４項　焼土

１号焼土（第 28 図）

〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＺ－ 12 グリッドに位置する。平安時代の遺構確認面（Ｖ 12 層・Ｖ 21 層）よりも下層のＶ 25 ～ 26 層あたりで検出されている。

〔**形状・規模**〕東西 28㎝×南北 20㎝の小規模な焼土の高まりで、掘り込みはない。炭化材が含まれており、自然科学分析をおこなったところ、カヤと樹種が同定された。

〔**遺物出土状況**〕出土遺物はなし。

〔**時期**〕炭化材のＡＭＳ年代測定では、縄文時代中期前半後半頃の年代値が得られている。

２号焼土（第 28・64・65 図、第４表）
〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＱ－ 15 グリッドに位置する。80㎝西側に３号焼土がある。
〔**形状・規模**〕東西 68㎝×南北 82㎝の範囲に焼土が広がる。削り込んだようなわずかな掘り込みに砂質の暗褐色土層があり、その上に焼土が堆積している。
〔**遺物出土状況**〕焼土内から土師器皿･鉢･甕があり、このうち５・７・９の甕は３号焼土との間で接合関係にある。
〔**時期**〕10 世紀第２四半期頃。

３号焼土（第 28・64・65 図、第４表）
〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＱ－ 15 グリッドに位置する。80㎝東に２号焼土がある。
〔**形状・規模**〕東西 89㎝×南北 75㎝の円形に焼土が広がる。２箇所の浅い掘り込みに焼土と焼土混じりの砂質の暗褐色土層があり、その上に焼土が堆積している。
〔**遺物出土状況**〕焼土内から土師器杯・甕があり、このうち５・７・９の甕は３号焼土との間で接合関係にある。
〔**時期**〕10 世紀第２四半期頃。

４号焼土（第 28・65 図、第４表）
〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＵ－ 15 グリッドに位置する。南側を 18 号土坑に切られる。
〔**形状・規模**〕確認された箇所で東西 80㎝×南北 80㎝の範囲に焼土が広がる。２号焼土同様に、削り込んだようなわずかな掘り込みに砂質の暗褐色土層があり、その上に焼土が堆積している。
〔**遺物出土状況**〕焼土南側から土師器甕（１）が立てられた状態で出土した。
〔**時期**〕古墳時代前期。

第５項　掘建柱建物跡

１号掘立柱建物跡（第 28 図、第３表）
〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＶ－ 15 グリッド、ＡＷ－ 15 グリッドに位置する。南西コーナーで８号住居跡を切り、Ｖ区調査区外へ続く。
〔**形状・規模**〕東西・南北ともに２間以上（柱間 0.9 ～ 1.7 m）。
〔**遺物出土状況**〕なし。
〔**時期**〕中世以降。

第６項　溝状遺構

１号溝状遺構（第 29 図、第４表）
〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＶ－ 12 グリッド、ＡＷ－ 12 グリッドに位置する。７号住居跡を切り、４～６号住居跡・Pit16・17 に切られる。
〔**形状・規模**〕長さ 2.95 m以上、幅 0.85 m、遺構確認面からの深さ 25㎝。
〔**遺物出土状況**〕なし。
〔**時期**〕切り合い関係から、９世紀第３四半期頃か。

２号溝状遺構（第 29・66 図、第４表）
〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＲ－ 16 グリッド、ＡＳ－ 16 グリッドに位置する。27 号土坑と並行している。
〔**形状・規模**〕長さ 5.30 m、幅 1.19 m、遺構確認面からの深さ 20㎝。底面は凹凸が激しい。
〔**遺物出土状況**〕流れ込みの平安時代の土師器杯片（１）と古墳時代の土師器壺（２）。
〔**時期**〕中世以降。

３号溝状遺構（第 29・66 図、第４表）

〔**位置**〕Ｖ区東端、ＡＱ－ 16・17 グリッドに位置する。

〔**形状・規模**〕長さ 3.35 m、幅 0.74 m、遺構確認面からの深さ 36㎝。

〔**遺物出土状況**〕流れ込みの古墳・平安時代の土師器甕。いずれも小破片。

〔**時期**〕中世以降。

第７項　土坑・ピット（第 29 ～ 31・66 図、第２～４表）

土坑は 44 基が発見された（9 号土坑は欠番）。詳細は一覧表に示したが、5・27 号土坑を除いて直径 0.9 ～ 1.8 mのほぼ正円形のプランで、時期はいずれも中世以降のものであり、河口２期バイパス関連では塚越遺跡・炭焼遺跡においても検出されている。出土した土器は、いずれも流れ込みや攪乱によるものである。

ピットについては 32 基が発見されているが、これらの中には既に触れてきたように竪穴住居跡に伴う柱穴、掘立柱建物跡の柱穴も含まれており、それ以外の時期は不明である。詳細は一覧表のとおりである。

第８項　遺構外出土遺物（第 32・67 ～ 99 図、第４～７表）

遺構外からは縄文～平安時代までの遺物が出土している。内容は、遺構出土と同様に土器・土製品・石器・石製品・鉄製品であり、特に調査区中央ＡＰ～ＡＴグリッドにかけては包含層（Ｖ 10 層）が厚く堆積しており、古墳・平安時代の遺物が大量に出土した。さらに下層（Ｖ 12 層）にかけては縄文土器・弥生土器も含んでおり、調査区東側のＡＴ～ＡＸグリッド南壁側では弥生時代中期のものが多い。一方、調査区中央から西側にかけては古墳時代の土器が多くなる。なお、これらの土器については、概ね時代順に掲載しており、縄文時代（１・２）、弥生時代（３～ 38）、古墳時代～奈良時代（39 ～ 174）平安時代（175 ～ 736）となっている。平安時代については小破片においても墨書・刻書が多数見られることから、可能な限り実測した。以下、奈良時代以前の特徴的なものについて簡単に触れておく。

１・２は縄文後期中葉堀之内２式の深鉢である。５～ 25 は弥生中期中葉平沢式併行段階の壺、26 ～ 31 は同時期の甕である。32・33 は中期後葉有東式～宮ノ台式併行の甕、34 は後期前葉中部高地系櫛描文の甕である。39 ～ 59 は古墳時代前期の壺、62 ～ 64 は同時期の小型丸底鉢、65 は中期前葉の小型丸底壺である。93 ～ 116 は弥生時代後期～古墳時代前期の台付甕もしくは平底甕、117 ～ 123 は古墳時代前期後葉の東海系Ｓ字甕、124 は古墳時代前期前葉の畿内系叩き甕、126 ～ 142 は古墳時代中期～後期の甕である。144 は古墳時代前期中葉の東海系高杯、146 は同中期前葉の高杯、150 ～ 173 は古墳時代～奈良時代の鉢、杯類である。174 は畿内系土師器の模倣品か。

第２表　Ｖ区土坑一覧表（1）

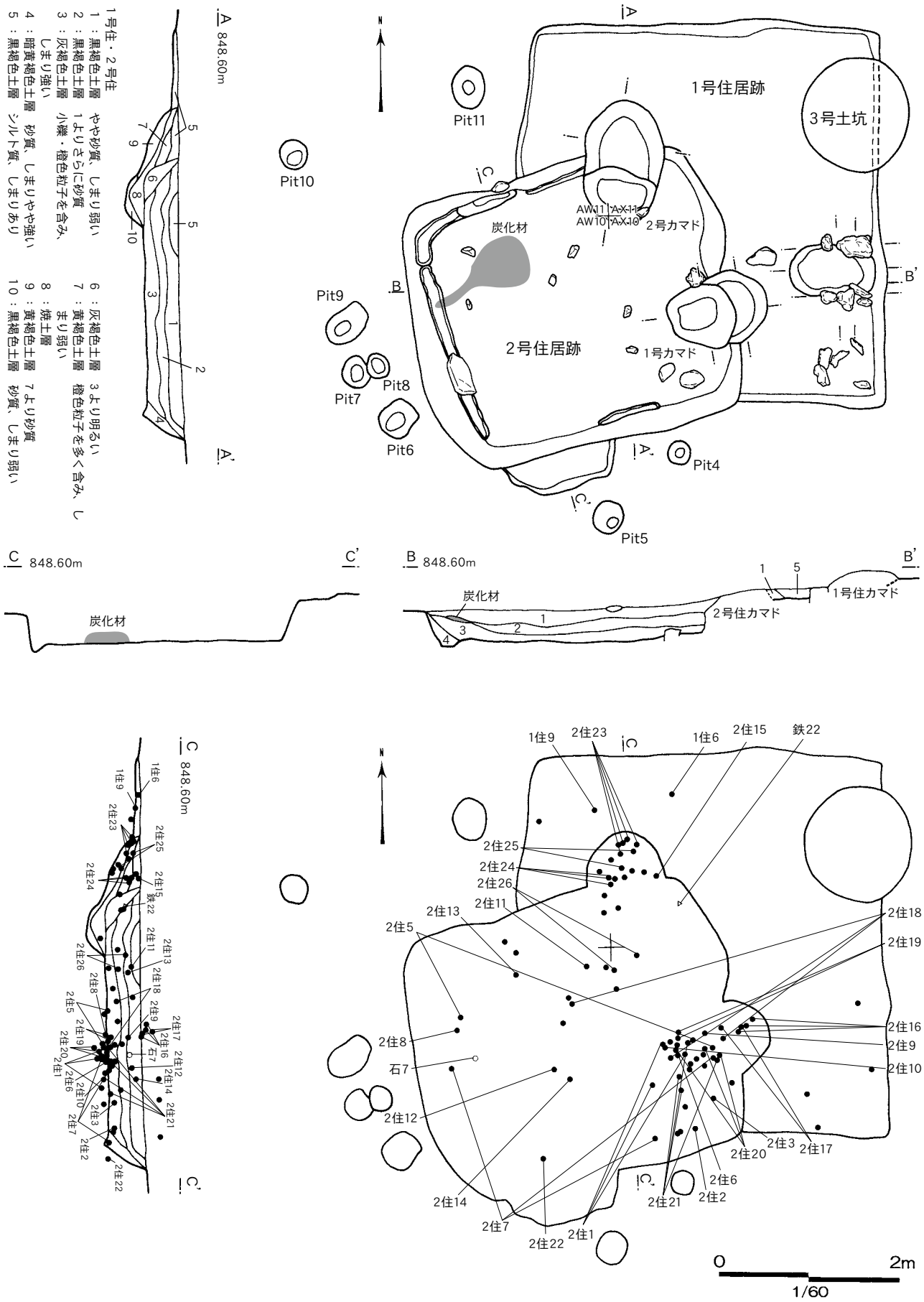
土坑№	図	位置	平面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	備　　考
1	29	AZ-9・10	円形	1.02	0.90	0.57		
2	29	AX-10・AY-10	円形	1.20	1.16	0.61		
3	29	AX-11	円形	1.23	1.15	1.15		1 号住居跡を切る
4	29	AY-11・12	円形	1.24	1.09	0.58		
5	29	AW-14	隅丸長方形	2.59	1.02	0.53		
6	29	AW-14	円形	1.37	1.30	0.33		
7	29	AV-15・AW-15	円形	1.31	1.22	0.32		試掘トレンチに切られる
8	30	AX-12	円形	1.17	1.15	0.55		5 号住居跡を切る
9	欠番							2 号住居跡 2 号カマドに付け替え
10	30	AU-11・12	円形	1.11	1.08	0.37		
11	30	AV-13	円形	1.33	－	0.20		12 号土坑に切られる
12	30	AV-13・14	円形	1.21	－	0.35		11 号土坑を切る
13	30	AU-13	円形	1.29	1.15	0.33		
14	30	AU-14	円形	1.42	1.37	0.45		9 号住居跡を切る
15	30	AU-14	円形	1.20	－	0.13		8・9 号住居跡を切る

第２表　Ⅴ区土坑一覧表（2）

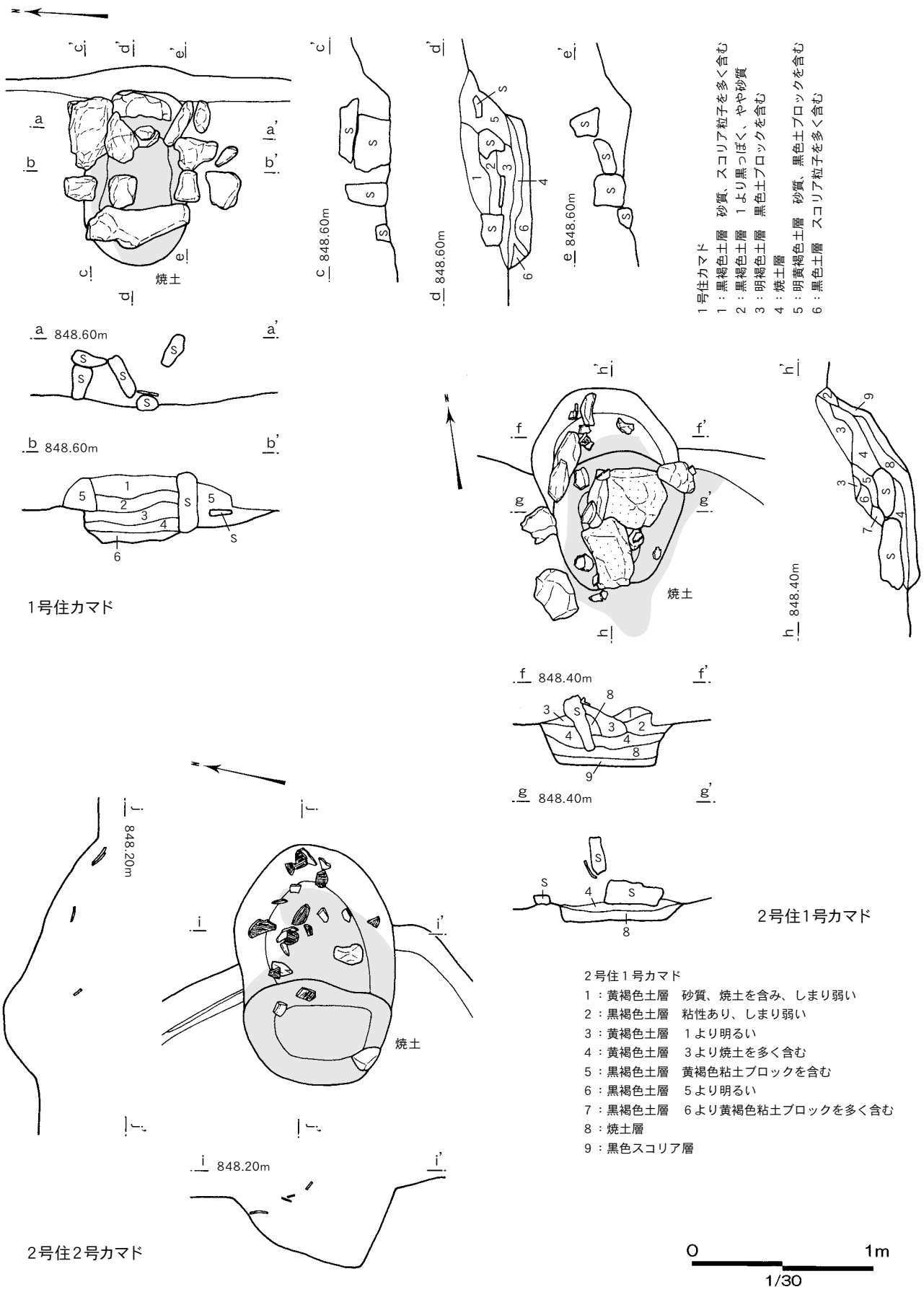
土坑No.	図	位置	平面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	備　　考
16	30	AV-15	円形	1.19	－	0.08		
17	30	AU-15	円形	1.35	1.30	0.20	土師器	9 号住居跡を切る、試掘トレンチに切られる
18	30	AU-14・15	円形	1.80	1.55	0.65		9 号住居跡を切る、試掘トレンチに切られる
19	30	AU-15	円形	1.48	－	0.10		10 号住居跡を切る
20	30	AU-15・16	円形	1.04	1.02	0.15		10 号住居跡を切る
21	30	AT-15・AU-15	円形	1.25	1.16	0.35	土師器	
22	30	AT-16	円形	1.34	1.25	0.18		
23	30	AT-16	円形	1.15	1.02	0.30		
24	30	AT-14	円形	1.15	1.14	0.28		
25	30	AS-14・15	円形	1.27	1.15	0.42		
26	30	AR-15・AS-15	円形	1.45	1.45	0.48	土師器	
27	31	AS-16	隅丸長方形	2.10	0.93	0.29	土師器、灰釉陶器	
28	31	AS-17	円形	1.60	－	0.45	土師器	14 号住居跡・29 号土坑を切る、試掘トレンチに切られる
29	31	AR-17・AS-17	円形	－	－	0.04		14 号住居跡を切り、28 号土坑に切られる
30	31	AR-17	円形	1.60	－	0.33	土師器	14 号住居跡を切る
31	31	AR-15	瓢箪形	1.70	1.42	0.43	土師器	
32	31	AQ-15	円形	1.17	1.17	0.45	土師器	
33	31	AQ-17	不整方形	0.98	0.69	0.18		
34	31	AQ-17	円形	1.47	1.45	0.50	土師器	
35	31	AP-17	円形	1.46	1.45	0.55		36 号土坑を切る
36	31	AP-17	円形	1.24	－	0.33	土師器	35 号土坑に切られる
37	31	AP-17	円形	1.34	1.26	0.33		
38	31	AO-17	円形	1.40	1.35	0.57	土師器	39 号土坑を切る
39	31	AO-17	円形	1.30	－	0.55		38 号土坑に切られる
40	31	AO-16	円形	1.05	1.01	0.45	土師器	
41	31	AN-16・AO-16	円形	1.10	1.07	0.35		
42	31	AO-15	円形	1.16	1.10	0.20		
43	31	AN-16	円形	1.15	－	0.35		試掘トレンチに切られる
44	31	AM-16	円形	1.35	1.32	0.25	須恵器	45 号土坑を切る
45	31	AM-16	円形	1.35	－	0.15		44 号土坑に切られる

第３表　Ⅴ区ピット一覧表

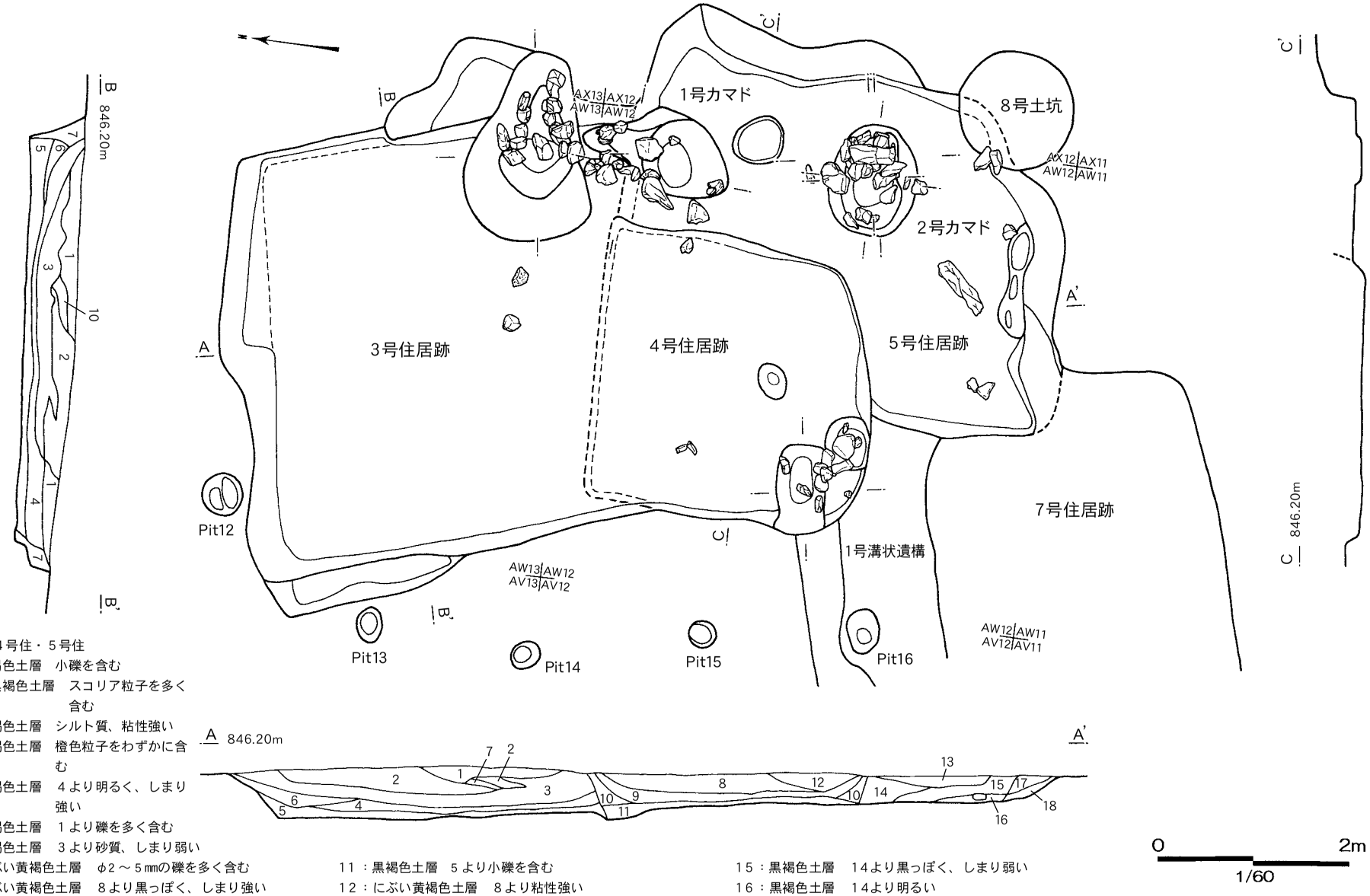
ピットNo.	図	位置	平面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　　考
1	付図	AZ-9	円形	58	52	18	
2	付図	AZ9	楕円形	43	24	19	
3	付図	AZ9	楕円形	46	25	31	
4	9	AX-10	円形	26	25	20	2 号住居跡
5	9	AW-10・AX-10	円形	36	33	20	2 号住居跡
6	9	AW-10	不整形	42	38	30	2 号住居跡
7	9	AW-10	円形	35	29	13	2 号住居跡
8	9	AW-10	円形	30	27	15	2 号住居跡
9	9	AW-10	楕円形	52	36	25	2 号住居跡
10	9	AW-11	円形	34	31	14	
11	9	AW-11	楕円形	47	36	23	1 号住居跡
12	11	AW-13	円形	44	40	20	3 号住居跡
13	11	AV-13	楕円形	35	23	17	3 号住居跡
14	11	AV-13	円形	30	25	15	3 号住居跡
15	11	AV-12	円形	29	25	16	3 号住居跡
16	11・29	AV-12・AW-12	楕円形	44	33	15	6 号住居跡
17	15・29	AV-12	楕円形	50	40	22	6 号住居跡
18	15	AV-11	不整形	40	31	20	6 号住居跡
19	15	AU-12	円形	53	53	19	6 号住居跡
20	付図	AW-14	円形	40	38	72	
21	付図	AW-14	円形	32	29	28	
22	付図	AV-13	円形	48	45	24	
23	27	AV-13	円形	45	40	10	1 号竪穴状遺構
24	27	AV-13	円形	35	32	12	1 号竪穴状遺構
25	付図	AW-15	楕円形	27	20	13	26 号ピットを切る
26	付図	AW-15	楕円形	－	－	10	25 号ピット、試掘トレンチに切られる
27	28	AV-15・AW-15	円形	35	35	15	1 号掘立柱建物跡
28	28	AV-15	円形	37	28	23	1 号掘立柱建物跡
29	28	AV-15	円形	36	30	13	1 号掘立柱建物跡
30	28	AV-15	円形	40	37	17	1 号掘立柱建物跡
31	28	AV-15	円形	36	32	17	1 号掘立柱建物跡
32	30	AV-15	円形	25	24	7	16 号土坑



第9図　V区　1号住居跡(1)・2号住居跡(1)



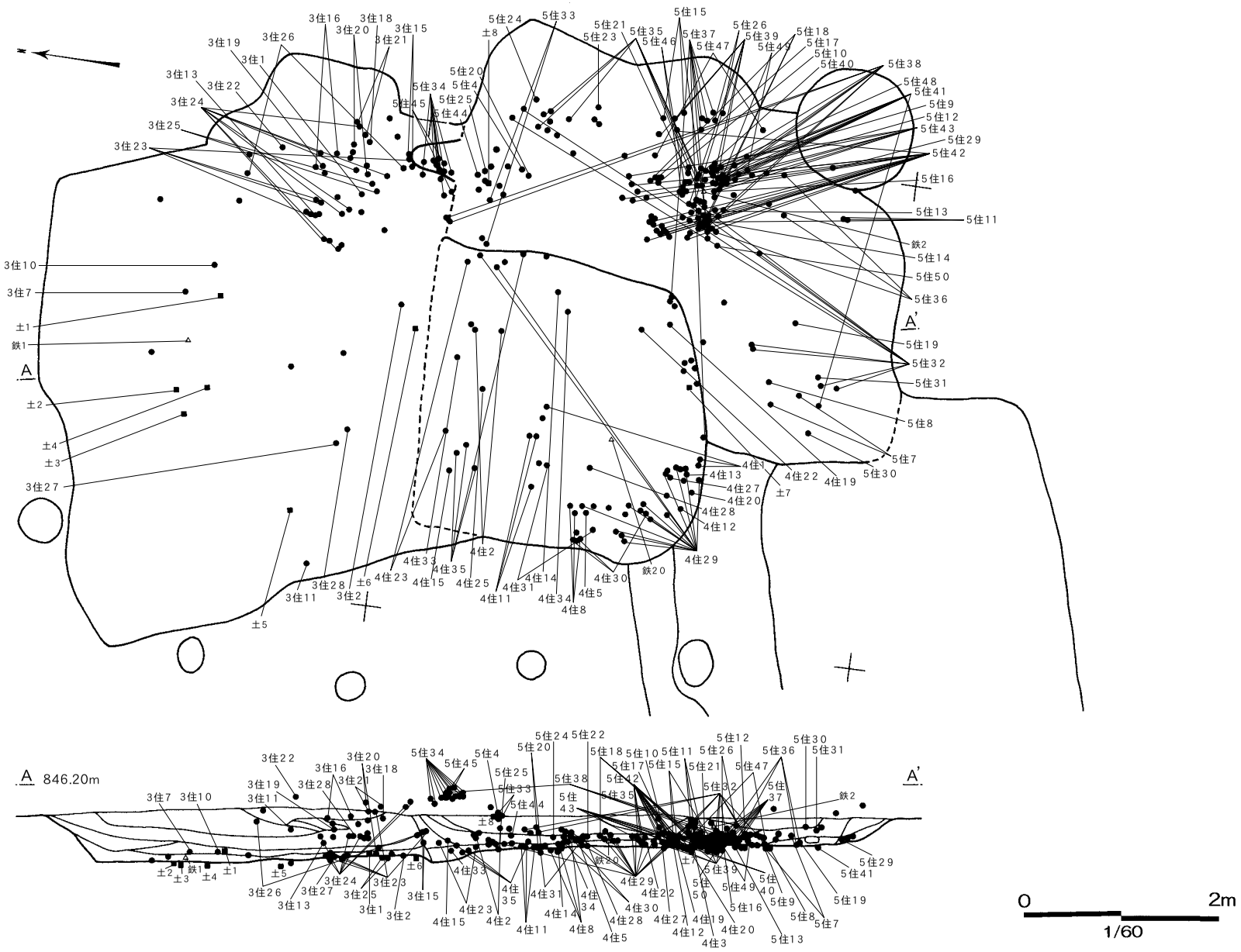
第10図　V区　1号住居跡(2)・2号住居跡(2)



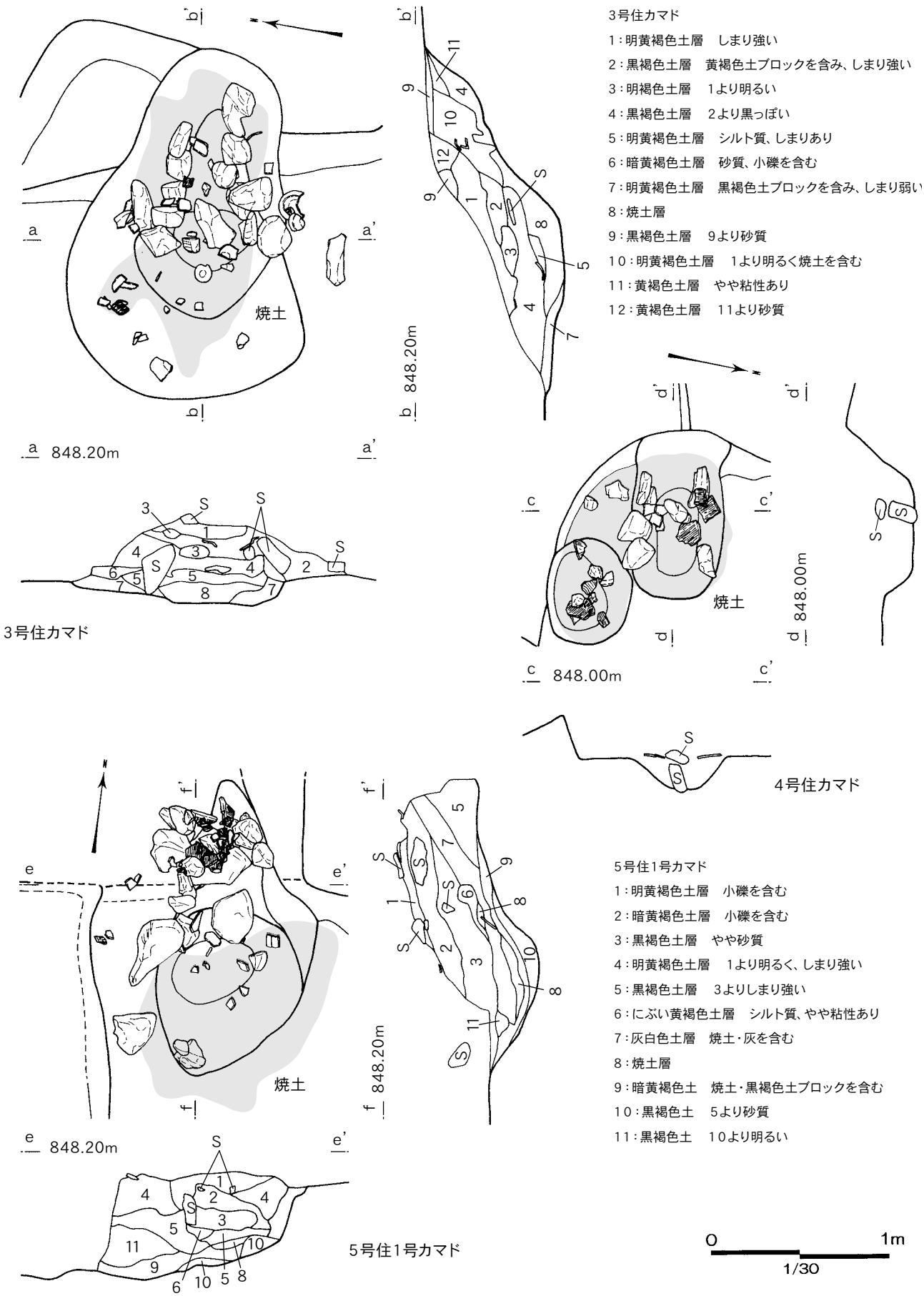
3号住・4号住・5号住

1 ：黒褐色土層　小礫を含む
2 ：明黒褐色土層　スコリア粒子を多く含む
3 ：灰褐色土層　シルト質、粘性強い
4 ：黒褐色土層　橙色粒子をわずかに含む
5 ：黒褐色土層　4より明るく、しまり強い
6 ：黒褐色土層　1より礫を多く含む
7 ：灰褐色土層　3より砂質、しまり弱い
8 ：にぶい黄褐色土層　φ2～5㎜の礫を多く含む
9 ：にぶい黄褐色土層　8より黒っぽく、しまり強い
10：にぶい黄褐色土層　黄色ブロックを多く含み、しまり弱い
11：黒褐色土層　5より小礫を含む
12：にぶい黄褐色土層　8より粘性強い
13：にぶい黄褐色土層　12より明るく、しまり強い
14：黒褐色土層　粘性、しまりやや強い
15：黒褐色土層　14より黒っぽく、しまり弱い
16：黒褐色土層　14より明るい
17：黄褐色土層　やや砂質、しまり弱い
18：黄褐色土層　17より黒っぽい

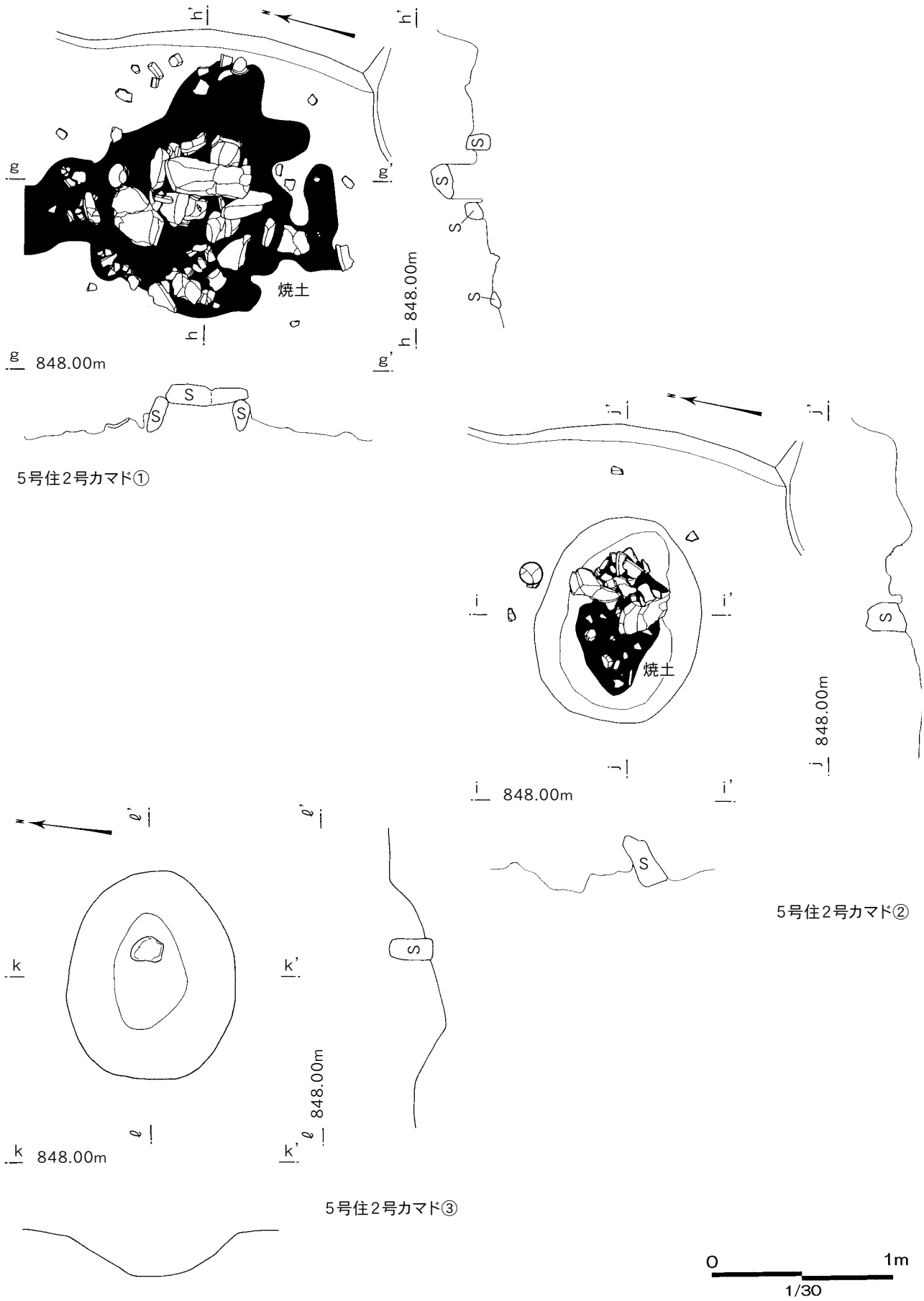
第11図　V区　3号住居跡(1)・4号住居跡(1)・5号住居跡(1)



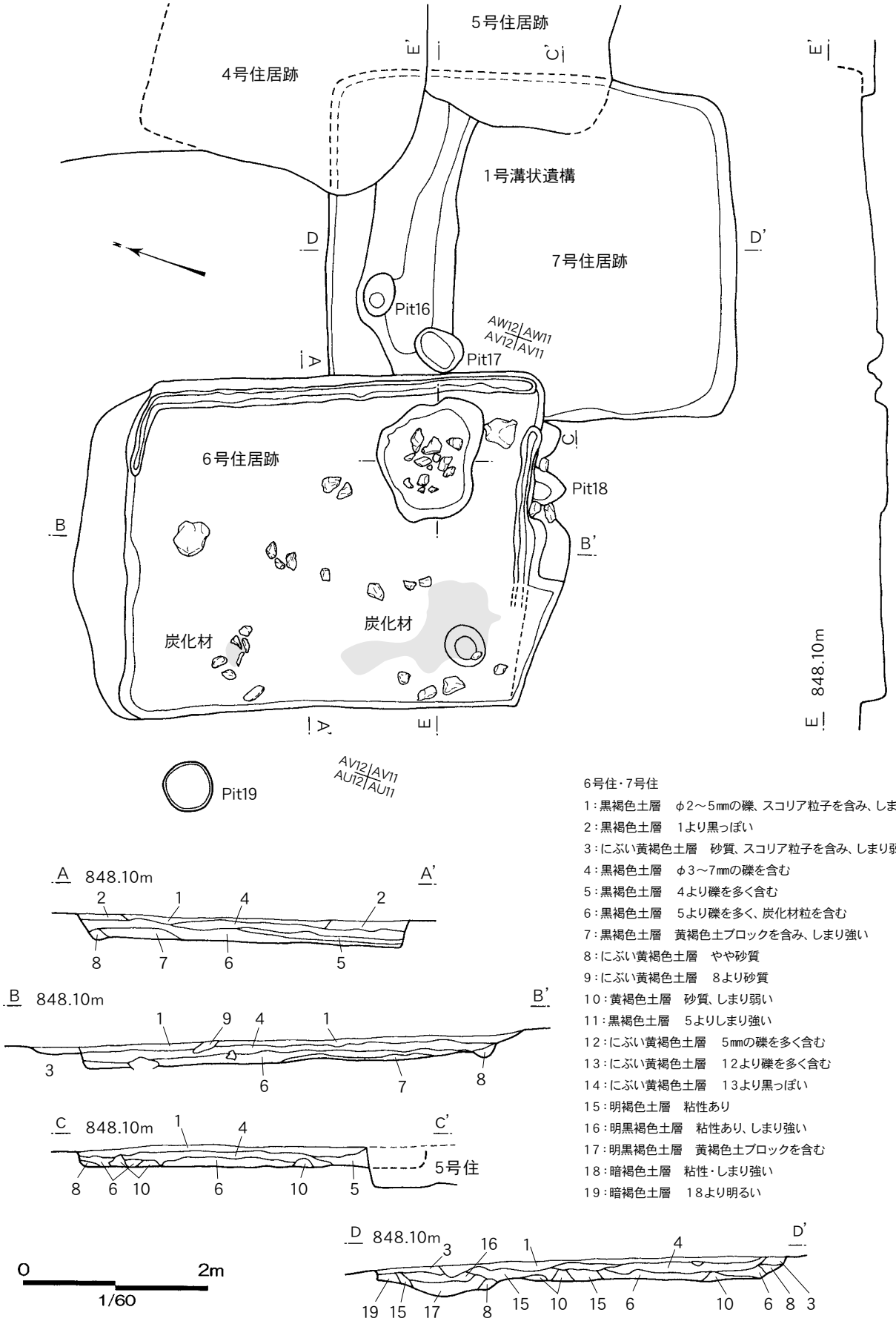
第12図　V区　3号住居跡(2)・4号住居跡(2)・5号住居跡(2)



第13図　V区　3号住居跡（3）・4号住居跡（3）・5号住居跡（3）

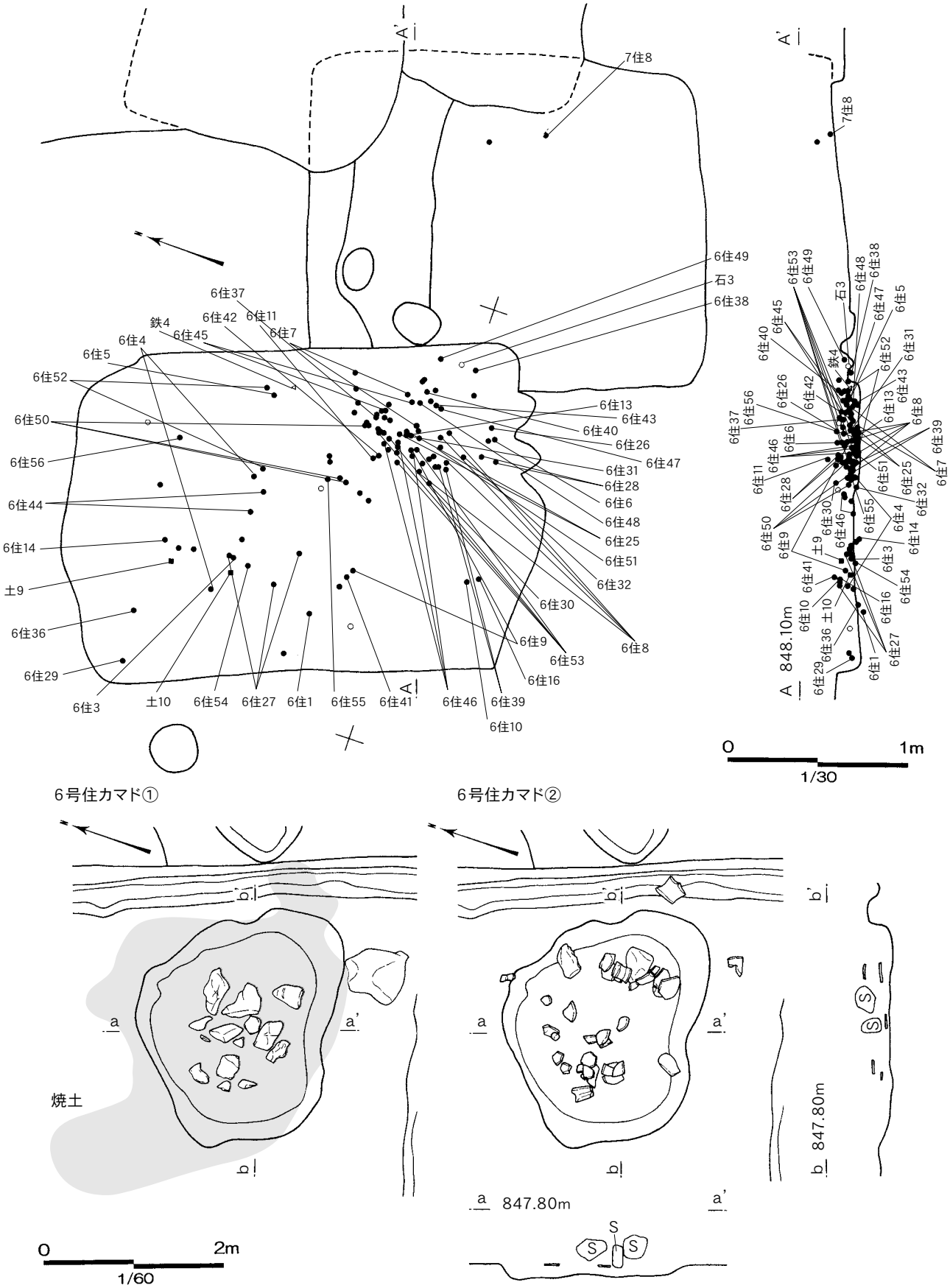


第14図　V区　5号住居跡（4）



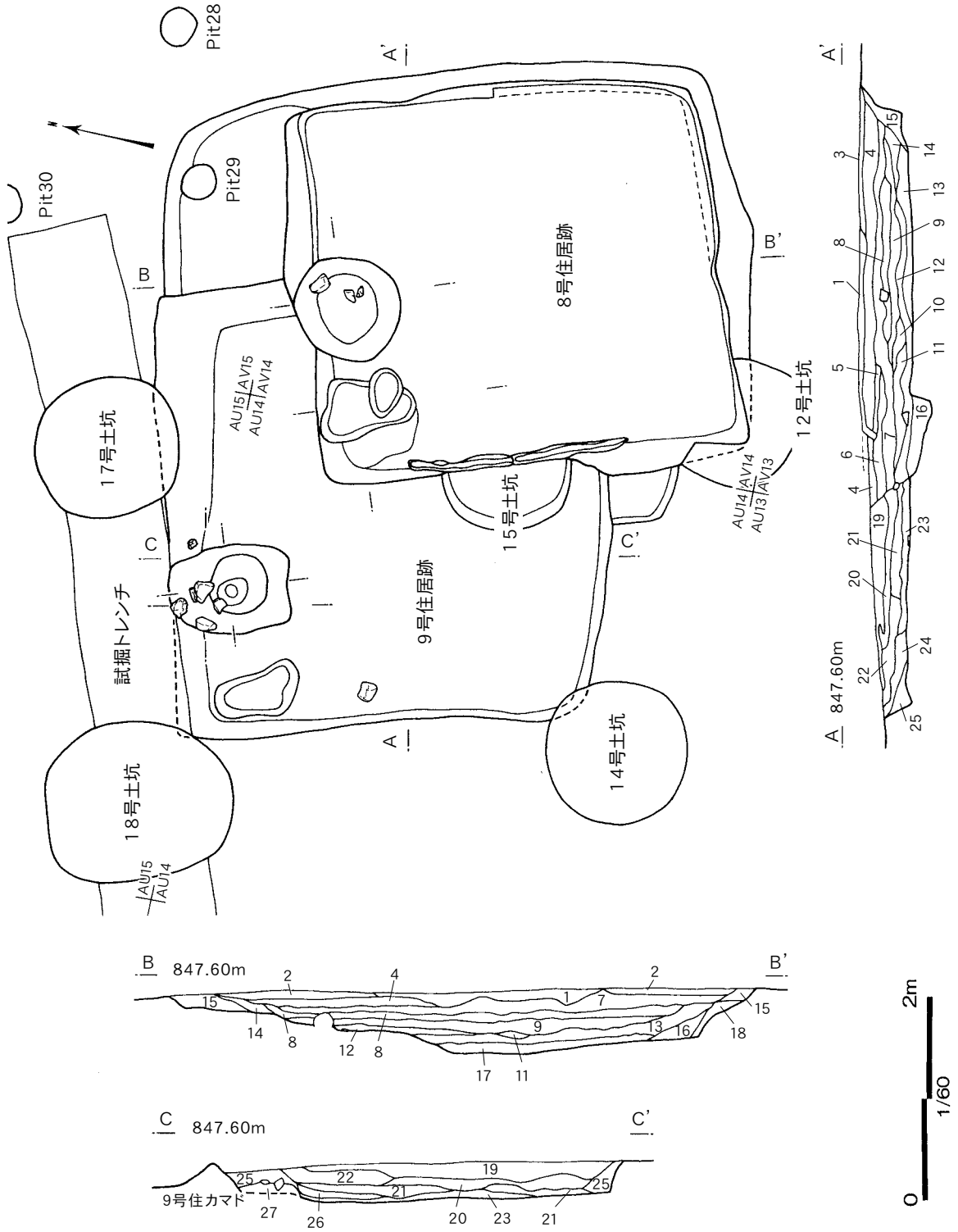
6号住・7号住
1：黒褐色土層　φ2～5mmの礫、スコリア粒子を含み、しまり弱い
2：黒褐色土層　1より黒っぽい
3：にぶい黄褐色土層　砂質、スコリア粒子を含み、しまり弱い
4：黒褐色土層　φ3～7mmの礫を含む
5：黒褐色土層　4より礫を多く含む
6：黒褐色土層　5より礫を多く、炭化材粒を含む
7：黒褐色土層　黄褐色土ブロックを含み、しまり強い
8：にぶい黄褐色土層　やや砂質
9：にぶい黄褐色土層　8より砂質
10：黄褐色土層　砂質、しまり弱い
11：黒褐色土層　5よりしまり強い
12：にぶい黄褐色土層　5mmの礫を多く含む
13：にぶい黄褐色土層　12より礫を多く含む
14：にぶい黄褐色土層　13より黒っぽい
15：明褐色土層　粘性あり
16：明黒褐色土層　粘性あり、しまり強い
17：明黒褐色土層　黄褐色土ブロックを含む
18：暗褐色土層　粘性・しまり強い
19：暗褐色土層　18より明るい

第15図　V区　6号住居跡（1）・7号住居跡（1）

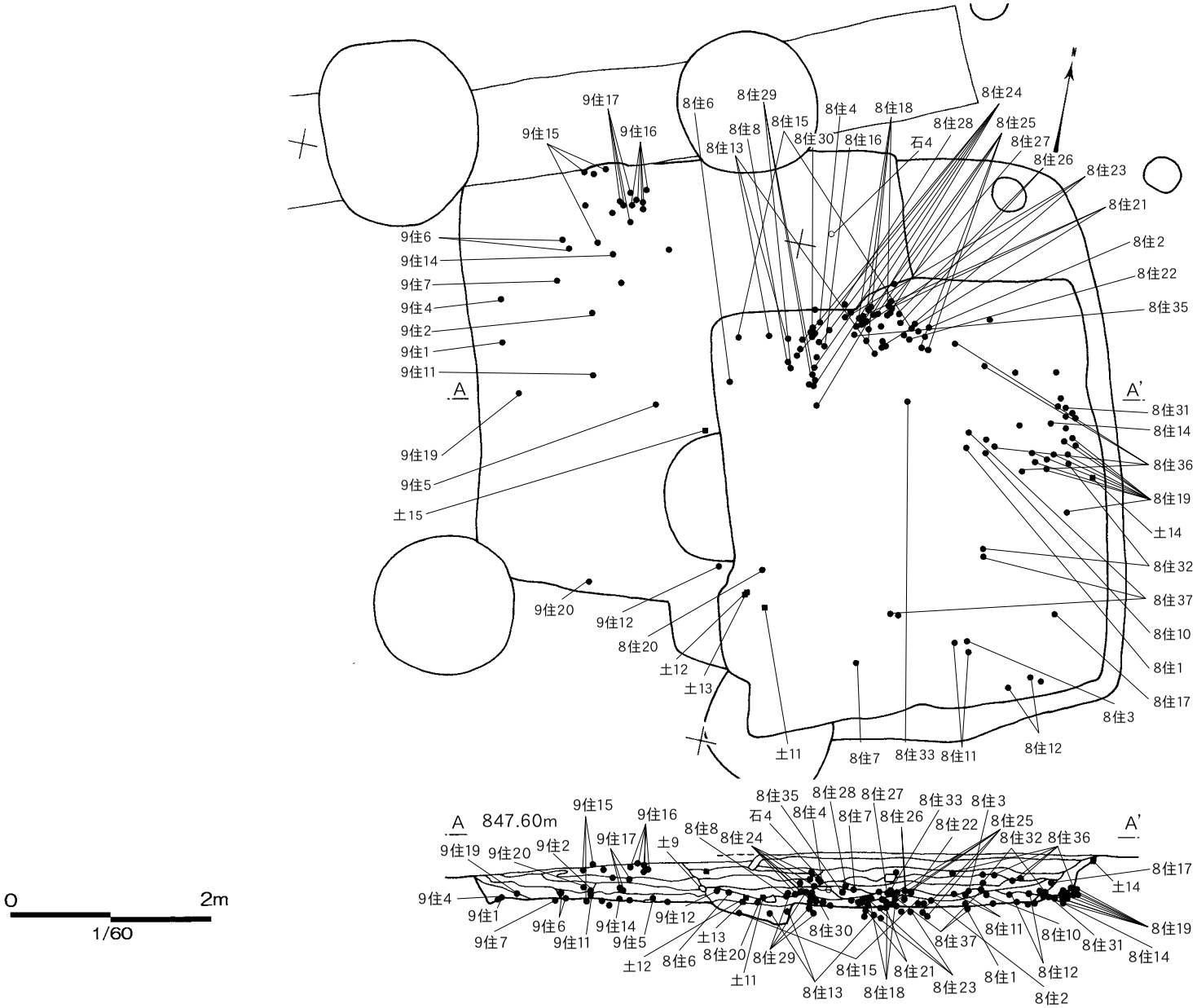


第16図　V区　6号住居跡（2）・7号住居跡（2）

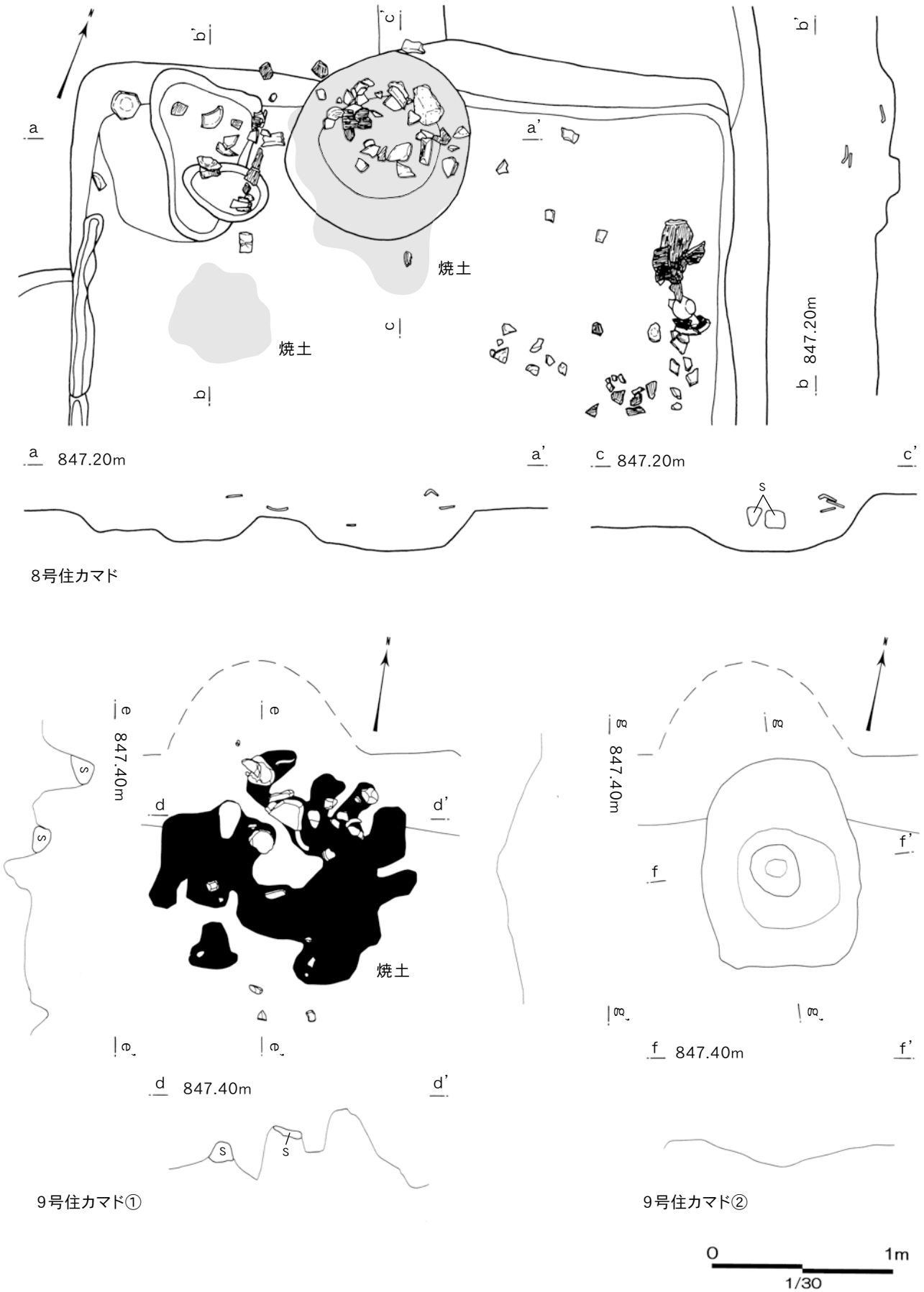
8 号住・9 号住
1：にぶい黄褐色土　砂質、しまりあり
2：暗褐色土層　黄褐色土ブロックを含み、しまり弱い
3：黒褐色土層　砂質、スコリア粒子を含む
4：黒褐色土層　φ2 ～ 5 ㎜の礫を含み、しまり強い
5：黒褐色土層　4 より砂質
6：灰褐色土層　粘性・しまり強い
7：黒褐色土層　砂質、小礫をわずかに含む
8：黒褐色土層　7 より明るい
9：黒褐色土層　8 より砂質、橙色粒子を含む
10：黒褐色土層　7 より粘性強く、橙色粒子を含む
11：黒褐色土層　9 より明るく、橙色粒子を含む
12：黒褐色土層　11 より明るく、φ2 ～ 5 ㎜の礫を多く含む
13：黒褐色土層　12 より粘性強い
14：暗褐色土層　砂質、橙色粒子を含む
15：暗褐色土層　14 よりしまり強い
16：黒褐色土層　10 より砂質、橙色粒子をわずかに含む
17：褐灰色土層　φ2 ～ 5 ㎜の礫を多く含む
18：暗黄褐色土層　やや粘性あり
19：褐灰色土層　17 よりしまり強い
20：褐灰色土層　19 より粘性強い
21：灰黄褐色土層　やや砂質、しまり強い
22：灰黄褐色土層　21 よりさらに砂質
23：灰黄褐色土層　22 より粘性・しまり強い
24：黒褐色土層　やや砂質、橙色粒子を含む
25：暗褐色土層　砂質、しまり強い
26：黒褐色土層　24 より粘性強い
27：褐灰色土層　小礫を含む



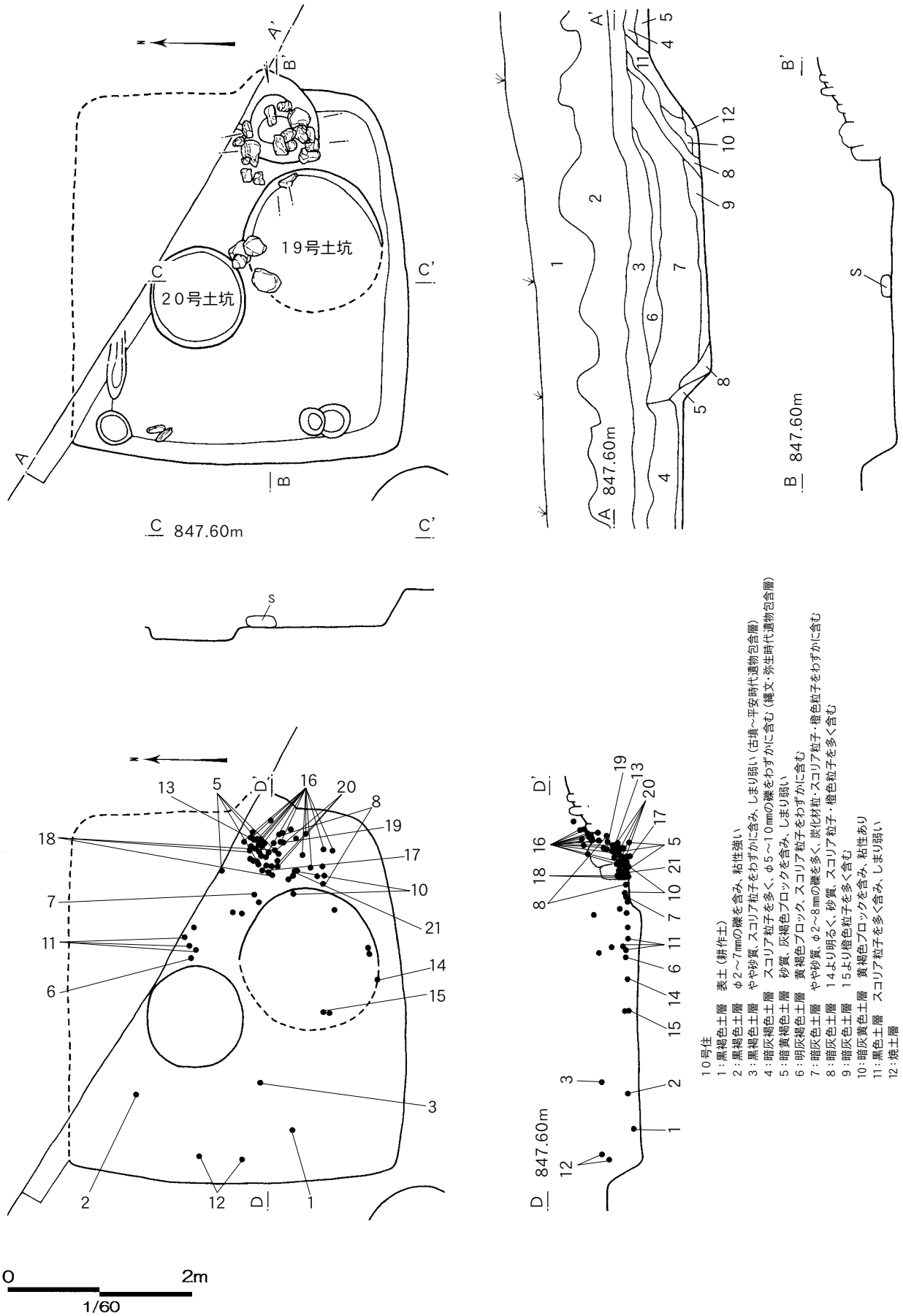
第17図　V区　8号住居跡（1）・9号住居跡（1）



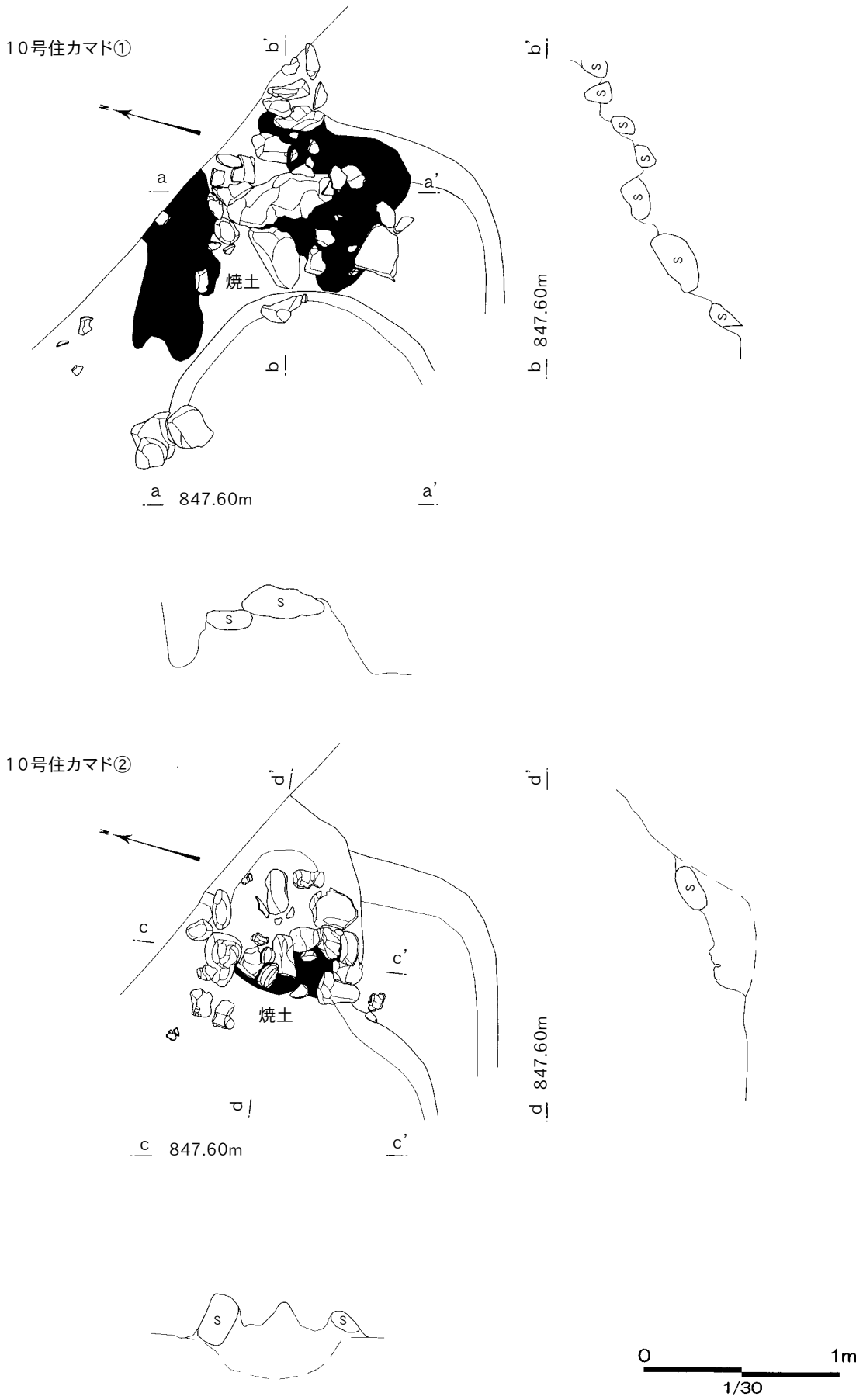
第18図　V区　8号住居跡（2）・9号住居跡（2）



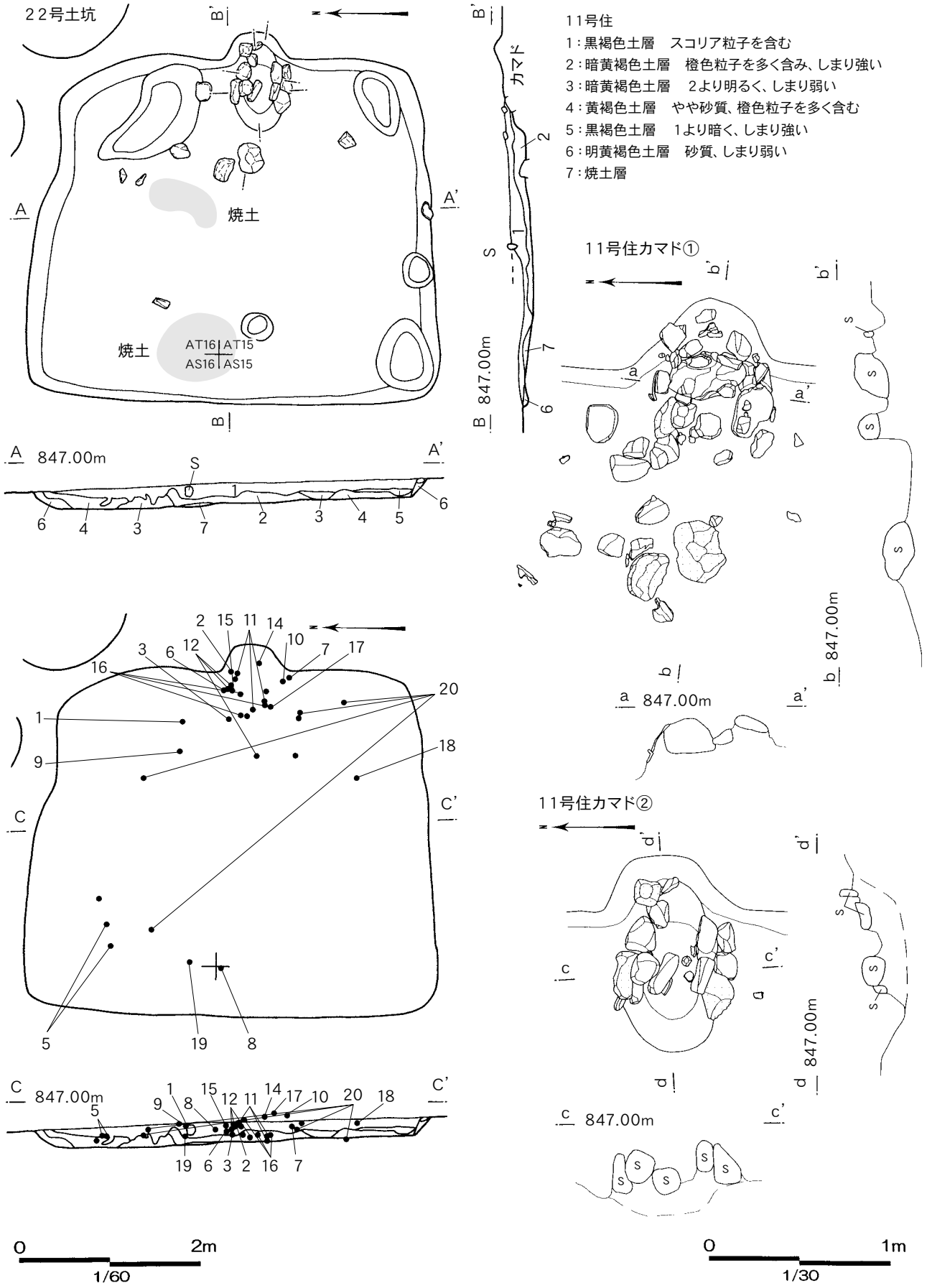
第19図　V区　8号住居跡(3)・9号住居跡(3)



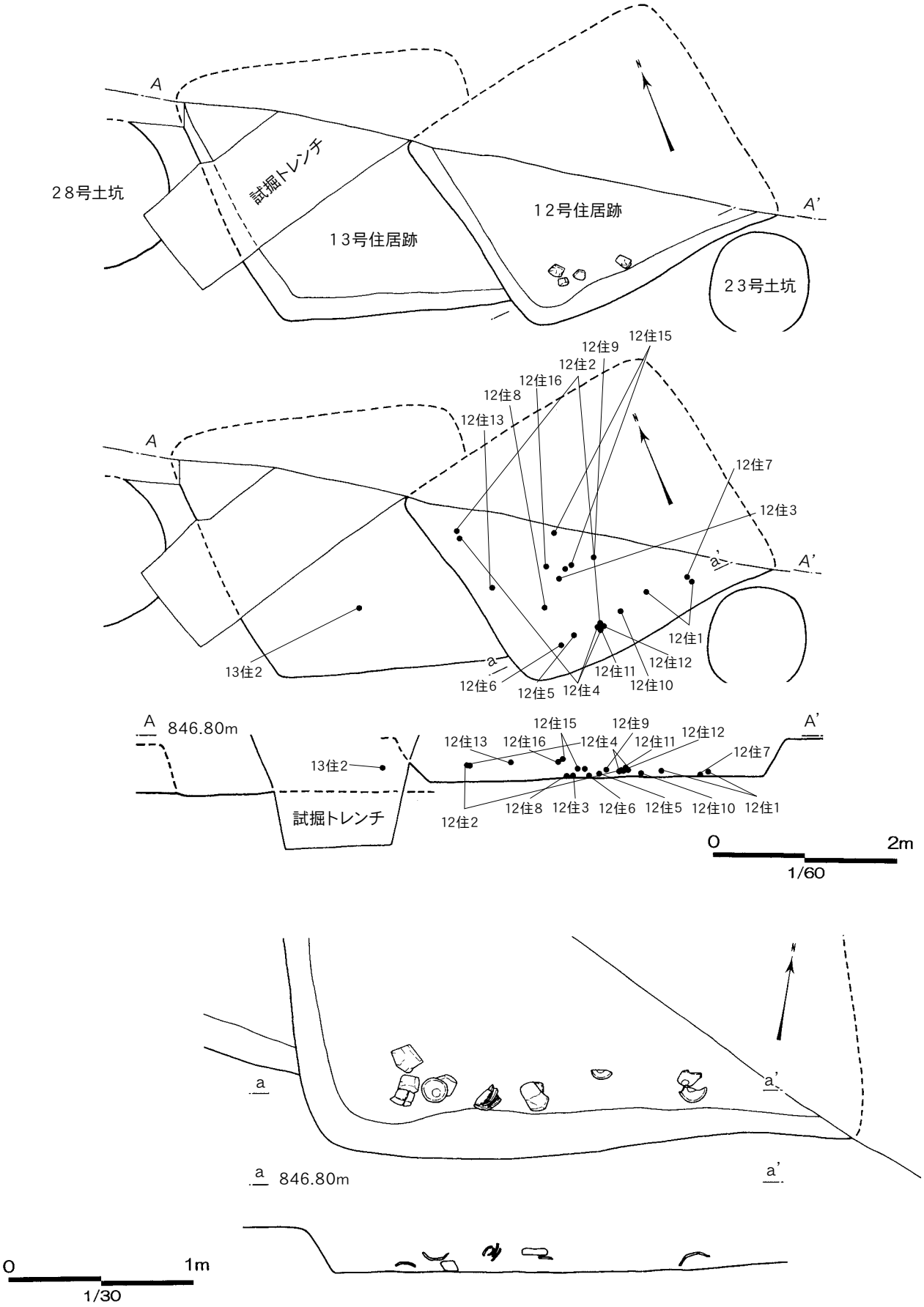
第20図　V区　10号住居跡（1）



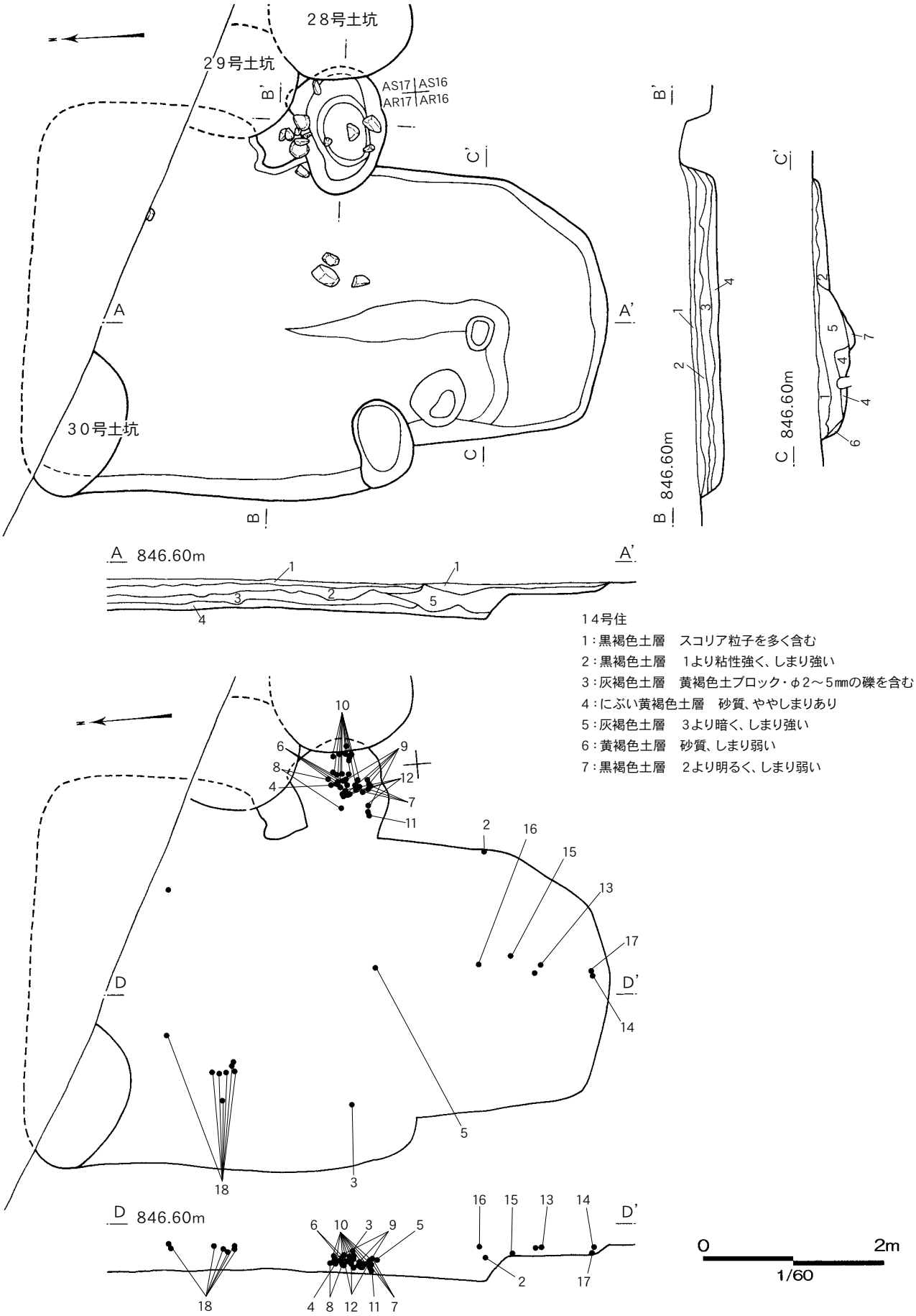
第21図　V区　10号住居跡（2）



第22図　V区　11号住居跡

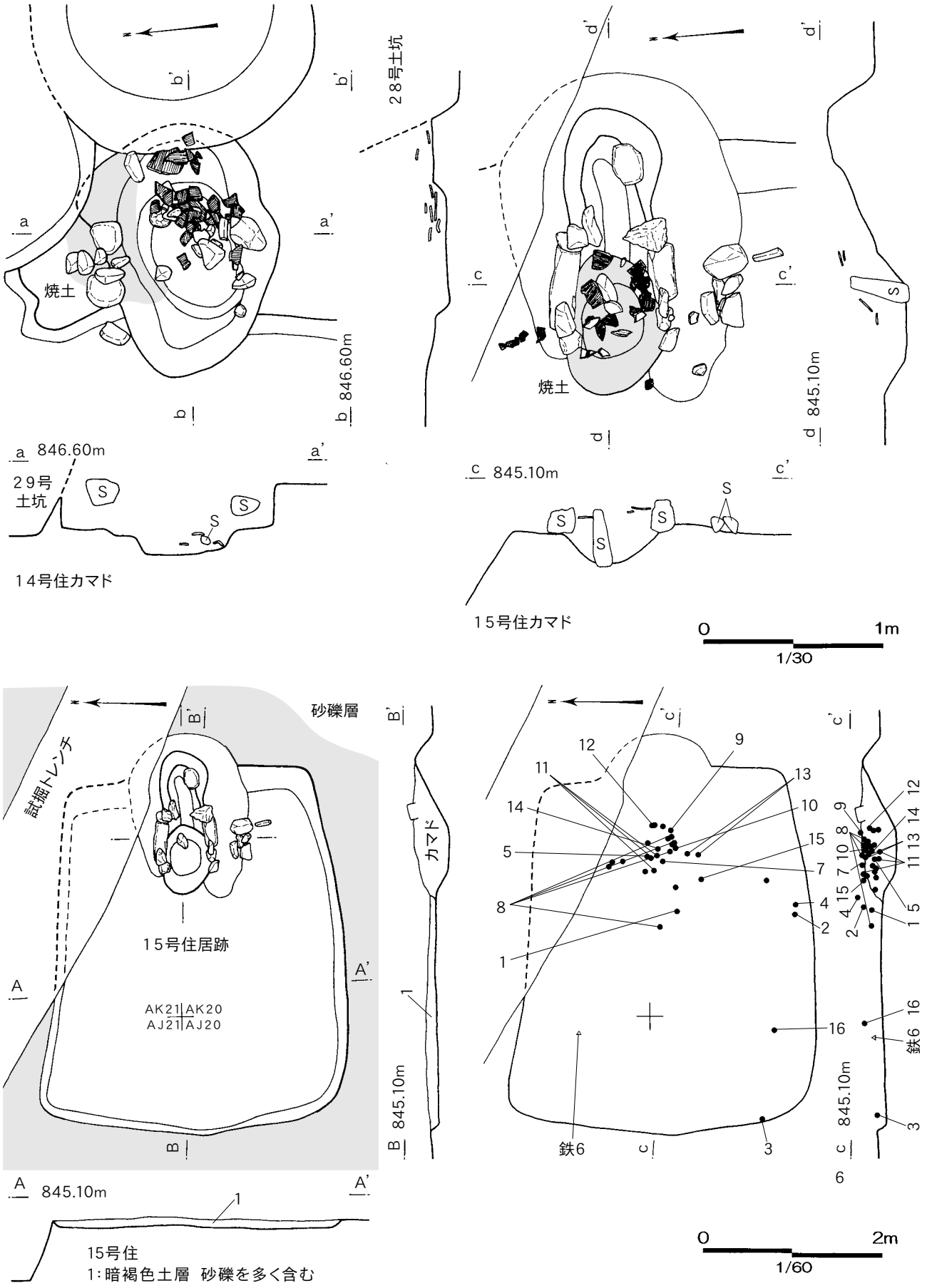


第23図　V区　12号住居跡・13号住居跡

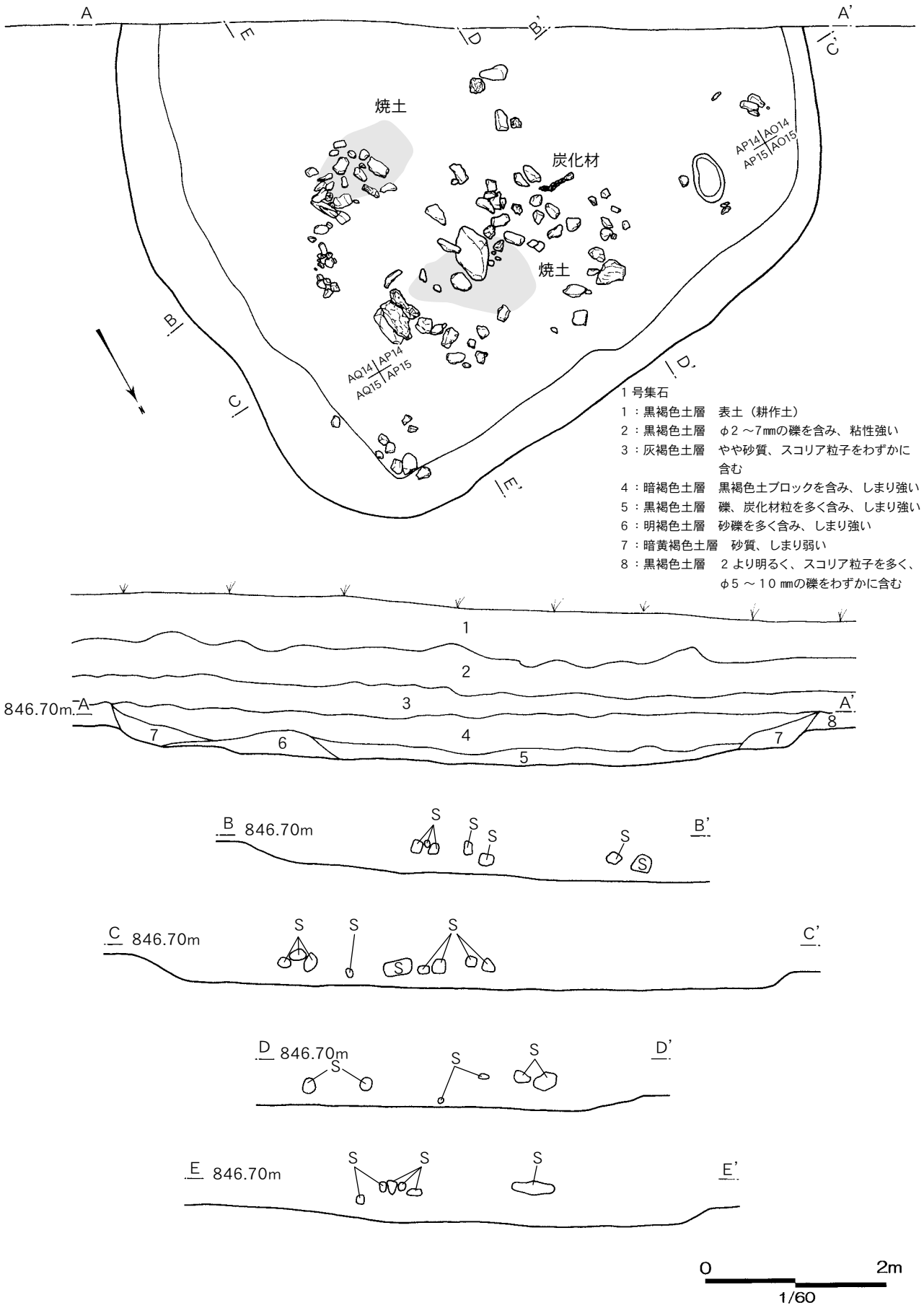


14号住
1：黒褐色土層　スコリア粒子を多く含む
2：黒褐色土層　1より粘性強く、しまり強い
3：灰褐色土層　黄褐色土ブロック・φ2～5㎜の礫を含む
4：にぶい黄褐色土層　砂質、ややしまりあり
5：灰褐色土層　3より暗く、しまり強い
6：黄褐色土層　砂質、しまり弱い
7：黒褐色土層　2より明るく、しまり弱い

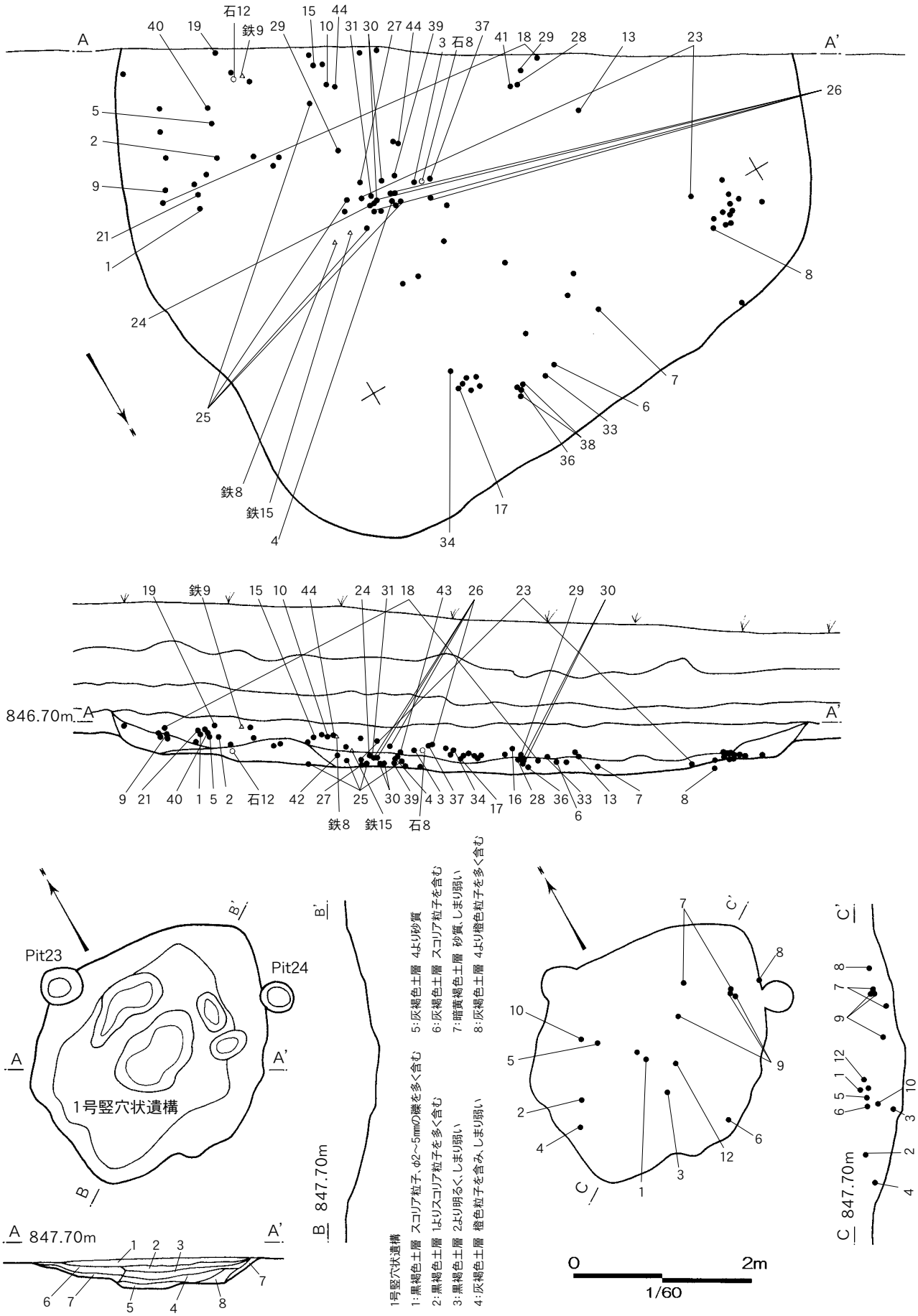
第24図　V区　14号住居跡（1）



第25図　V区　14号住居跡(2)・15号住居跡

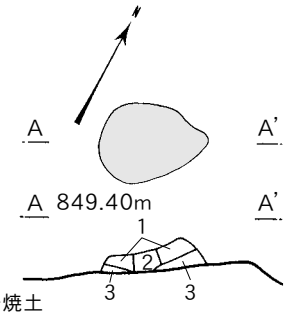


第２６図　Ｖ区　１号集石（１）



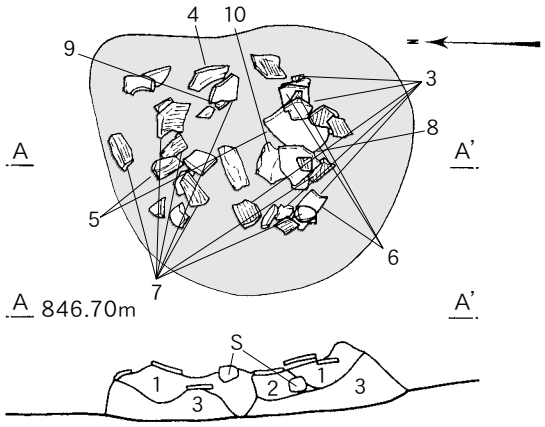
第２７図　Ｖ区　１号集石（２）・１号竪穴状遺構

1号焼土



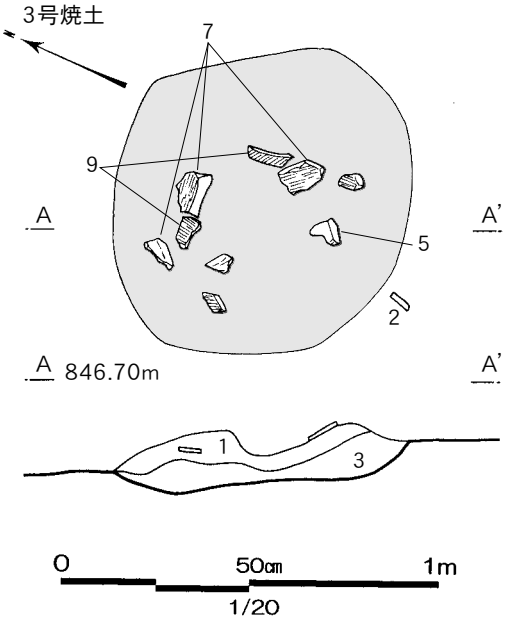
1号焼土
1:焼土層　2:黒色土層 炭化材粒を含む
3:灰褐色土層 粘性・しまり強い

2号焼土

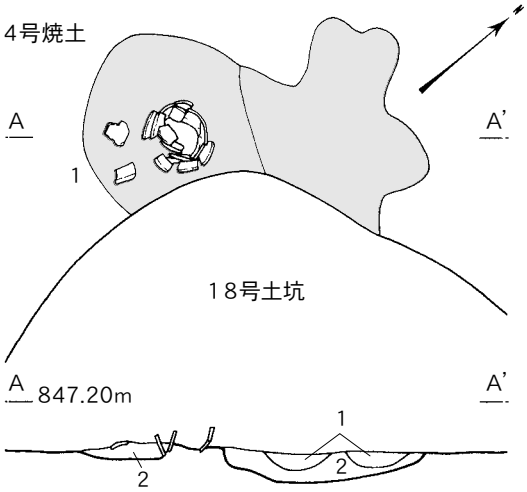


2号・3号焼土
1:焼土層　2:にぶい黄褐色土層 焼土を含み、しまり弱い
3:暗褐色土層 砂質、しまり弱い

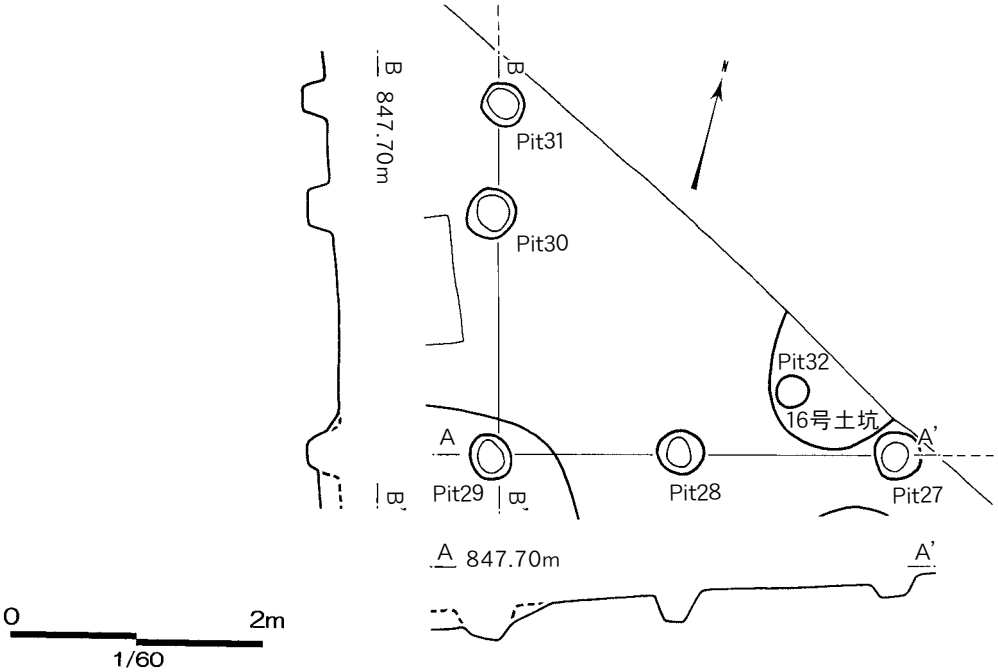
3号焼土



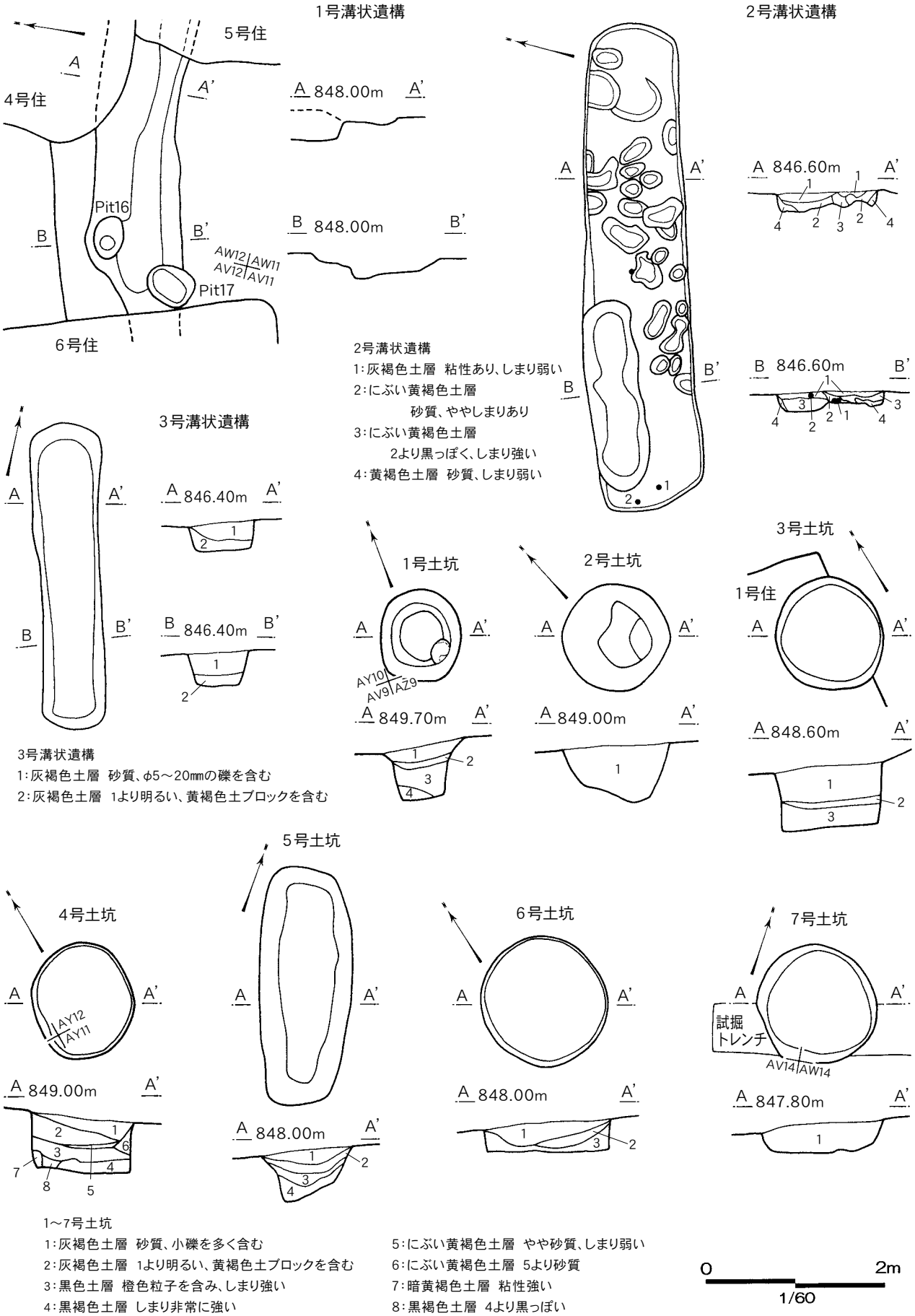
4号焼土



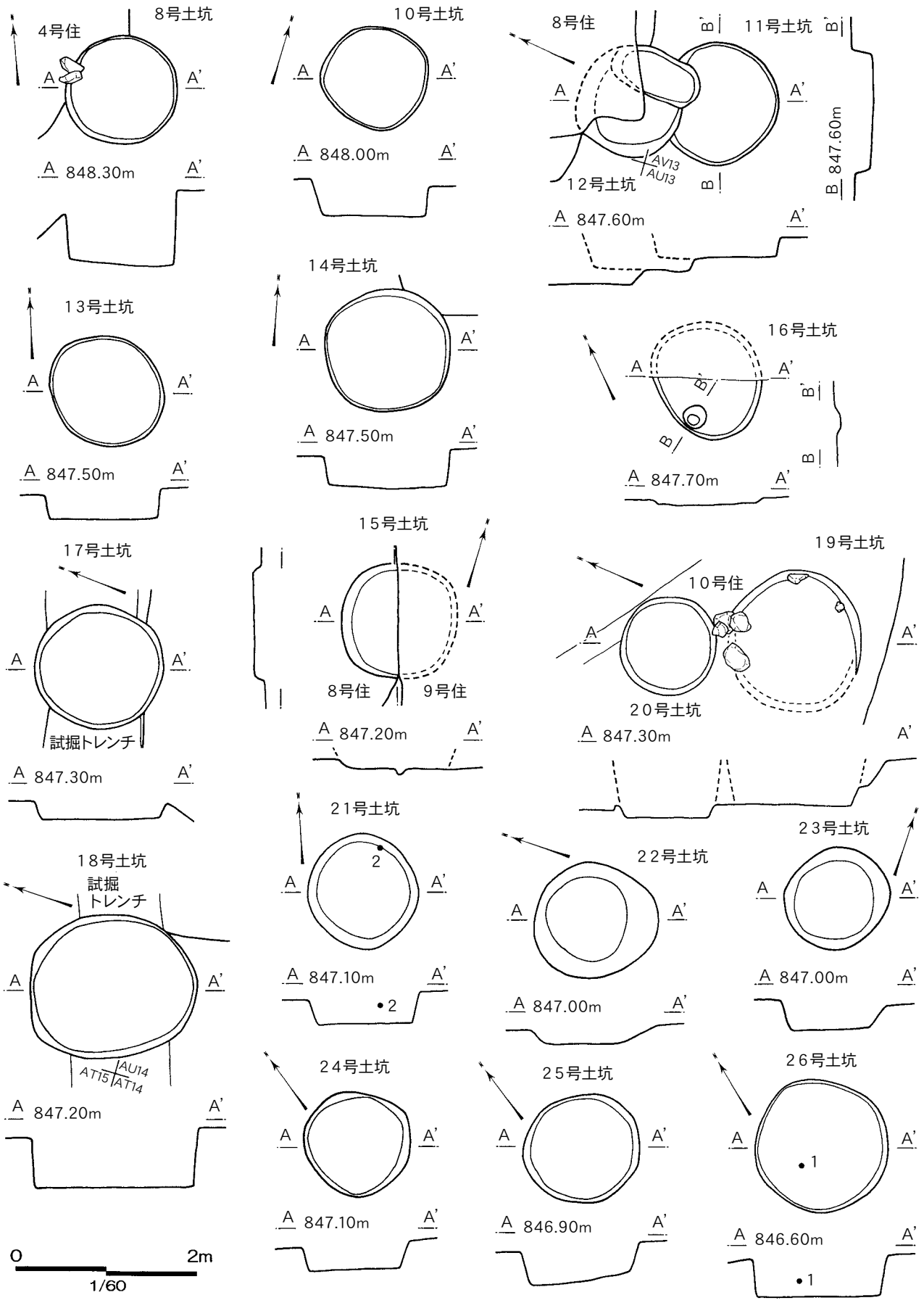
4号焼土
1:焼土層
2:暗褐色土層 砂質、しまり弱い



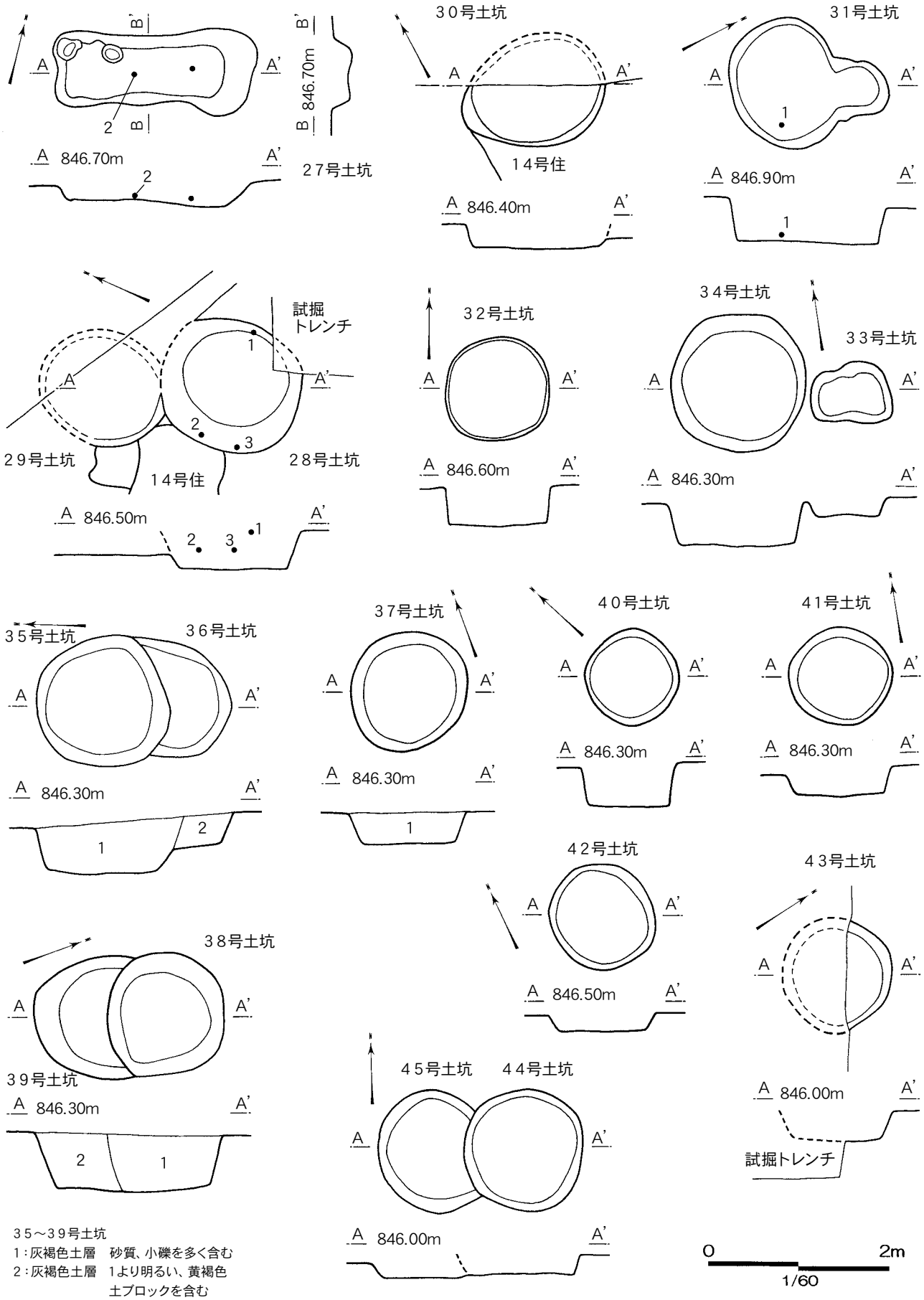
第２８図　Ｖ区　１～４号焼土・１号掘立柱建物跡



第29図　V区　1～3号溝状遺構・1～7号土坑

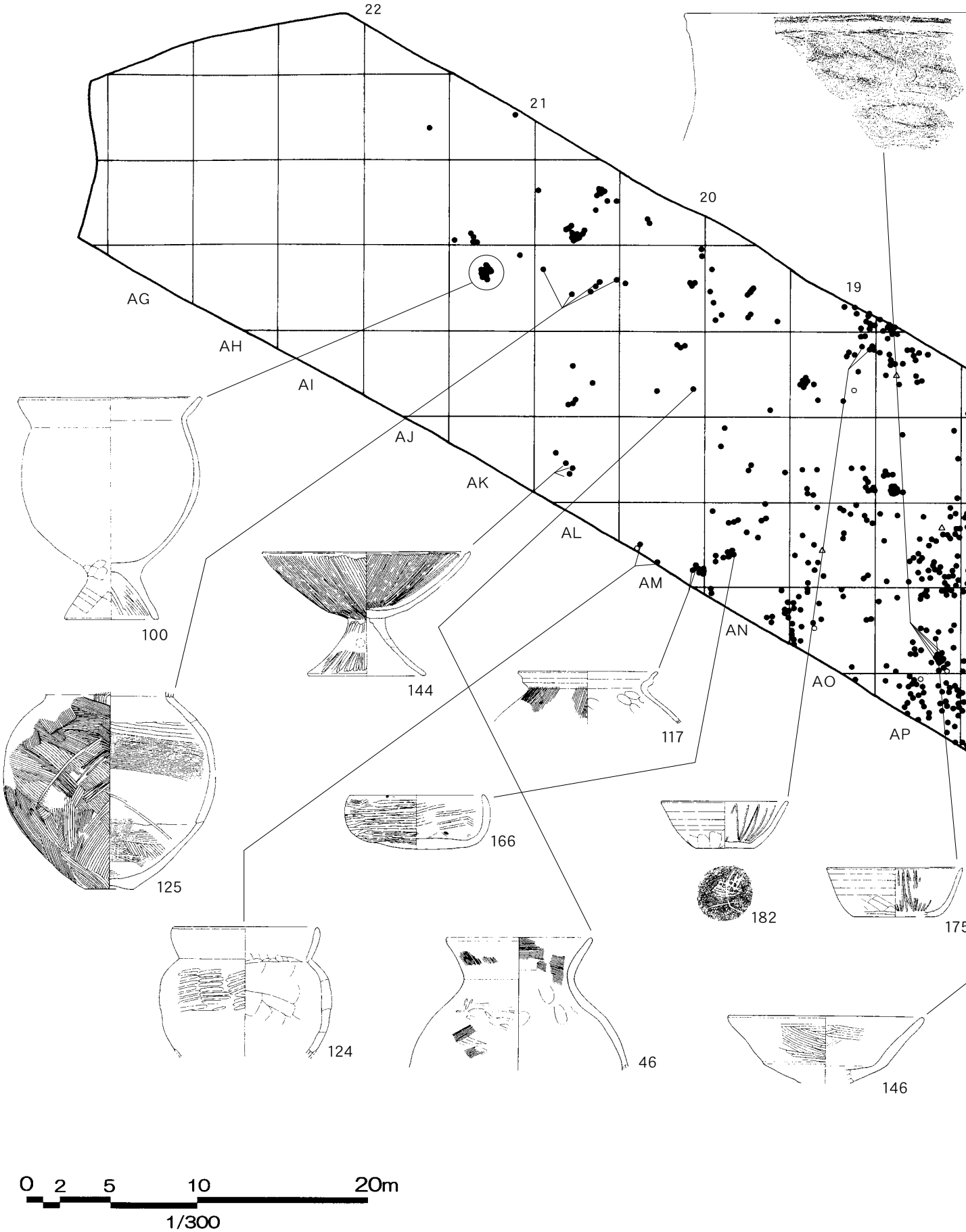


第30図　V区　8・10～26号土坑



35～39号土坑
1：灰褐色土層　砂質、小礫を多く含む
2：灰褐色土層　1より明るい、黄褐色土ブロックを含む

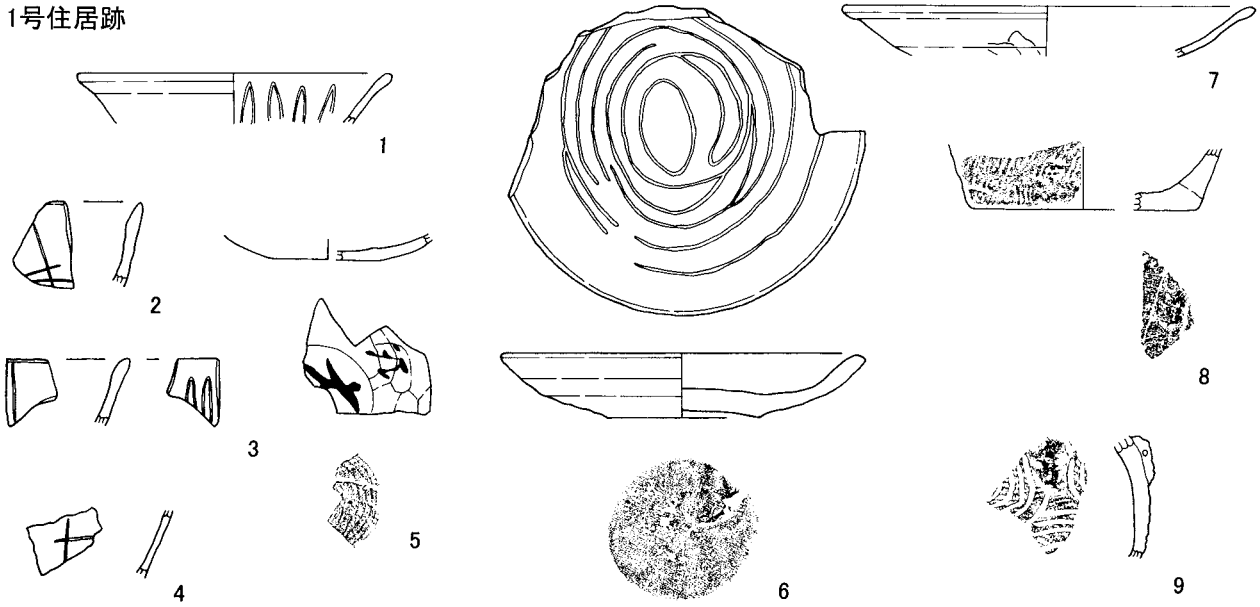
第31図　V区　27～45号土坑



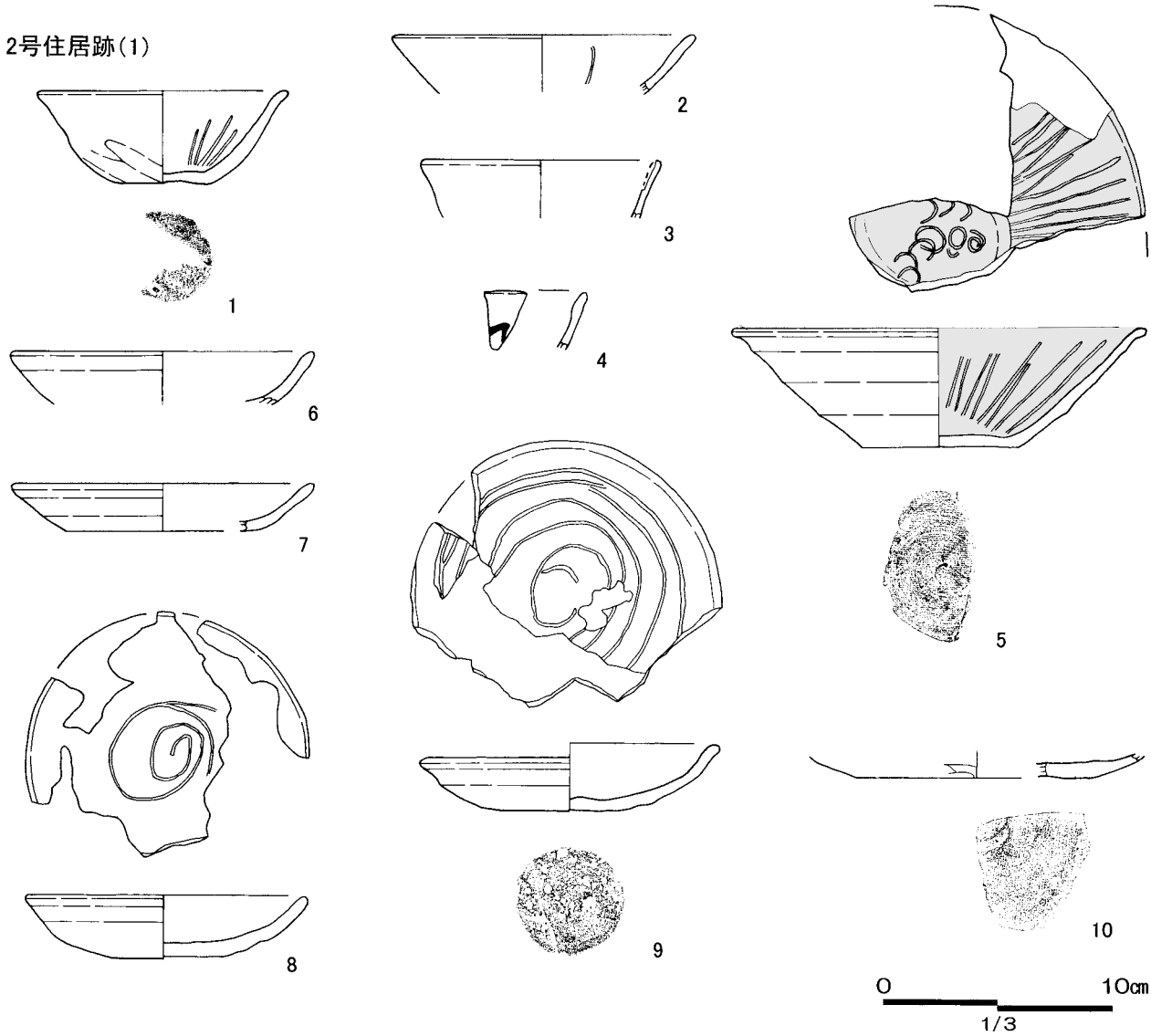
第３２図　Ｖ区　遺構外出土遺

物分布図（遺物の縮尺は任意）

1号住居跡

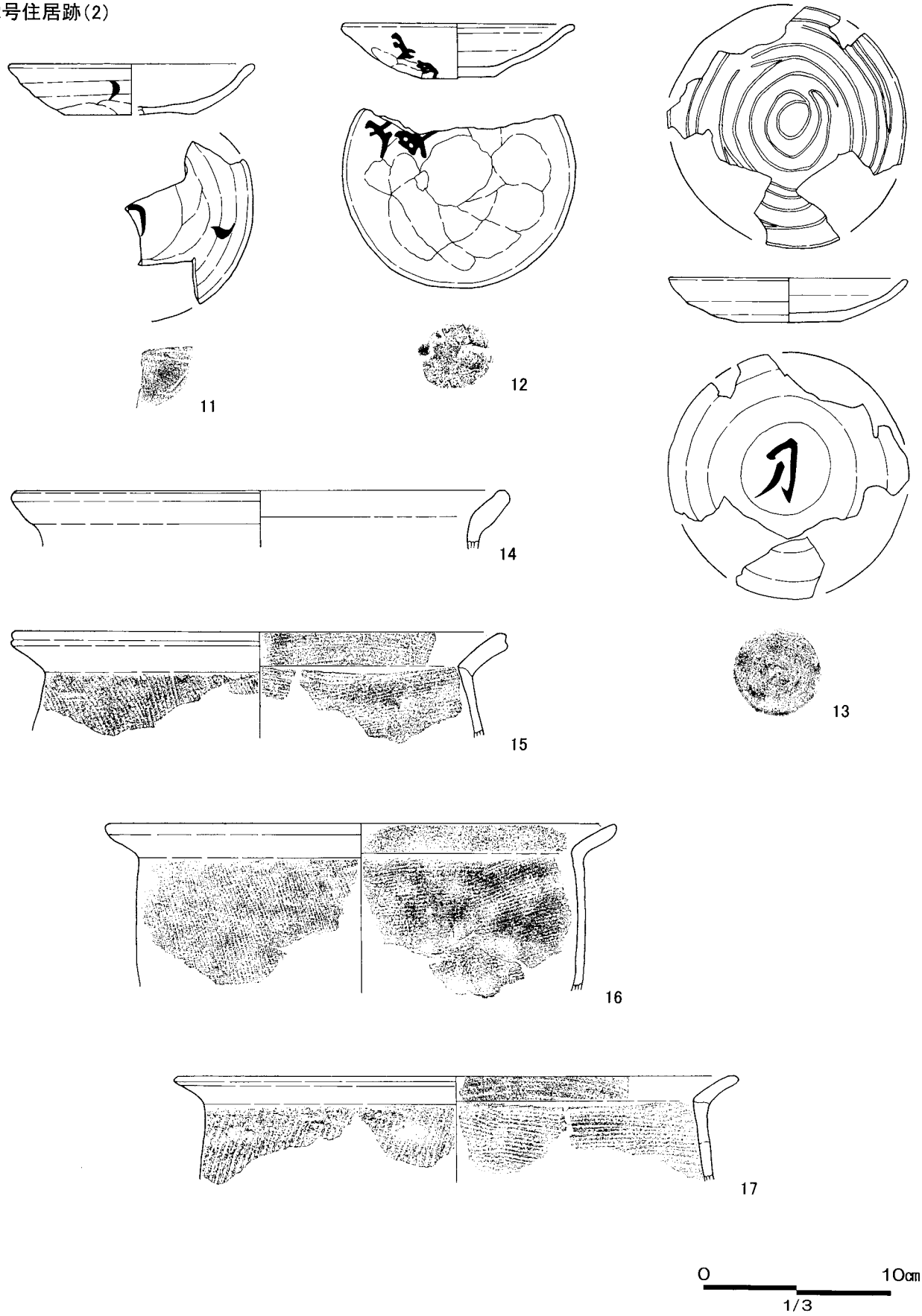


2号住居跡(1)



第３３図　Ｖ区出土土器（１）

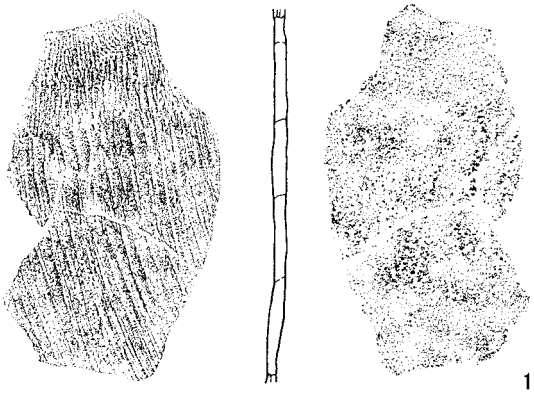
2号住居跡(2)



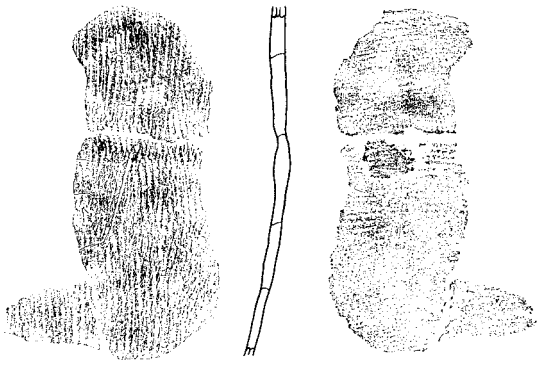
第３４図　Ｖ区出土土器（２）

2号住居跡(3)

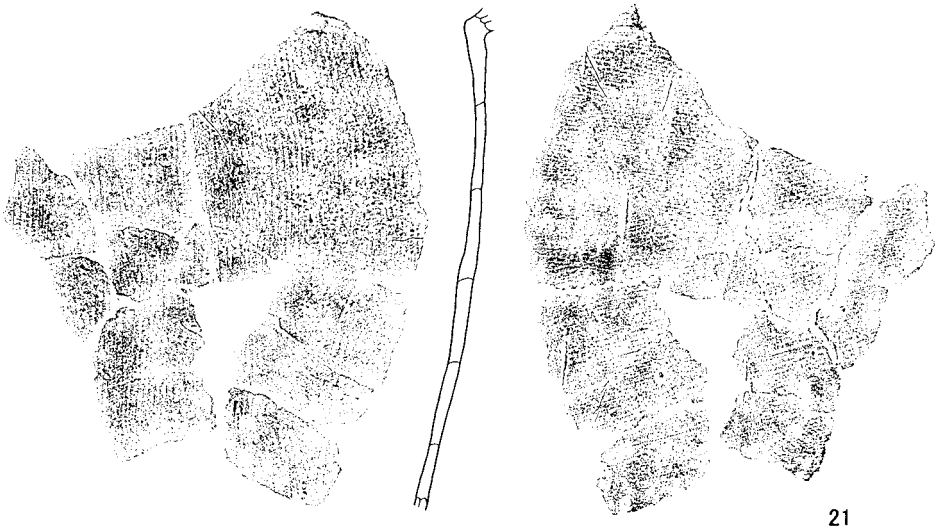
18



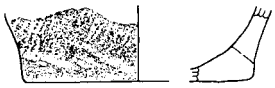
19



20



21

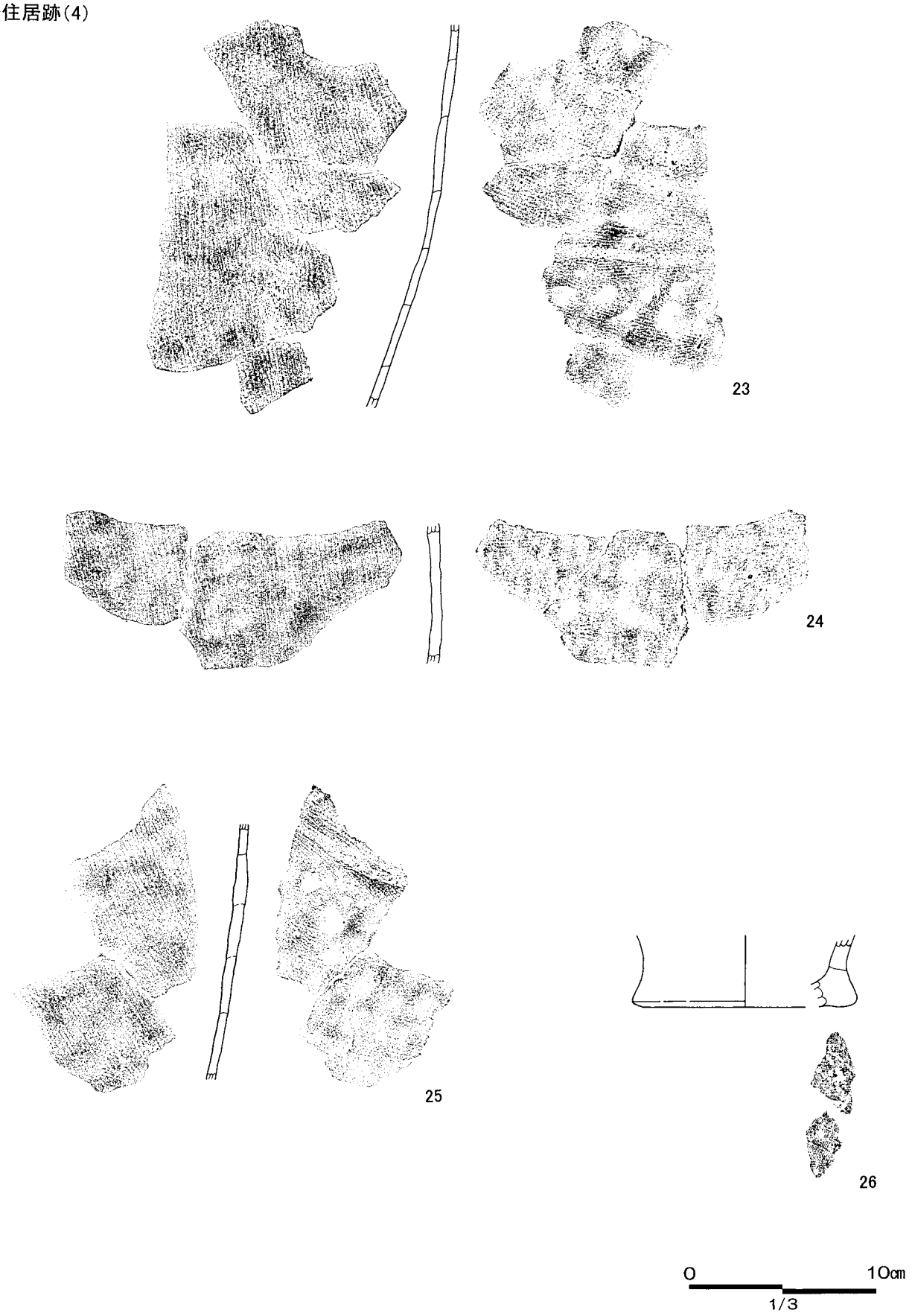


22

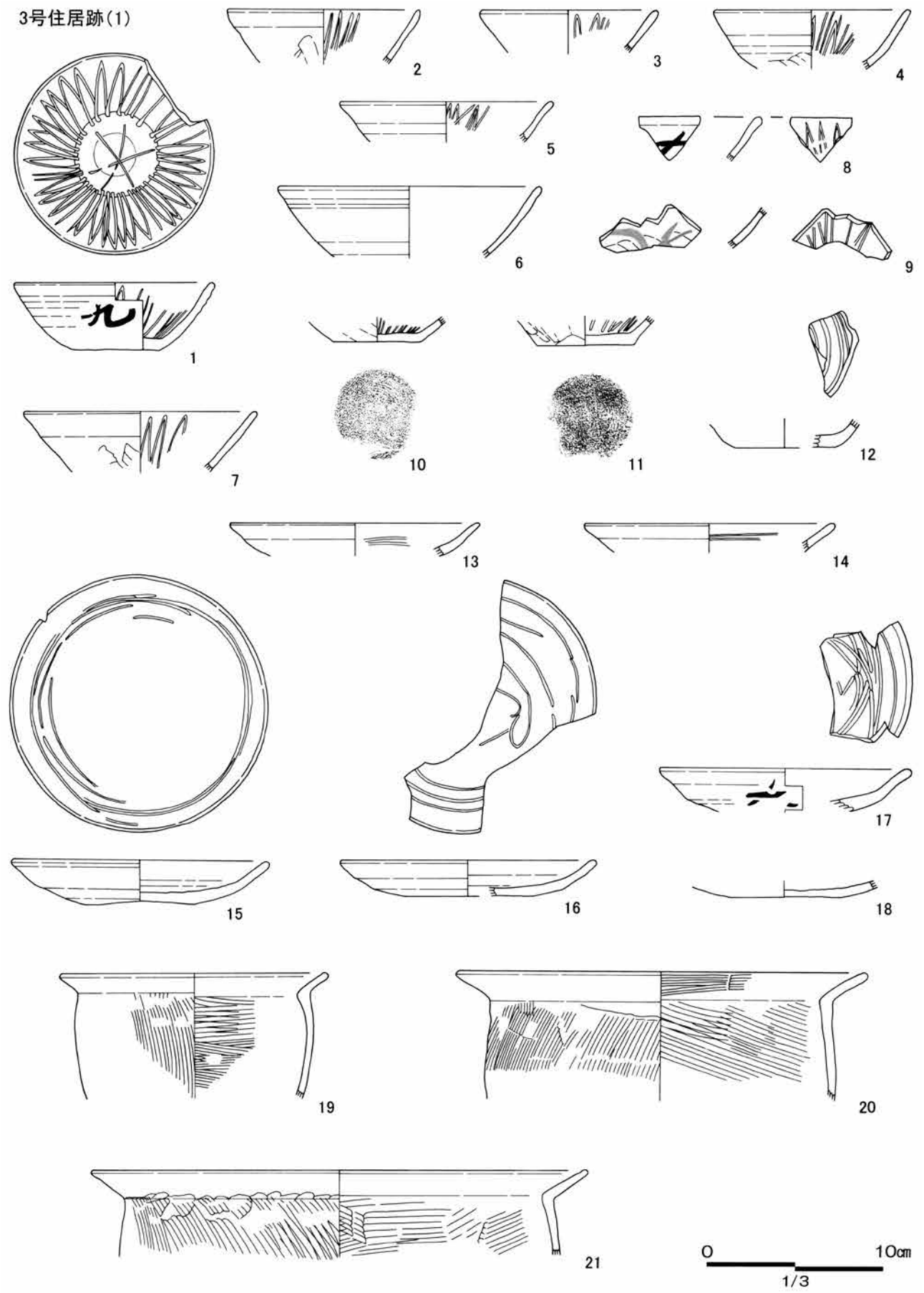
0　10cm
1/3

第35図　V区出土土器(3)

2号住居跡(4)

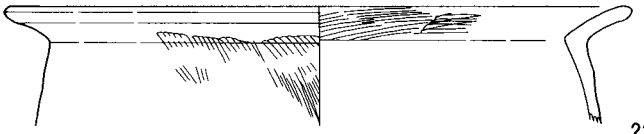


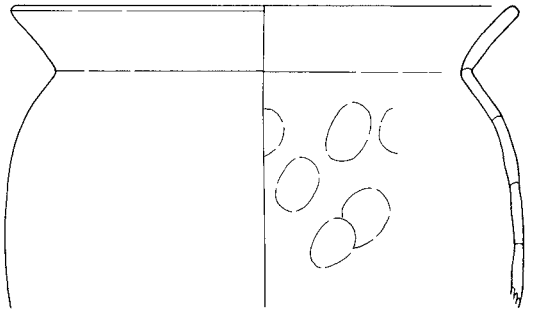
第36図　V区出土土器(4)

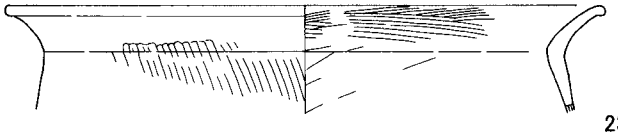


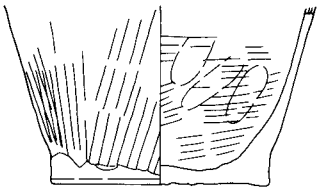
第37図　V区出土土器(5)

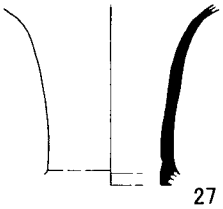
3号住居跡(2)

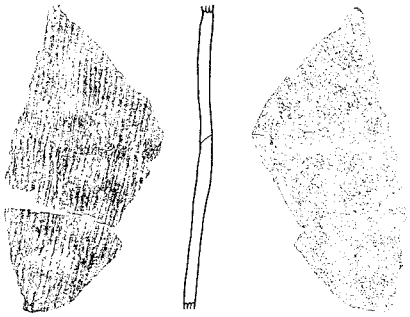


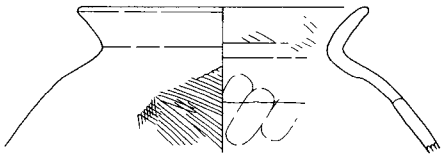




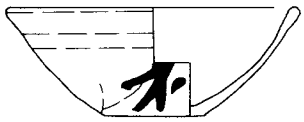


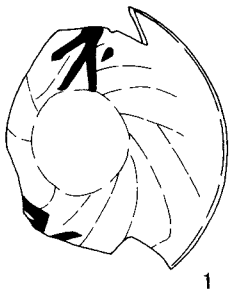


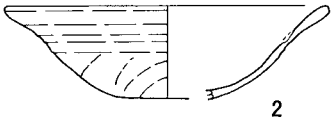


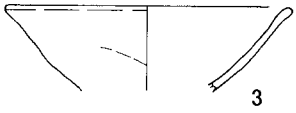


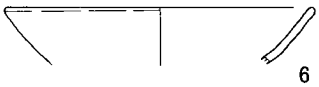
4号住居跡(1)

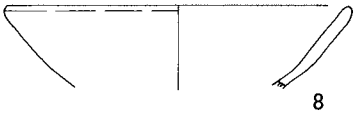


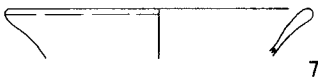


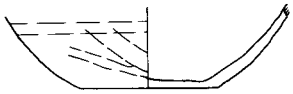


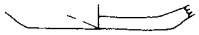


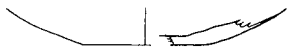


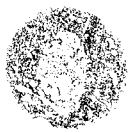


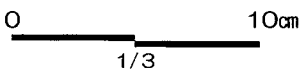




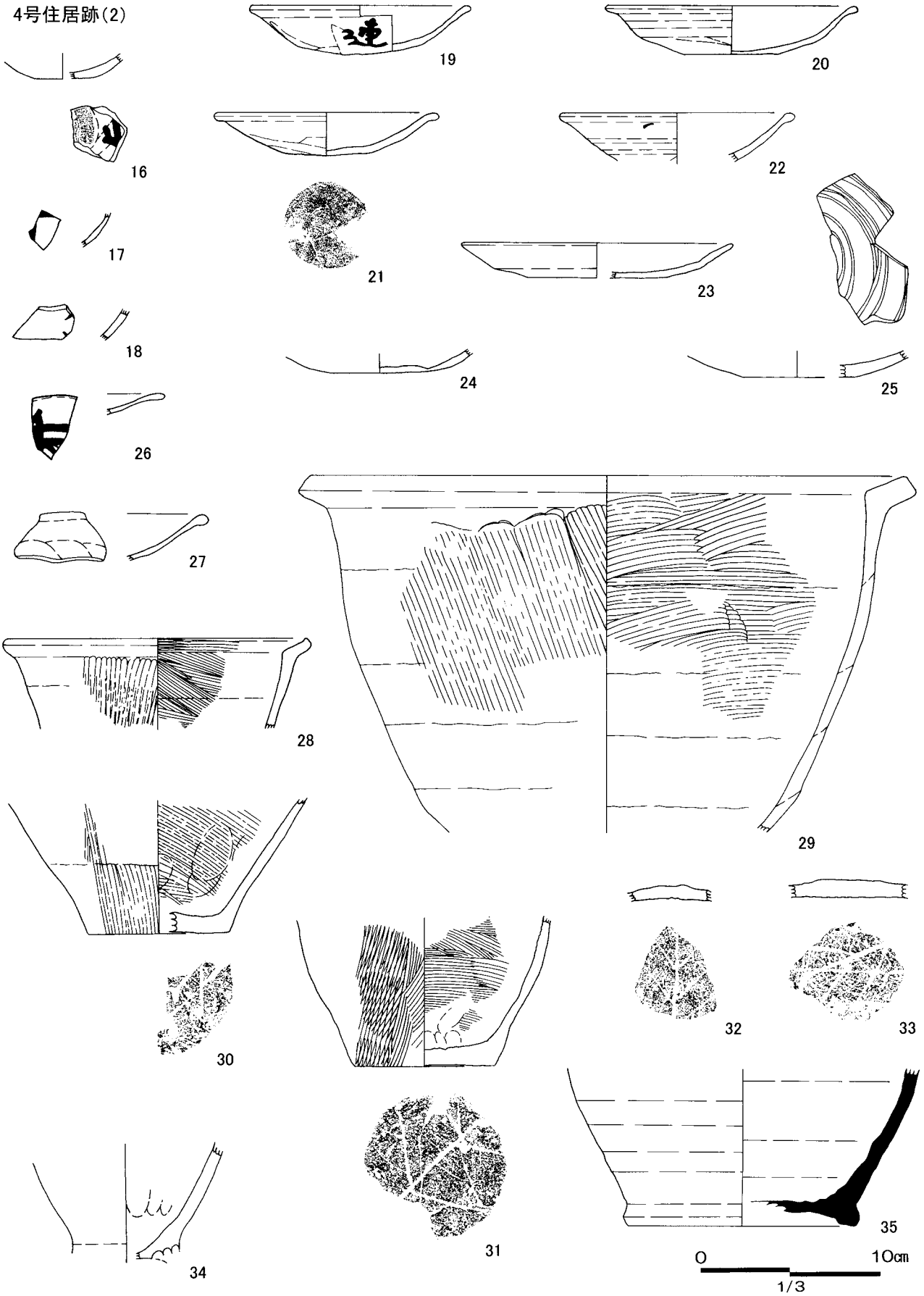




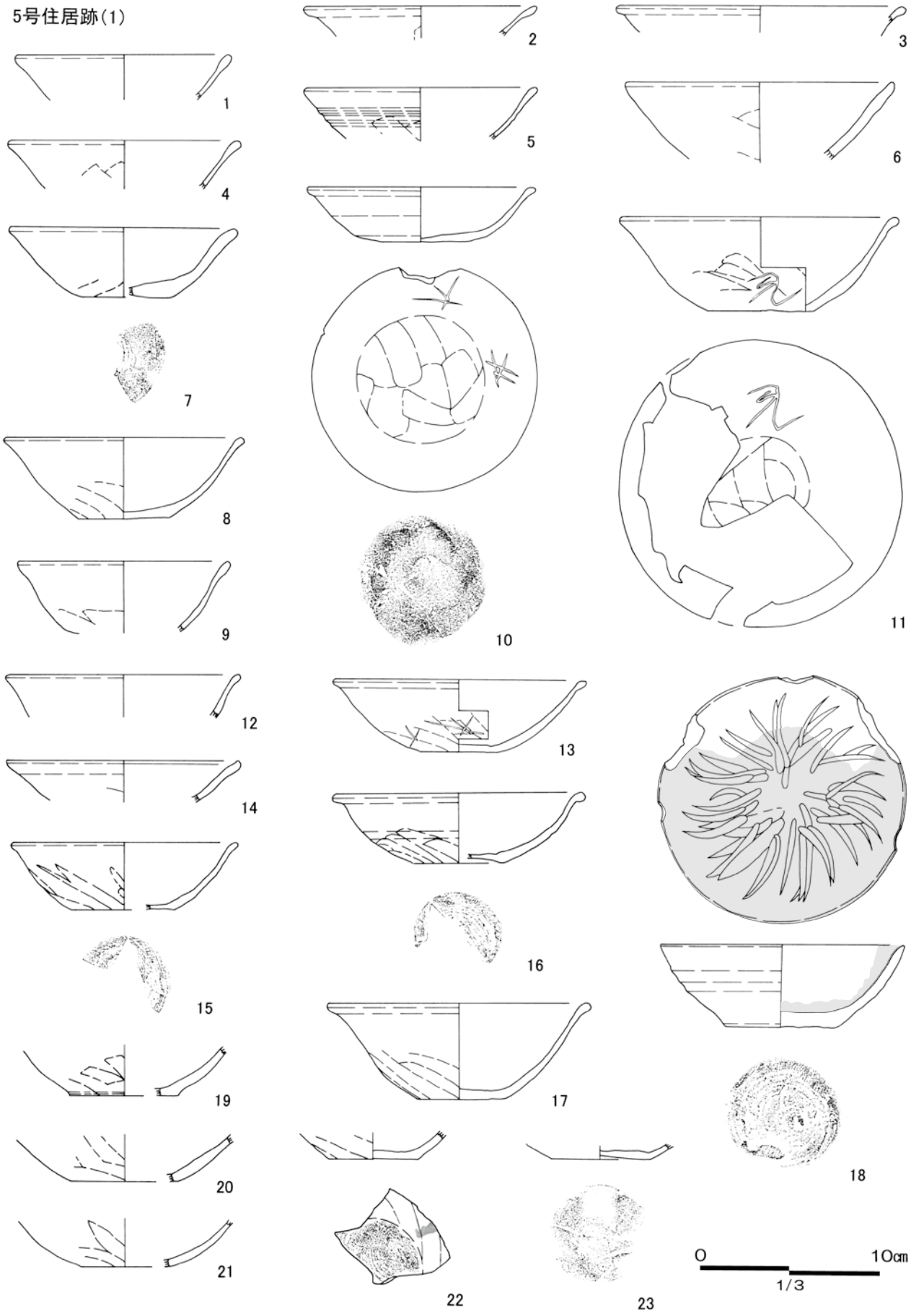




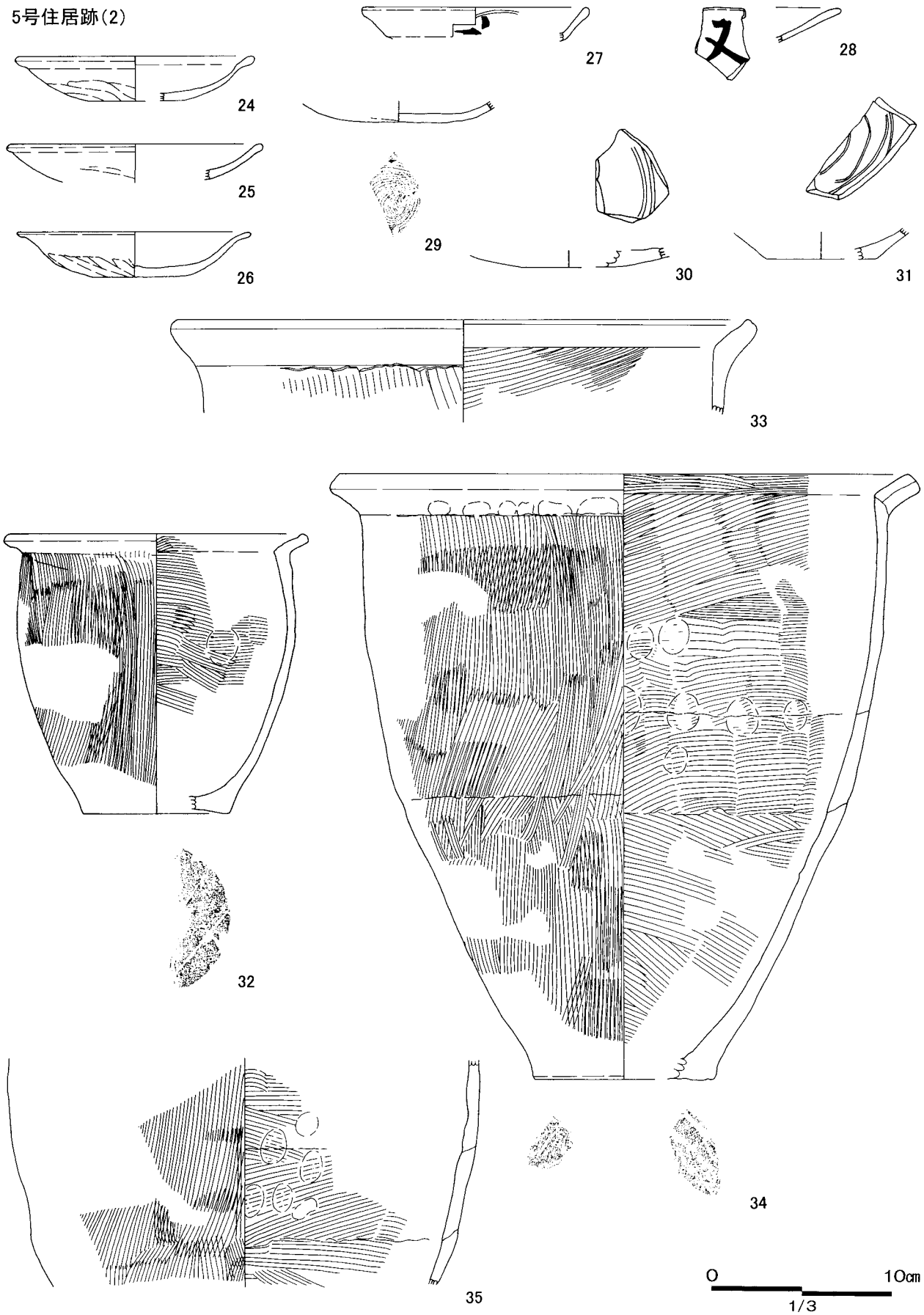
第３８図　Ｖ区出土土器（６）



第３９図　Ｖ区出土土器（７）

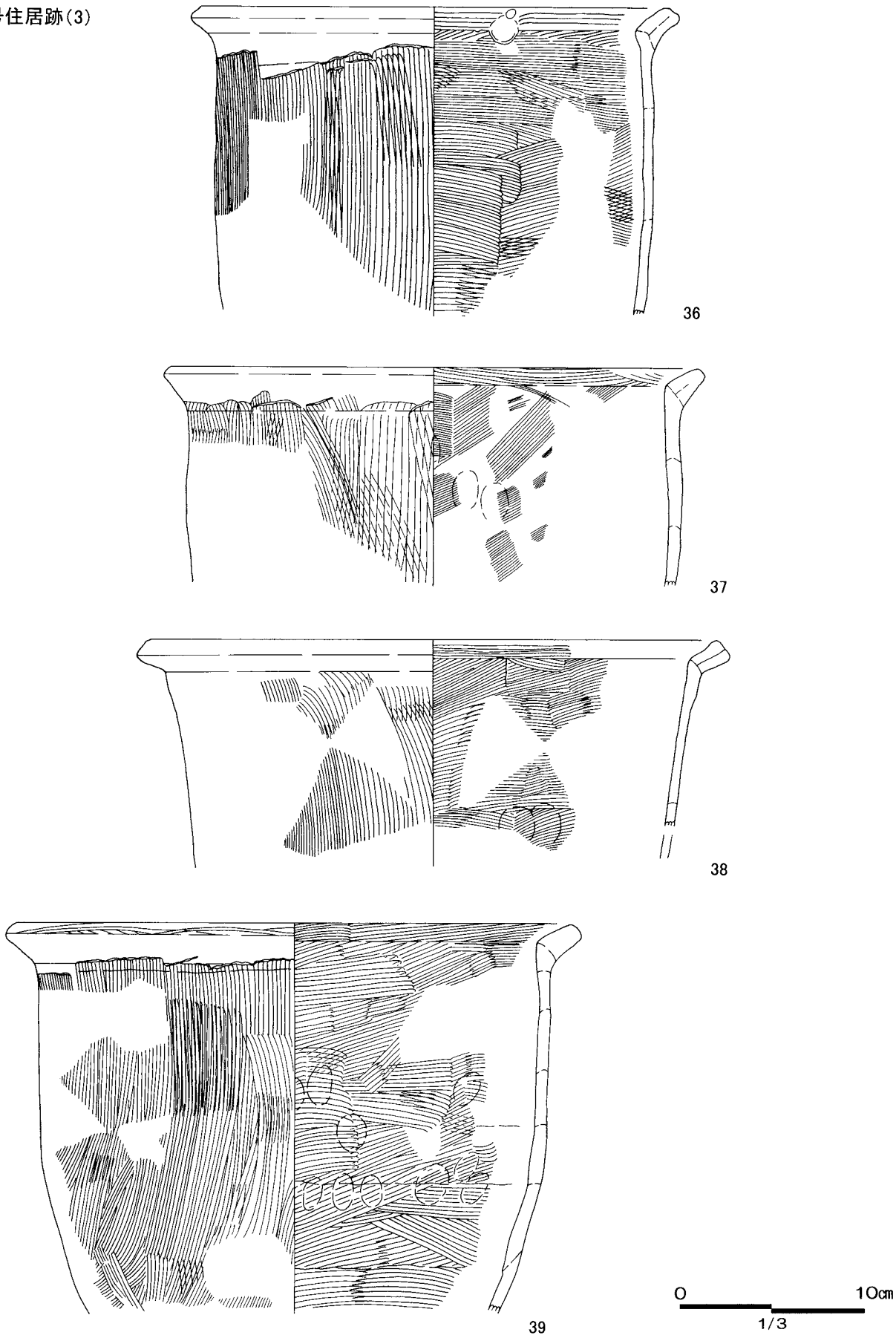


第４０図　Ｖ区出土土器（８）



第41図　V区出土土器(9)

5号住居跡(3)

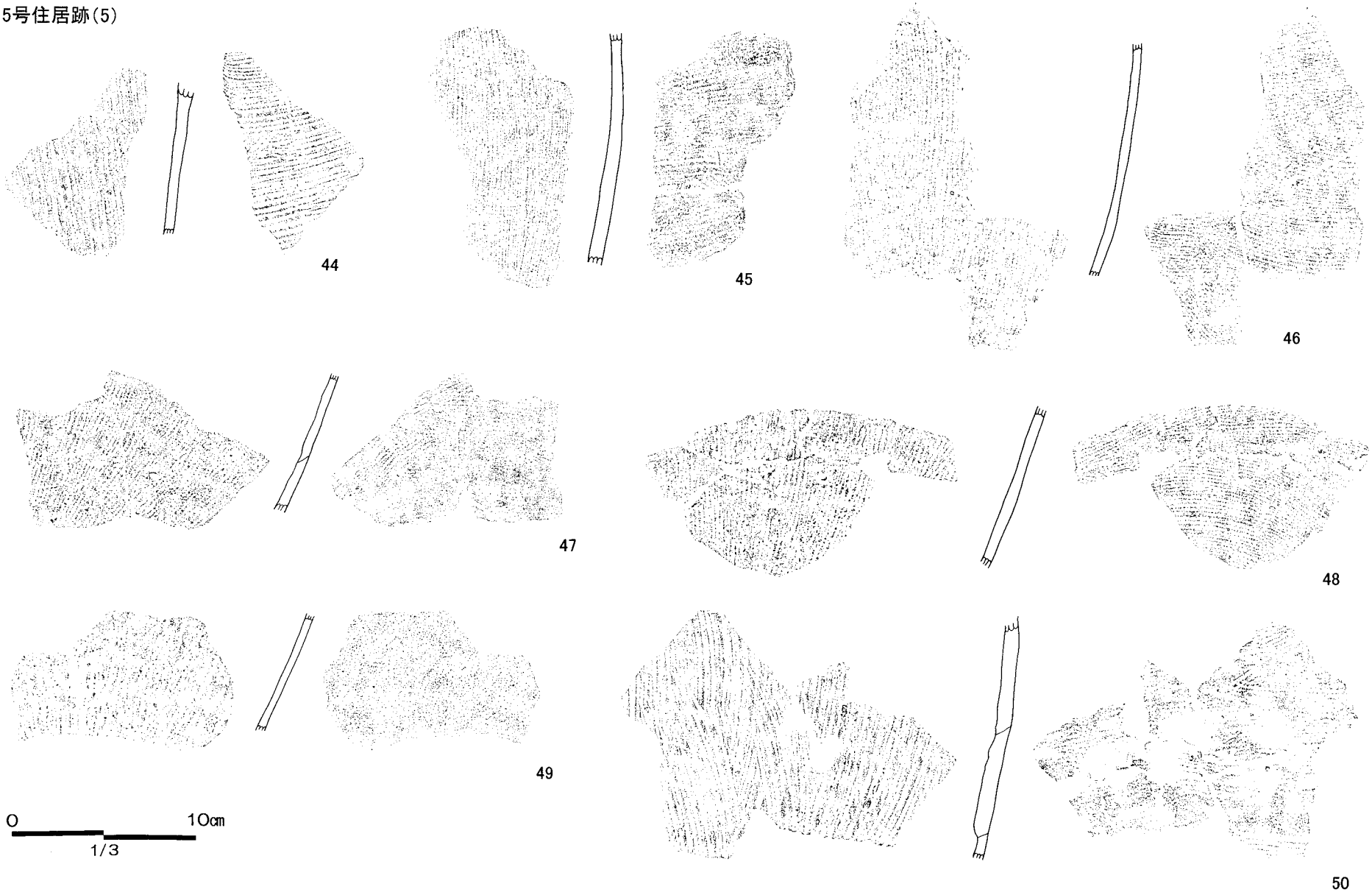


第42図　V区出土土器(10)

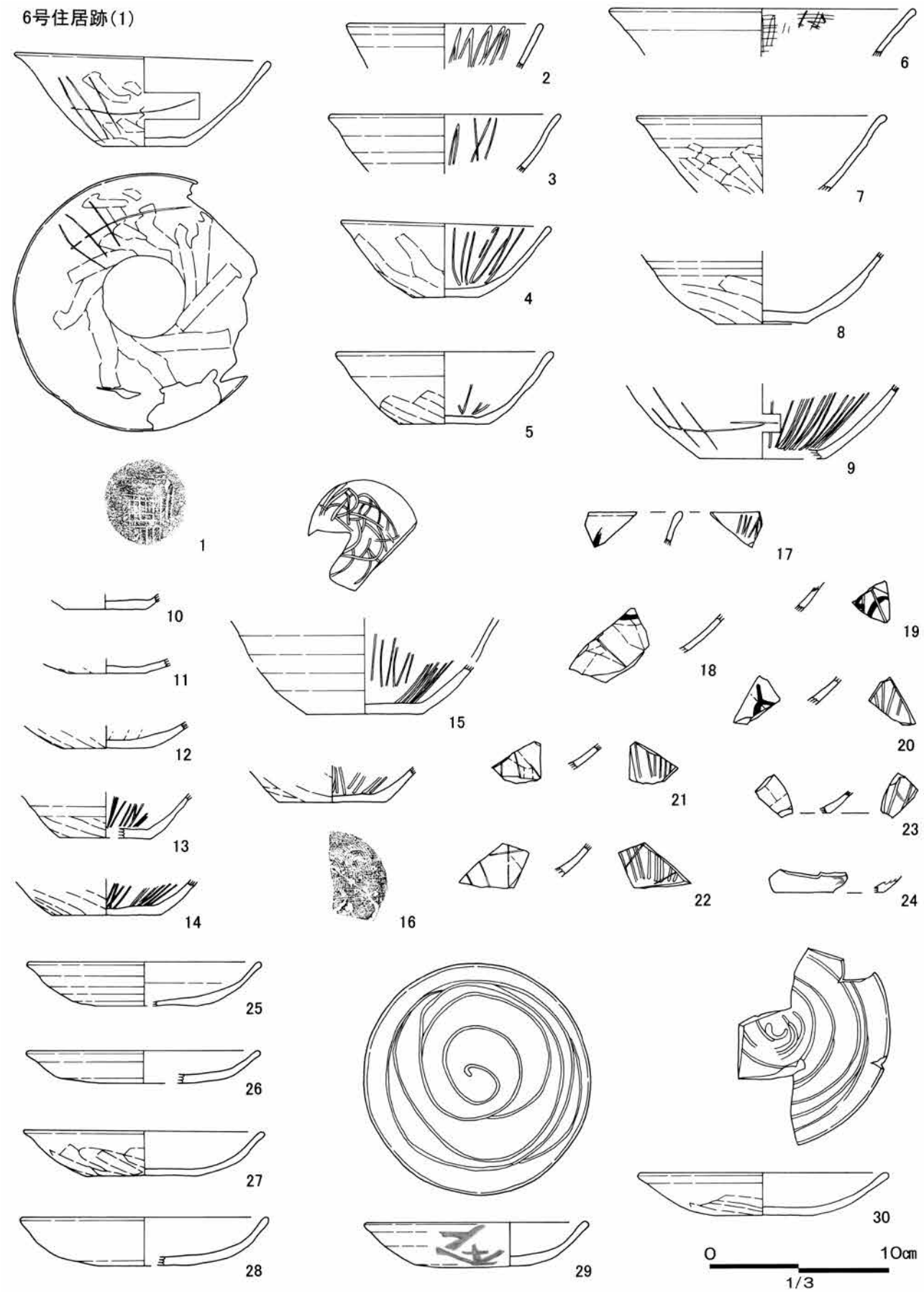
5号住居跡(4)

第43図　V区出土土器(11)

5号住居跡(5)

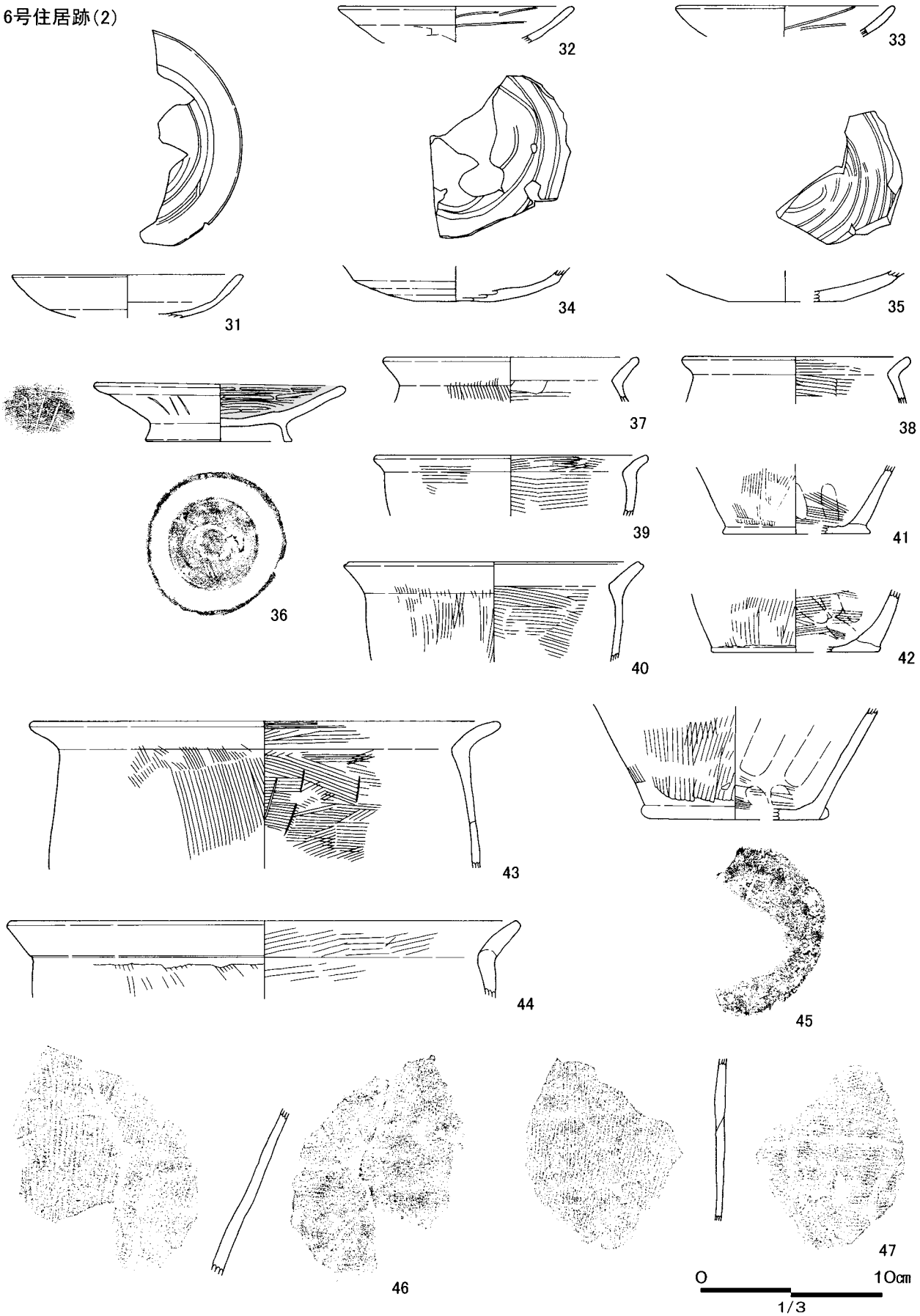


第４４図　Ｖ区出土土器（１２）



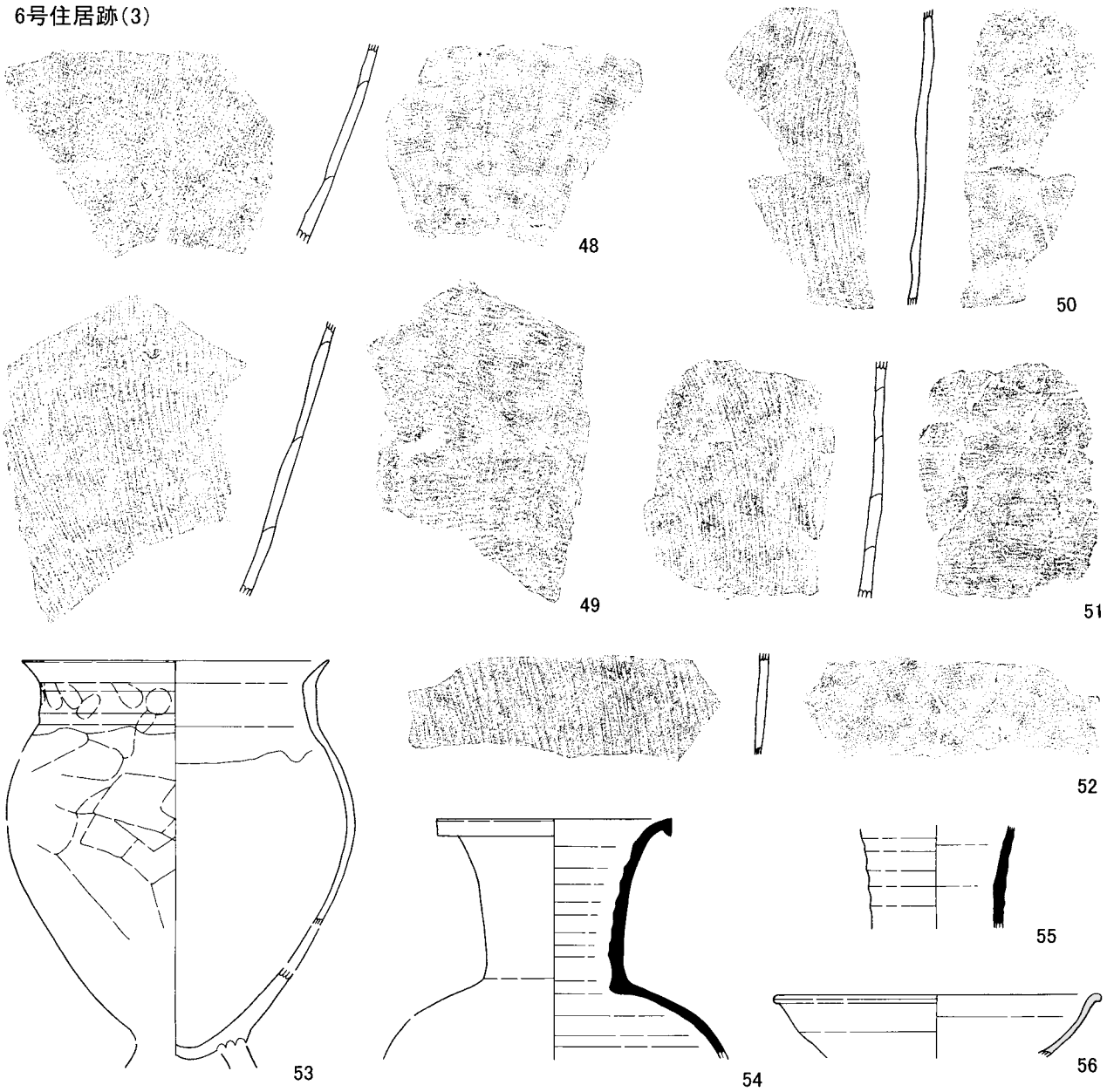
第４５図　Ｖ区出土土器（１３）

6号住居跡(2)

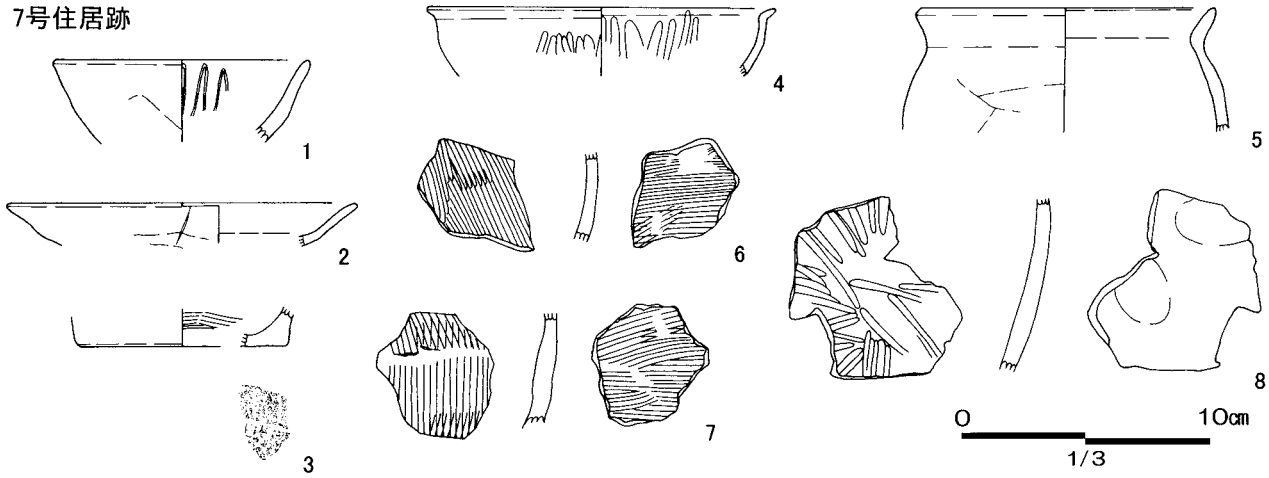


第46図　V区出土土器(14)

6号住居跡(3)

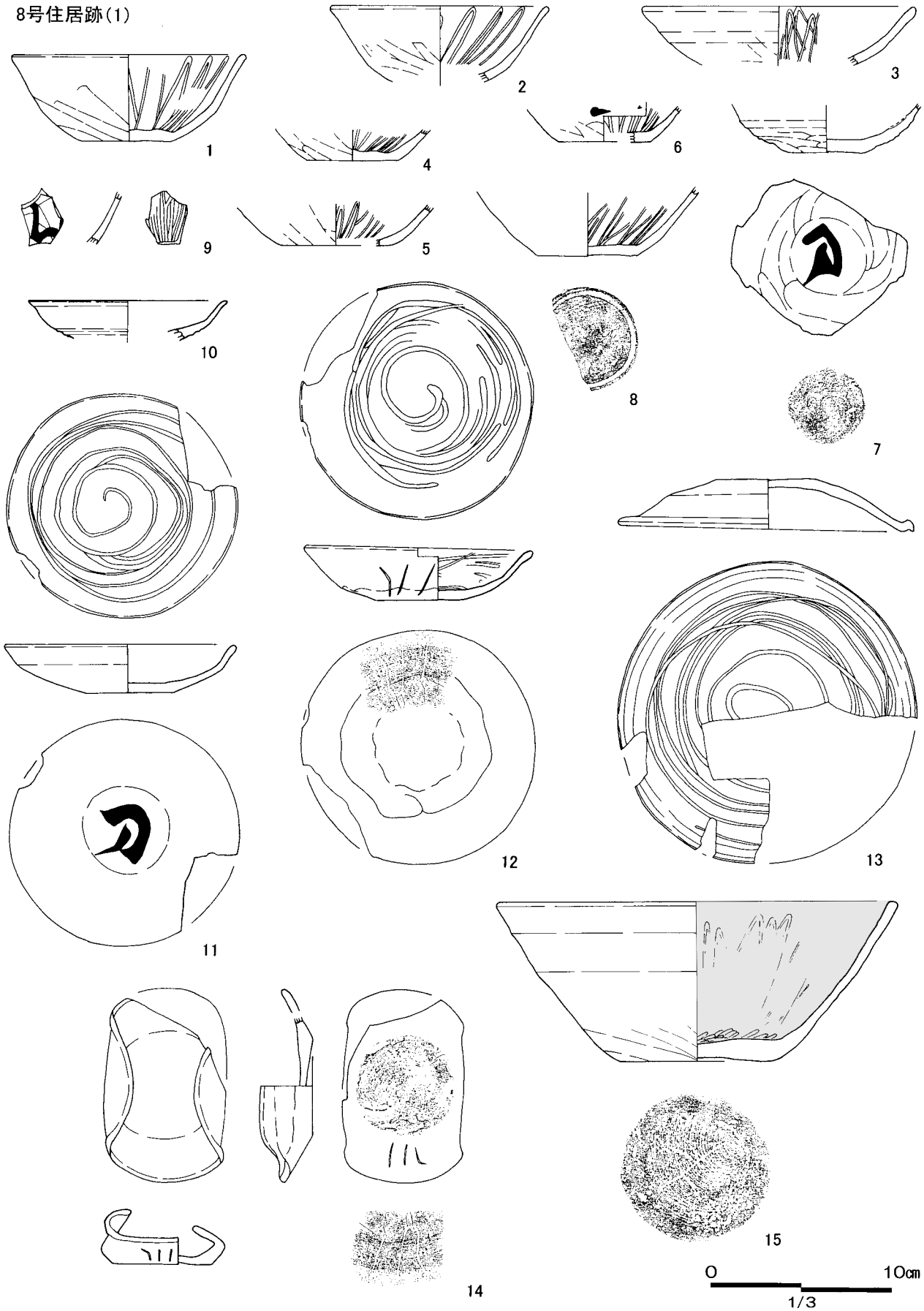


7号住居跡



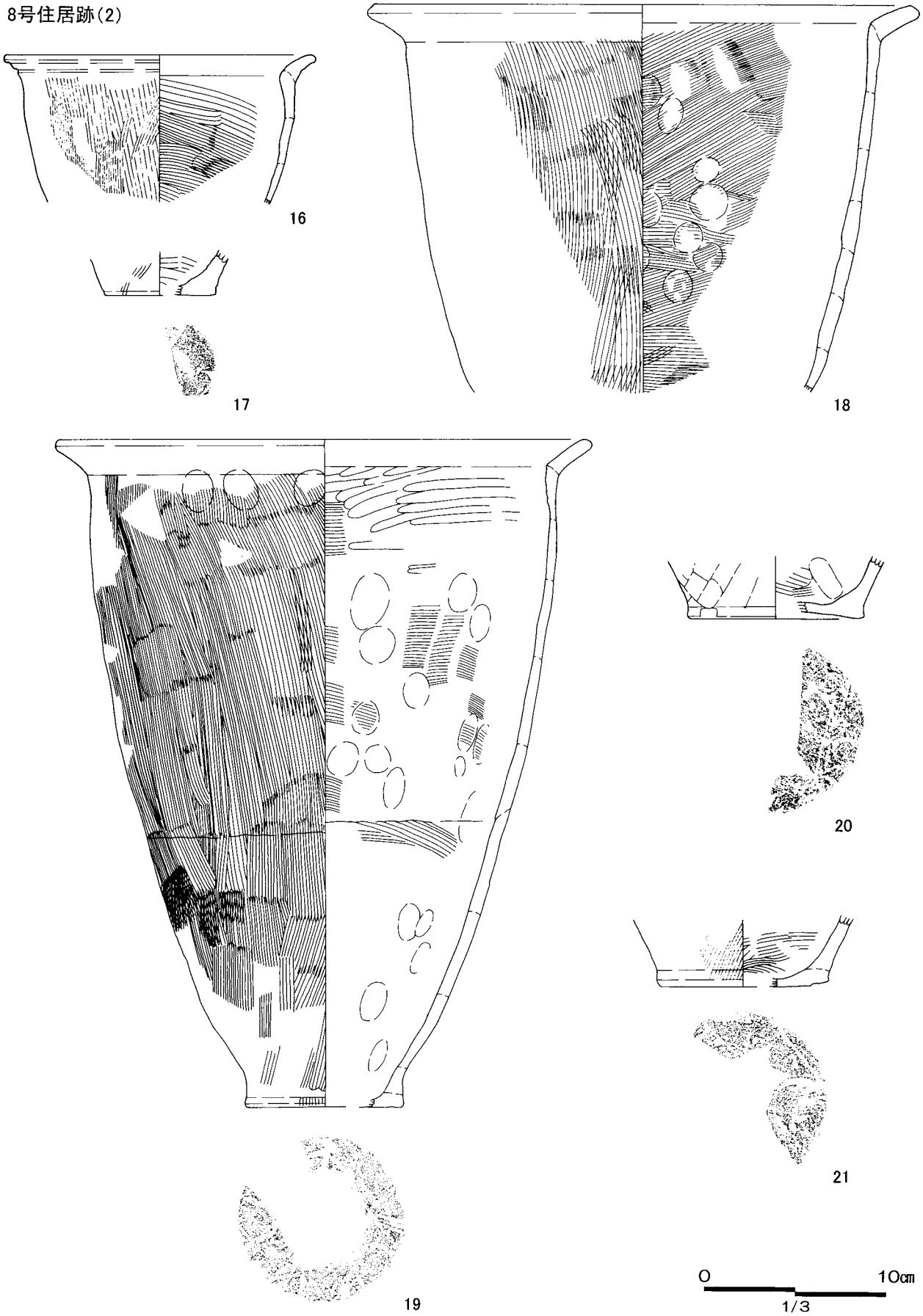
第47図　V区出土土器(15)

8号住居跡(1)



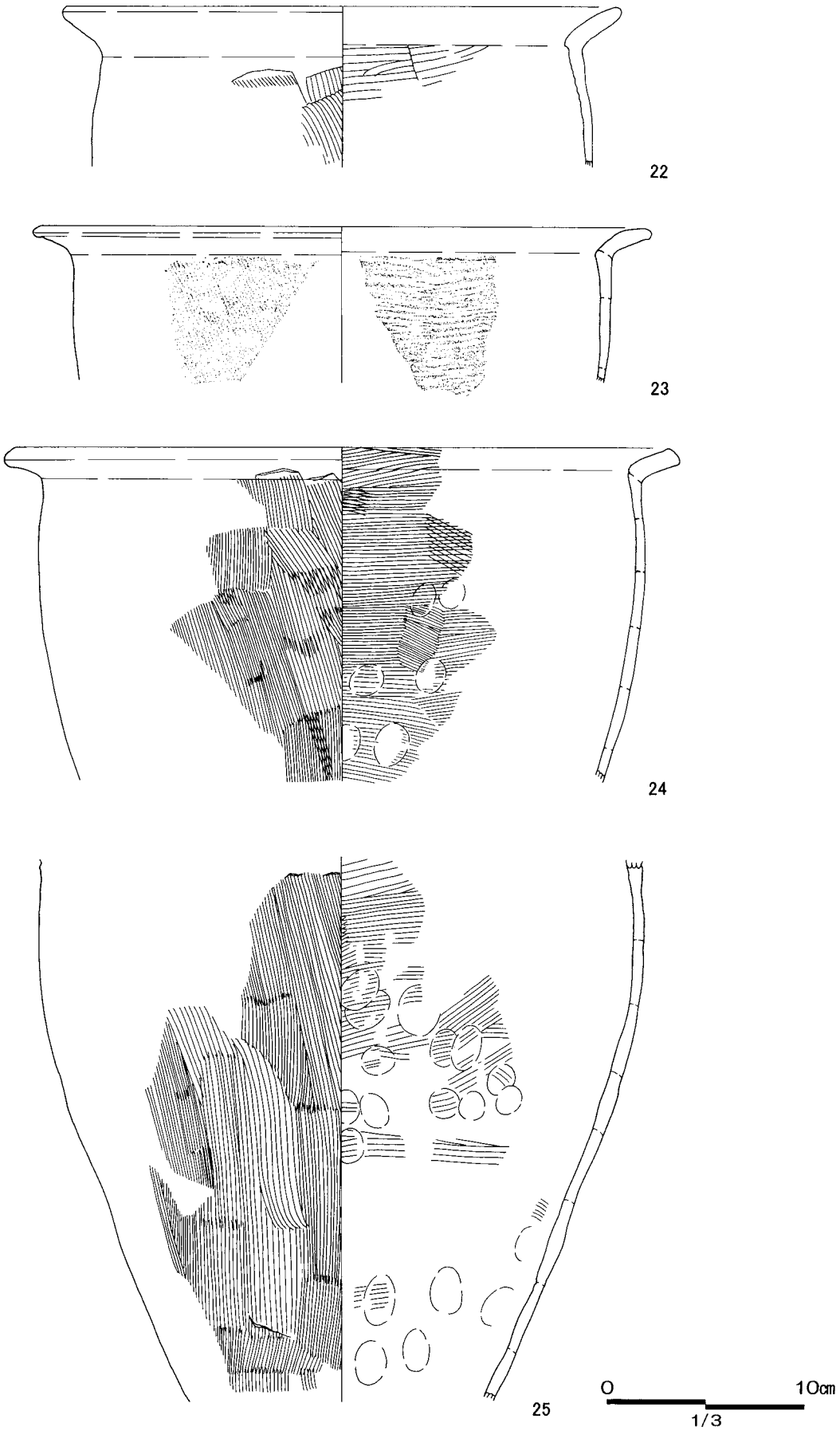
第４８図　Ｖ区出土土器（１６）

8号住居跡(2)



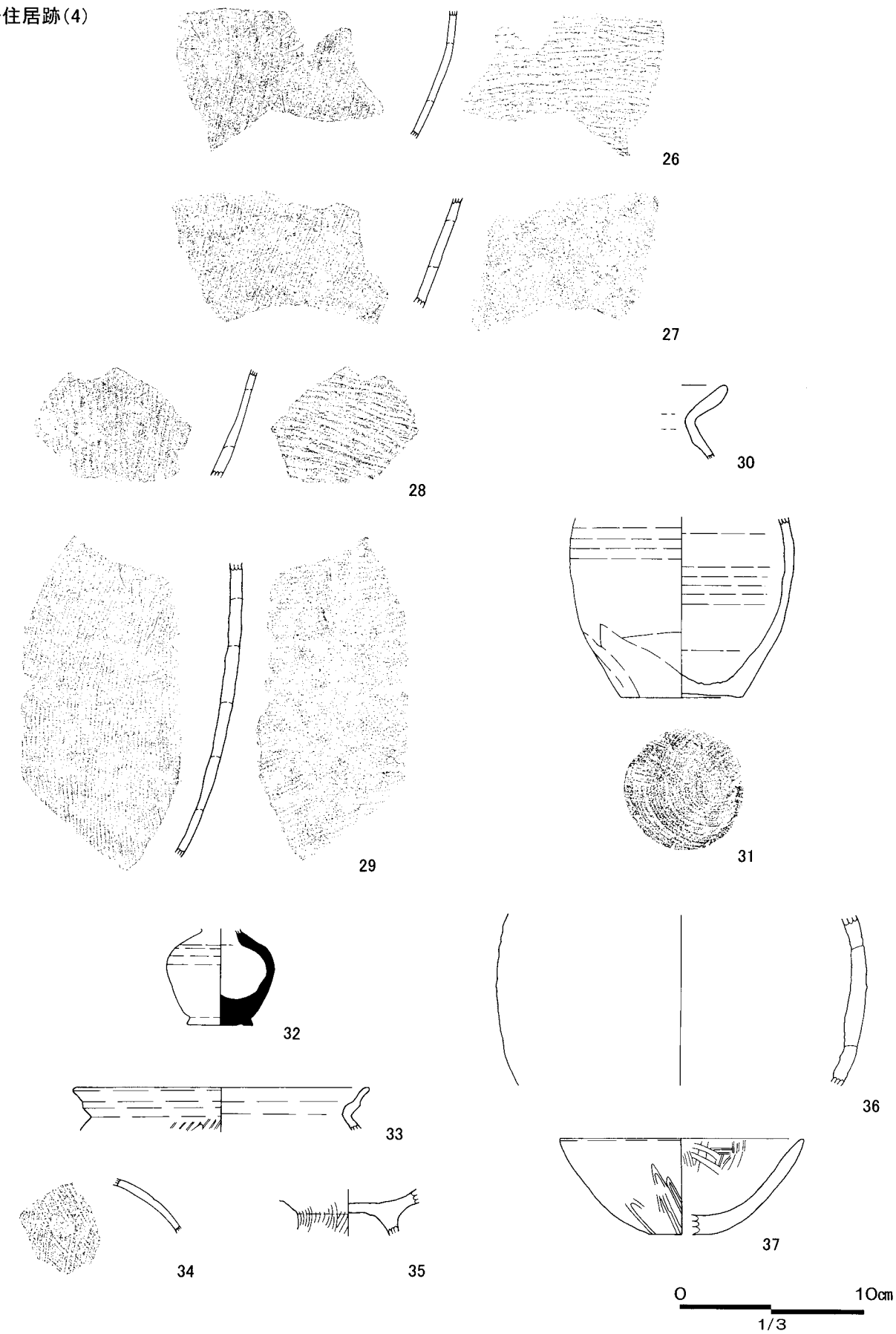
第49図　V区出土土器(17)

8号住居跡(3)

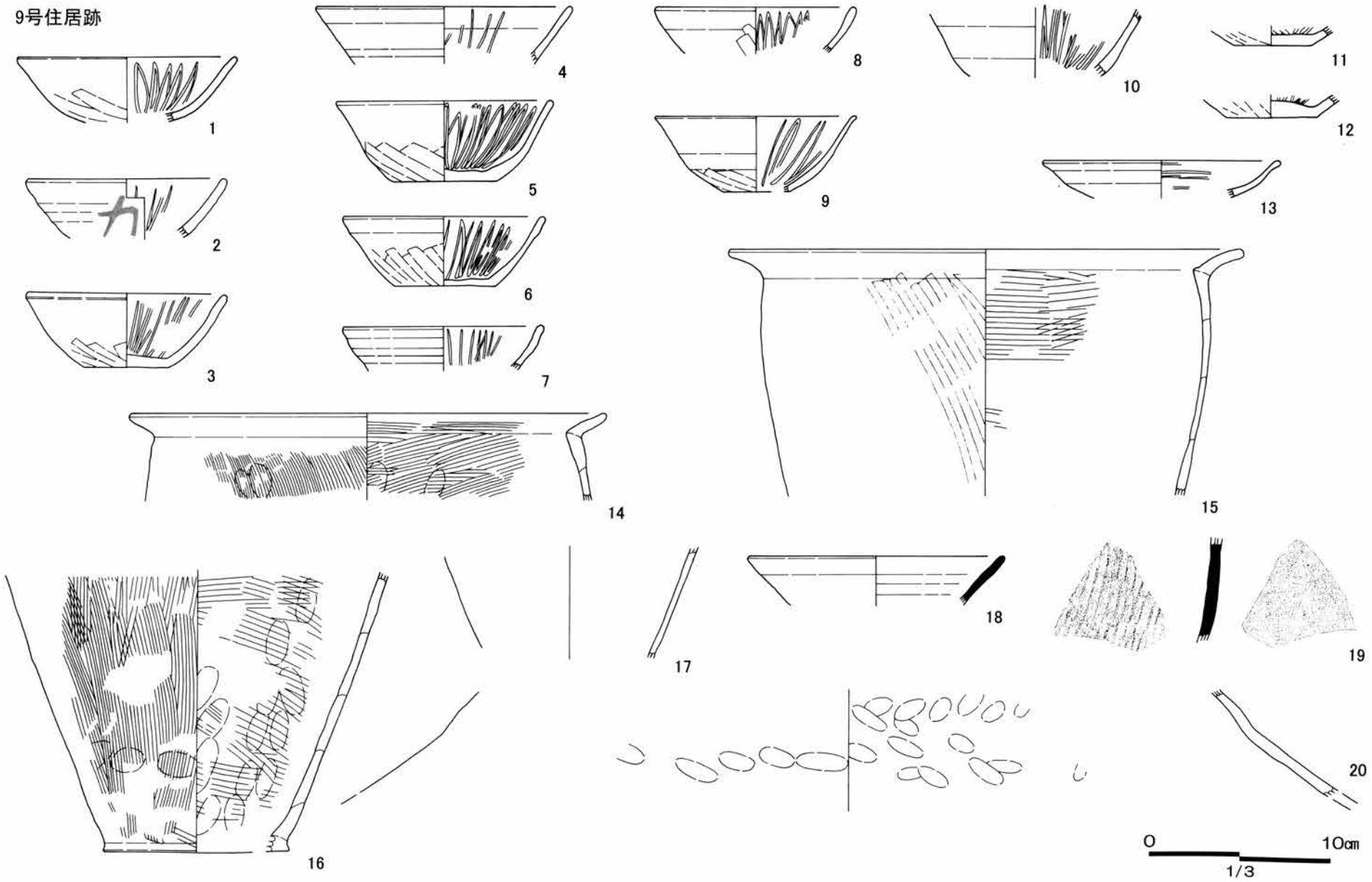


第５０図　Ｖ区出土土器（１８）

8号住居跡(4)

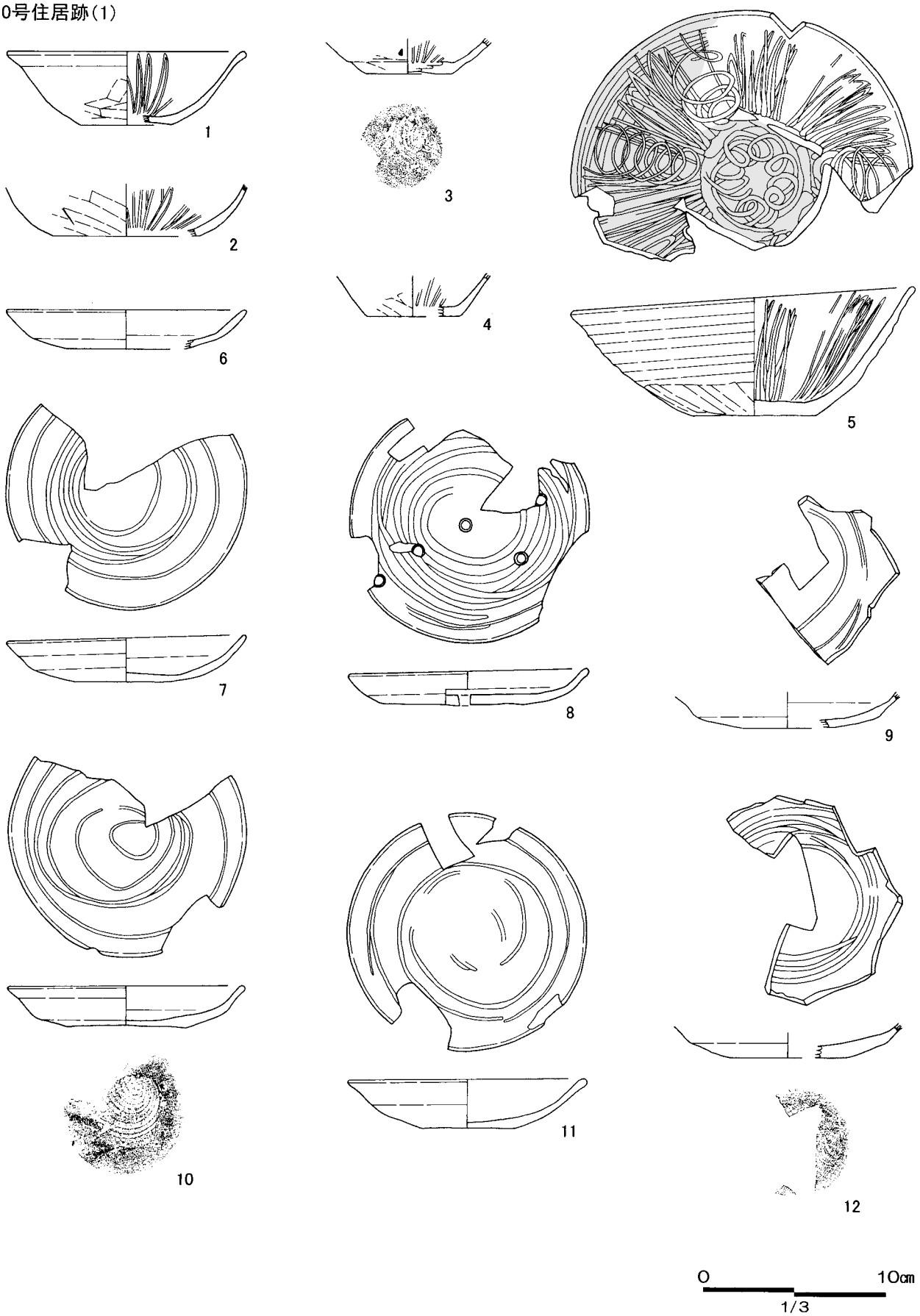


第51図　V区出土土器(19)



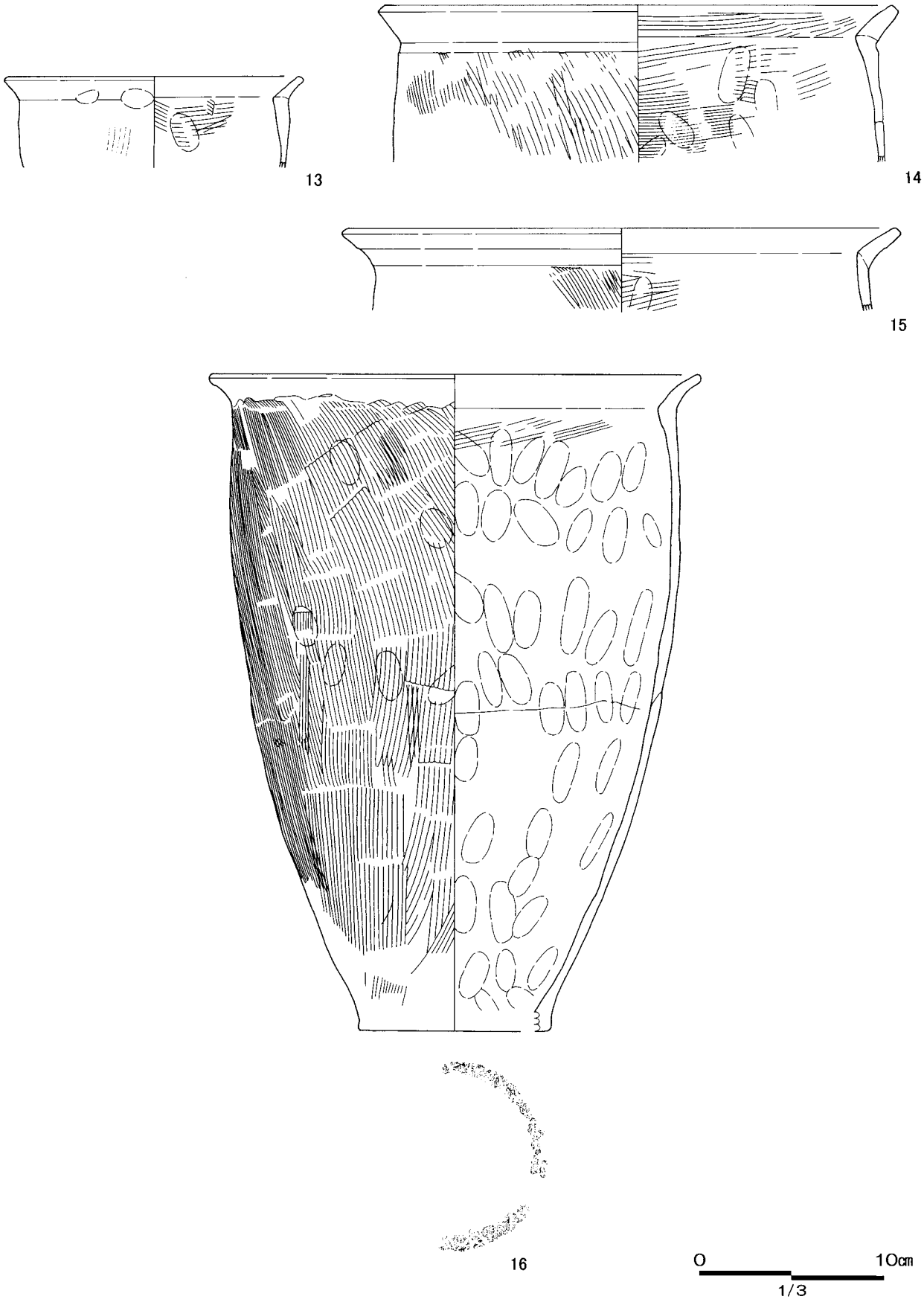
第５２図　Ｖ区出土土器（２０）

10号住居跡(1)



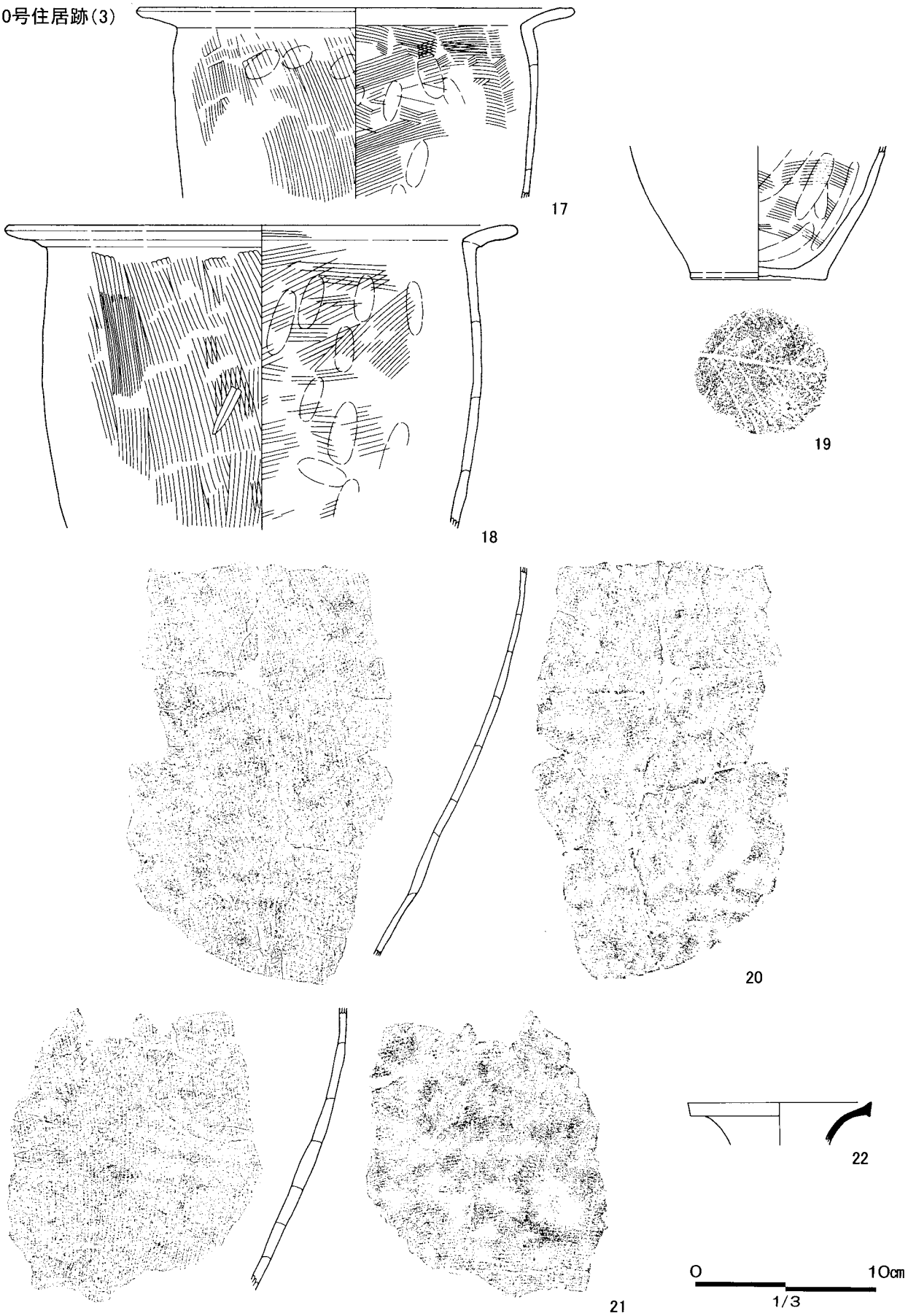
第５３図　Ｖ区出土土器（２１）

10号住居跡(2)



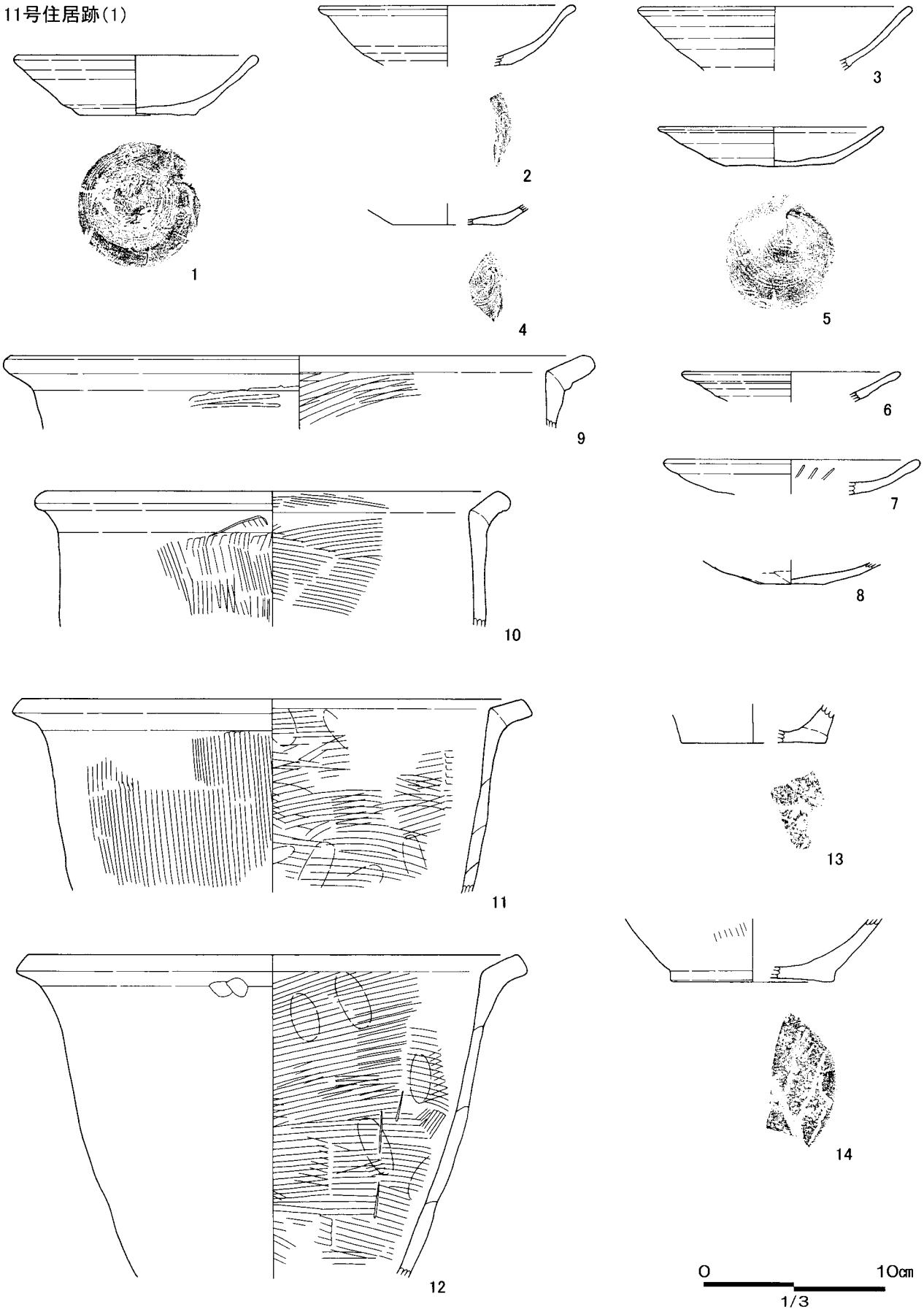
第５４図　Ｖ区出土土器（２２）

10号住居跡(3)



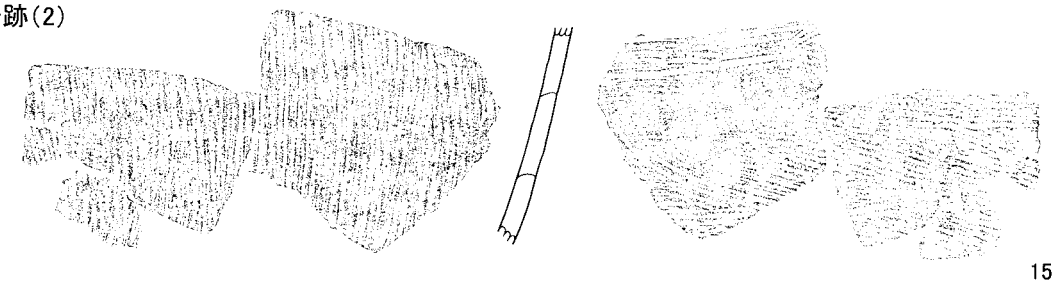
第55図　V区出土土器(23)

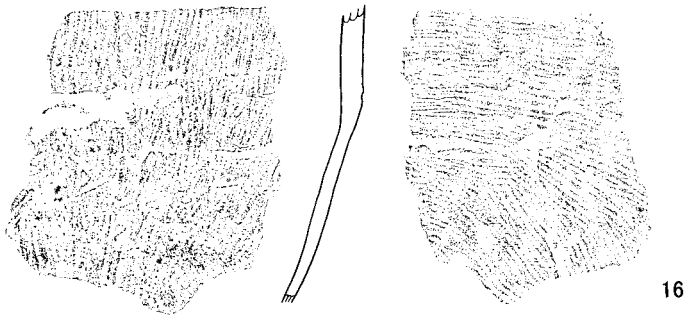
11号住居跡(1)

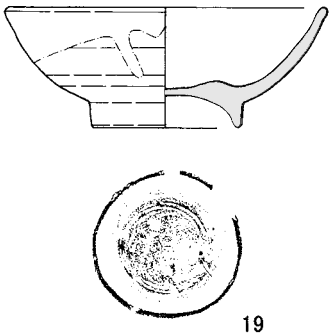


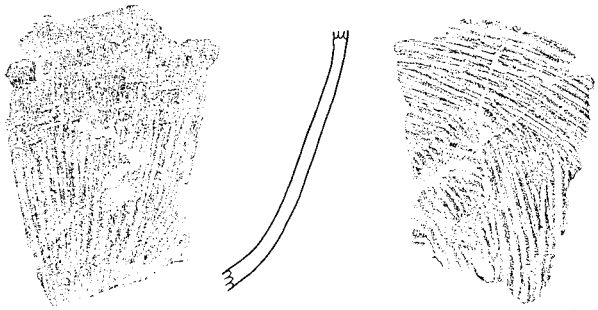
第56図　V区出土土器(24)

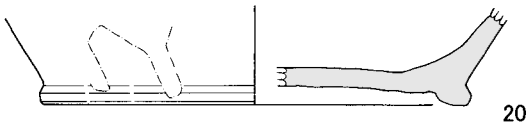
11号住居跡(2)

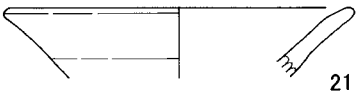




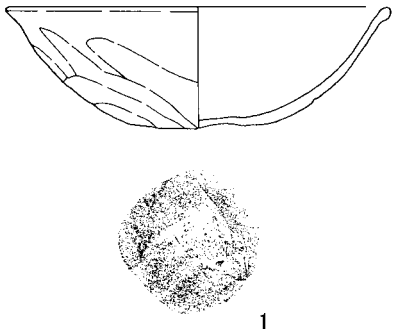


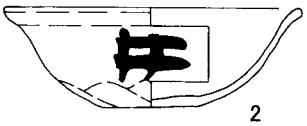


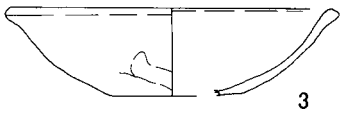


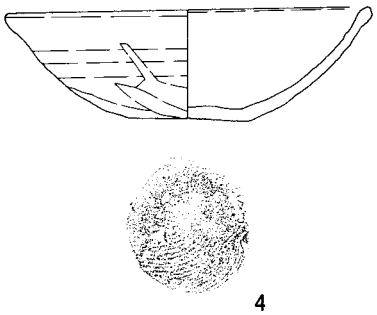


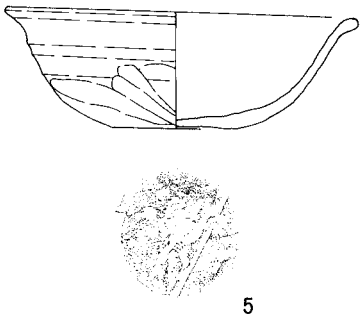
12号住居跡(1)







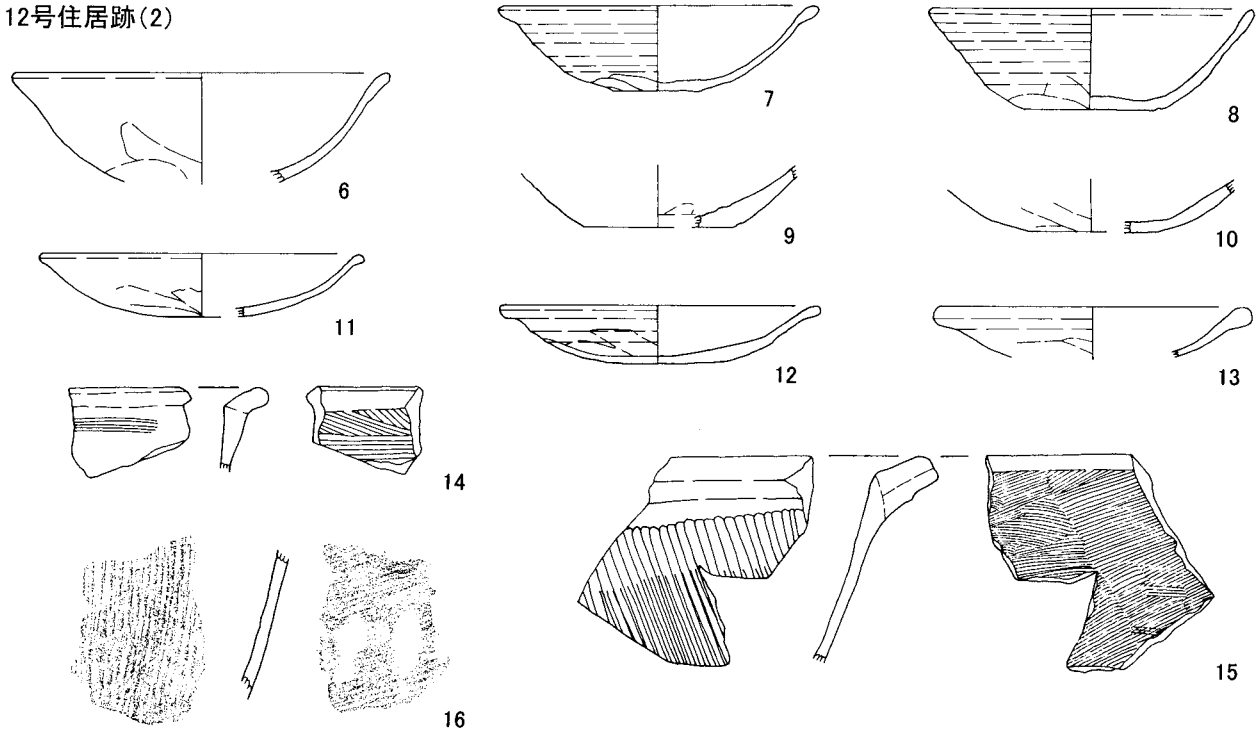




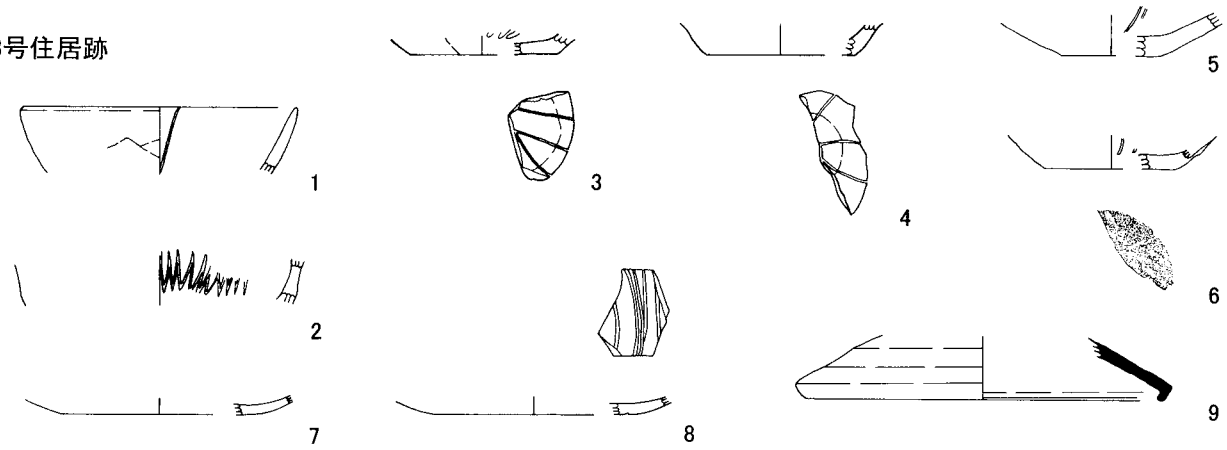
0 10cm
1/3

第57図　V区出土土器(25)

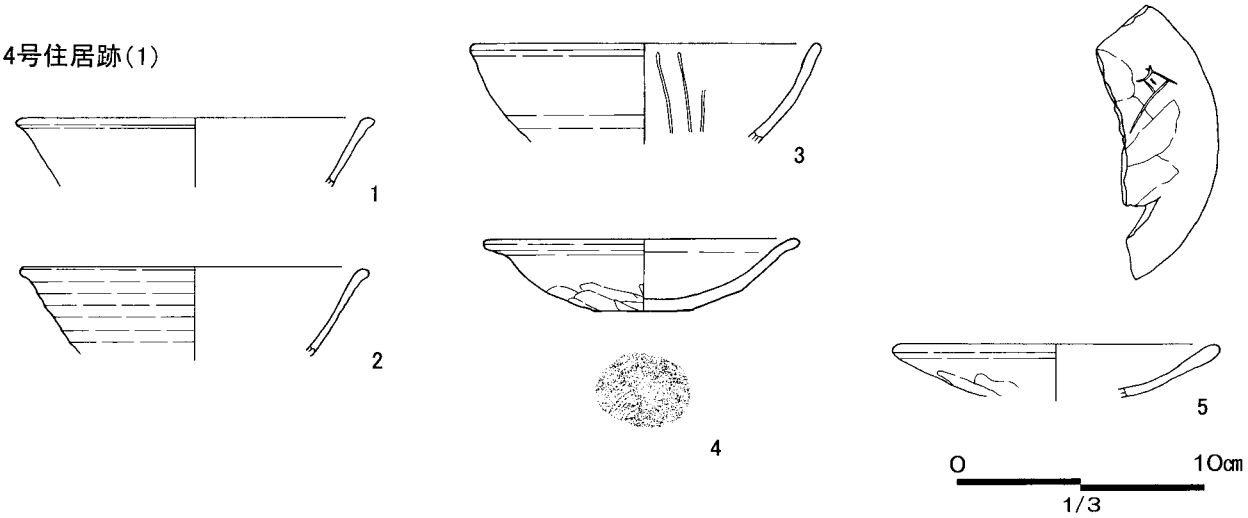
12号住居跡(2)



13号住居跡

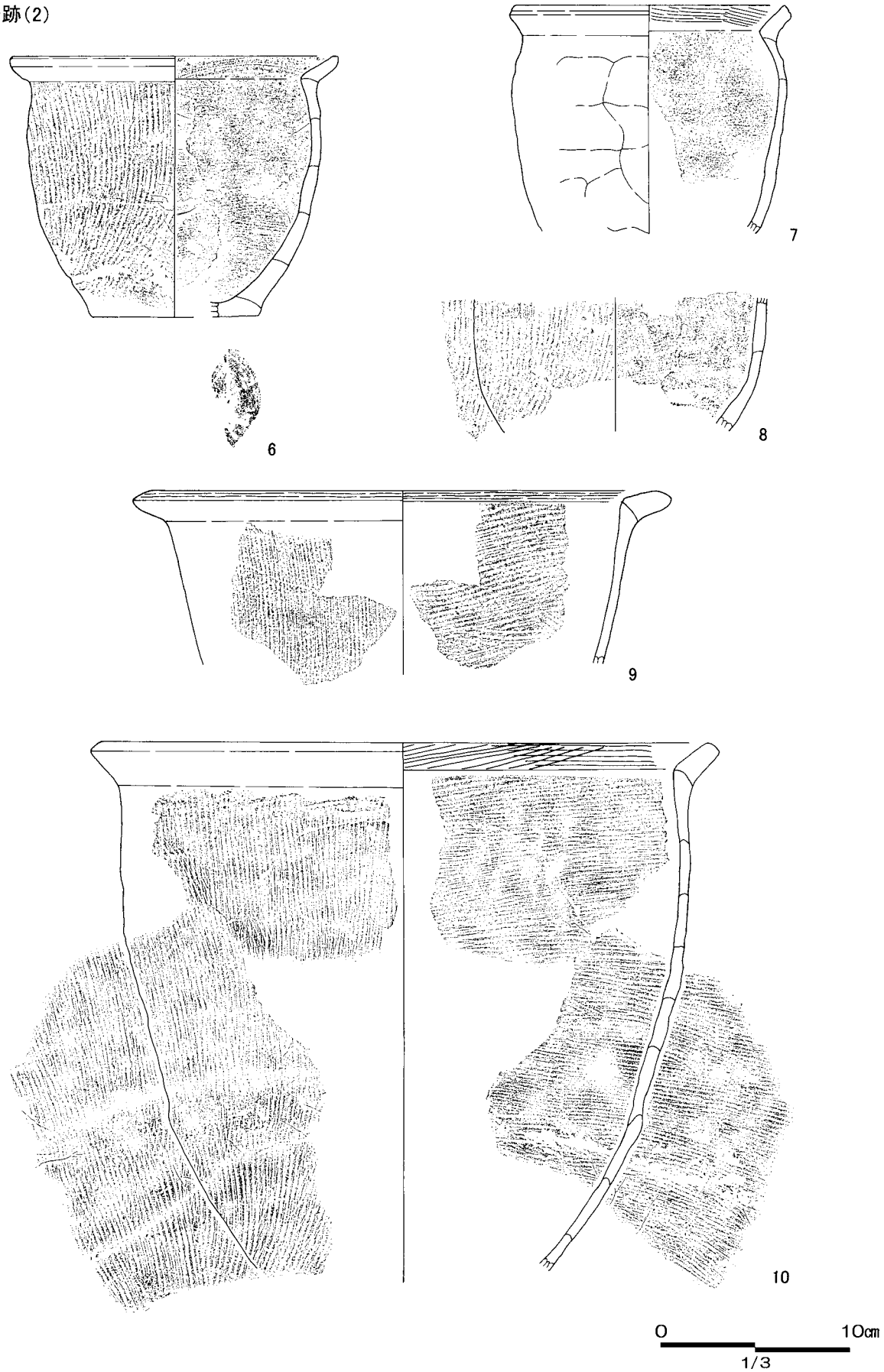


14号住居跡(1)



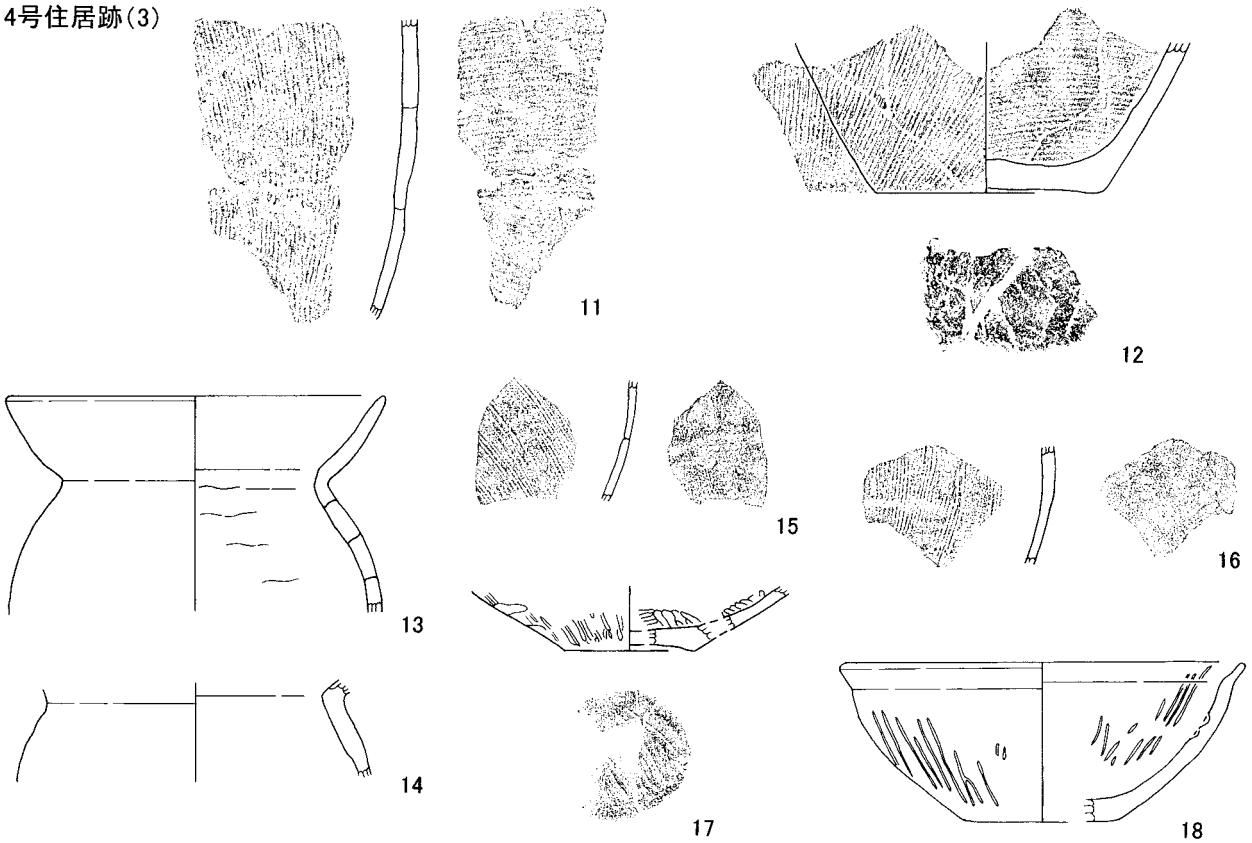
第５８図　Ｖ区出土土器（２６）

14号住居跡(2)

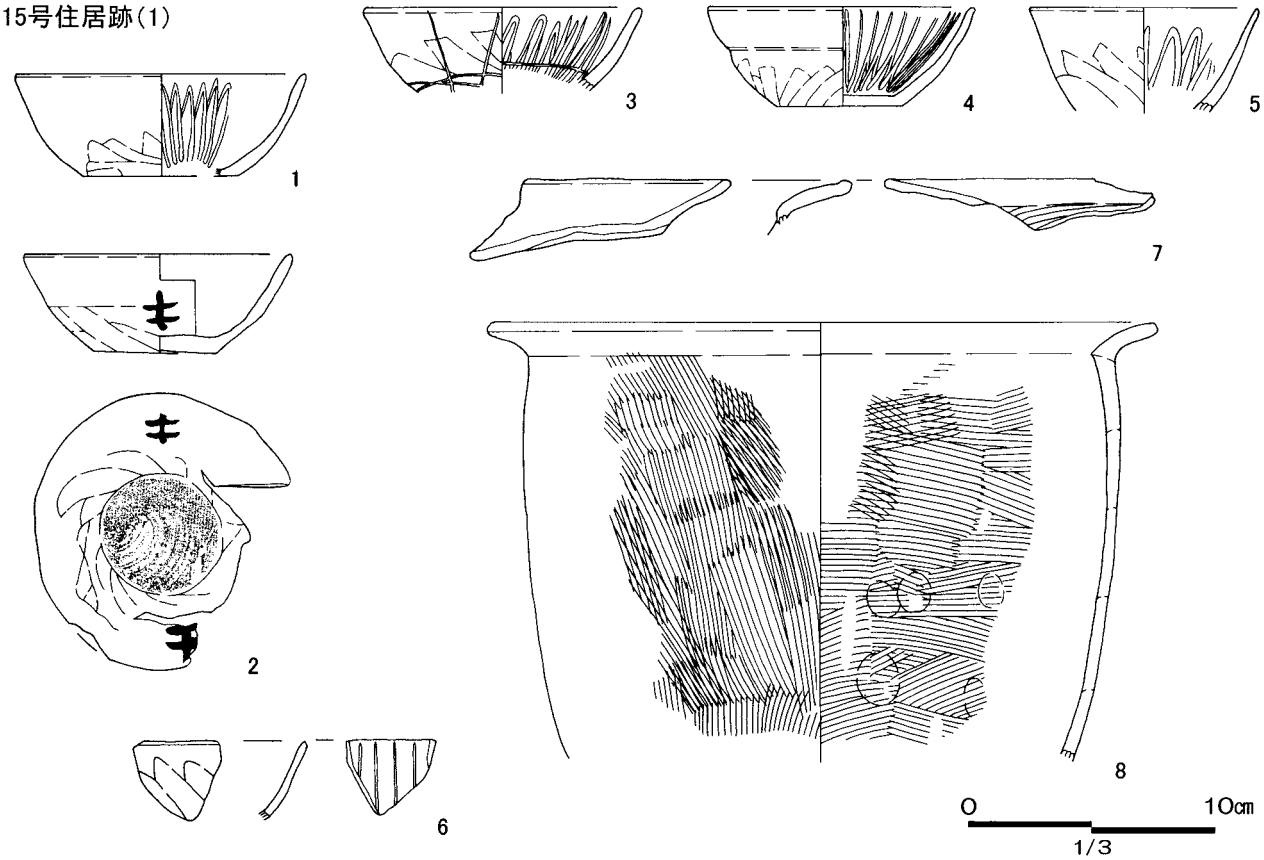


第59図　V区出土土器(27)

14号住居跡(3)

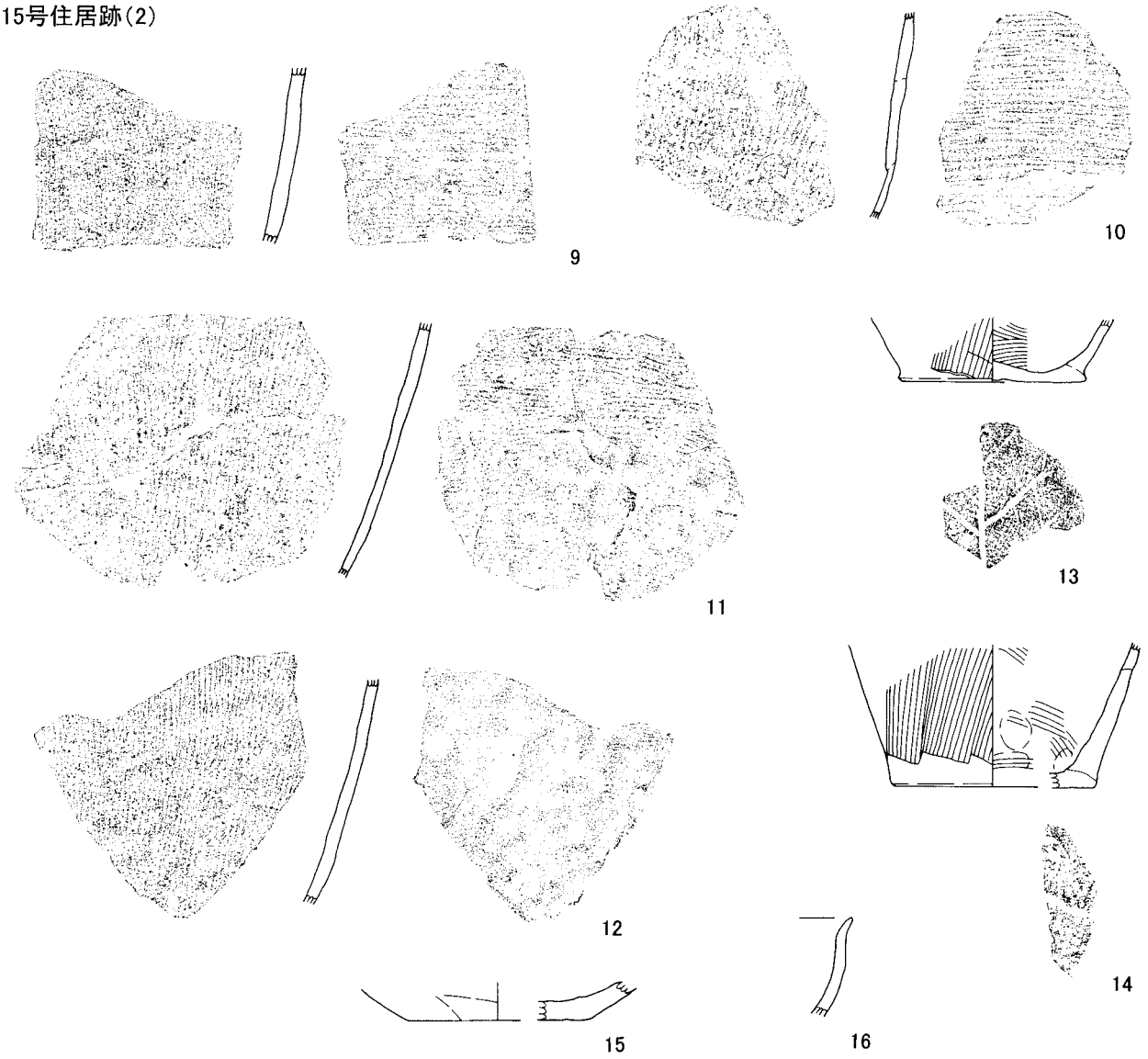


15号住居跡(1)

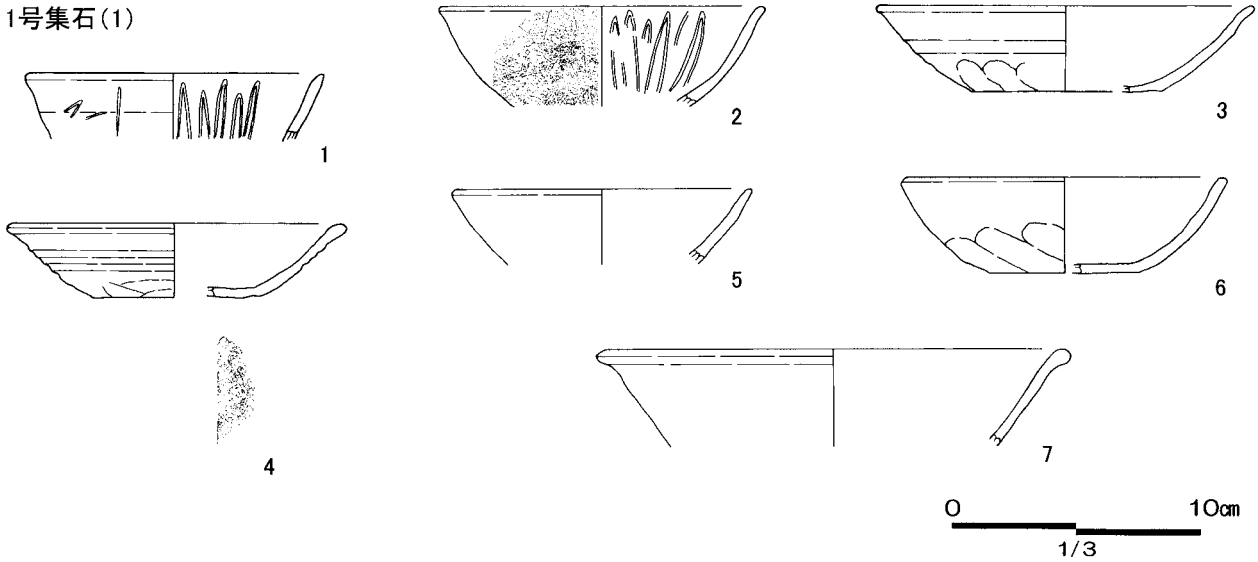


第６０図　Ｖ区出土土器（２８）

15号住居跡(2)

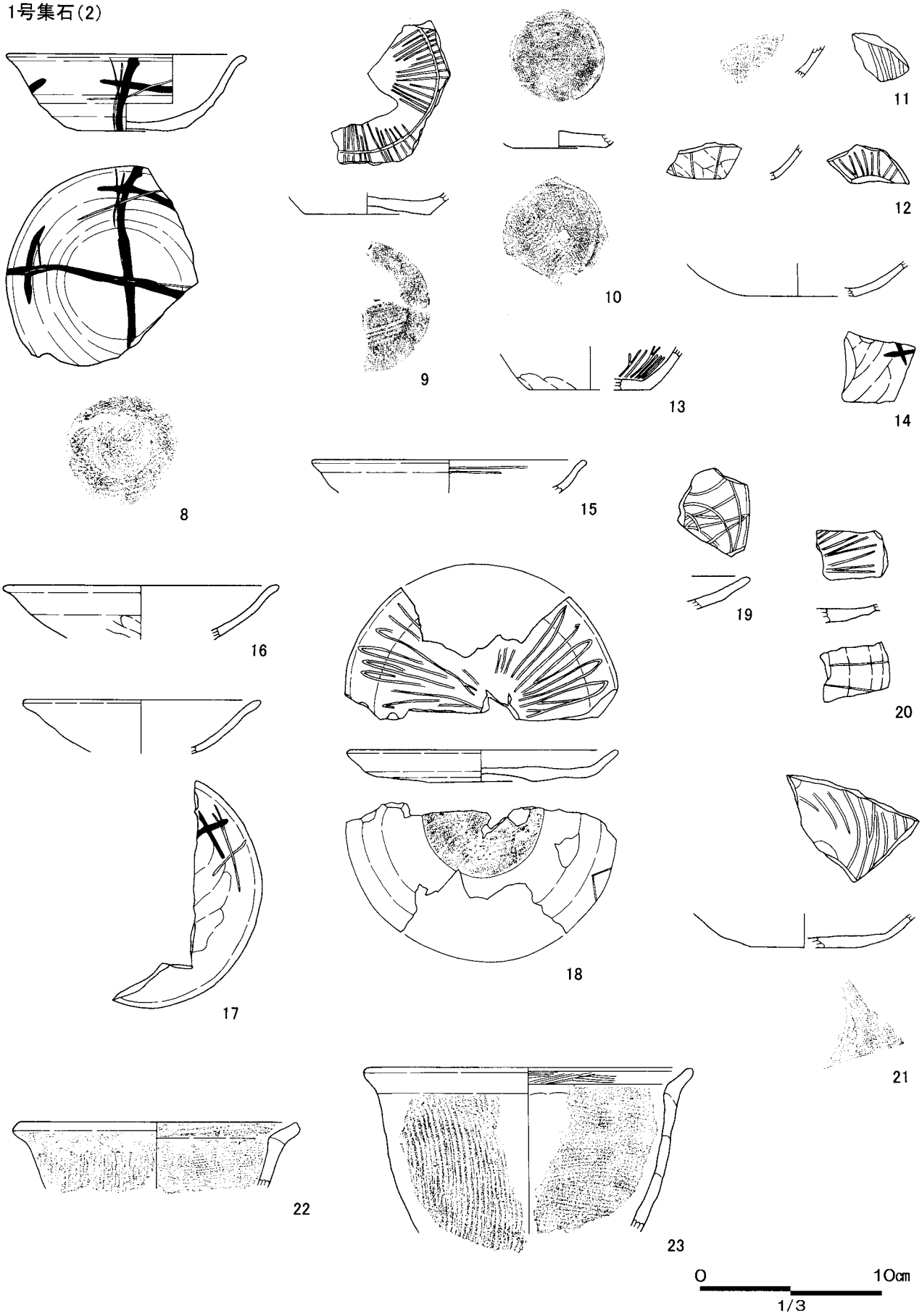


1号集石(1)



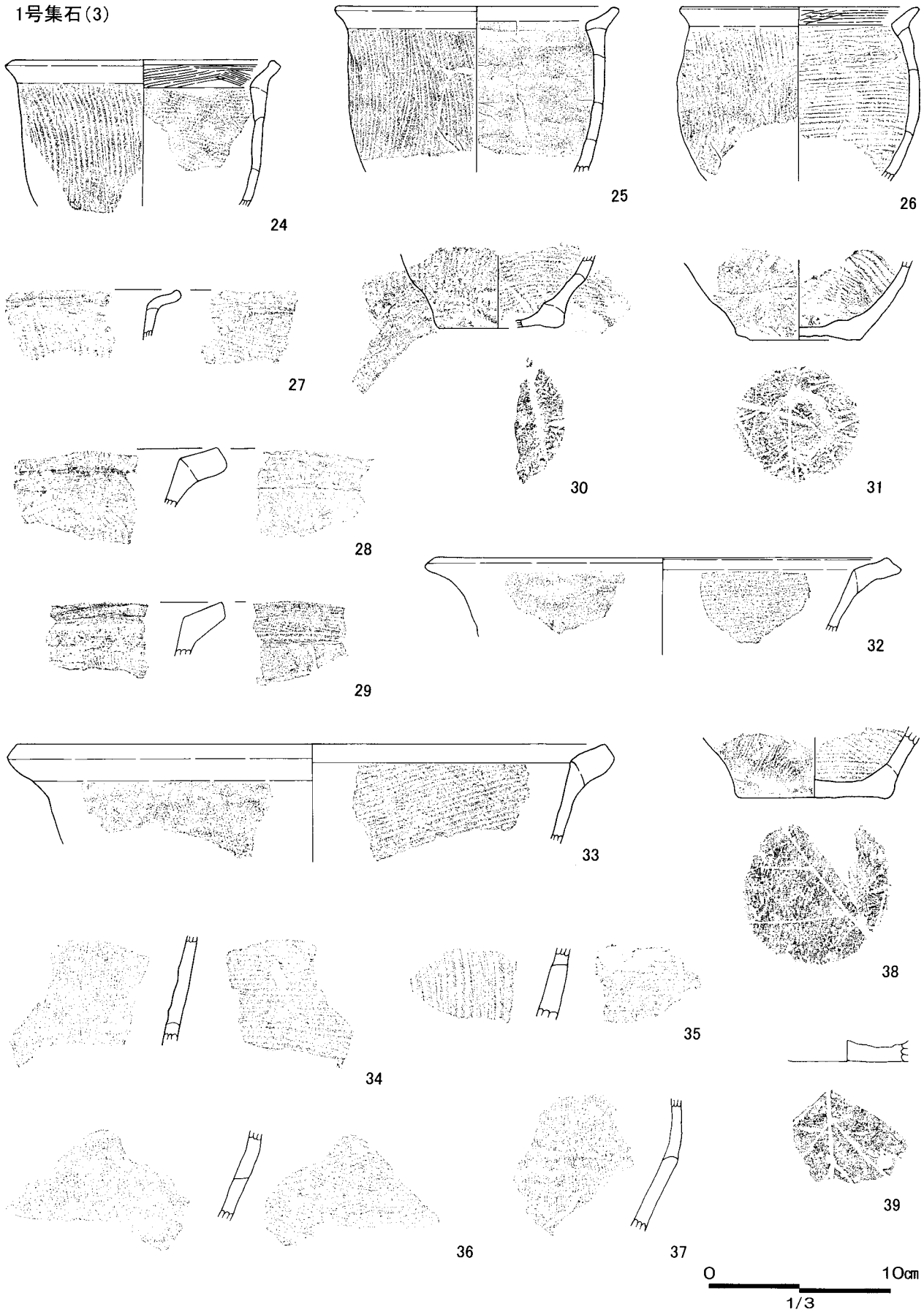
第61図　V区出土土器(29)

1号集石(2)



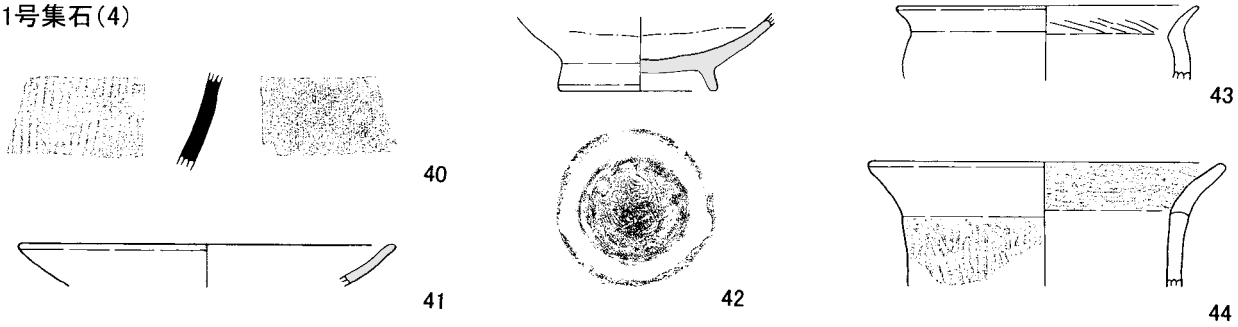
第６２図　Ｖ区出土土器（３０）

1号集石(3)

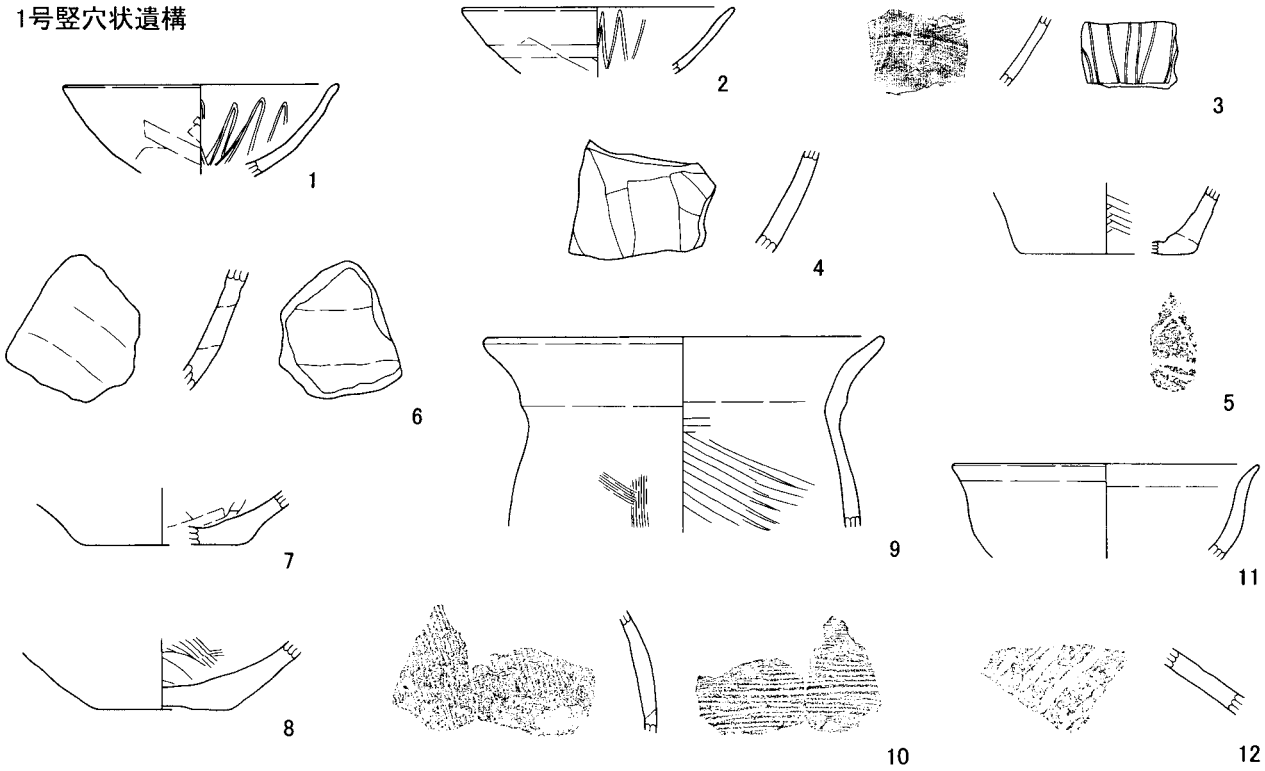


第６３図　Ｖ区出土土器（３１）

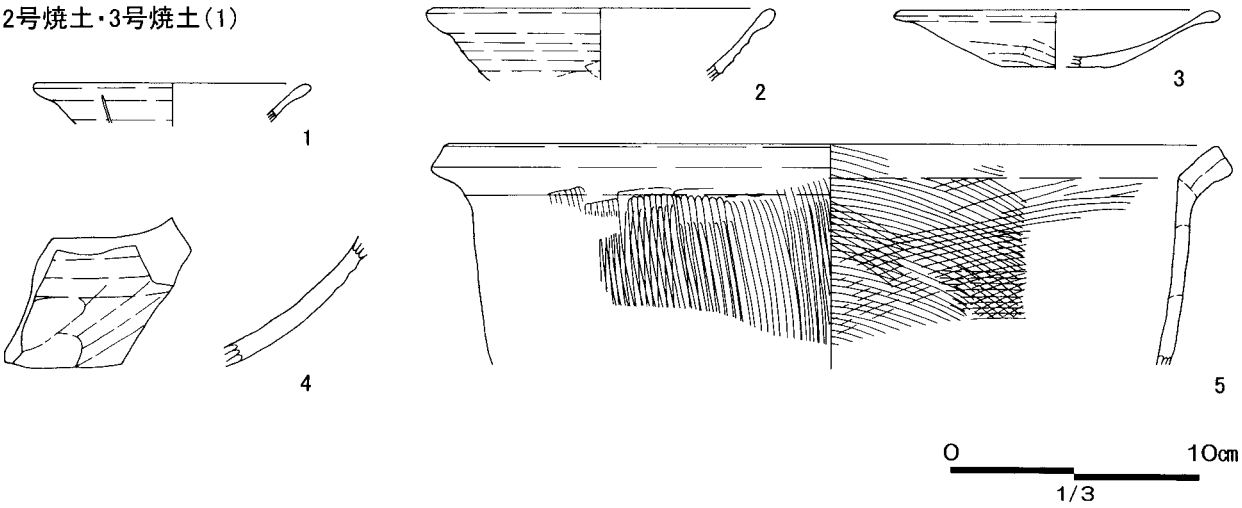
1号集石(4)



1号竪穴状遺構

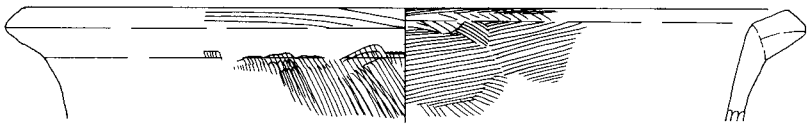


2号焼土・3号焼土(1)

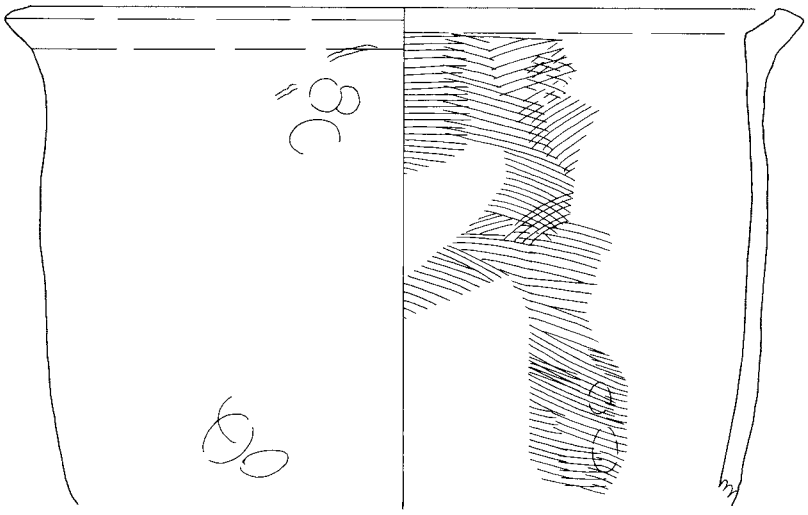


第６４図　Ｖ区出土土器（３２）

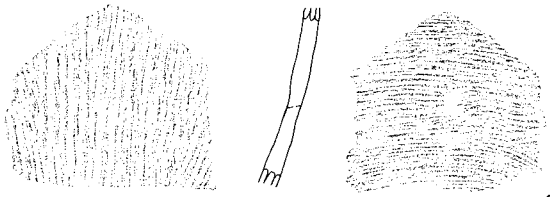
2号焼土・
3号焼土(2)



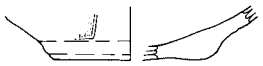
6



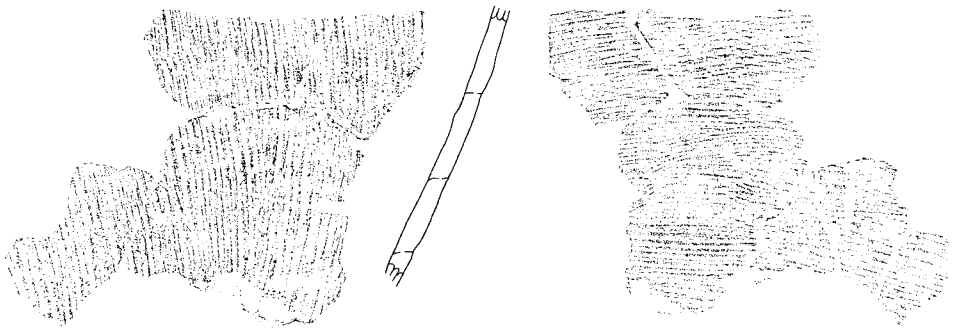
7



8

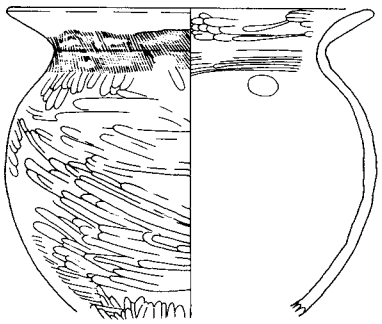


10



9

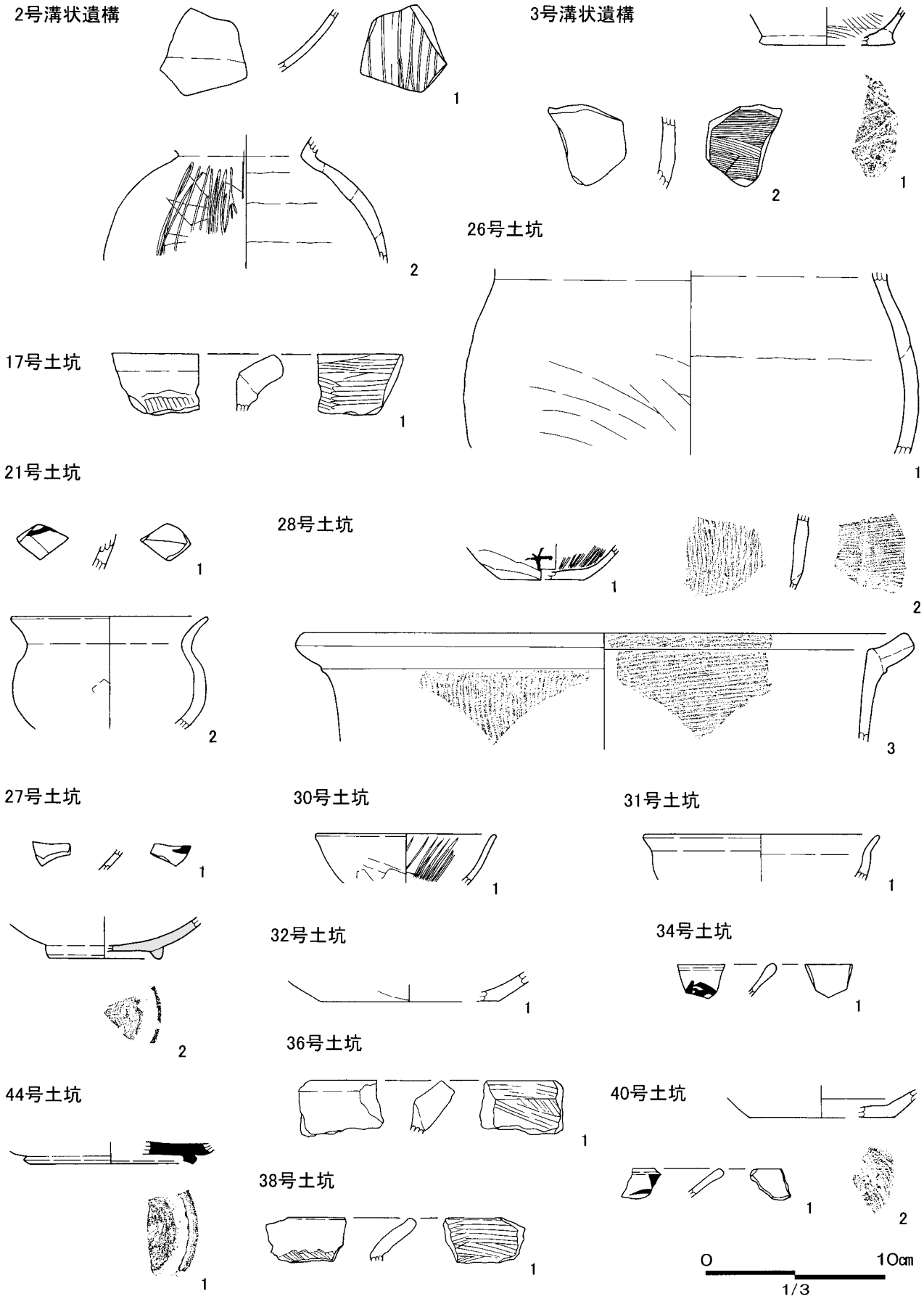
4号焼土



1

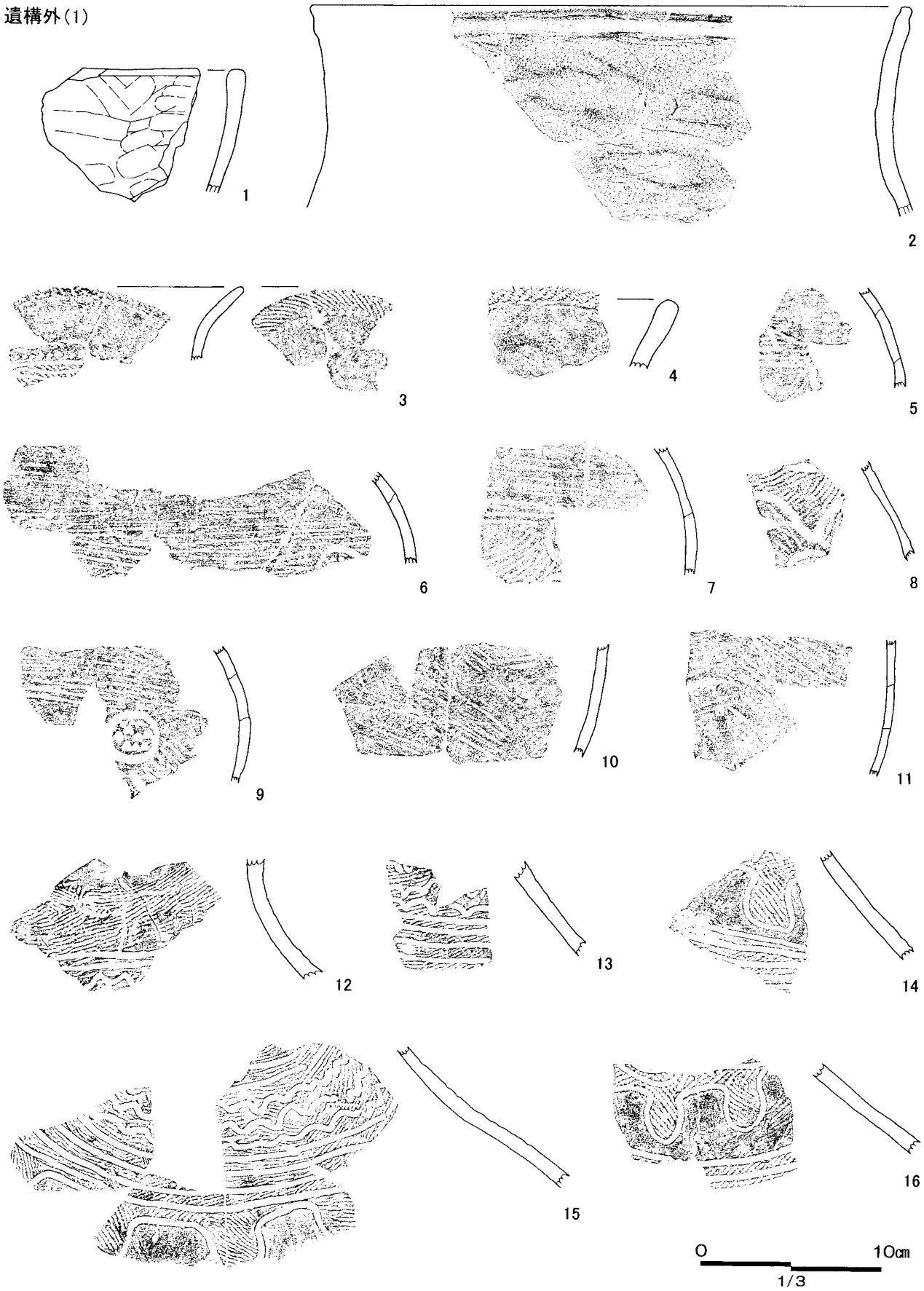
0　　10cm
1/3

第６５図　Ｖ区出土土器（３３）



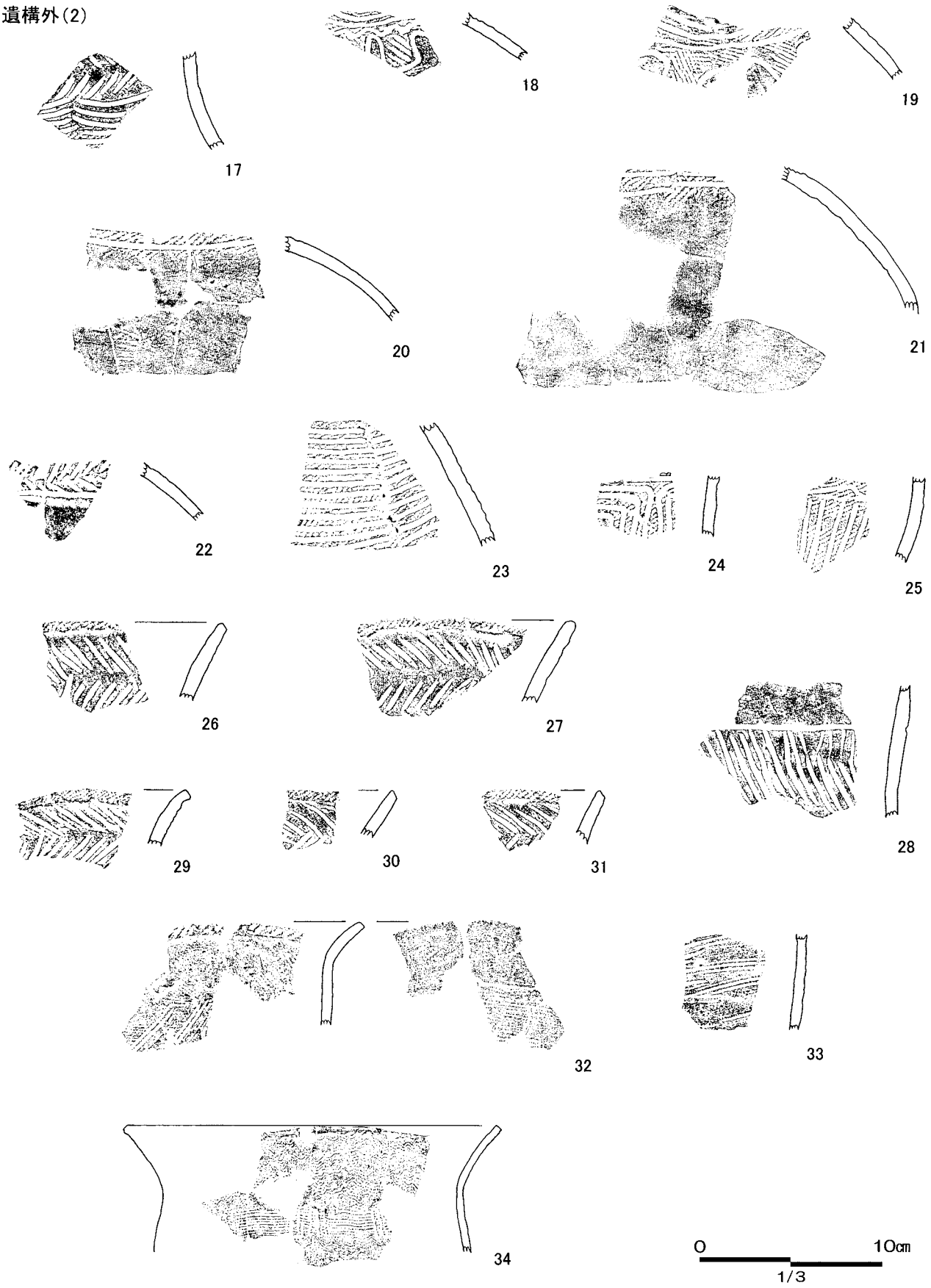
第６６図　Ｖ区出土土器（３４）

遺構外(1)



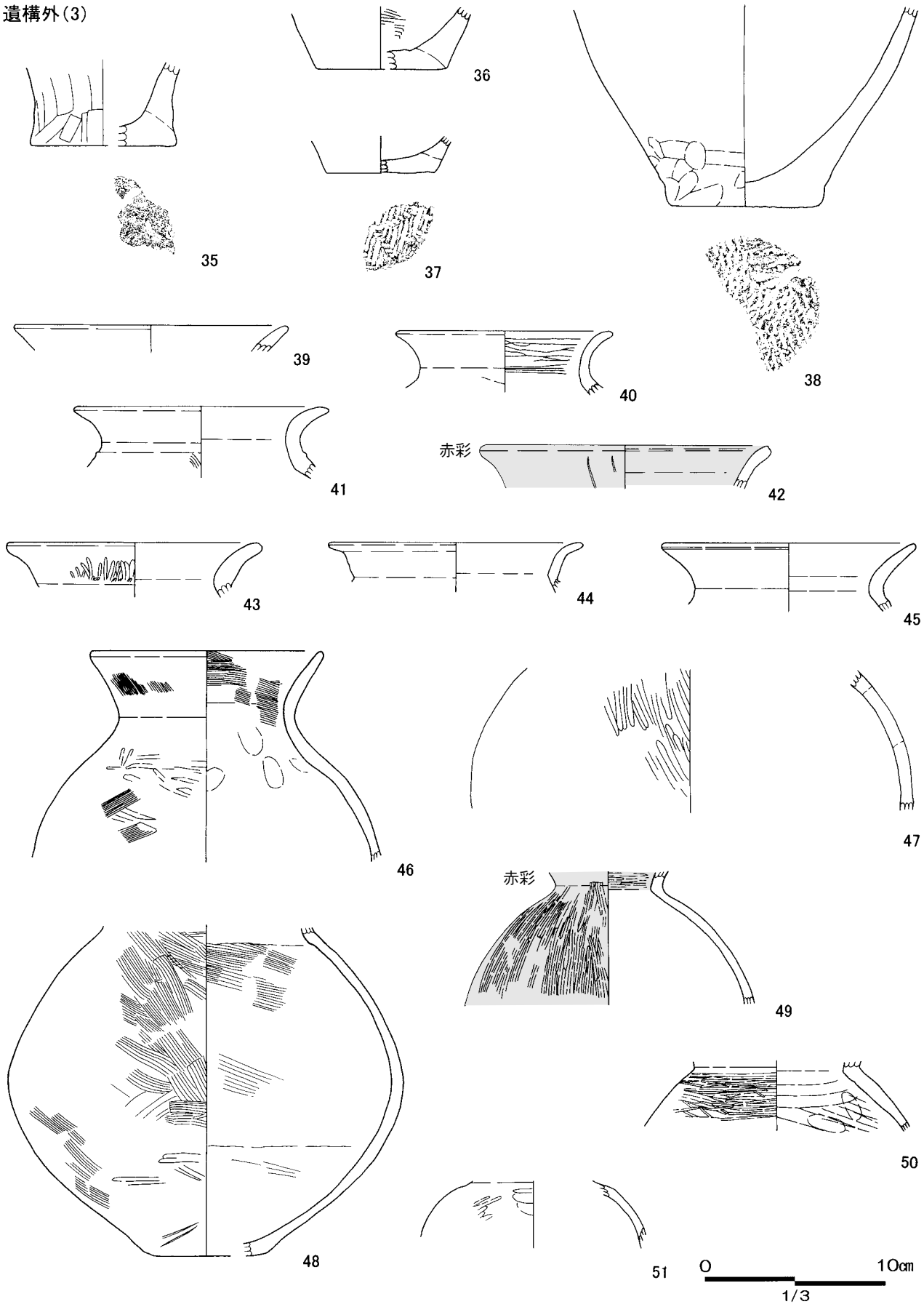
第67図　V区出土土器(35)

遺構外(2)



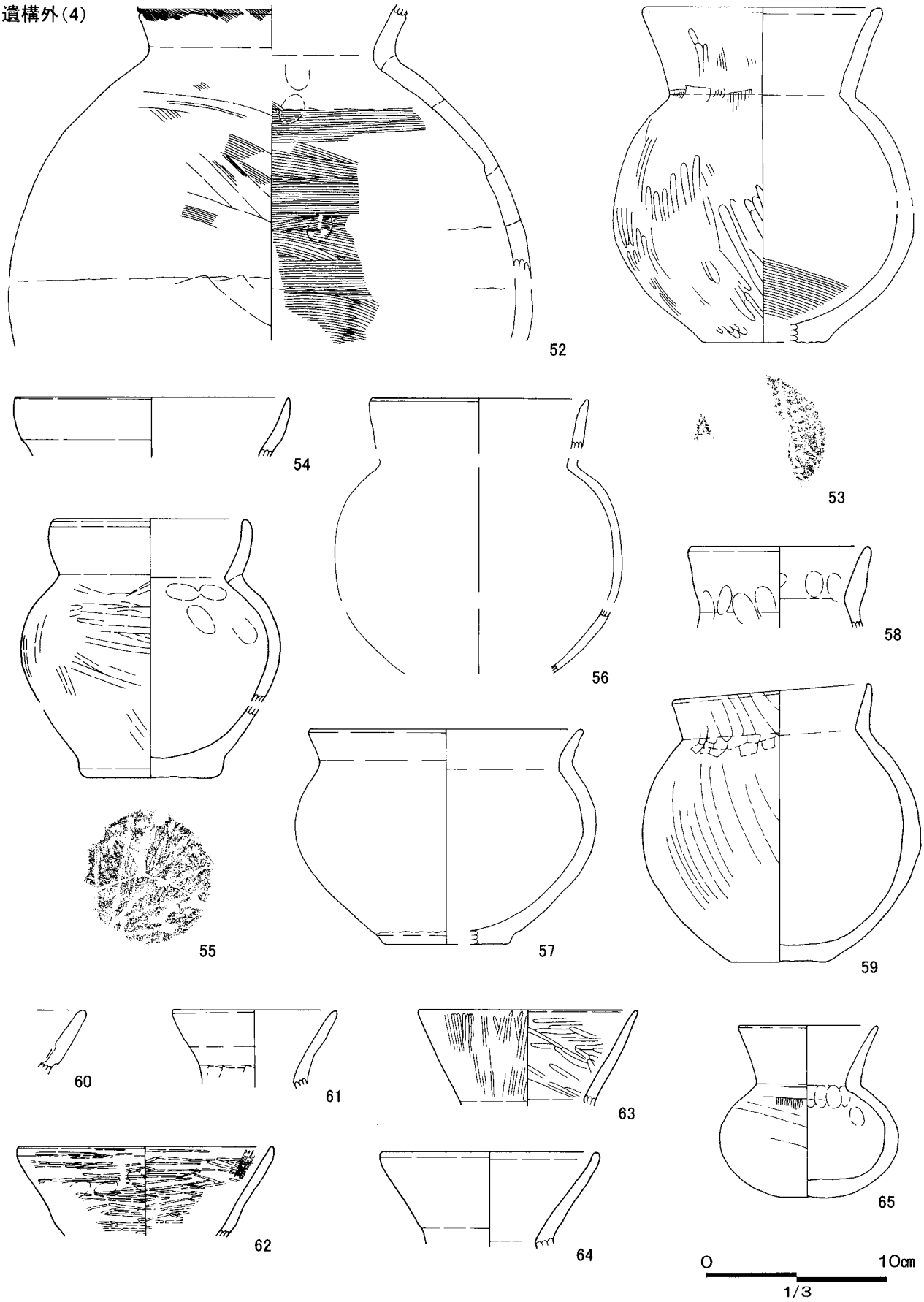
第68図　V区出土土器(36)

遺構外(3)



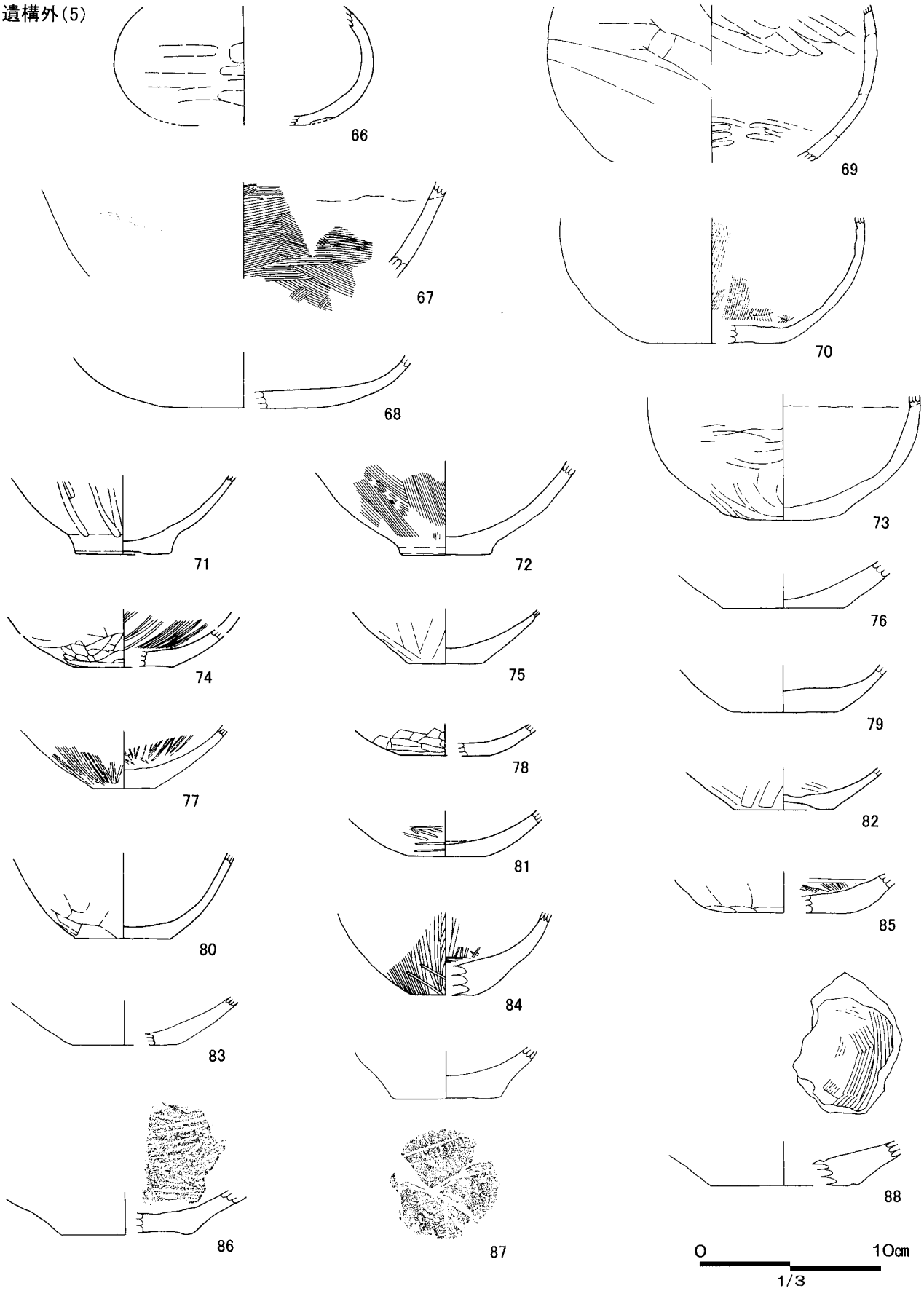
第69図　V区出土土器(37)

遺構外(4)



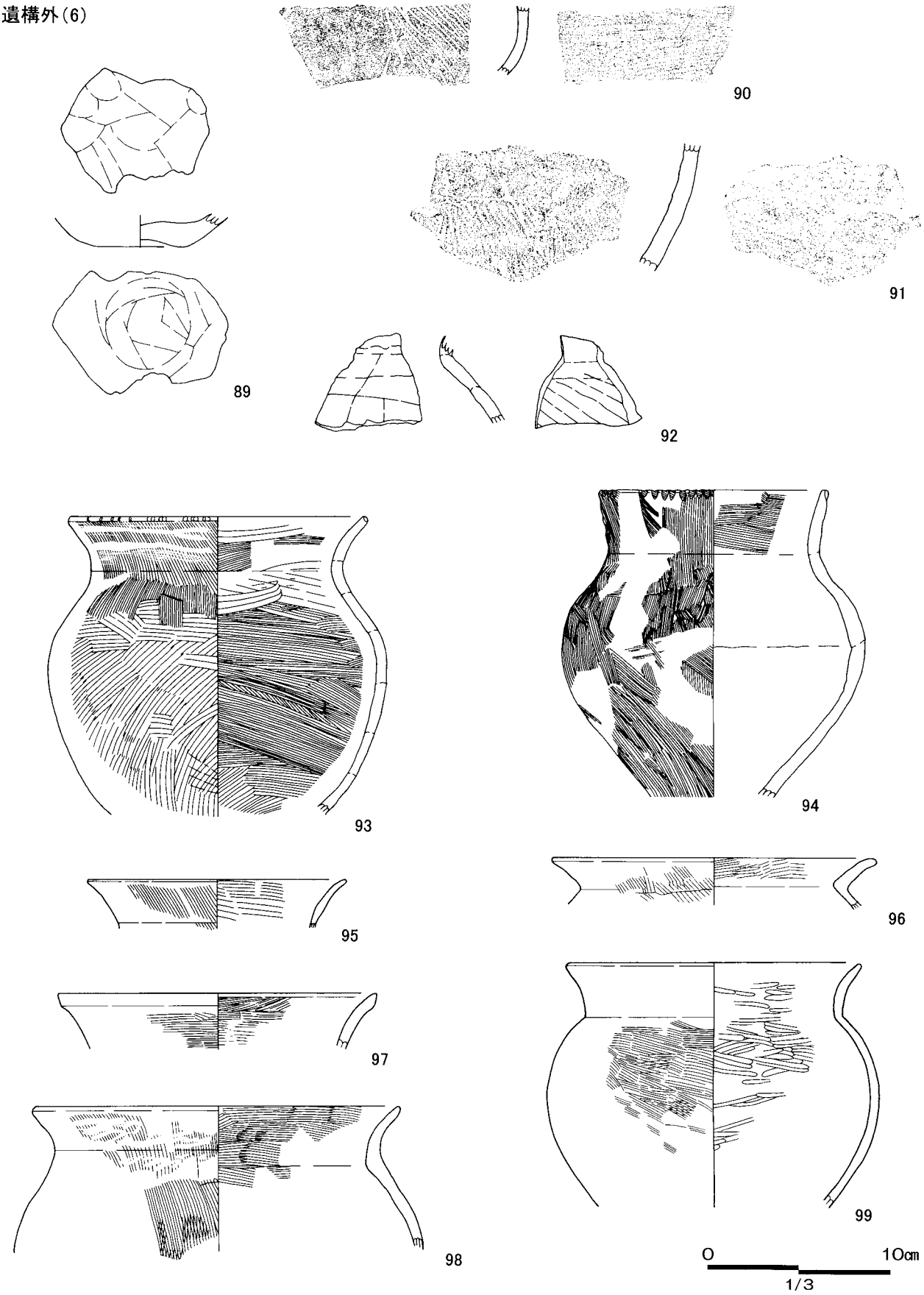
第70図　V区出土土器(38)

遺構外(5)



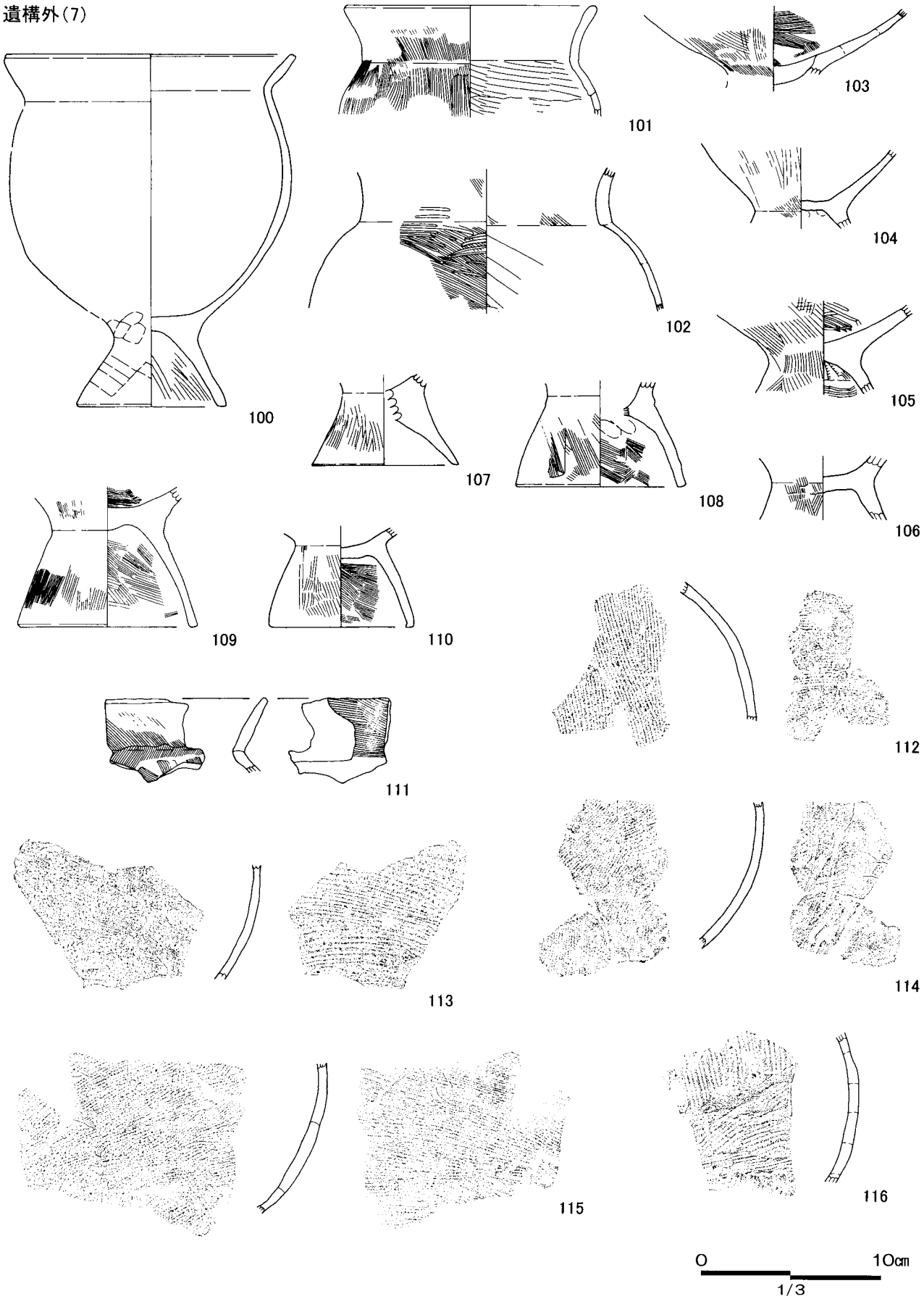
第71図　V区出土土器(39)

遺構外(6)



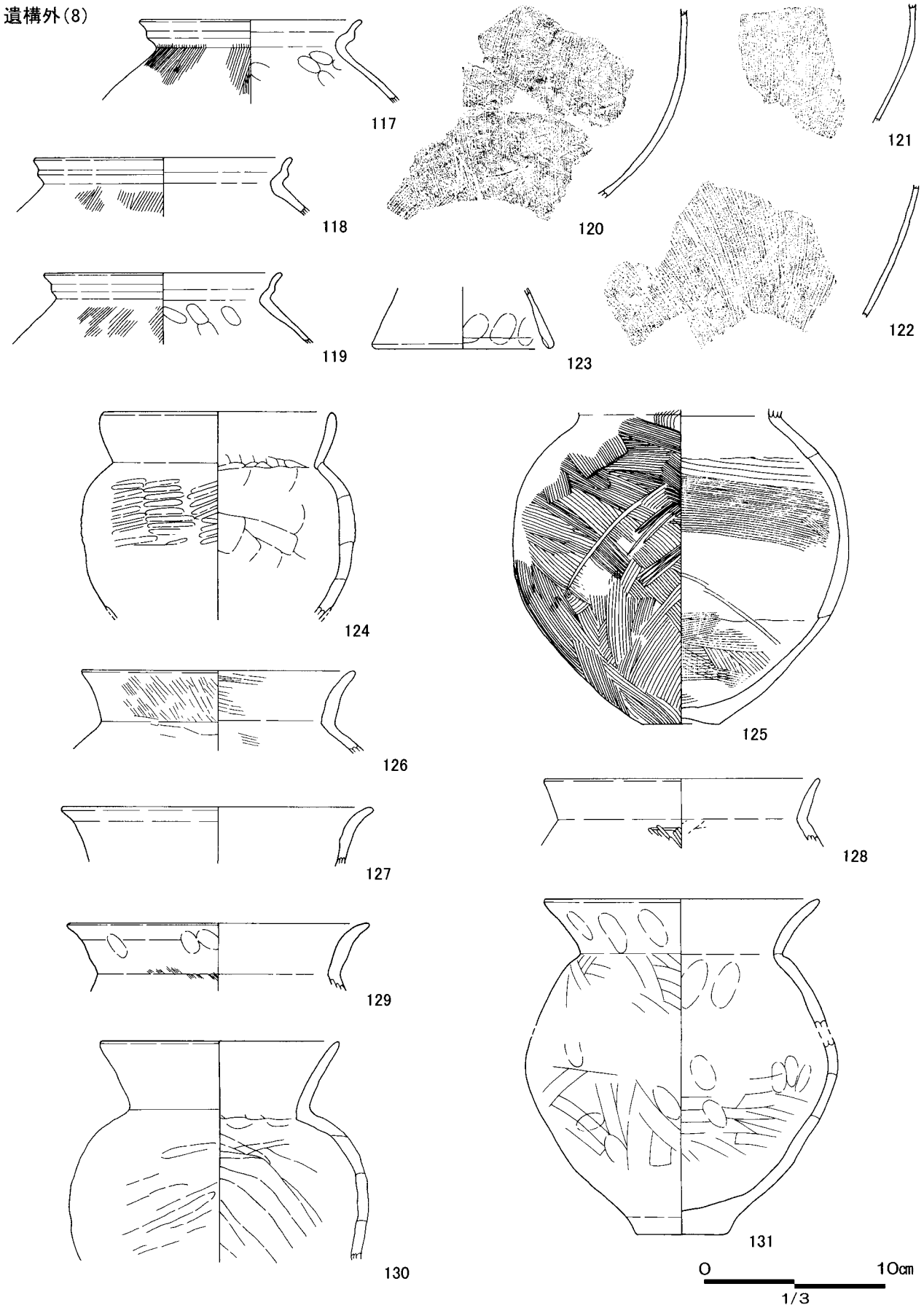
第72図　V区出土土器(40)

遺構外(7)



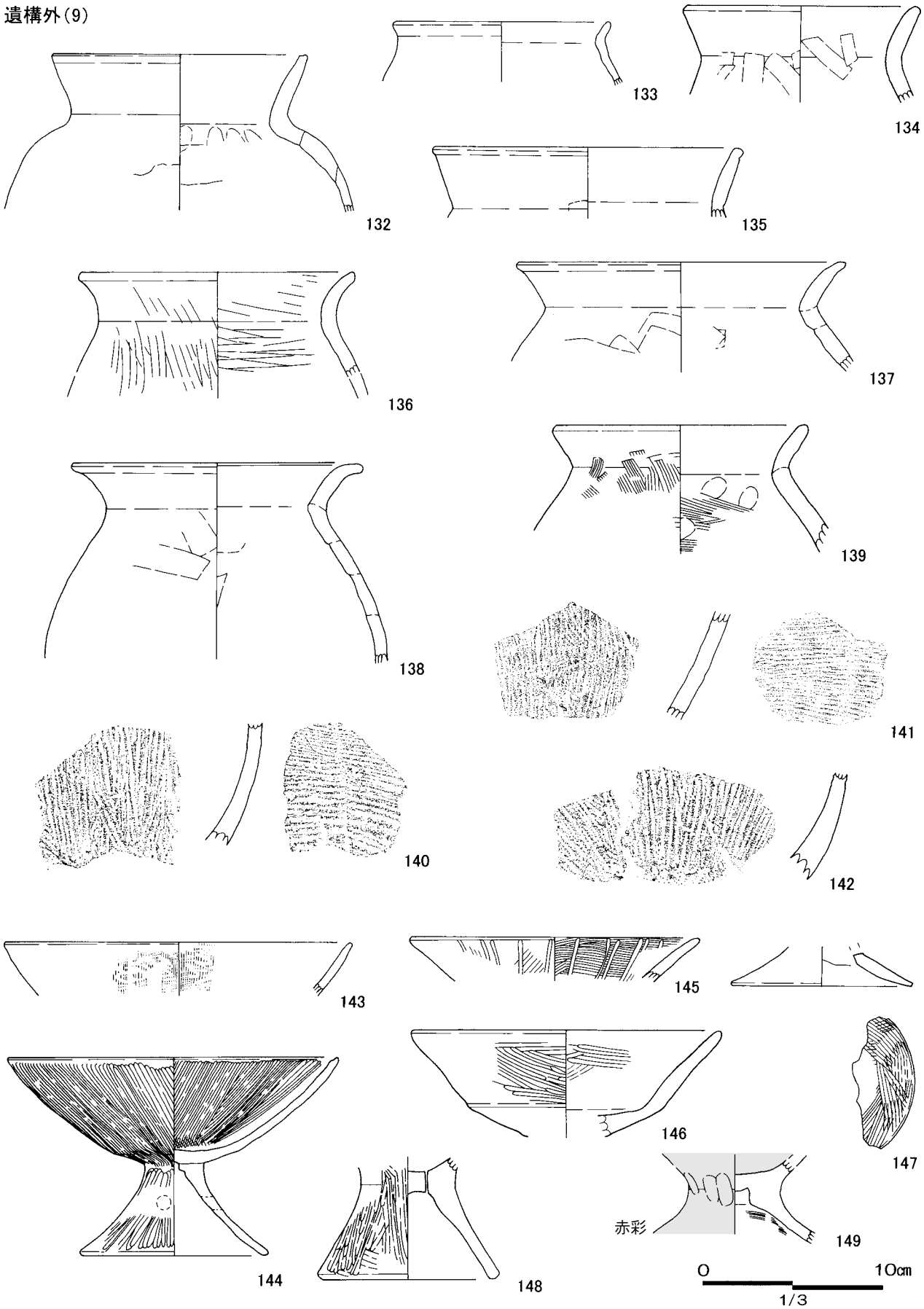
第73図　V区出土土器(41)

遺構外(8)



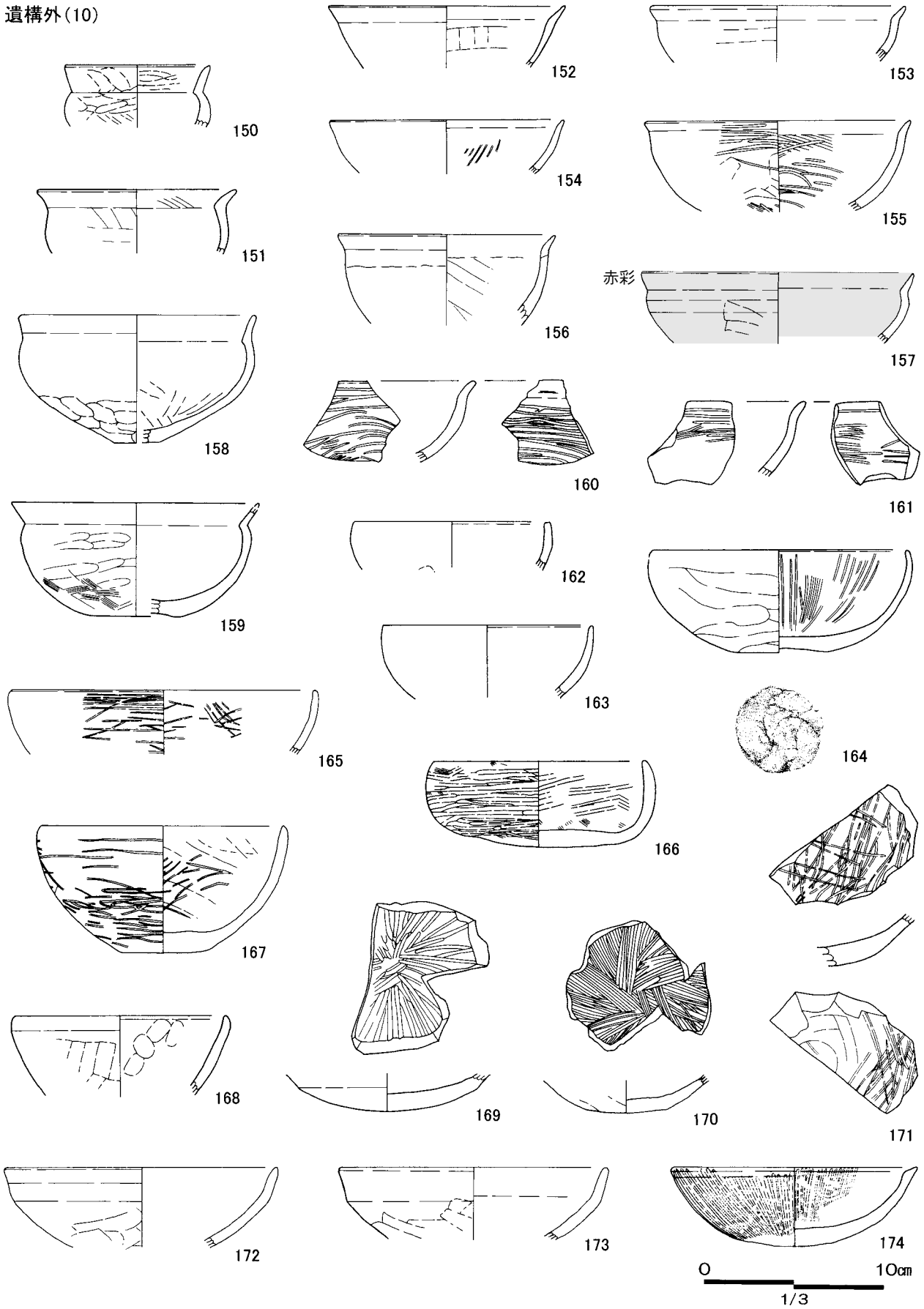
第74図　V区出土土器(42)

遺構外(9)



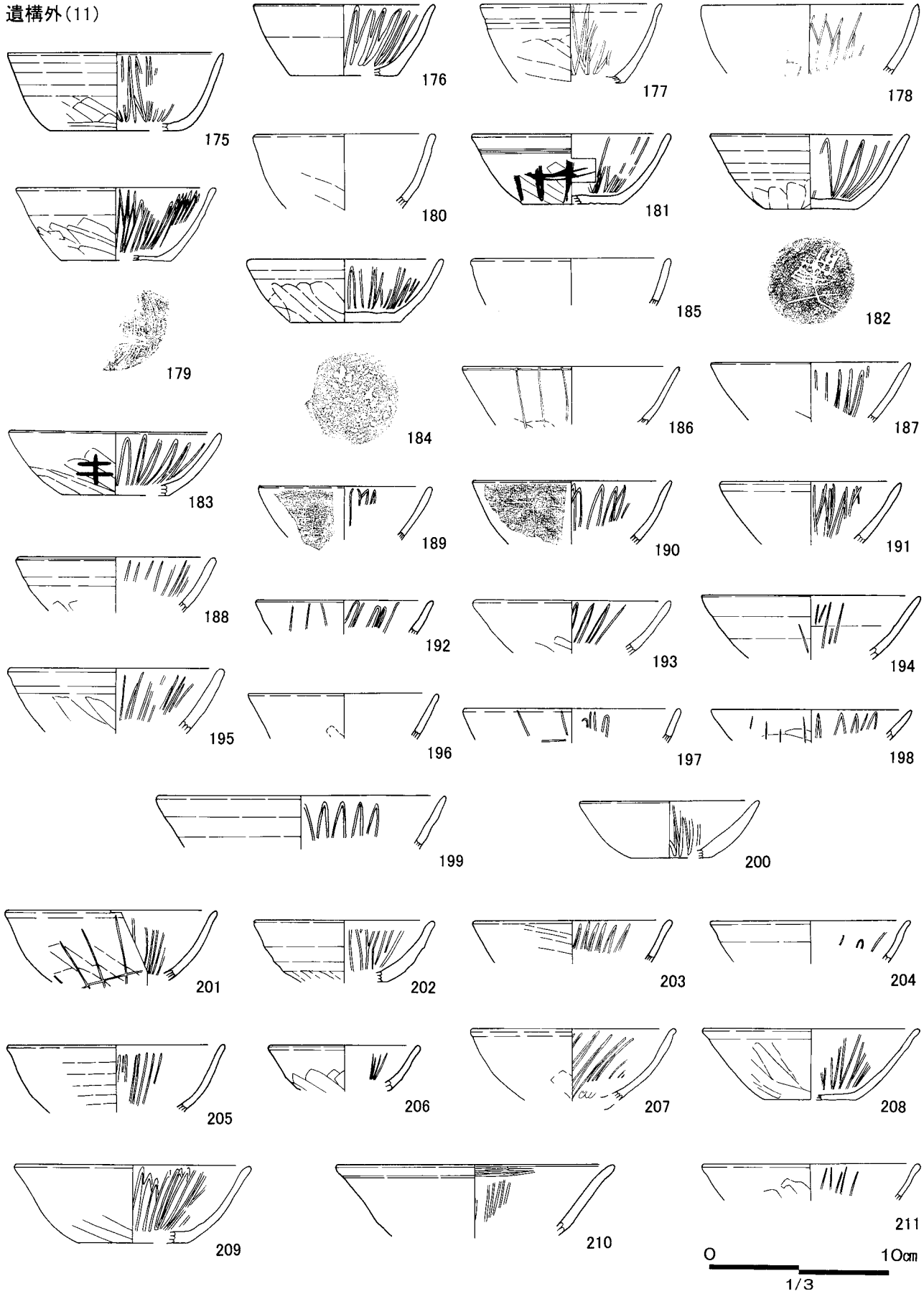
第７５図　Ｖ区出土土器（４３）

遺構外(10)



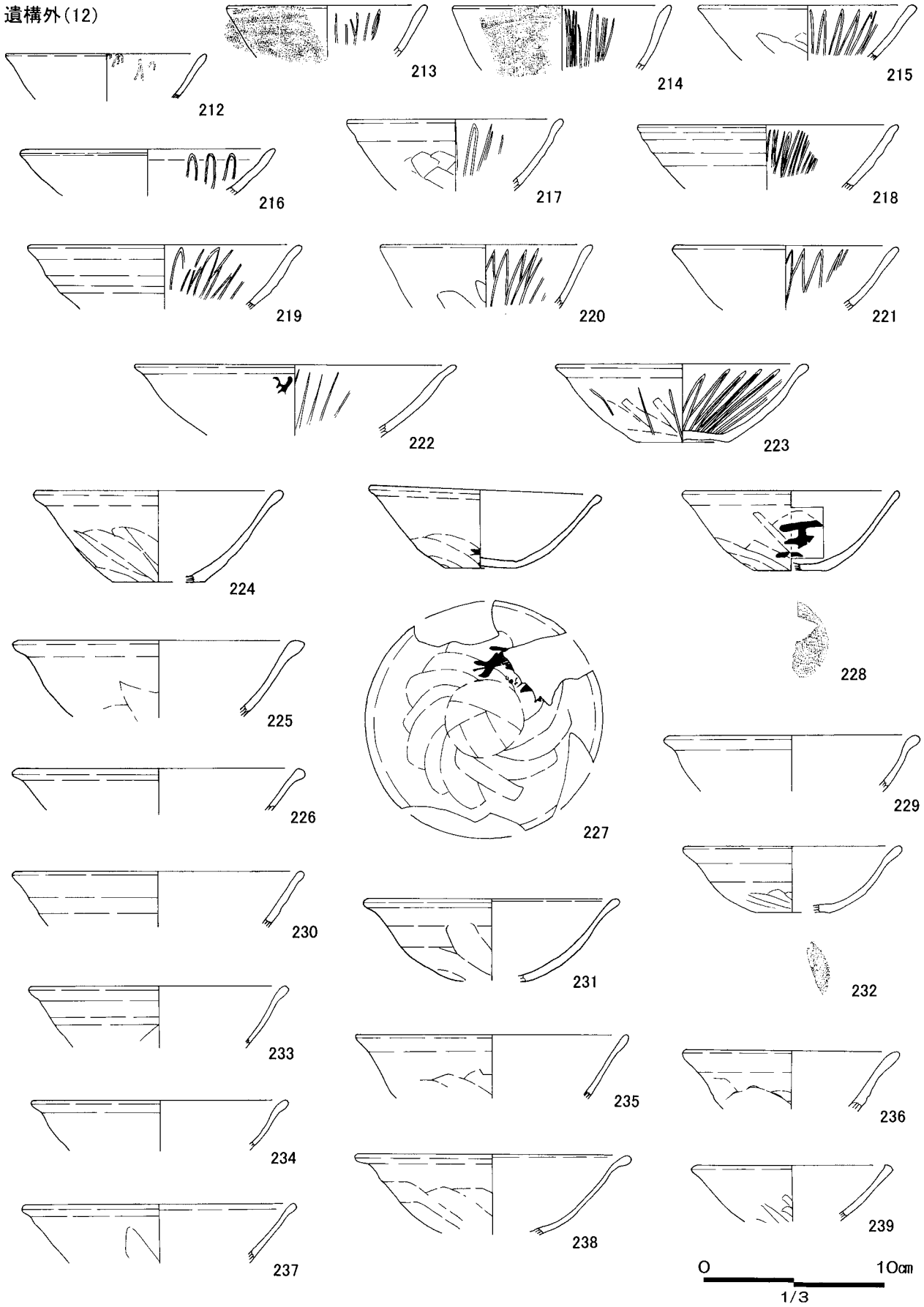
第76図　V区出土土器(44)

遺構外(11)



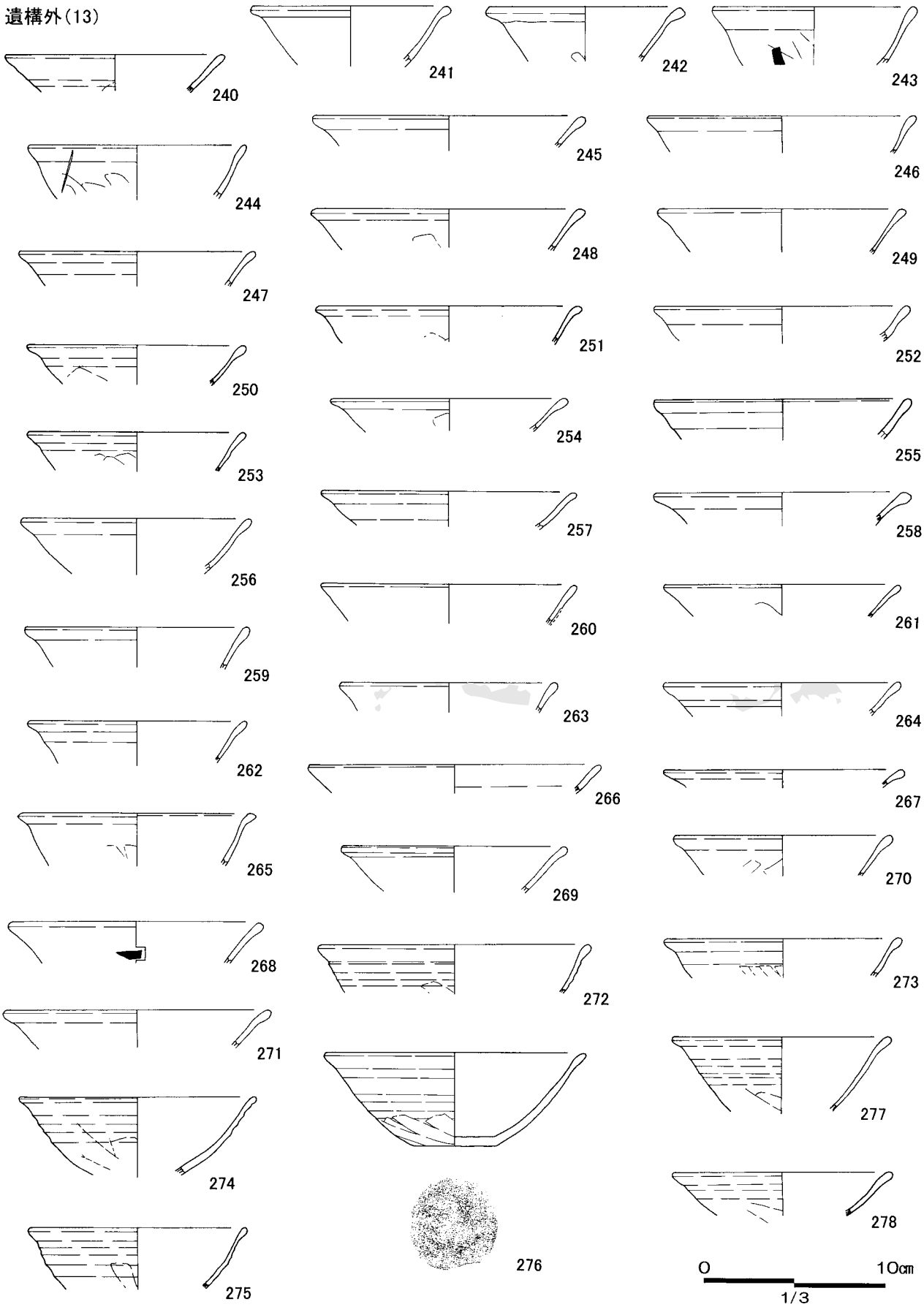
第77図　V区出土土器(45)

遺構外(12)



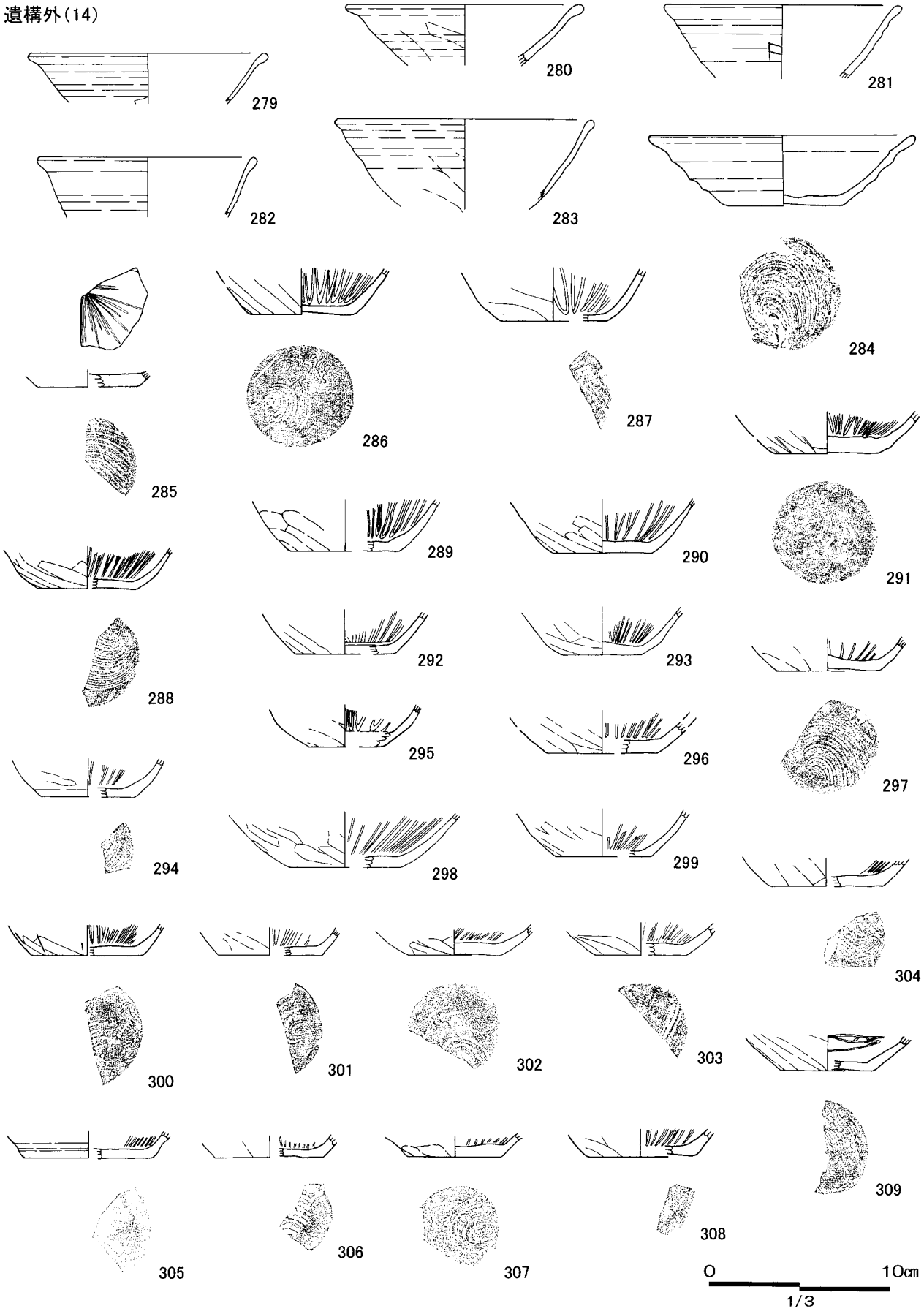
第78図　V区出土土器(46)

遺構外(13)

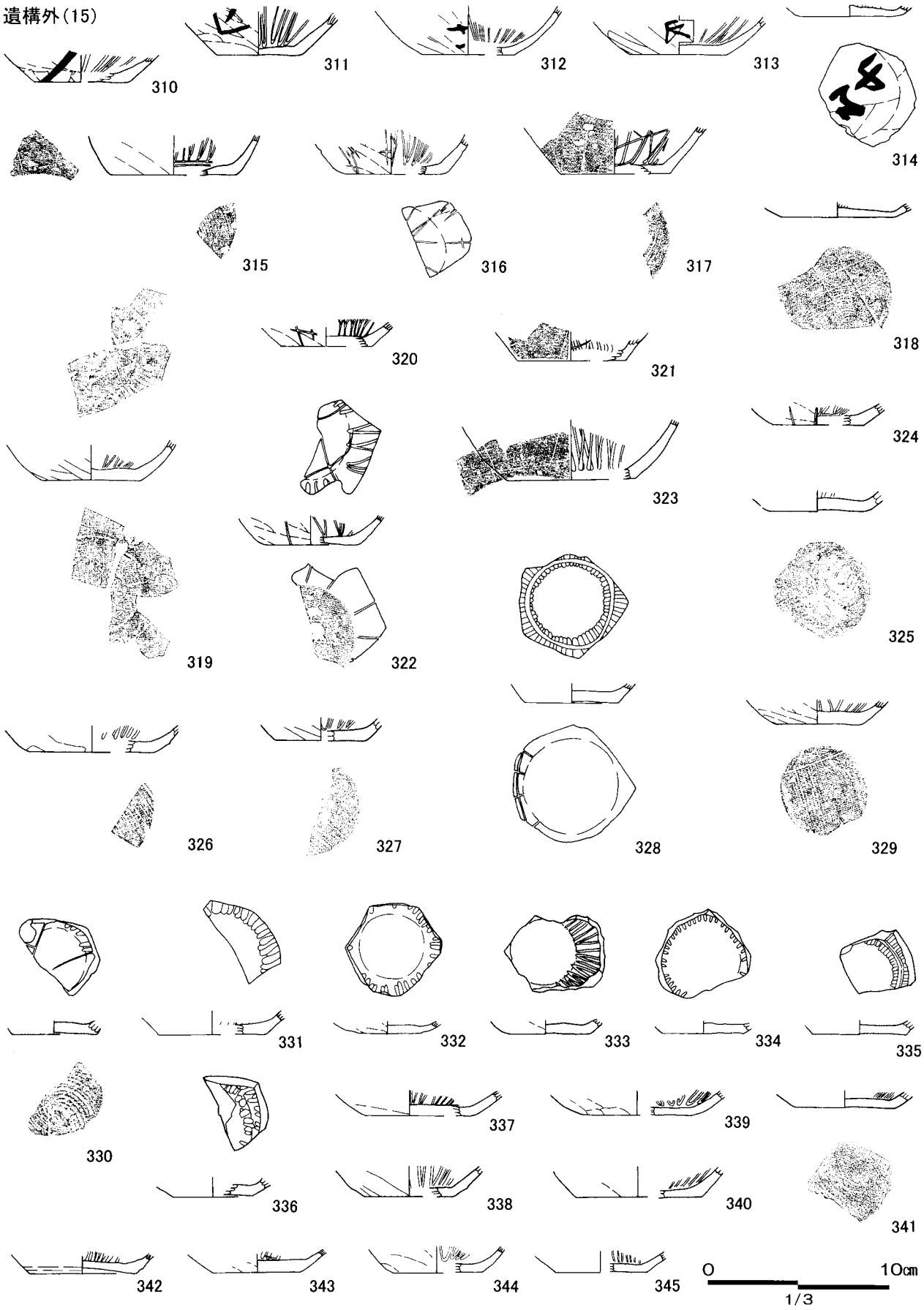


第79図　V区出土土器(47)

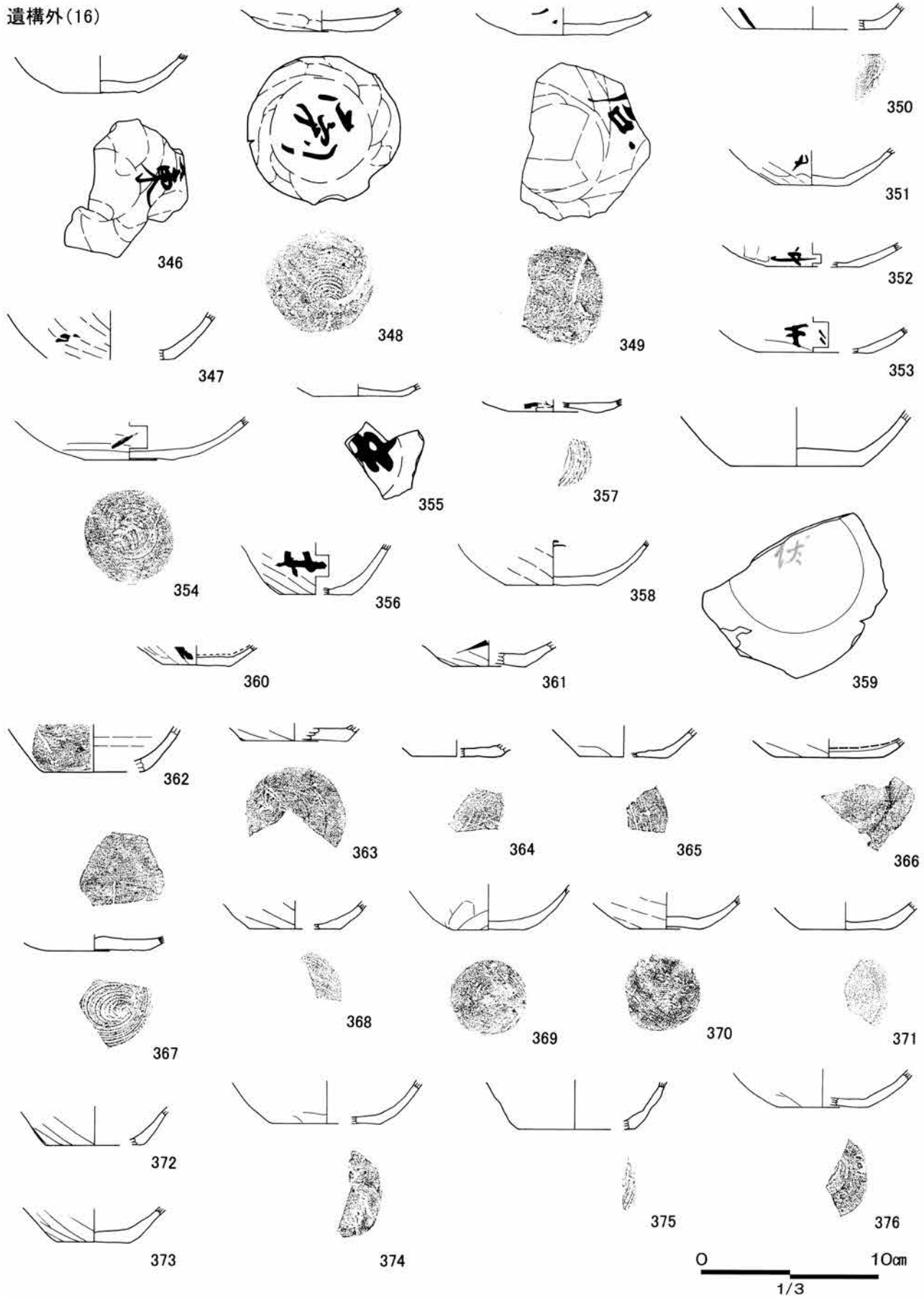
遺構外(14)



第80図　V区出土土器(48)

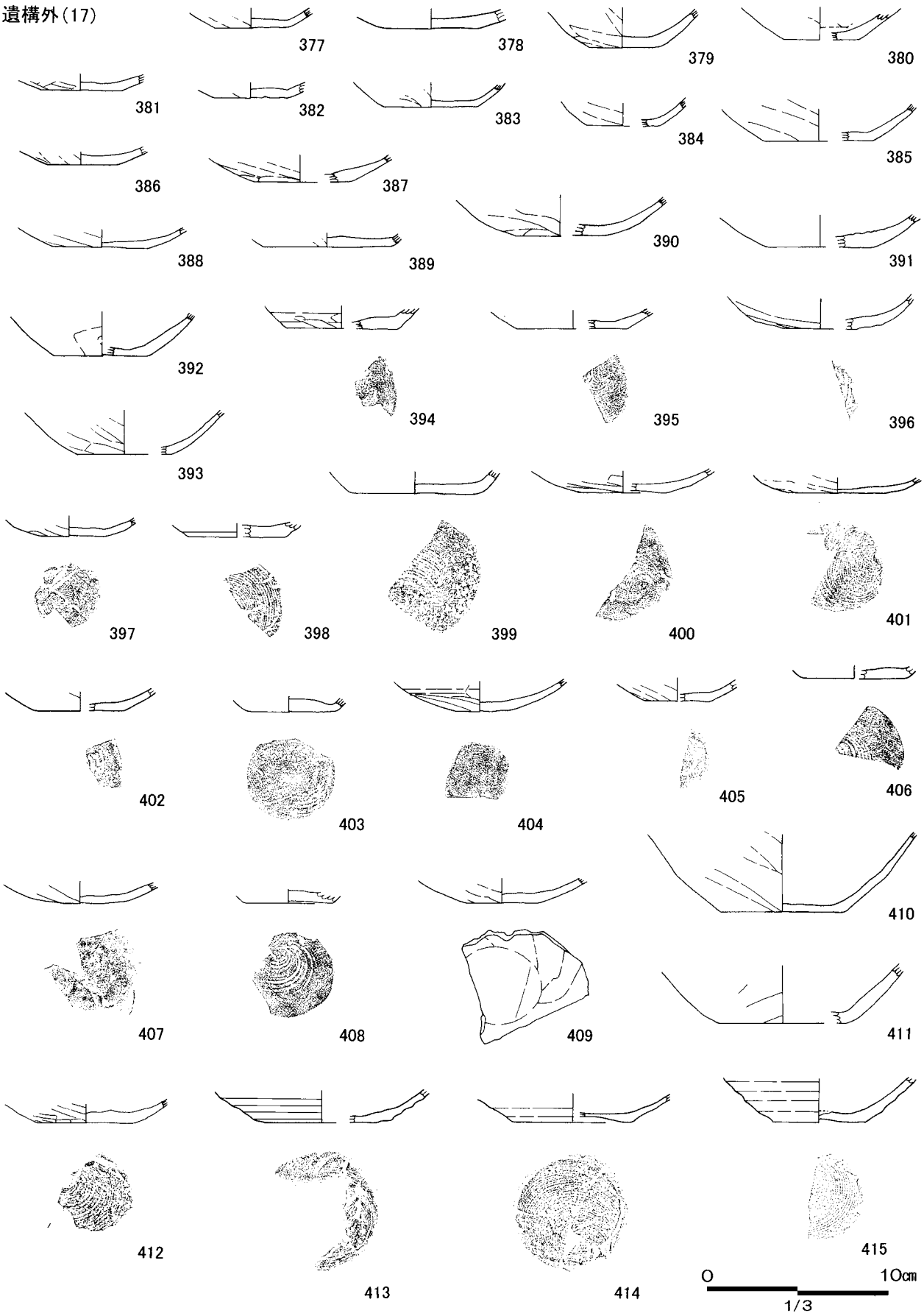


第81図　V区出土土器(49)

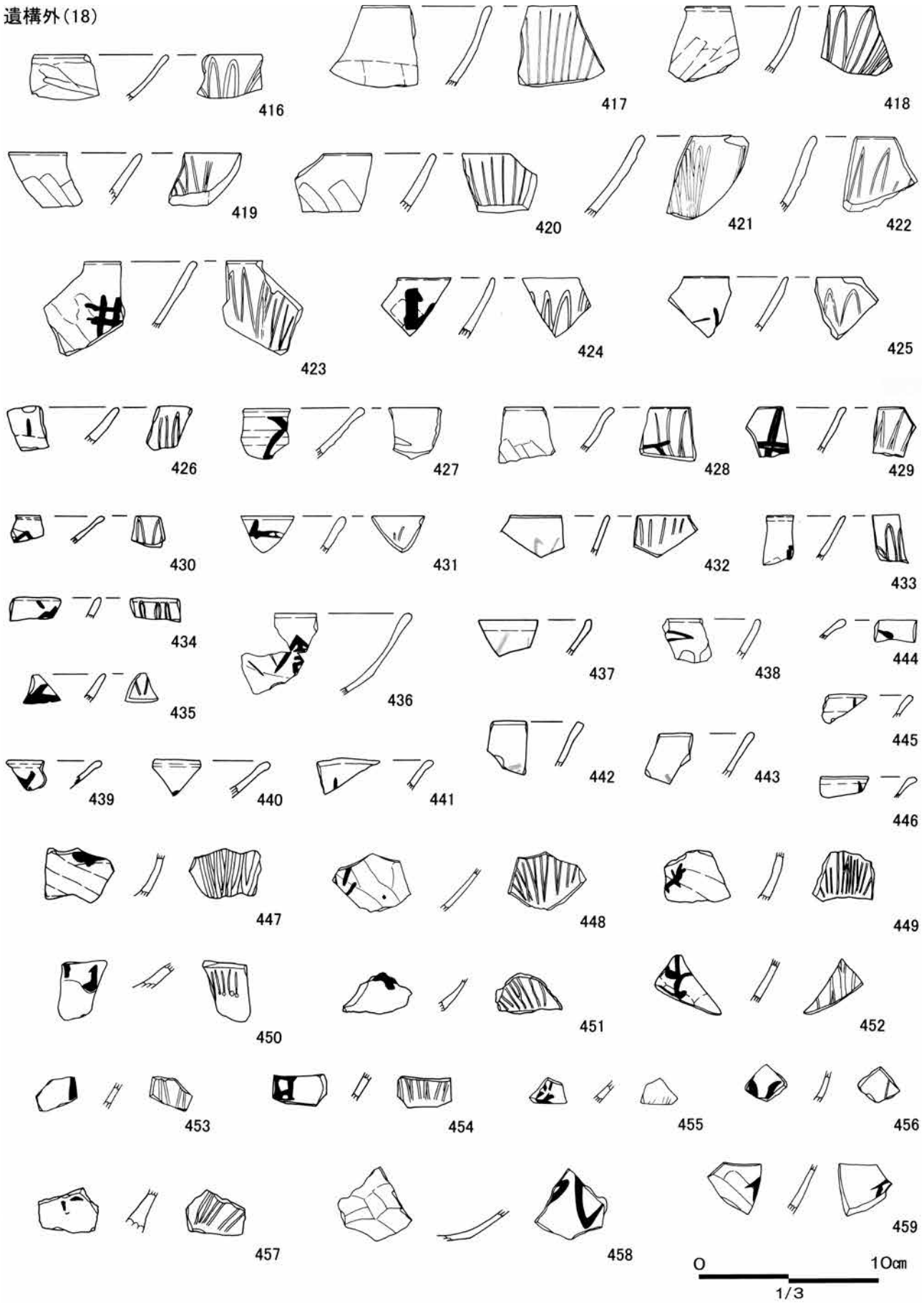


第８２図　Ｖ区出土土器（５０）

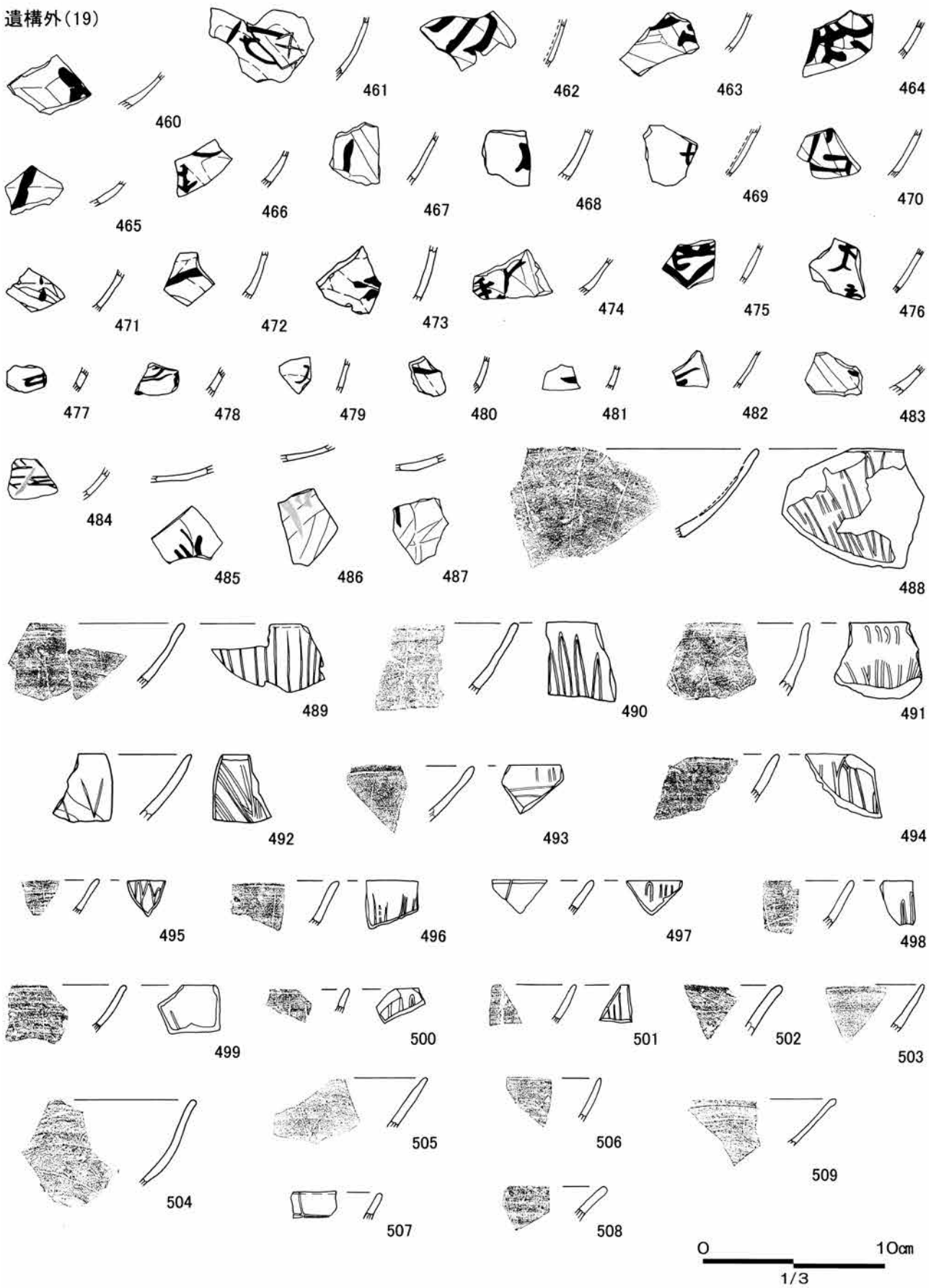
遺構外(17)



第８３図　Ｖ区出土土器（５１）

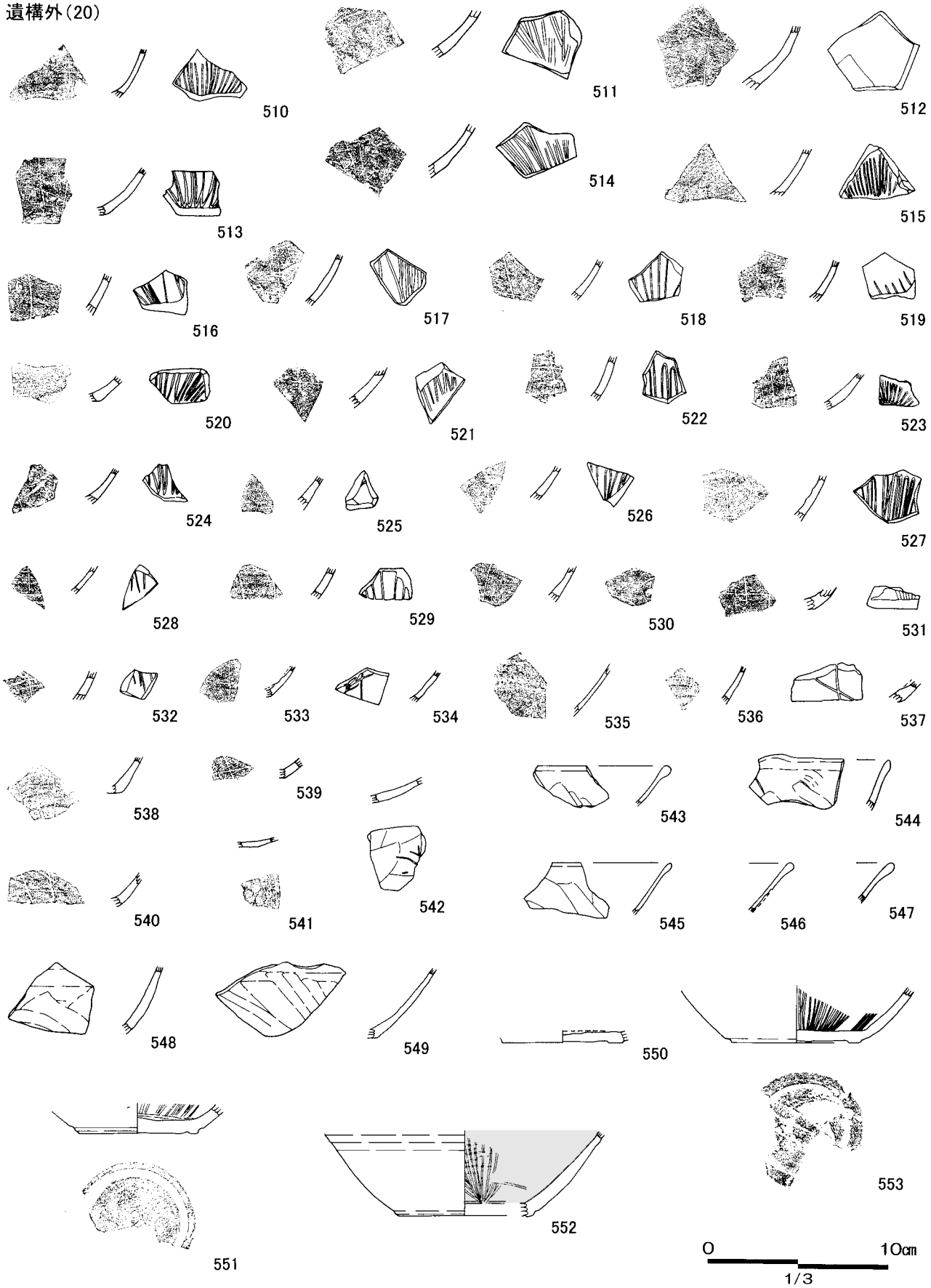


第８４図　Ｖ区出土土器（５２）

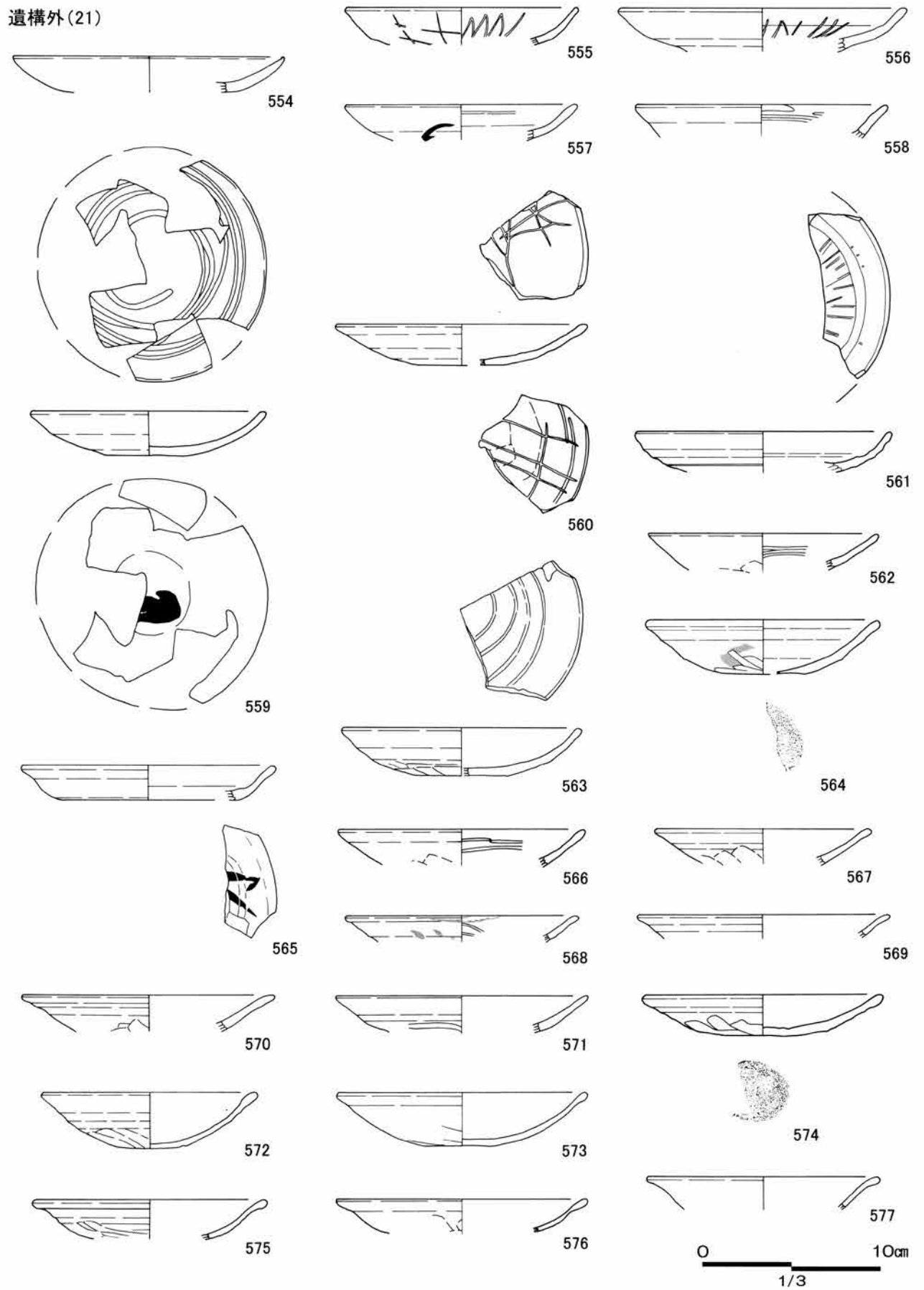


第８５図　Ｖ区出土土器（５３）

遺構外(20)

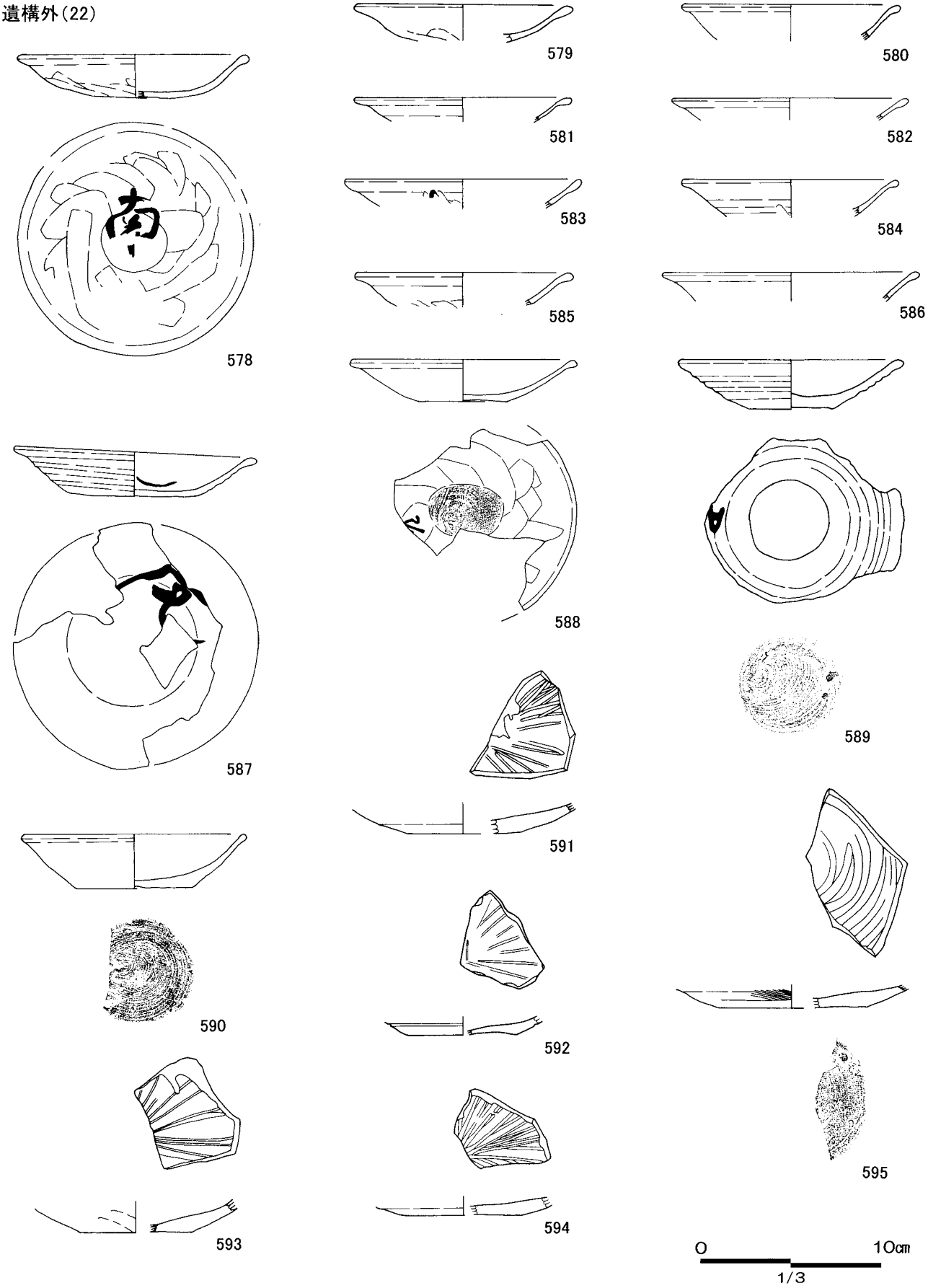


第86図　V区出土土器(54)

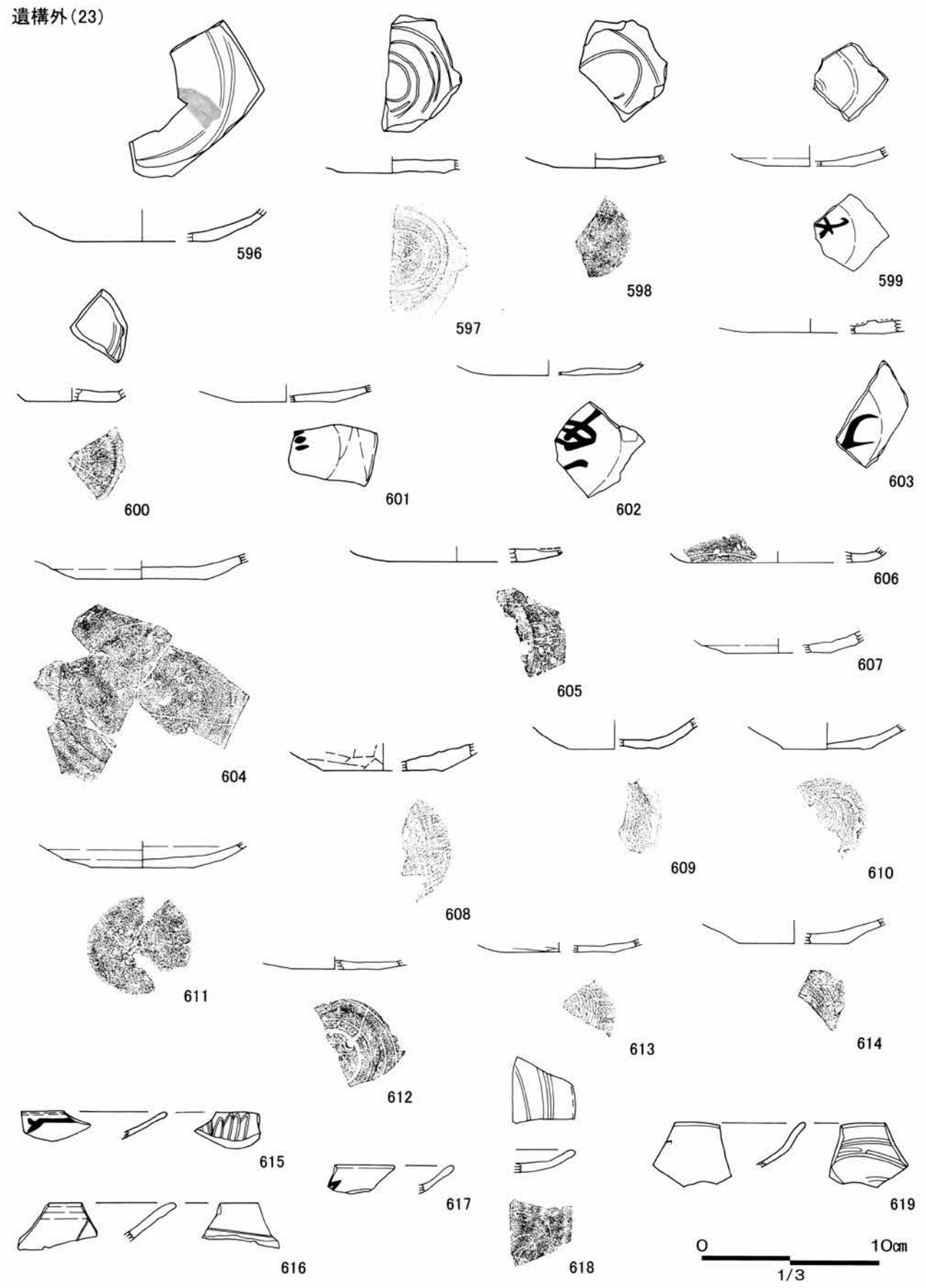


第87図　V区出土土器(55)

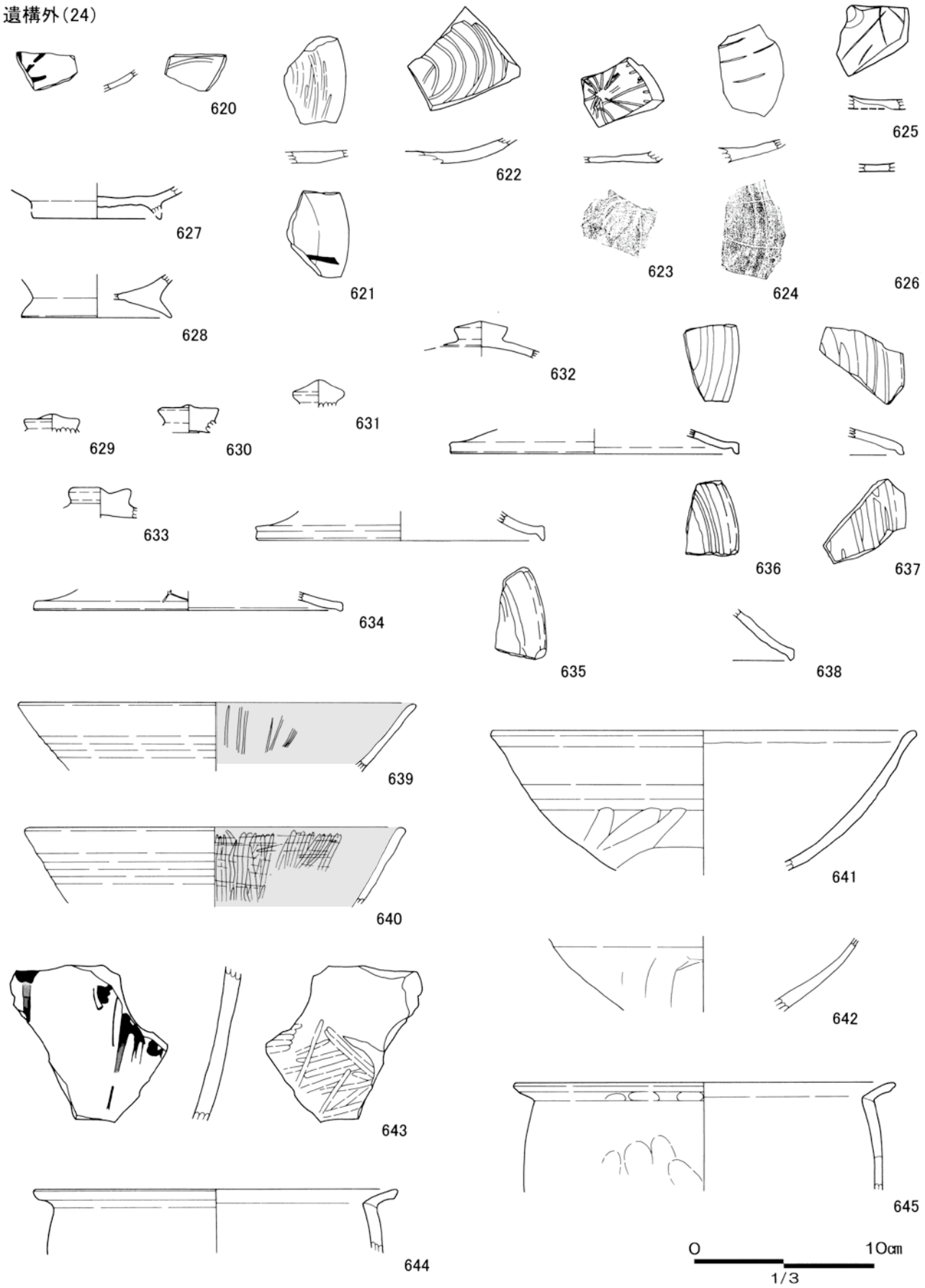
遺構外(22)



第８８図　Ｖ区出土土器（５６）

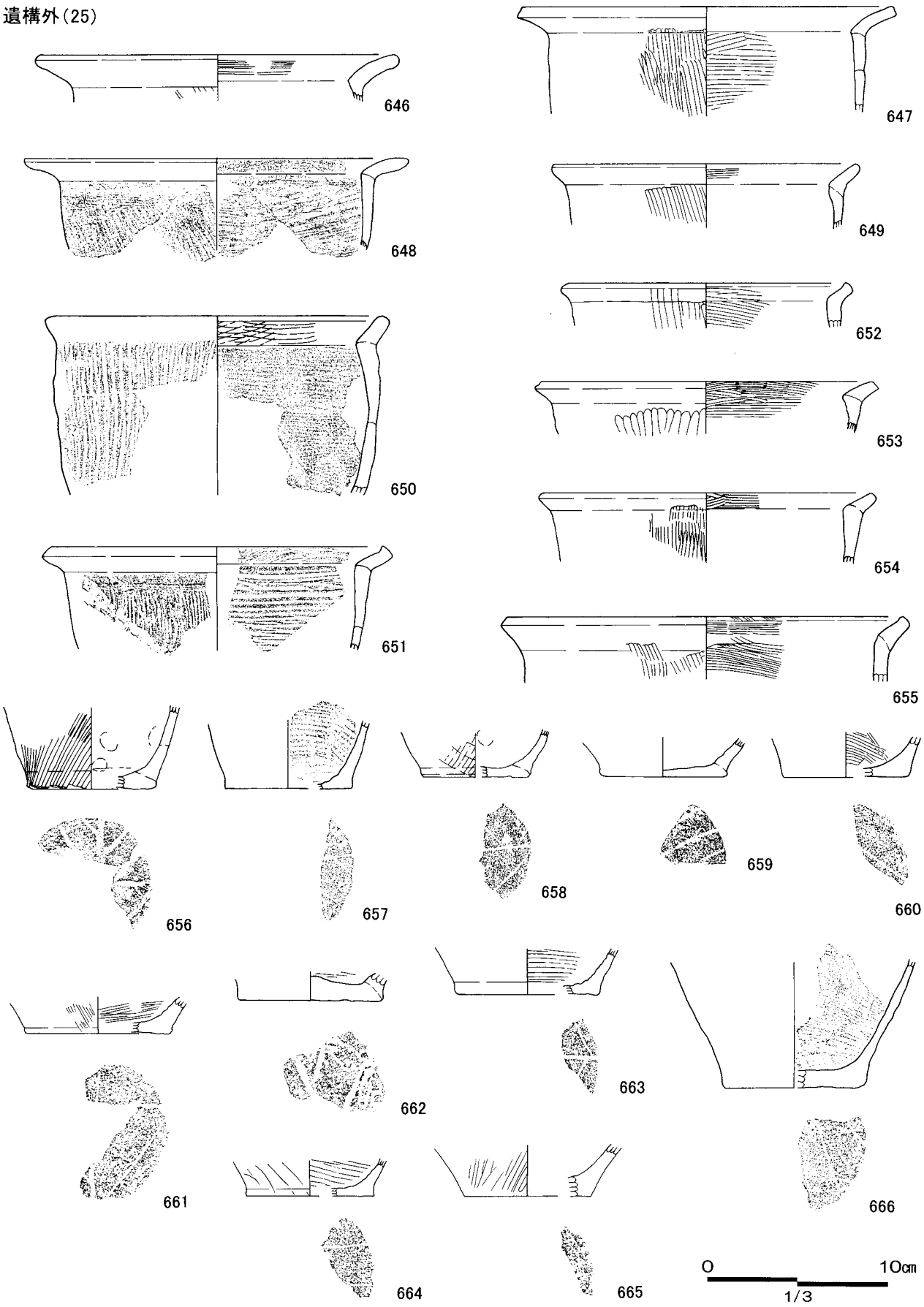


第８９図　Ｖ区出土土器（５７）



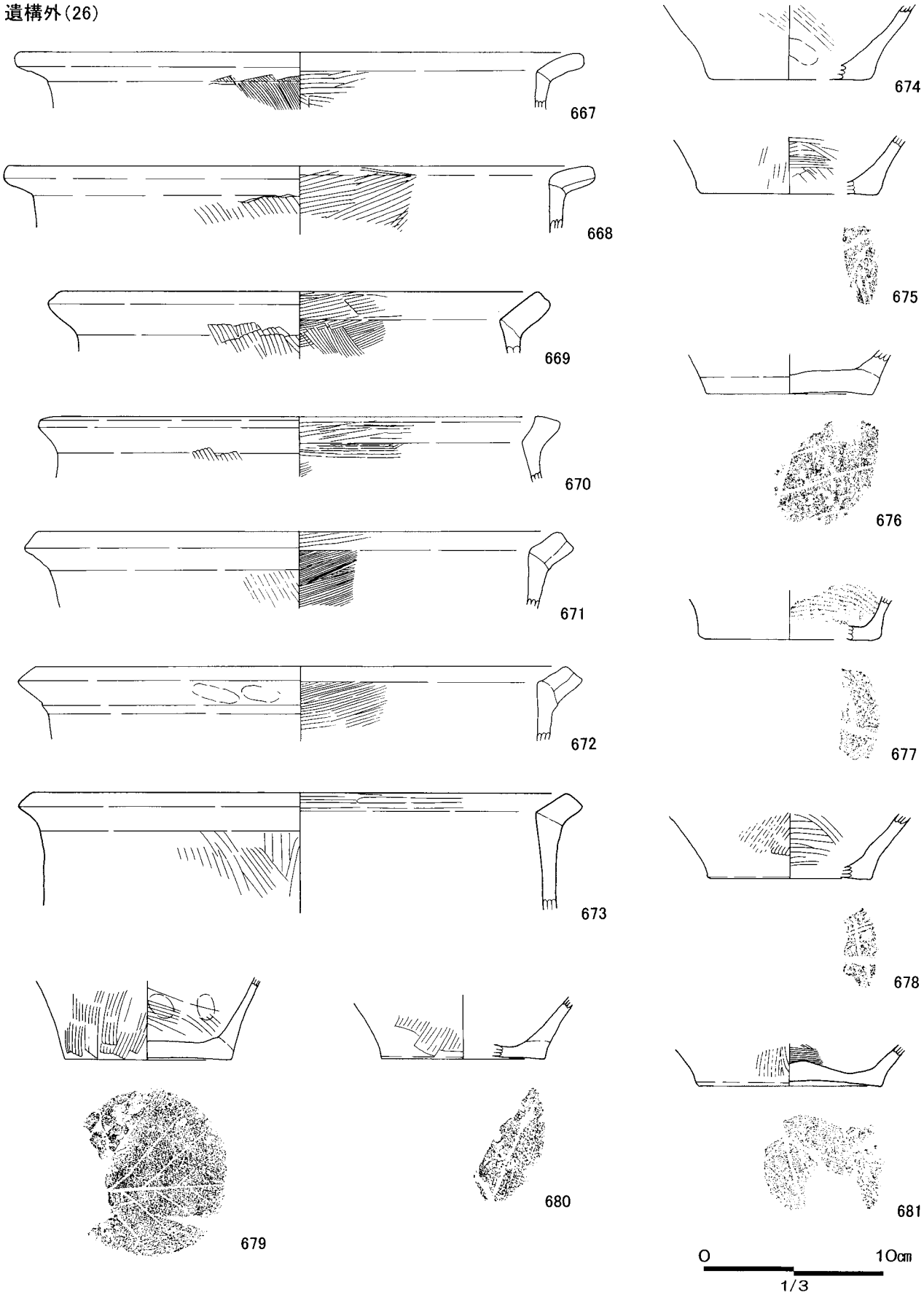
第９０図　Ｖ区出土土器（５８）

遺構外(25)



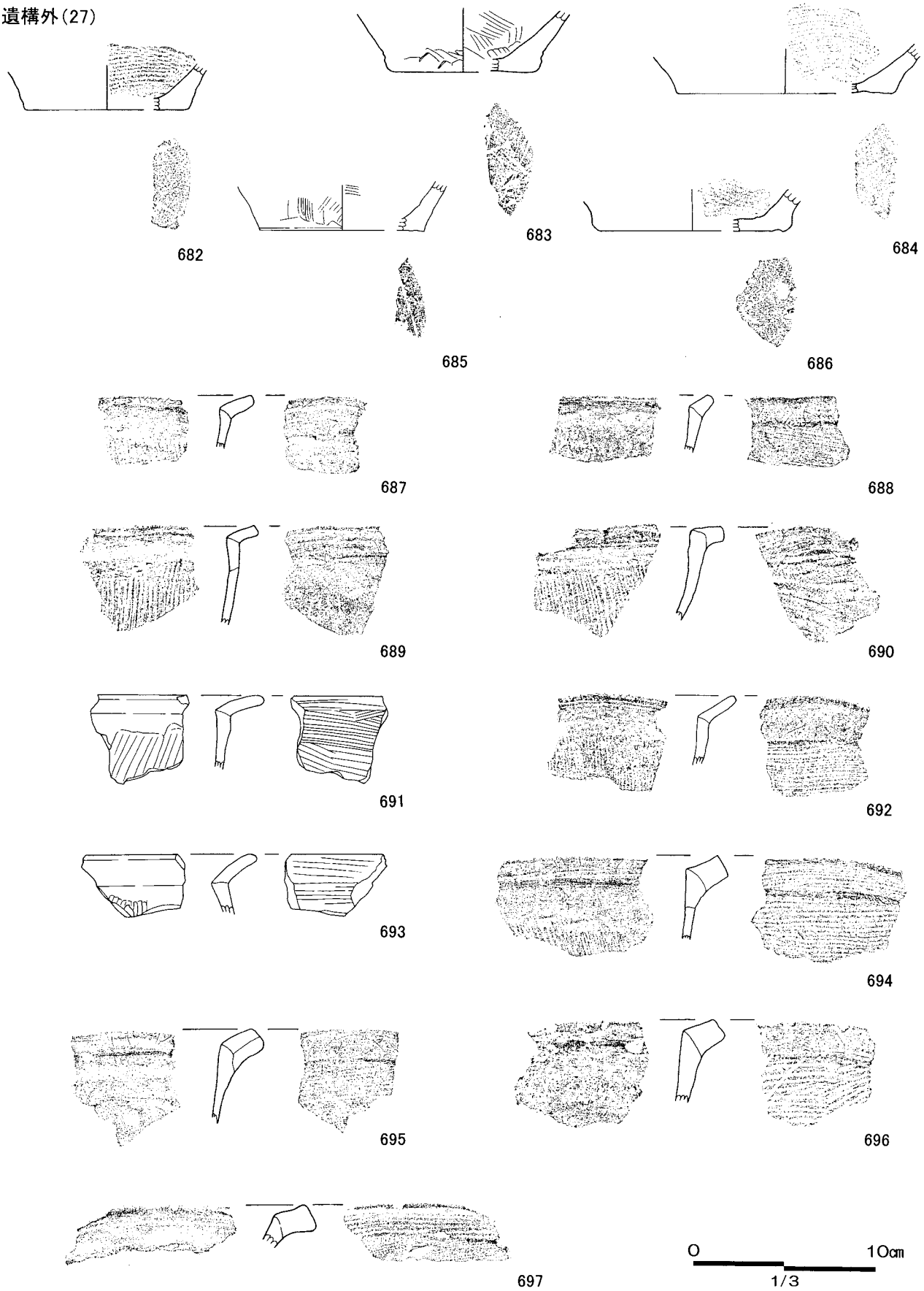
第91図　V区出土土器(59)

遺構外(26)



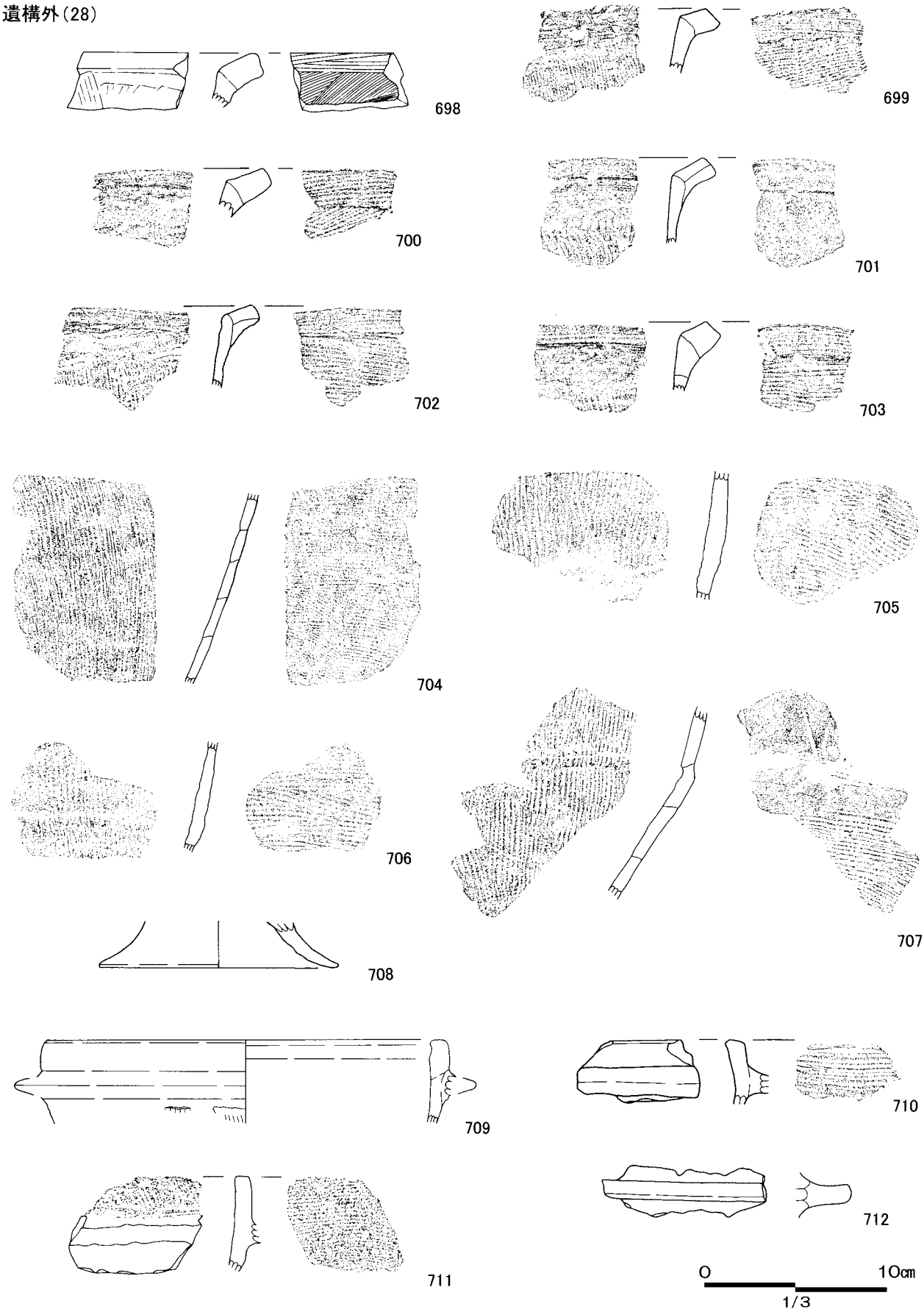
第92図　V区出土土器(60)

遺構外(27)



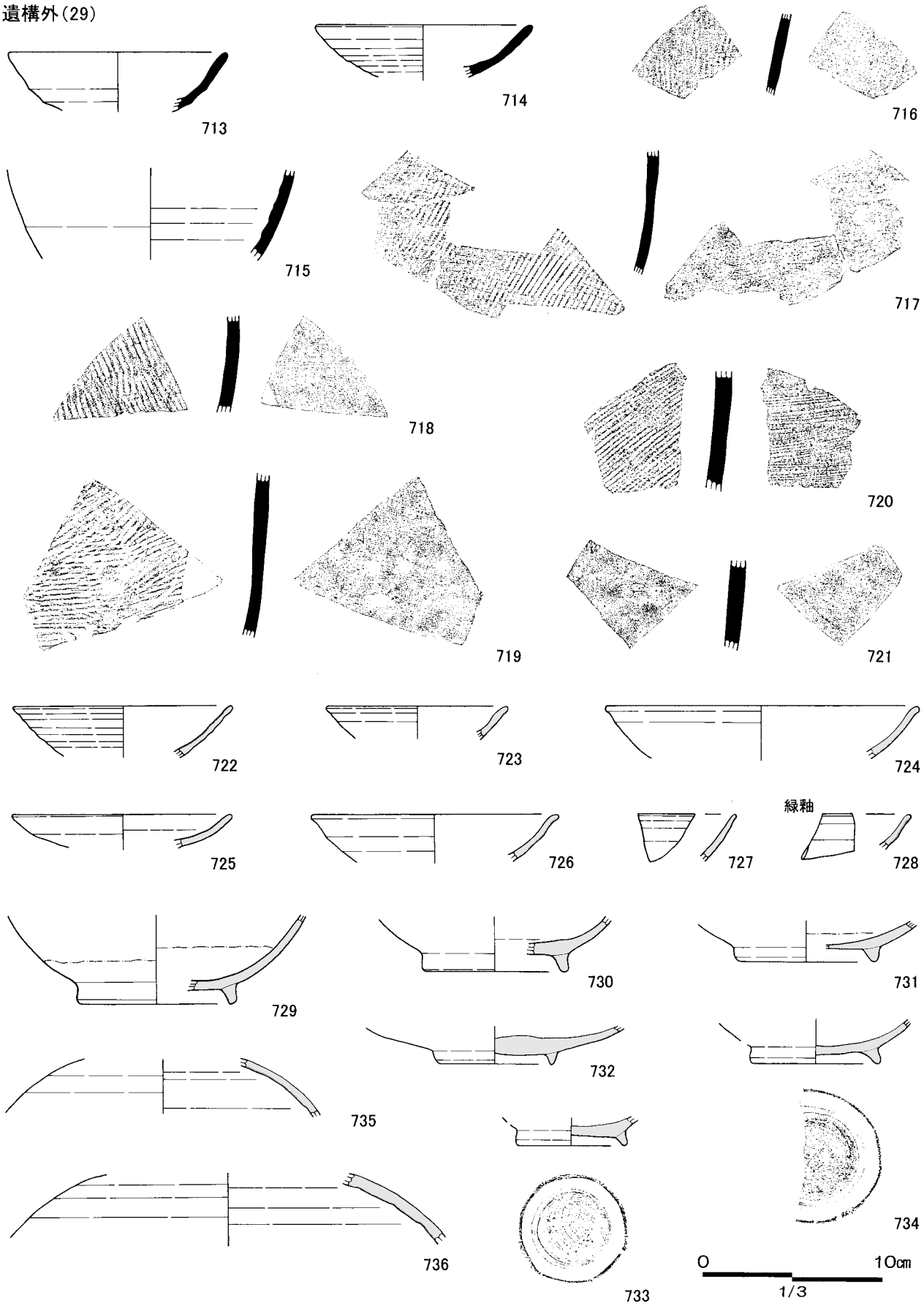
第93図　V区出土土器(61)

遺構外(28)

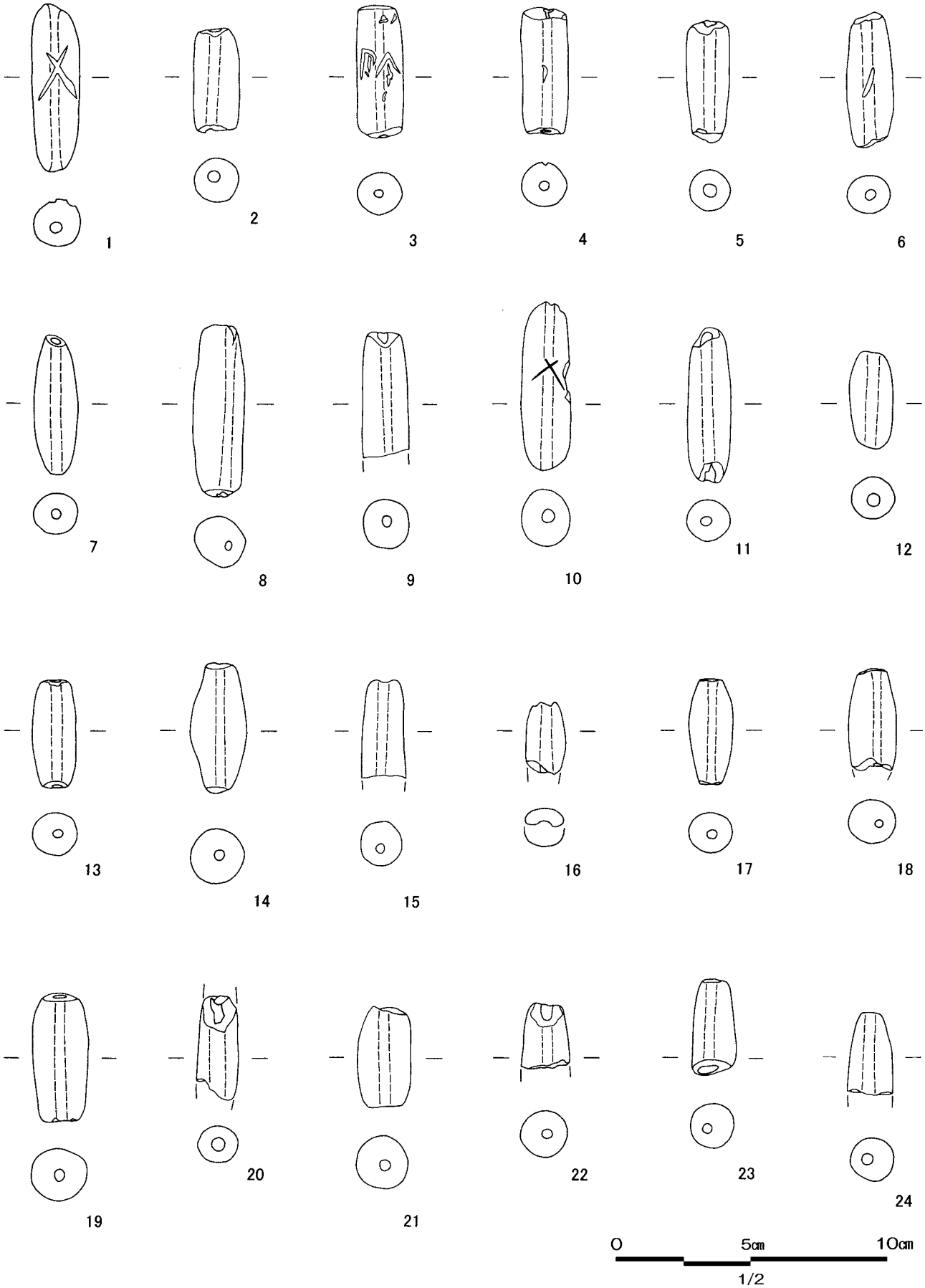


第94図　V区出土土器(62)

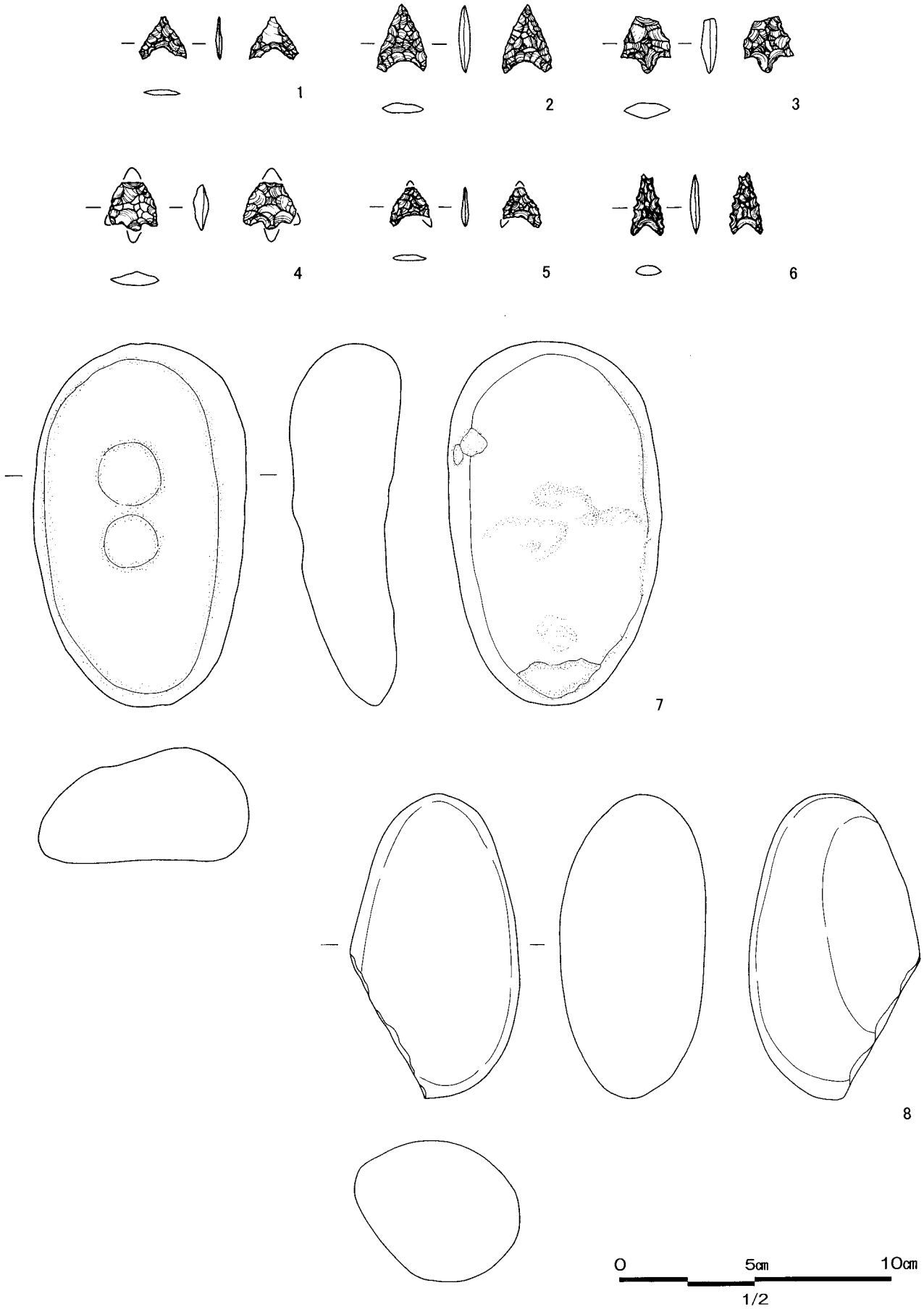
遺構外(29)



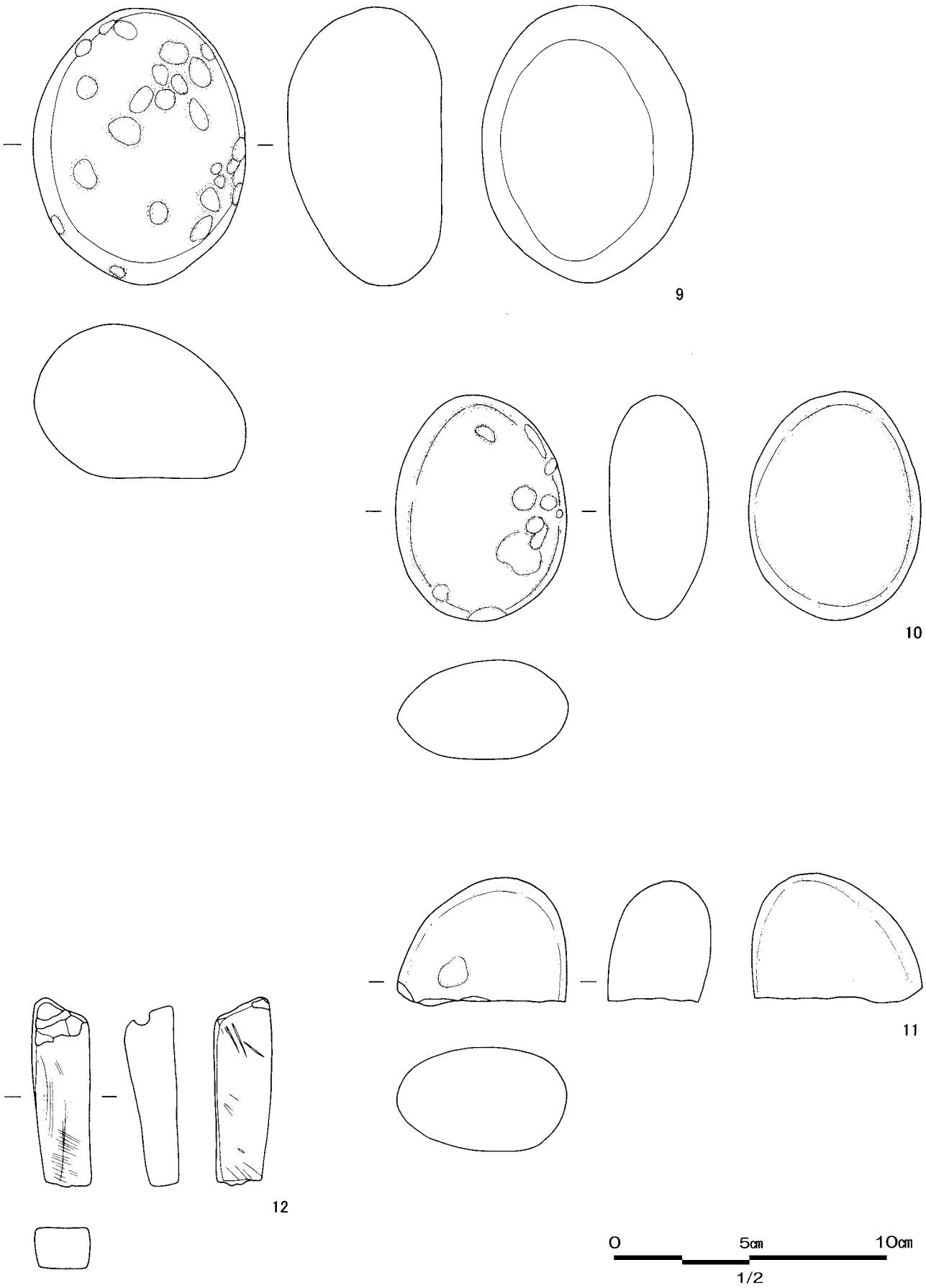
第９５図　Ｖ区出土土器（６３）



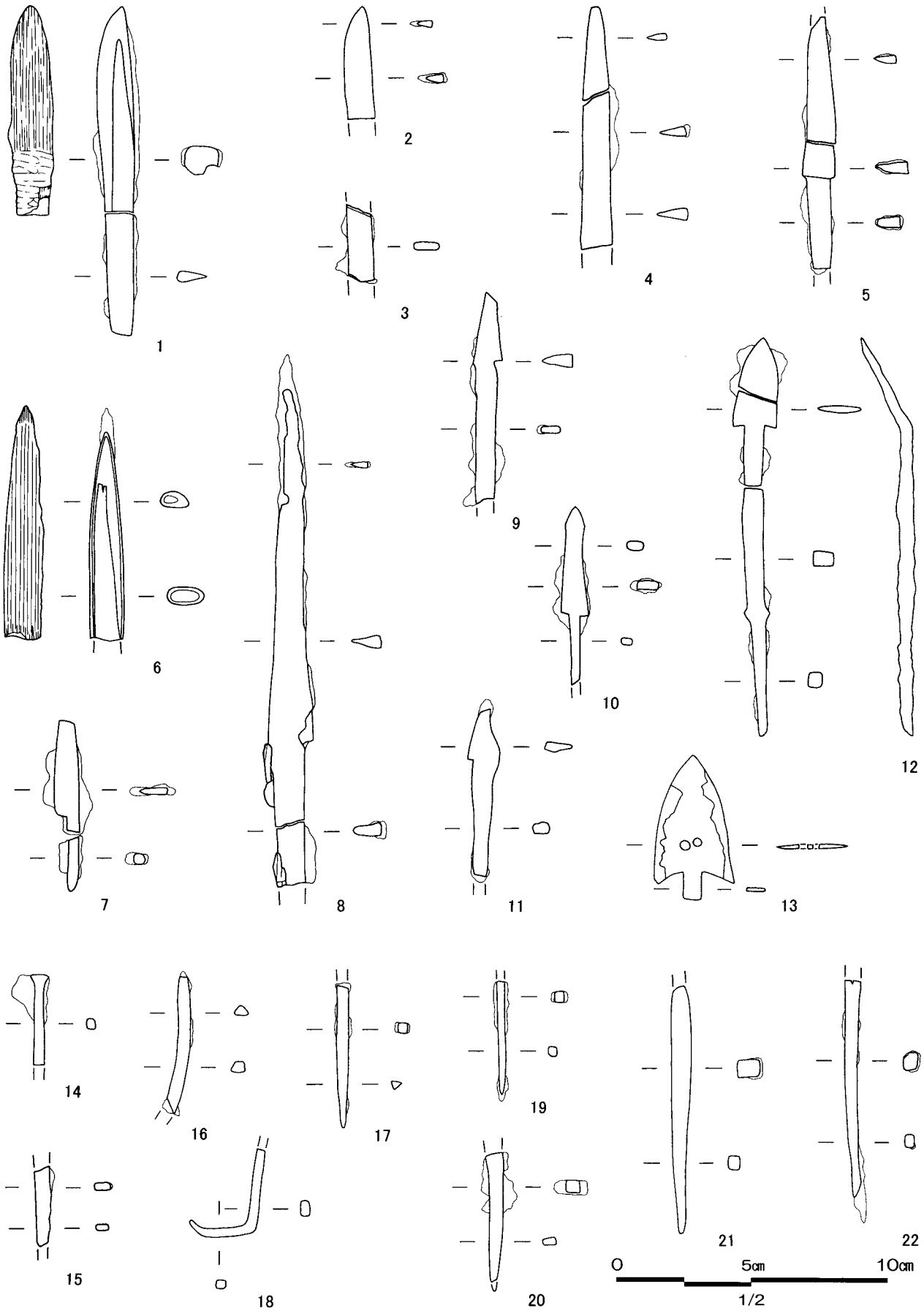
第９６図　Ｖ区出土土製品



第９７図　Ｖ区出土石器・石製品（１）



第９８図　Ｖ区出土石器・石製品（２）



第９９図　Ｖ区出土鉄製品

第４表　Ⅴ区土器観察表（1）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
33	1	1号住	一括	土師器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
33	2	1号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色・赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	刻書
33	3	1号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	刻書
33	4	1号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	刻書
33	5	1号住	一括	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：橙 7.5YR6/6	赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、墨書「江□」
33	6	1号住	Ｐ１	土師器	皿	70%	14.4	6.0	2.4	ロクナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	
33	7	1号住	一括	土師器	皿	破片	16.0	－	－	ロクナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
33	8	1号住	一括	土師器	甕	破片	－	9.0	－	ナナメハケ、木葉痕	ヨコ・ナナメハケ	外：灰黄褐 10YR4/2 内：にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
33	9	1号住	Ｐ６	弥生土器	壺	破片	－	－	－	沈線文、縄文	ナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	
33	1	2号住	P24、カマド P7・26、1住一括	土師器	甕	80%	11.0	4.0	4.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状・螺旋状暗文	外：橙７．5YR6/6 内：赤褐 5YR4/8	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	
33	2	2号住	P17	土師器	杯	破片	13.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、暗文不鮮明	明赤褐２．5YR5/6	白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
33	3	2号住	P15	土師器	杯	破片	10.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測、剥離あり
33	4	2号住	カマド一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・赤色粒子	良	9C 第４四半期	墨書
33	5	2号住	P27、カマド P20、2住焼土、AW-10一括	土師器	内黒鉢	30%	18.0	6.5	5.1	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状・螺旋状暗文	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：暗灰 N3/0	赤色粒子	良	9C 第４四半期	剥離あり
33	6	2号住	カマド P27、1住一括	土師器	杯	20%	13.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：明褐 5YR 5/6 内：褐灰 5YR4/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測、剥離あり
33	7	2号住	P1、P20、カマド P18	土師器	皿	40%	13.0	8.4	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色 5YR6/6	白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測、剥離あり
33	8	2号住	P23、一括、1住一括	土師器	皿	60%	12.0	4.4	2.8	ロクロナデ、ヘラ切り	ロクロナデ、放射状暗文	外：赤褐 5YR4/6 内：橙 7.5YR6/6	黒色粒子	良	9C 第４四半期	
33	9	2号住	P4、カマド P4、1住一括	土師器	皿	70%	13.0	5.0	2.7	ロクロナデ　ヘラ切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	外：橙 5YR6/6 内：黒褐 5YR3/1	白色粒子	良	9C 第４四半期	剥離あり
33	10	2号住	カマド P19	土師器	皿	破片	－	10.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：明赤褐 5YR5/6・にぶい橙 7.5YR/2/1、内：黒 7.5YR/2/1	赤色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
34	11	2号住	P11、AX-10、AW-10 P75	土師器	皿	30%	13.0	7.0	2.6	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測、墨書
34	12	2号住	P3、AW-10	土師器	皿	80%	12.4	3.5	3.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：明褐 7.5YR5/6 内：明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	9C 第４四半期	墨書「太東」？
34	13	2号住	P8、AW-11P5、P20、1住一括、AW-11一括	土師器	皿	80%	13.0	5.0	2.4	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	墨書「刀」
34	14	2号住	P2	土師器	甕	破片	26.0	－	－	口縁部ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	褐 7.5YR4／3	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
34	15	2号住	P21、AW-11P62	土師器	甕	破片	26.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR5/4 橙 7.5YR7/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
34	16	2号住	カマド P1・11・12、焼土一括、6住 P17・76・89	土師器	甕	破片	27.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	外：にぶい赤褐 2.5YR4/4 内：黒 YR 1.7/1	金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
34	17	2号住	カマド P2・P3	土師器	甕	破片	30.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
35	18	2号住	P5、カマド P13・25、1住、1住カマド	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ不鮮明	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
35	19	2号住	カマド P8・9	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	
35	20	2号住	カマド P16・21・29	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	
35	21	2号住	P16・25、カマド P17・24、一括、1住一括	土師器	甕	20%	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	
35	22	2号住	P22	土師器	甕	破片	－	9.0	－	ナナメハケ、木葉痕	ヨコハケ不鮮明	外：明黄褐 10YR6/8 内：赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
36	23	2号住	9土 P13・14・15・17、一括	土師器	甕	20%	－	－	－	タテ、ナナメハケ	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	2住２カマド(旧９号土坑)
36	24	2号住	9土 P3・4・5	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	指ナデ・オサエ、ヨコ・ナナメハケ	暗赤褐 5YR3/2	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	2住２カマド(旧９号土坑)
36	25	2号住	9土 P9・16	土師器	甕	破片	－	－	－	タテ、ナナメハケ	指ナデ・オサエ、ヨコ・ナナメハケ	赤褐 5YR4/6 黒褐 7.5YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	2住２カマド(旧９号土坑)
36	26	2号住	2住 P13・14	弥生土器	甕	破片	－	12.0	－	ナデ、布圧痕	ナデ	外：明黄褐 10YR6/6 内：赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	弥生中期中葉	反転実測
37	1	3号住	カマド P25	土師器	杯	90%	10.9	4.8	3.7	墨書、ケズリ不鮮明	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	墨書「九」
37	2	3号住	P20	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	3	3号住	一括	土師器	杯	破片	9.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	暗赤灰 2.5YR3/1	黒色・赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（2）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
37	4	3号住	一括	土師器	杯	破片	10.6	－	3.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色・赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	5	3号住	一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	6	3号住	一括	土師器	杯	破片	14.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：褐 7.5YR4/3 内：黒 7.5YR2/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	7	3号住	P2	土師器	杯	破片	12.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 2.5YR6/8	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	8	3号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	墨書
37	9	3号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	墨書
37	10	3号住	P3、一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 5YR6/4	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	11	3号住	P14、一括	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4 灰黄褐 10YR4/2	黒色・赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	12	3号住	一括	土師器	杯	破片	－	5.6	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	13	3号住	カマド P4	土師器	皿	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	14	3号住	一括	土師器	皿	破片	13.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	赤褐 5YR4/8	黒色・赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	15	3号住	カマド P37・40	土師器	皿	完形	14.0	6.0	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	
37	16	3号住	カマド P17・20	土師器	皿	35%	14.4	7.4	2.0	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	赤褐 5YR4/6	黒色・赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	17	3号住	一括	土師器	皿	30%	13.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、墨書「本人」？
37	18	3号住	P31・7住一括、AW-13一括	土師器	皿	破片	－	6.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	19	3号住	カマド P19	土師器	小甕	15%	14.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色粒子、金色雲母、石英	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	20	3号住	カマド P16・32、カマド一括	土師器	甕	破片	22.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
37	21	3号住	カマド P30・3 4、カマド一括	土師器	甕	破片	26.5	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色・粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
38	22	3号住	P 7、一括	土師器	甕	破片	24.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	赤褐 2.5YR4/6	白色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
38	23	3号住	P14、カマド P12・13・29・39	土師器	甕	破片	23.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母、石英	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
38	24	3号住	カマド P5～7・10・18・22・28・33・35、9住カマド P10・13、3住カマド一括、AW-11・AW-14・3住一括	土師器	甕	30%	19.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ	ナデ、指オサエ	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	相模型甕
38	25	3号住	カマド P26・27、AW-11P30、AT-13一括	土師器	甕	15%	－	8.6	－	タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	褐 7.5YR4/3	黒色粒子、金色雲母、石英	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
38	26	3号住	P5、カマド P38	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	白色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
38	27	3号住	P15	須恵器	長頸壺	30%	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰 5Y4/1、内：灰 5Y6/1	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測　自然釉
38	28	3号住	P16、AW-12 P38・40	土師器	壺	破片	11.4	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ、指ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	古墳前期前半	反転実測
38	1	4号住	P11・71・72、4住一括	土師器	杯	25%	11.2	4.0	4.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測、墨書「不」？
38	2	4号住	P9・10	土師器	杯	50%	12.7	3.8	3.6	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・赤色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	3	4号住	一括、AW-12一括、5住一括	土師器	杯	破片	11.2	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	4	4号住	一括	土師器	杯	破片	11.2	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	5	4号住	P50、カマド一括	土師器	杯	破片	12.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：褐 7.5YR4/3 内：明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	6	4号住	一括	土師器	杯	破片	12.2	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	7	4号住	カマド一括	土師器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	8	4号住	P28・51・73	土師器	杯	破片	13.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	9	4号住	一括	土師器	杯	破片	14.2	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/8	白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	10	4号住	一括	土師器	杯	破片	14.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	11	4号住	P13・14・P16、一括、AW-12 P19	土師器	杯	40%	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	12	4号住	P37	土師器	杯	30%	－	4.2	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	
38	13	4号住	P57	土師器	杯	破片	－	4.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	赤色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	14	4号住	P23	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
38	15	4号住	P1	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ（不鮮明）	ロクロナデ（不鮮明）	褐 7.5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
39	16	4号住	一括	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ（不鮮明）		明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測、墨書
39	17	4号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ		にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子	良	10C 第２四半期	墨書
39	18	4号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	墨書
39	19	4号住	P25	土師器	皿	完形	11.8	2.0	2.65	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・赤色粒子	良	10C 第２四半期	墨書「連」
39	20	4号住	P55	土師器	皿	20%	13.4	5.0	2.7	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/3	白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
39	21	4号住	4住一括、AW-12P9・10・11、AW-12一括	土師器	皿	破片	12.0	4.7	2.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
39	22	4号住	P24	土師器	皿	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測、墨書・刻書

第４表　Ⅴ区土器観察表（3）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
39	23	４号住	P5・17、一括、５住カマド一括、AV-11一括	土師器	皿	40%	14.7	7.6	1.9	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
39	24	４号住	４住一括、カマド一括	土師器	皿	破片	－	5.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい橙 5YR6/4	黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
39	25	４号住	P6、AW-12P3	土師器	皿	破片	－	6.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	褐 7.5YR4/6	赤色・黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
39	26	４号住	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	10C 第２四半期	墨書
39	27	４号住	P61	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	
39	28	４号住	P26	土師器	小甕	破片	16.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	暗褐 7.5YR3/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
39	29	４号住	P18・19・27・29・35・38・41 ～ 46、49、53、58、59、AV-11P21、AW-12P45、一括	土師器	甕	30%	32.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
39	30	４号住	P31・32・47、カマド一括	土師器	甕	破片	－	8.0	－	タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
39	31	４号住	P30・34	土師器	甕	破片	－	8.0	－	タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ヨコ・ナナメハケ	赤褐 2.5YR4/6	白色・赤色・黒色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
39	32	４号住	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	木葉痕	ナデ	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
39	33	４号住	P7	土師器	甕	破片	－	－	－	木葉痕	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
39	34	４号住	P39、AX-11P9、５住カマド P2	土師器	台付甕	破片	－	－	－	ナデ	指頭痕	外：黒褐 5YR3/1 内：にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
39	35	４号住	P2 ～４・21	須恵器	瓶	破片	－	12.4	－	ロクロナデ、高台貼付		灰 5Y6/1	小石、白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
40	1	５号住	一括	土師器	杯	破片	11.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	2	５号住	カマド一括	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 10YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	3	５号住	カマド一括	土師器	杯	破片	15.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	4	５号住	カマド P3	土師器	杯	破片	12.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	5	５号住	一括	土師器	杯	破片	12.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	6	５号住	一括、カマド一括、AW-12 一括	土師器	杯	破片	14.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：褐 7.5YR4/2 内：にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	7	５号住	P2・3、カマド一括、一括	土師器	杯	50%	12.4	4.6	4.8	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	8	５号住	P4、一括、４住一括	土師器	杯	50%	13.0	5.0	4.5	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/3	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	9	５号住	２カマド P85、２カマド一括	土師器	杯	20%	11.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	10	５号住	２カマド P83	土師器	杯	完形	12.4	7.0	3.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	刻書
40	11	５号住	P14・15、２カマド P66、一括	土師器	杯	70%	15.2	5.8	5.2	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	
40	12	５号住	２カマド P65	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	13	５号住	２カマド P72、２カマド一括、一括、４住一括	土師器	杯	50%	13.6	4.4	4.0	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、刻書
40	14	５号住	２カマド P70	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	15	５号住	２カマド P14・17・71、２カマド一括	土師器	杯	50%	12.2	5.8	3.7	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	16	５号住	２カマド P101、２カマド一括	土師器	杯	50%	13.4	5.0	3.9	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナ	にぶい褐 7.5YR6/3	黒色・白色粒子、小石	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	17	５号住	２カマド P23	土師器	杯	70%	14.2	4.6	5.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	剥離あり　ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	剥離あり
40	18	５号住	２カマド P24・40・41	土師器	内黒杯	完形	13.4	6.0	4.6	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、暗文	外：にぶい赤褐 2.5YR5/4、内：黒褐 10YR3/1・にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	信州系黒色土器、カマド内での２次焼成により、内黒から褐色に変化した部分あり
40	19	５号住	P9	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	20	５号住	カマド P10	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	21	５号住	２カマド P62	土師器	杯	20%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
40	22	５号住	P23	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、墨書（不鮮明）
40	23	５号住	一括	土師器	杯	20%	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	灰褐 7.5YR6/2	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	24	５号住	P18、AV-11P47	土師器	皿	50%	12.6	5.2	2.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい橙 5YR6/4	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	25	５号住	カマド P9	土師器	皿	破片	13.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	26	５号住	２カマド P9・10	土師器	皿	70%	12.4	4.4	2.5	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	27	５号住	一括	土師器	皿	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、墨書
41	28	５号住	一括、AX-13 一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、墨書「又」
41	29	５号住	P17	土師器	皿	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	30	５号住	P1	土師器	皿	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	31	５号住	P8	土師器	皿	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	32	５号住	P6・7・10・11・13・19・20、カマド P1・47・50・51・81、一括、カマド一括、２カマド一括、AV-11・AW-11 一括	土師器	小甕	60%	16.0	8.0	15.2	口縁部ヨコナデ、タテハケ、木葉痕	指オサエ、ヨコハケ	外：赤褐 2.5YR4/6、内：にぶい赤褐 5YR5/3　灰褐 5YR4／２	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	33	５号住	カマド P26、P29	土師器	甕	破片	31.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 2.5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	34	５号住	P24、カマド P12 ～ 18・20・22・23、カマド一括、AV-11P11、AV-13P13、AV-12P10・20	土師器	甕	60%	31.0	9.6	33.0	口縁部ヨコナデ、頸部指オサエ、タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（4）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
41	35	5号住	P22・28・29、2カマド P57・93・95・98、2カマド一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	指オサエ、ヨコハケ	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：にぶい赤褐 2.5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
42	36	5号住	カマド P4、2カマド P2・4・42、5住一括、AW-10P32・一括	土師器	甕	破片	25.2	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
42	37	5号住	2カマド P11・12・16・68・96・84、4住 P63・70、AW-11P42	土師器	甕	破片	28.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指オサエ、ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	38	5号住	カマド P24・28、2カマド P39・44・58・78・91・90・97、一括、2カマド一括	土師器	甕	破片	30.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
41	39	5号住	2カマド P15・18・45・49・59・86・110	土師器	甕	20%	29.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
43	40	5号住	2カマド P56	土師器	甕	破片	28.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテ・ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ	にぶい黄褐 10YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
43	41	5号住	P5、2カマド P87～89、102、104、105、一括、4住 P20、4住一括	土師器	甕	20%	29.0	－	－	口縁部ヨコナデ、頸部指オサエ、タテハケ	指ナデ・オサエ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
43	42	5号住	2カマド P8・13・20・22・25～29・31～38・43・46・52・53・55・61・69・73・74・76・80・108・115、一括、2カマド一括、AW-10P35・36、AX11P7、AW-10P70	土師器	甕	50%	27.6	8.6	31.1	口縁部ヨコナデ、タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ナナメハケ	褐 7.5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
43	43	5号住	2カマド P21・27・54・106・107・109・116、一括	土師器	甕	30%	－	9.4	－	タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ヨコハケ（不鮮明）	にぶい赤褐 7.5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
44	44	5号住	カマド P30	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	外：にぶい黄褐 10YR5/15 内：黒褐 10YR2/2	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
44	45	5号住	カマド P19・21	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	にぶい黄褐 10YR4/3	白色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
44	46	5号住	2カマド P92・102、2カマド一括、AV-11P58・一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	白色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
44	47	5号住	カマド P5、2カマド P19、カマド一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 2.5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
44	48	5号住	2カマド P103、カマド一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
44	49	5号住	カマド P8、2カマド P63	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
44	50	5号住	2カマド P79・一括、AW-10P24・48	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
45	1	6号住	P58、AV-12一括	土師器	杯	90%	14.0	4.6	5.2	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	刻書
45	2	6号住	一括	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	3	6号住	P42	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	4	6号住	P30・37、一括、AV-12P22・一括、AU-12一括	土師器	杯	70%	11.4	3.6	4.3	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR6/7	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	
45	5	6号住	P27、一括	土師器	杯	30%	12.0	5.0	4.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、剥離あり
45	6	6号住	P9	土師器	杯	破片	16.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状・渦巻状暗文	外：明赤褐 5YR5/6 内：オリーブ褐 5YR3/1	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	7	6号住	P80・104	土師器	杯	20%	15.6	－	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい橙 5YR6/4 内：明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	8	6号住	P4・8・12・13、カマド一括、一括、AV-12一括	土師器	杯	40%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	9	6号住	P55・99	土師器	杯	20%	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	放射状暗文	橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、刻書
45	10	6号住	P59	土師器	杯	破片	－	4.5	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：黒褐 5YR3/1	黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	11	6号住	P14	土師器	杯	破片	－	4.2	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ		橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	12	6号住	一括、AW-12P4	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 2.5YR4/4	白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	13	6号住	P97	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	14	6号住	P33	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	15	6号住	一括	土師器	杯	40%	－	6.4	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状・螺旋状暗文	外：赤褐 5YR4/8 内：にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	16	6号住	P60、一括、AU-14一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、刻書
45	17	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	墨書
45	18	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：褐色 7.5YR4/7 内：灰褐 7.5YR4/2	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	墨書
45	19	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	墨書
45	20	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	褐色 7.5YR4/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	墨書
45	21	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	刻書

第４表　Ⅴ区土器観察表（5）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
45	22	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	刻書
45	23	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	墨書
45	24	6号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	墨書
45	25	6号住	P59・82・96、一括、AV-12P43	土師器	皿	70%	12.6	5.6	2.45	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	26	6号住	P11	土師器	皿	破片	12.6	5.0	1.8	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	27	6号住	P41、48、45、一括、AV-12 一括	土師器	皿	85%	13.2	6.1	2.6	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6、黒褐 10YR3/1	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	
45	28	6号住	P1・2	土師器	皿	破片	13.8	5.0	2.7	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
45	29	6号住	P39	土師器	皿	完形	12.4	5.0	2.5	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	墨書「夲人」
45	30	6号住	P7、一括、AV-11P30、AV-12 一括	土師器	皿	40%	15.6	5.4	2.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	31	6号住	P83、一括、10 住一括	土師器	皿	25%	12.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	32	6号住	P3	土師器	皿	破片	12 .6	－	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい黄褐 10YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	33	6号住	一括	土師器	皿	破片	11.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	34	6号住	一括、AV-11P19	土師器	皿	破片	－	4.4	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	黒褐 7.5YR3/1	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、剥離あり
46	35	6号住	一括	土師器	皿	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	褐 7.5YR4/6	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	36	6号住	P38	土師器	内黒 高台付皿	ほぼ完形	13.6	8.0	3.2	ロクロナデ、ヘラ切り、高台貼付	ロクロナデ、ミガキ	外：にぶい橙 5YR6/4 内：黒褐 5YR3/1	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	刻書「川」
46	37	6号住	P19	土師器	小甕	破片	13.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：灰褐 5YR4/2 内：黒褐 5YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	38	6号住	P61	土師器	小甕	破片	12.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ハケ不鮮明	ヨコハケ	外：にぶい赤褐 5YR4/4 内：黒 7.5YR2/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	39	6号住	P5・62	土師器	小甕	破片	14.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ハケ不鮮明	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	40	6号住	P26、一括、10 住カマド P36	土師器	小甕	破片	15.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	41	6号住	P56	土師器	小甕	破片	－	8.0	－	タテハケ	指ナデ、ヨコハケ	外：褐 7.5YR4/3 内：にぶい赤褐 5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	42	6号住	P84	土師器	小甕	破片	－	9.0	－	タテハケ、木葉痕（不鮮明）	指ナデ、ヨコハケ	外：暗赤褐 5YR3/6 内：褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	43	6号住	P69、AV-11P66	土師器	甕	破片	25.2	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	44	6号住	P44・49	土師器	甕	破片	27.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	45	6号住	P18・79	土師器	甕	破片	－	9.2	－	タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	外：褐 7.5YR4/6 内：褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
46	46	6号住	P93・94・98	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
46	47	6号住	P68	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	外：黒 7.5YR2/1 内：暗赤褐 5YR3/2	赤色・黒色・白色粒子 、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
47	48	6号住	P101	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
47	49	6号住	P78	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	黒 10YR2/1、褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
47	50	6号住	P52・53・64	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
47	51	6号住	P70	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
47	52	6号住	P28・29、	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4、黒褐 7.5YR3/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
47	53	6号住	P9・15・25・31・44・・52・71・88・91・95・100 一括、10 住カマド一括、AW-12 一括	土師器	台付甕	50%	14.0	－	－	口縁部ヨコナデ・指オサエ、ヘラケズリ	指ナデ・オサエ、ナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	武蔵型甕
47	54	6号住	P25・46、一括、AV-12P25	須恵器	長頸壺	30%	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰 5Y5/1	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	自然釉
47	55	6号住	P54、一括	須恵器	長頸壺	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰オリーブ 5Y4/2	白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、自然釉
47	56	6号住	P31、AV-11 一括	灰釉陶器	椀	破片	14.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰 2.5Y6/1	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
47	1	7号住	一括	土師器	杯	破片	10.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測
47	2	7号住	一括	土師器	皿	破片	13.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 2.5YR5/4	黒色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測、刻書
47	3	7号住	一括	土師器	甕	破片	－	8.0	－	木葉痕	ヨコハケ	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	9C 第３四半期	反転実測
47	4	7号住	6・7、3 住一括	土師器	杯	破片	13.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：橙 5YR6/5	赤色・白色粒子	良	古墳中期中頃	反転実測
47	5	7号住	一括、3 住一括、AW-12P43、AW-11P13、AW-12 一括、AU-13 一括	土師器	甕	破片	11.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ナデ	灰赤 2.5YR4/2	白色粒子	良	古墳前期～中期	反転実測
47	6	7号住	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	外：黒褐 7.5YR3/2 内：にぶい褐 7.5YR5/4	小石・白色粒子	良	古墳前期～中期	
47	7	7号住	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	外：灰黄褐 10YR4/2 内：灰褐 7.5YR5/2	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期～中期	

第４表　Ⅴ区土器観察表（6）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
47	8	7号住	P1、AV-12一括、AW-12一括	土師器	壺	破片	－	－	－	ミガキ	指オサエ	外：黒 10YR2/1 内：赤褐 2.5YR4/8	白色粒子	良	古墳前期～中期	
48	1	8号住	P49、8・9住一括	土師器	杯	50%	12.4	4.8	4.7	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
48	2	8号住	カマドP2、一括、8・9住一括、AV-12一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
48	3	8号住	P11	土師器	杯	破片	15.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR4/4	赤色・白色粒子	良	9C 第４四半期	
48	4	8号住	P66、一括、カマド一括、AU-14一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 5YR5/6 内：橙 2.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	
48	5	8号住	一括、9住カマド一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
48	6	8号住	P70、一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測、墨書
48	7	8号住	P6	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測、墨書「刀」
48	8	8号住	P63	土師器	高台付杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、削り出し高台	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
48	9	8号住	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子	良	9C 第４四半期	墨書
48	10	8号住	P47	土師器	皿	破片	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
48	11	8号住	P9・10	土師器	皿	90%	12.3	4.7	2.6	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	赤褐 5YR4/8	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	墨書「刀」
48	12	8号住	P12・13	土師器	皿	95%	12.2	4.8	3.0	ロクロナデ、ヘラ切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	刻書「川」
48	13	8号住	P65・68、カマドP36、8・9住一括、AU-13一括	土師器	蓋	75%	15.2	5.2	2.7	ロクロナデ、ヘラ切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 2.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	
48	14	8号住	P31、8、9住一括、AU-14一括	土師器	耳皿	90%	－	5.2	2.9	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	赤色・白色粒子	良	9C 第４四半期	刻書「川」
48	15	8号住	P69、カマドP3、AS-15一括	土師器	内黒鉢	50%	21.6	8.0	8.7	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文（不鮮明）	外：橙 7.5YR6/6 内：黒 2.5YR2/1	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	反転実測
49	16	8号住	P57	土師器	小甕	25%	16.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ（不鮮明）	ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
49	17	8号住	P15	土師器	小甕	破片	－	6.0	－	ナナメハケ（不鮮明）、木葉痕	ヨコハケ	褐 7.5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
49	18	8号住	カマドP7・12・23・32	土師器	甕	30%	29.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指ナデ・オサエ、ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
49	19	8号住	P18・19・21～25・27～30・35・37・38、40～42、カマドP24、一括、8・9住一括、6住P16、AV－13P15	土師器	甕	70%	28.4	8.4	36.3	口縁部ヨコナデ、頸部指オサエ、タテハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ヨコハケ（不鮮明）	にぶい赤褐 5YR4/4	金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
49	20	8号住	P5、10住一括	土師器	甕	破片	－	9.6	－	指ナデ、木葉痕	指オサエ、ヨコハケ	灰褐 7.5YR4/1、にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
49	21	8号住	カマドP5・8・14	土師器	甕	破片	－	9.4	－	ナナメハケ（不鮮明）、木葉痕	ヨコハケ（不鮮明）	外：灰褐 7.5YR5/2 内：にぶい褐 7.5YR5/4	金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
50	22	8号住	カマドP4、カマド一括、AU-13一括	土師器	甕	破片	27.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
50	23	8号住	カマドP25・26・30	土師器	甕	破片	30.2	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
50	24	8号住	P50、54～56・58～62、カマドP10・29、一括	土師器	甕	40%	32.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	暗褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
50	25	8号住	P43、カマドP11・20・21・37・39・40、カマド一括	土師器	甕	30%	－	－	－	タテハケ	指ナデ・オサエ、ヨコハケ	褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
51	26	8号住	カマドP6・8	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	
51	27	8号住	カマドP9	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコハケ	ヨコハケ（不鮮明）	にぶい赤褐 5YR4/3	金色雲母	良	9C 第４四半期	
51	28	8号住	カマドP17	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	
51	29	8号住	P51～53・64	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/4	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	
51	30	8号住	カマドP28	土師器	壺	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	小石、赤色・白色粒子	良	9C 第４四半期	
51	31	8号住	P34、カマドP18、8・9住一括	土師器	壺	35%	－	6.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第４四半期	反転実測
51	32	8号住	P16・26、AT-14一括	須恵器	薬壺	50%	－	3.5	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰 N6/0・灰オリーブ 5Y4/2 内：灰オリーブ 5Y5/2	黒色・白色粒子	良	9C 第４四半期	須恵器　反転実測
51	33	8号住	P1	土師器	S字甕	破片	15.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ナデ、指ナデ	黒褐 10YR3/2	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期後半	反転実測
51	34	8号住	一括	土師器	S字甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ナデ、指ナデ	黒褐 10YR2/2	小石、白色粒子	良	古墳前期後半	
51	35	8号住	カマドP15	土師器	S字甕	破片	－	－	－	指ナデ　タテハケ	ナデ	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子	良	古墳前期後半	反転実測
51	36	8号住	P20・36・39・44・45、一括、8・9住一括、AU-13一括、17土一括	土師器	壺	20%	－	－	－	調整不鮮明	ナデ	灰黄褐 10YR4/2	小石、黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
51	37	8号住	P7・17・49、AU-13一括	土師器	杯	30%	13.0	5.0	5.1	ミガキ	ミガキ	褐 7.5YR4/3	小石、黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
52	1	9号住	P2	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/11	赤色・黒色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	2	9号住	カマドP1	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/19	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測、墨書「カ」
52	3	9号住	8・9住一括、AU-14P4・6	土師器	杯	30%	10.6	4.6	4.1	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	
52	4	9号住	P3	土師器	杯	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/8	赤色・黒色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	5	9号住	P4	土師器	杯	70%	11.6	5.5	4.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/9	赤色・黒色粒子	良	9C 第２四半期	
52	6	9号住	カマドP3・4、カマド一括	土師器	杯	30%	10.6	5.4	3.8	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/10	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	7	9号住	カマドP2	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/15	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（7）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
52	8	9号住	8・9住一括	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/16	黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	9	9号住	8・9住一括	土師器	杯	破片	10.8	3.6	4.1	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	10	9号住	8・9住一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/12	赤色・黒色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	11	9号住	P5	土師器	杯	破片	－	4.2	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/14	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	12	9号住	P7、8・9住一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/13	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	13	9号住	8・9住一括	土師器	皿	破片	12.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/17	赤色・黒色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	14	9号住	カマド P6	土師器	甕	破片	25.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指オサエ、ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	反転実測
52	15	9号住	カマド P7 ～ 9	土師器	甕	破片	27.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	反転実測
52	16	9号住	カマド P14 ～ 18、カマド一括	土師器	甕	破片	－	10.0	－	指オサエ、タテハケ	指ナデ・オサエ、ヨコ・ナナメハケ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	反転実測
52	17	9号住	カマド P11・12・19・21	土師器	甕	破片	－	－	－	ナデ	ナデ	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	18	9号住	8・9住一括	須恵器	杯	破片	13.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/18	黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
52	19	9号住	カマド P1	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	ナデ	外：褐灰 7.5YR6/1、内：にぶい赤褐 5YR4/4、にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	良	9C 第２四半期	
52	20	9号住	カマド P8	須恵器	甕	破片	－	－	－	指ナデ・オサエ	指ナデ・オサエ	外：黄灰 2.5Y6/1 内：暗褐 10YR3/4	黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測、鉄釉
53	1	10号住	P1、一括	土師器	杯	破片	12.6	5.0	4.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 5YR5/6 内：灰褐 5YR4/2	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
53	2	10号住	P4	土師器	杯	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
53	3	10号住	カマド P5、AU-15 一括	土師器	杯	破片	－	4.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、墨書
53	4	10号住	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：褐 7.5YR4/6 内：暗褐 7.5YR3/4	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
53	5	10号住	P13、カマド P11・38・49・54、6住 P73	土師器	内黒鉢	55%	18.7	6.6	6.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状・螺旋状暗文	外：明赤褐 5YR5/6、内：明赤褐 5YR5/6・黒褐 5YR3/1	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	カマド内での２次焼成により、内黒から明褐色に変化した部分あり
53	6	10号住	P8、カマド一括	土師器	皿	破片	12.4	－	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
53	7	10号住	カマド P23、6住 P92	土師器	皿	60%	12.7	5.4	2.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻き状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4、赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
53	8	10号住	カマド P32・41、カマド一括	土師器	皿	70%	12.8	6.0	1.8	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻き状暗文	明褐 7.5YR5/6、赤褐 5YR4/6、にぶい橙 5YR4/3	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	穿孔５ヶ所
53	9	10号住	一括	土師器	皿	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻き状暗文	褐色 7.5YR4/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
53	10	10号住	カマド P4・48、一括、カマド一括、6住 P86	土師器	皿	70%	12.6	6.4	2.3	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻き状暗文	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
53	11	10号住	P9、カマド P1 ～ 3、カマド一括、6住 P6、75	土師器	皿	80%	12.7	5.0	2.7	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻き状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	
53	12	10号住	P2・3、一括	土師器	皿	破片	－	6.0		ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻き状暗文	明赤褐 5YR5/6、にぶい褐 7.5YR5/3	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
54	13	10号住	カマド P55	土師器	小甕	破片	14.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ、指オサエ	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：黒 7.5YR2/1	黒色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
54	14	10号住	P12、5住２カマド P5・一括、9土 P18、AX-12P9、AX-10P16	土師器	甕	破片	27.2	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指オサエ、ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
54	15	10号住	P6、10住一括	土師器	甕	破片	29.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指オサエ、ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
54	16	10号住	P10、カマド゛P5 ～ 8・10・12 ～ 20・35・39・47・50、一括、カマド一括、9住カマド一括	土師器	甕	90%	26.0	10.2	35.2	口縁部ヨコナデ、指オサエ、タテ・ナナメハケ、木葉痕	指オサエ、ヨコハケ	褐 7.5YR4/3、橙 7.5YR6/8	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
55	17	10号住	カマド P27、一括、カマド一括、6住 P81	土師器	甕	破片	23.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ、指オサエ	指オサエ、ヨコハケ	外：にぶい赤褐 2.5YR4/4 内：暗赤灰 2.5YR3/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
55	18	10号住	カマド P21・26・27・30・53、カマド一括	土師器	甕	破片	26.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指オサエ、ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
54	19	10号住	カマド P40	土師器	甕	破片	－	7.4	－	ナデ、指ナデ、木葉痕	指オサエ、ヨコハケ	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：黒褐 7.5YR3/1	黒色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測
55	20	10号住	カマド P22・29・42・43、カマド一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	指オサエ、ヨコハケ、ナナメハケ	外：褐 7.5YR4/3 内：明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
55	21	10号住	カマド P46	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	指オサエ、ヨコハケ、ナナメハケ	にぶい赤褐 2.5YR4/4	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 初頭	
55	22	10号住	一括、AU － 12 一括	須恵器	長頸壺	破片	10.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰オリーブ 5Y5/2	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 初頭	反転実測、自然釉
56	1	11号住	カマド P16、AT-16P21 ～ 23・25・40、AT-15 一括、AT-16 一括	土師器	杯	60%	12.6	6.4	3.3	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	橙 5YR6/8	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
56	2	11号住	カマド P18	土師器	杯	破片	13.6	7.0	3.2	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
56	3	11号住	カマド P20	土師器	杯	破片	14.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、黒色処理	外：明赤褐 5YR5/6 内：黒 7.5YR2/1	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測
56	4	11号住	カマド一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	黒褐 2.5Y3/1	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（8）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
56	5	11 号住	P4・5、11 住一括	土師器	皿	90%	12.6	5.9	2.2	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	
56	6	11 号住	カマド P9	土師器	皿	破片	11.7	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測
56	7	11 号住	カマド P5	土師器	皿	破片	13.6	－	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測
56	8	11 号住	P8、AT-15 一括	土師器	皿	破片	－	3.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：黒褐 5YR3/1 内：にぶい赤灰 5YR5/4	赤色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測
56	9	11 号住	カマド P12	土師器	甕	破片	31.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ヨコ・ナナメハケ	ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
56	10	11 号住	カマド P4	土師器	甕	破片	24.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテメハケ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
56	11	11 号住	カマド P11・21・25、カマド一括	土師器	甕	破片	27.2	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指ナデ、ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
56	12	11 号住	カマド P7・8・13、一括、カマド一括	土師器	甕	破片	26.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ	指ナデ、ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4、黒褐 2.5Y3/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
56	13	11 号住	11 住一括	土師器	甕	破片	－	7.8	－	ナデ、木葉痕	ナデ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
56	14	11 号住	カマド P6	土師器	甕	破片	－	8.8	－	ナデ、タテハケ、木葉痕	ナデ	橙 7.5YR6/8	黒色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測
57	15	11 号住	カマド P19、一括、AT-15P8、AT-15 一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR5/4、黒褐 5YR2/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	
57	16	11 号住	カマド P10・14・22	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	
57	17	11 号住	カマド P11・21・31、カマド一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	
57	18	11 号住	P2	土師器	羽釜	破片	－	－	－	ヨコナデ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第３四半期	反転実測
57	19	11 号住	P9、AT-16P27	灰釉陶器	椀	60%	13.5	6.0	4.8	ロクロナデ、ヘラ切り、高台貼付	ロクロナデ	灰黄褐 10YR6/2	黒色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測
57	20	11 号住	P1・3・7、カマド P24、カマド一括、表土	灰釉陶器	瓶	破片	－	16.8	－	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰 2.5Y6/1	黒色・白色粒子	良	10C 第３四半期	反転実測
57	21	11 号住	P6	土師器	壺	破片	13.6	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐 10YR5/4	黒色・白色粒子	良	古墳時代前期	反転実測
57	1	12 号住	P14・16	土師器	杯	90%	15.0	5.7	4.8	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/5	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	
57	2	12 号住	P2・18	土師器	杯	80%	11.4	3.8	4.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	墨書「＃」
57	3	12 号住	P10、一括	土師器	杯	25%	12.6	5.6	3.5	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/3	赤色・黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
57	4	12 号住	P1・13・20、一括	土師器	杯	70%	14.4	4.6	4.5	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	
57	5	12 号住	P12	土師器	杯	完形	13.7	5.0	4.9	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/5	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
58	6	12 号住	P11	土師器	杯	25%	14.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
58	7	12 号住	P15	土師器	杯	25%	12.2	3.6	3.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	黄褐 10YR5/8	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
58	8	12 号住	P9	土師器	杯	50%	12.8	5.2	4.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/12	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
58	9	12 号住	P8	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	10C 第２四半期	
57	10	12 号住	P21	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
58	11	12 号住	P17・18	土師器	皿	20%	12.6	－	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
58	12	12 号住	P19	土師器	皿	90%	12.5	4.6	2.3	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	
58	13	12 号住	P3	土師器	皿	破片	12.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4、黒 7.5YR2/1	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
58	14	12 号住	一括	土師器	小甕	破片	－	－	－	口縁ヨコナデ、ナデ、ヨコハケ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 2.5YR4/6 暗赤灰 2.5YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
58	15	12 号住	P6・7	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 2.5YR4/4、にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
58	16	12 号住	P4	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	指オサエ、ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子	良	10C 第２四半期	
58	1	13 号住	一括	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測
58	2	13 号住	P1	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測
58	3	13 号住	一括	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測、刻書
58	4	13 号住	一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測、刻書
58	5	13 号住	一括	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測
58	6	13 号住	一括	土師器	杯	破片	－	5.2	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	外：黒褐 7.5YR3/1 内：灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測
58	7	13 号住	一括	土師器	皿	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測
58	8	13 号住	一括	土師器	皿	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測
58	9	13 号住	一括、AR-17P20	須恵器	蓋	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	黄褐 2.5YR4/7	白色粒子	良	9C 第３四半期	反転実測、自然釉
58	1	14 号住	一括	土師器	杯	破片	14.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
58	2	14 号住	P16	土師器	杯	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
58	3	14 号住	P15	土師器	杯	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
58	4	14 号住	P36	土師器	皿	完形	12.6	4.0	2.9	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
58	5	14 号住	P7	土師器	皿	30%	13.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測、刻書
59	6	14 号住	カマド P23・25・26・37、カマド一括	土師器	小甕	45%	17.0	8.8	13.6	口縁部ヨコナデ、タテハケ、木葉痕	ヨコハケ（不鮮明）	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
59	7	14 号住	カマド P20・21・33、カマド一括	土師器	小甕	30%	14.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ・指ナデ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
59	8	14 号住	カマド P4・6	土師器	小甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
59	9	14 号住	カマド P3・10・27 ～ 29・32	土師器	甕	20%	26.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ナナメハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（9）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
59	10	14 号住	カマド P8・9・12 ～ 19・24,30・34・35、カマド一括	土師器	甕	40%	31.8	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：明赤褐 5YR5/6 内：赤褐 2.5YR4/8	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
60	11	14 号住	カマド P1、カマド一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR3/6	黒色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
60	12	14 号住	カマド P2・5・7・22・33、カマド一括	土師器	甕	15%	－	9.0	－	タテ・ナナメハケ、木葉痕	ヨコハケ、ナデ	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
60	13	14 号住	P3、AR-16P56・110 、AR-16 一括	土師器	壺	20%	15.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ、ミガキ（不鮮明）	ナデ、指ナデ	褐灰 5YR4/1	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
60	14	14 号住	P1	土師器	壺	破片	－	－	－	ヘラケズリ（不鮮明）	ナデ	明褐 2.5YR5/6	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
60	15	14 号住	P5	土師器	S 字甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ナデ	外：黒 7.5YR2/ 内：灰褐 7.5YR5/2	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期後半	
60	16	14 号住	P6	土師器	S 字甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期後半	
60	17	14 号住	P2、AR-16P62・120・一括	土師器	壺	破片	－	5.0	－	ミガキ、底部ヘラケズリ	ミガキ	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
60	18	14 号住	P9 ～ 14・17・18、13 住一括、14 住一括、AR-17 一括	土師器	杯	50%	16.0	6.0	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	古墳中期	反転実測
60	1	15 号住	P3	土師器	杯	破片	11.4	6.0	4.1	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/3	赤色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
60	2	15 号住	P4	土師器	杯	破片	10.5	4.9	3.9	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/8	黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	墨書「キ」
60	3	15 号住	P7	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測、刻書
60	4	15 号住	P5	土師器	杯	80%	10.5	5.0	3.9	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 第２四半期	
60	5	15 号住	カマド P15	土師器	杯	破片	9.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	反転実測
60	6	15 号住	カマド一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第２四半期	
60	7	15 号住	カマド P10	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ	ヨコハケ	黒 10YR1.7/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	
60	8	15 号住	P2、カマド P5・6・8・13	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	指オサエ、ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	反転実測
61	9	15 号住	カマド P7	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	
61	10	15 号住	カマド P9	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	
61	11	15 号住	カマド P16・24・25	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	
61	12	15 号住	カマド P12	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	指オサエ、ヨコハケ（不鮮明）	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	
61	13	15 号住	カマド P1・2、AK-20 一括	土師器	甕	破片	－	8.2	－	ナナメハケ、木葉痕	ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	反転実測
61	14	15 号住	カマド P14	土師器	甕	破片	－	8.6	－	ナナメハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ、ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２四半期	反転実測
61	15	15 号住	カマド P3	土師器	壺	破片	－	8.0	－	ヘラケズリ	ナデ	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
61	16	15 号住	P1	土師器	杯	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	古墳中期	
61	1	1 号集石	P44	土師器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、刻書
61	2	1 号集石	P33	土師器	杯	25%	13.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、刻書
61	3	1 号集石	P19	土師器	杯	25%	15.0	7.4	3.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	黒褐 5YR3/1	赤色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
61	4	1 号集石	P75	土師器	杯	40%	13.4	6.6	2.9	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
61	5	1 号集石	P34	土師器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
61	6	1 号集石	P62、一括	土師器	杯	40%	13.0	6.0	3.8	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
61	7	1 号集石	P67	土師器	杯	破片	19.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/8	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
62	8	1 号集石	P8	土師器	杯	60%	13.0	6.0	4.2	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、墨書・刻書
62	9	1 号集石	一括、AP-14P36・46	土師器	杯	20%	－	7.0	－	ロクロナデ、静止糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
62	10	1 号集石	P27	土師器	杯	20%	－	5.2	－	ロクロナデ、回転糸切り	刻書	外：黒褐 5YR2/1 内：黒褐 10YR3/2	赤色粒子	良	9C 第２～第３四半期	刻書
62	11	1 号集石	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	刻書
62	12	1 号集石	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	刻書
62	13	1 号集石	P13	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
62	14	1 号集石	一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、墨書
62	15	1 号集石	P26、一括	土師器	Ⅲ	破片	15.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 5YR6/8	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
62	16	1 号集石	一括	土師器	Ⅲ	破片	15.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
62	17	1 号集石	P91、一括	土師器	Ⅲ	40%	13.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 2.5YR6/8	赤色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、墨書・刻書
62	18	1 号集石	P14・45、AP-15 一括、AP-14P11	土師器	Ⅲ	45%	14.9	5.8	1.8	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	刻書
62	19	1 号集石	P37	土師器	Ⅲ	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、螺旋状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	
62	20	1 号集石	一括	土師器	Ⅲ	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	
62	21	1 号集石	P43	土師器	Ⅲ	20%	－	6.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測、刻書
62	22	1 号集石	一括	土師器	小甕	破片	15.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
62	23	1 号集石	P76・92	土師器	小甕	30%	18.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
63	24	1 号集石	P84	土師器	小甕	30%	14.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：明赤褐 5YR3/2	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（10）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
63	25	１号集石	P5・,53・77・78、一括	土師器	小甕	35%	15.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	明褐 7.5YR5/1	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
63	26	１号集石	P1・54・83・85、一括	土師器	小甕	40%	13.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
63	27	１号集石	P79	土師器	小甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	28	１号集石	P71	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	橙 7.5YR6/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	29	１号集石	P15	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	30	１号集石	P73・81	土師器	小甕	破片	－	6.6	－	タテハケ、指ナデ、木葉痕	指ナデ、ヨコハケ	外：黒褐 5YR3/1 内：赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
63	31	１号集石	P80	土師器	小甕	破片	－	7.0	－	ナデ、木葉痕	指ナデ、ヨコハケ	明赤褐 2.5YR3/6	赤色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	32	１号集石	一括、AP-15P20	土師器	甕	破片	26.0	－	－	口縁ヨコナデ、ナデ	ヨコハケ	外：黒褐 5YR2/1 内：にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
63	33	１号集石	P61	土師器	甕	破片	32.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
63	34	１号集石	P65	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	35	１号集石	一括、AV-12P13	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	36	１号集石	P58	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	
63	37	１号集石	P17	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ナデ	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	38	１号集石	P59・60	土師器	甕	20%	－	8.4	－	指ナデ・オサエ、ナナメハケ、木葉痕	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
63	39	１号集石	P20	土師器	甕	破片	－	－	－	木葉痕	ナデ	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子、金色雲母	良	9C 第２～第３四半期	
64	40	１号集石	P35	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	ナデ	褐灰 10YR6/1	黒色・白色粒子	良	9C 第２～第３四半期	
64	41	１号集石	P16	灰釉陶器	椀	破片	15.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白 5Y7/1	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	反転実測
64	42	１号集石	P29	灰釉陶器	椀	40%	－	6.3	－	ロクロナデ、回転糸切り、高台貼付	ロクロナデ	灰白 2.5Y4 /1	黒色粒子	良	9C 第２～第３四半期	
64	43	１号集石	P21	土師器	鉢	破片	12.0	－	－	口縁部ヨコナデ	ナナメハケ、ナデ	外：褐灰 5YR4/1 内：橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	古墳前期	反転実測
64	44	１号集石	P28	土師器	甕	破片	14.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	口縁部ヨコハケ、ナデ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子、金色雲母	良	古墳後期	反転実測
64	1	１号竪穴	P8	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
64	2	１号竪穴	P12	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/8	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
64	3	１号竪穴	P14	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/6	黒色粒子	良	9C 後半	刻書
64	4	１号竪穴	P13	土師器	鉢	破片	－	－	－	ヘラケズリ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	
64	5	１号竪穴	P10	土師器	甕	破片	－	7.2	－	ナデ、木葉痕	ナナメハケ	にぶい黄褐 10YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 後半	反転実測
64	6	１号竪穴	P15	土師器	壺	破片	－	－	－	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	赤褐 5YR4/8	小石、黒色・白色粒子	良	古墳前期	
64	7	１号竪穴	P3・5	土師器	壺	破片	－	7.0	－	ナデ	ヘラケズリ	外：褐 7.5YR4/3 内：黒 2.5YR2/1	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
64	8	１号竪穴	P1	土師器	壺	破片	－	5.4	－	ナデ	ナナメハケ	褐 10YR4/6	赤色粒子	良	古墳前期	反転実測
64	9	１号竪穴	P2・4・6、一括	土師器	甕	破片	15.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテ・ナナメハケ（不鮮明）	ナナメハケ	外：黒 2.5YR2/1 内：赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子	良	古墳後期	反転実測
64	10	１号竪穴	P17、一括	土師器	台付甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ヨコハケ	外：灰褐 7.5YR4/2 内：褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子	良	古墳前期	
64	11	１号竪穴	Pit 1	土師器	杯	破片	12.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ	ケズリ	灰黄褐 10YR4/2	赤色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
64	12	１号竪穴	P7	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/4	黒色・白色粒子	良	弥生中期？	
64	1	３号焼土	一括	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測、刻書
64	2	３号焼土	P10	土師器	杯	破片	13.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
64	3	２号焼土	P6・7・9・13・27、２焼土一括、AQ-15 一括	土師器	皿	30%	12.6	4.2	2.2	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/8	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
64	4	２号焼土	P20	土師器	鉢	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	10C 第２四半期	
64	5	２・３号焼土	P16・25・３焼土 P9	土師器	甕	破片	30.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ナナメハケ	明褐 7.5YR5/8	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
65	6	２焼土	P11・23・26	土師器	甕	破片	30 .4	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	明褐 7.5YR5/8	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
65	7	２・３号焼土	２焼土 P1・5・17・19・21・22・28・32、３焼土 P3・5・7、AQ-15P38	土師器	甕	破片	30.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ、指オサエ	指オサエ、ヨコハケ	赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	反転実測
65	8	２号焼土	P33	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明褐 7.5YR5/8	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
65	9	２・３号焼土	P24、３焼土 P4・6、３焼土一括、AQ-15 P40・41・一括	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	明褐 7.5YR5/8	白色粒子、金色雲母	良	10C 第２四半期	
65	10	２号焼土	P15	土師器	壺	破片	－	6.0	－	ハケ、ナデ	ナデ	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：黒褐 7.5YR3/1	白色粒子	良	10C 第２四半期	反転実測
65	1	４号焼土	P1 ～５、４焼土一括	土師器	甕	70%	14.4	－	－	口縁部ヨコナデ、頸部ナナメハケ、ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ、ナデ、指オサエ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：褐 7.5YR4/3	白色粒子	良	古墳前期前半	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（11）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
66	1	2号溝	P2	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	
66	2	2号溝	P1、AR-16 一括	土師器	壺	破片	－	－	－	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
66	1	3号溝	一括	土師器	甕	破片	－	7.4	－	ナデ、木葉痕	ナナメハケ	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	反転実測
66	2	3号溝	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	ナデ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/4	白色粒子	良	古墳前期	
66	1	17号土坑	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
66	1	21号土坑	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	9C ～ 10C	墨書
66	2	21号土坑	21 土 P1、8・9 住一括	土師器	壺	破片	10.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ナデ	橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	
66	1	26号土坑	P1	土師器	甕	破片	－	－	－	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：黒褐 7.5YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
66	1	27号土坑	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	9C ～ 10C	墨書
66	2	27号土坑	P 1	灰釉陶器	椀	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、高台貼付	ロクロナデ	にぶい黄 2.5Y6/3	黒色・白色粒子	良	9C ～ 10C	反転実測
66	1	28号土坑	P3	土師器	杯	破片	－	4.6	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良	9C 後半	反転実測、墨書
66	2	28号土坑	P1	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
66	3	28号土坑	P2	土師器	甕	破片	33.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：褐 7.5YR4/3 内：にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	10C	反転実測
66	1	30号土坑	一括	土師器	杯	破片	9.6	－	－	ロクロナデヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
66	1	31号土坑	P1	土師器	杯	破片	12.8	－	－	ヨコナデ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	古墳中期	反転実測
66	1	32 土号土坑	一括	土師器	杯	破片	－	10.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：橙 7.5YR6/6 内：暗灰黄 2.5Y5/2	白色粒子	良	平安	反転実測
66	1	34号土坑	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色粒子	良	平安	墨書
66	1	36号土坑	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ	ヨコ・ナナメハケ	外：灰褐 7.5YR4/2 内：にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子	良	平安	
66	1	38号土坑	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	平安	
66	1	40号土坑	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子	良	平安	墨書
66	2	40号土坑	一括	土師器	杯	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	平安	反転実測
66	1	44号土坑	一括	須恵器	高台付杯	破片	－	9.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	暗灰黄 2.5Y4/2	白色粒子	良	平安	反転実測
67	1	AO-18	P9	縄文土器	深鉢	破片	－	－	－	ナデ	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・白色粒子、金色雲母	良	縄文後期中葉	堀之内２式
67	2	AP-15	P15 ～ 17・39・40、一括	縄文土器	深鉢	破片	32.8	－	－	口縁部に沈線文	ミガキ	外：暗赤灰 2.5YR3/1 内：にぶい赤褐 5YR4/4	赤色・黒色・白色粒子	良	縄文後期中葉	反転実測、堀之内２式
67	3	AW-11	P6、AW-11	弥生土器	壺	破片	－	－	－	口縁部に縄文、刺突文、縄文、沈線文	口縁部縄文	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	4	AP-15	P14	弥生土器	壺	破片	－	－	－	口縁部に縄文	ナデ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	5	AT-12	P4	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文、縄文、沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：灰黄褐 10YR5/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	6	AT-12	P14・16、AT-12 一括、AT-15 一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文、縄文、沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：灰黄褐 10YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	7	AT-12	P18・20、一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文、縄文、沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい黄褐 10YR5/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	8	AT-12	P15	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文、縄文、沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	9	AT-12	P23・24	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文、縄文、沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：灰黄褐 10YR5/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	10	AT-12	P13・17、AT-12 一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文、縄文、沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：灰黄褐 10YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	11	AT-12	P19・21	弥生土器	壺	破片	－	－	－	条痕文、縄文、沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：灰黄褐 10YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	12	AX-12	P13、一括、5 住 P16	弥生土器	壺	破片	－	－	－	縄文、沈線文	ナデ	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	13	AX-12	AX-12 一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	縄文、沈線文	ナデ	外：にぶい赤褐 2.5YR4/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	14	AZ-10	P1	弥生土器	壺	破片	－	－	－	沈線区画文、縄文、沈線文	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・白色粒子、金色雲母、小石	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	15	AY-9	P1、AY-10P1・2	弥生土器	壺	破片	－	－	－	沈線区画文、縄文、沈線文	ナデ	褐 7.5YR4/3	赤色・白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
67	16	AZ-9	P5・6	弥生土器	壺	破片	－	－	－	沈線区画文、縄文、沈線文	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/3	黒色・白色粒子、金色雲母、小石	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	17	AY-12	一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	羽状沈線文	ナデ	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	18	AZ-10	P4	弥生土器	壺	破片	－	－	－	沈線区画文、縄文、沈線文	ナデ	黒褐 2.5YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行

第４表　Ⅴ区土器観察表（12）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
68	19	AW-10	P52、AW-12 一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	沈線区画文、縄文、沈線文	ナデ	外：にぶい赤褐 2.5YR4/4、内：にぶい橙 7.5YR6/4・暗灰黄 2.5YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	20	AW-10	P64・66・76、一括、1 住一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	縄文、沈線文、ミガキ	ナデ	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	21	AX-10	P1・29、一括、AX-9 一括、1 住 P2、2 住一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	縄文、ミガキ	ナデ	明褐 7.5YR5/8	黒色・白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	22	AX-10	一括、AZ-10 一括	弥生土器	壺	破片	－	－	－	羽状沈線文	ナデ	外：黒褐 10YR3/2 内：にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	23	AZ-9	P2	弥生土器	壺	破片	－	－	－	縄文・沈線文	ナデ	灰褐 7.5YR4/2	黒色・白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	24	AX-12	P4	弥生土器	壺	破片	－	－	－	縄文・沈線文	ナデ	橙 5YR6/6	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	25	AX-12	P3	弥生土器	壺	破片	－	－	－	縄文・沈線文	ナデ	外：黄橙 10YR6/4 内：にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	26	AW-11	P4	弥生土器	甕	破片	－	－	－	口縁部縄文、羽状沈線文	ナデ	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	27	AY-12	一括	弥生土器	甕	破片	－	－	－	口縁部縄文、羽状沈線文	ナデ	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：橙 5YR6/6	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	28	AR-14	P40	弥生土器	甕	破片	－	－	－	沈線文	ナデ	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	29	AY-10	一括	弥生土器	甕	破片	－	－	－	口縁部縄文、羽状沈線文	ナデ	外にぶい褐 7.5YR5/4 内にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	30	AX-11	一括	弥生土器	甕	破片	－	－	－	口縁部縄文、羽状沈線文	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	31	AW-11	一括	弥生土器	甕	破片	－	－	－	口縁部縄文、羽状沈線文	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	金色雲母	良	弥生中期中葉	平沢式併行
68	32	AX-10	P25、AX-10 一括	弥生土器	甕	破片	－	－	－	口縁部縄文，櫛描文	ヨコハケ	外：灰黄褐 10YR5/2 内：にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期後葉	有東式～宮ノ台式併行
68	33	AP-18	P10	弥生土器	甕	破片	－	－	－	条痕文	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい黒褐 10YR5/3	金色雲母	良	弥生中期後葉	有東式～宮ノ台式併行
68	34	AR-16	P75・82、AR-17 一括、AR-16 一括	弥生土器	甕	破片	20.0	－	－	簾条文、櫛描波状文	ナデ	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子、金色雲母	良	弥生後期前葉	反転実測、箱清水式
69	35	AQ-15	P19	弥生土器	甕	破片	－	7.8	－	編物痕、ヘラナデ	ナデ	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：黒褐 5YR3/1	黒色・白色粒子・金色雲母	良	弥生中期～後期	反転実測
69	36	AJ-21	P1	弥生土器	甕	破片	－	7.0	－	タテハケ、木葉痕（ともに不鮮明）	ヨコハケ	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	弥生中期～後期	反転実測
69	37	AN-17	P1	弥生土器	甕	破片	－	6.0	－	網代痕		外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：黒褐 10YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	弥生中期～後期	反転実測
69	38	AO-18	P12 ～ 18、一括	弥生土器	甕	20%	－	8.0	－	ナデ・指ナデ、編物痕		外：明褐 7.5YR5/8、内：にぶい黄橙 10YR6/4・黒褐 10YR3/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	弥生中期～後期	反転実測、煤付着
69	39	AO-17	P5	土師器	壺	破片	14.8	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
69	40	AR-16	P2	土師器	壺	破片	11.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ？	ヘラミガキ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい黄褐 10YR4/3	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
69	41	AR-16	P108	土師器	壺	破片	13.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	明黄褐 10YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
69	42	AV-11	一括	土師器	壺	破片	15.6	－	－	ヨコナデ、赤彩	ヨコナデ、赤彩	赤 10R4/8	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
69	43	AQ-15	P64	土師器	壺	破片	13.6	－	－	口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
69	44	AR-16	P65	土師器	壺	破片	13.0	－	－	口縁部ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子・金色雲母	良	古墳前期	反転実測
69	45	AP-19	P4	土師器	壺	破片	13.6	－	－	口縁部ヨコナデ	ヨコナデ	外：明褐 7.5YR5/8 内：黄褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子・金色雲母	良	古墳前期	反転実測
69	46	AM-18	P5、一括、AN-19 一括	土師器	壺	40%	12.6	－	－	ナナメハケ、ヘラミガキ（不鮮明）	指オサエ、ナナメ・ヨコハケ	外：明赤褐 5YR5/6 内：褐灰 10YR4/1	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
69	47	AR-16	P84・85・91、AQ-16 一括	土師器	壺	破片	－	－	－	ヘラミガキ	ナデ　指ナデ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：にぶい赤褐 5YR4/4	赤色・黒色・白色粒子、石英	良	古墳前期	反転実測
69	48	AP-17	P5・9 ～ 15・17・23 ～ 25、一括	土師器	壺	45%	－	5.0	－	ハケ、ミガキ（不鮮明）	ハケ、ナデ	外：暗褐 10YR3/3 内：にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子、金色雲母、石英	良	古墳前期	反転実測
69	49	AM-18	P2・3、AL-17 一括、AM-17 一括、AO-19 一括	土師器	壺	45%	－	－	－	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、ナデ、赤彩	外：赤褐 5YR4/6 内：にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
69	50	AN-16	P3	土師器	壺	20%	－	－	－	ヘラミガキ	ヘラナデ、指オサエ	明赤褐 5YR5/6、黒褐 5YR3/1	赤色・黒色粒子	良	古墳前期	反転実測
69	51	AW-12	P5	土師器	壺	破片	－	－	－	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	52	AR-16	P10 ～ 12、14 ～ 16、18・21・27・116・117、AQ-16 P11・22・23・38・一括、AS-16P32・一括、AR-15P23・46・一括、AR-16 一括、AR-17 一括	土師器	壺	40%	－	－	－	ヨコナデ、ナナメハケ、ミガキ（不鮮明）	口縁部ヨコナデ、指ナデ・オサエ、ヨコハケ	外：褐 7.5YR4/3 内：にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（13）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
70	53	AR-16	P28・31 ～ 33・35・36・38・39・47・98・113・115、2溝一括、AQ-16一括、AQ-17一括	土師器	壺	40%	12.6	6.8	18.3	口縁部外面わずかにミガキ、ハケ後ミガキ、木葉痕	ナデ、底部周辺ヨコハケ	橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	54	AP-16	P13	土師器	壺	破片	15.0	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子、砂粒子	良	古墳前期	反転実測
70	55	AM-19	P2・3・6、一括	土師器	壺	60%	10.2	7.0	14.1	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、木葉痕	指ナデ・オサエ	にぶい橙 7.5YR7/4 灰褐 7.5YR4/1	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	56	AR-16	P60、72、一括、AQ-16一括	土師器	壺	20%	11.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ（不鮮明）	ナデ？	外：赤褐 5YR4/6・明褐 7.5YR5/4 内：赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	57	AR-15	P6・8 ～ 10・13 ～ 20・22、AR-15一括	土師器	壺	65%	14.8	7.0	11.7	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	58	AN-15	P6	土師器	壺	15%	9.6	－	－	口縁部ヨコナデ、指オサエ	指オサエ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	59	AS-16	P10・18 ～ 20・22、一括	土師器	壺	70%	10.6	5.0	14.8	口縁部ヘラナデ、粗いヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	古墳前期	全体的に黒色に変色
70	60	AR-16	P109	土師器	壺	破片	－	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	外：黒 7.5YR2/1 内：灰褐 7.5YR4/2	黒色・白色粒子	良	古墳前期	
70	61	AR-15	P45、一括	土師器	壺	破片	8.6	－	－	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	62	AO-16	P7・8、一括	土師器	小型 丸底鉢	破片	13.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐 5YR5/8	赤色・黒色粒子	良	古墳前期	反転実測
70	63	AP-17	P3・１7、AQ-17一括、表採	土師器	小型 丸底鉢	20%	12.6	－	－	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	明黄褐 10YR7/6	赤色・白色粒子	良	古墳前期	
70	64	AQ-14	P10、一括	土師器	小型 丸底鉢	破片	11.6	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	明褐 7.5YR5/8	黒色粒子・金色雲母	良	古墳前期	反転実測
70	65	AR-16	P37・42 ～ 44、AR-16一括	土師器	小型 丸底壺	50%	7.4	3.0	9.4	口縁部ヨコナデ、タテ・ナナメハケ、ヘラケズリ	ヨコナデ、指オサエ	明赤褐 5YR5/6、黒 10YR2/1	黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
71	66	AN-16	P12	土師器	壺	30%	－	－	－	ナデ、ヘラミガキ	ナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	67	AR-16	P13・17、AQ-16P39・40・63、一括	土師器	壺	破片	－	－	－	ナナメハケ（不鮮明）	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	68	AP-16	P43	土師器	壺	30%	－	8.0	－	ヘラケズリ、ヨコナデ	ナデ	外：明赤褐 5YR5/6 内：褐灰 10YR4/1	赤色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	
71	69	AR-17	P7・15・18・23 ～ 25、一括	土師器	壺	破片	－	－	－	ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ、ナデ	外：黒 10YR2/1 内：褐 7.5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
71	70	AR-16	P57・64・111、13住一括	土師器	壺	破片	－	8.0	－	ナデ、ミガキ？	タテハケ（不鮮明）	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：黒褐 2.5Y3/1	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	71	AN-17	P4・5、AM-17一括	土師器	壺	破片	－	5.2	－	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラナデ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：橙 7.5YR6/8	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
71	72	AR-16	P118、AS-16P33	土師器	壺	15%	－	5.0	－	タテハケ	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子	良	古墳前期	
71	73	AR-15	P24 ～ 26・48・52、AQ16P32,AR-16P106・107	土師器	壺	30%	－	6.8	－	粗いヘラミガキ	ナデ、指ナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	74	AQ-14	P14,AQ-15一括	土師器	壺	破片	－	5.2	－	ヘラケズリ	ミガキ？	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	75	AO-16	P4	土師器	壺	20%	－	4.0	－	ヘラケズリ後ナデ	ナデ	外：明赤褐 5YR5/6 内：橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	76	AO-15	P19	土師器	壺	破片	－	6.6	－	調整不鮮明	調整不鮮明	明黄褐 10YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	77	AT-15	P2、AU-12P28、AU-13一括、AV-13一括	土師器	壺	破片	－	3.4	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙 2.5YR6/8	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	78	AP-14	P25	土師器	壺	破片	－	5.0	－	ヘラナデ	ナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色・砂粒子	良	古墳前期	反転実測
71	79	AQ-15	P49・50	土師器	壺	20%	－	5.8	－	ミガキ（不鮮明）	ナデ	黄褐 10Y5/8	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	80	AM-19	一括	土師器	壺	30%	－	5.2	－	ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ、ナデ	橙 5YR6/8	赤色・黒色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	81	AQ-15	P1・4	土師器	壺	破片	－	4.2	－	ヘラミガキ（不鮮明）	ナデ（不鮮明）	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	82	AQ-15	P65・66・AP-17一括	土師器	壺	破片	－	5.4	－	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	外：黒褐 5YR3/1 内：にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	83	AR-15	P4、AS-14P22	土師器	壺	破片	－	5.6	－	ヘラケズリナデ	ナデ	外：褐 7.5YR4/3 内：褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	84	AV-12	P15、一括、AV-13一括、AW-12一括	土師器	壺	破片	－	3.4	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ヨコハケ	褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子、小石	良	古墳前期	反転実測
71	85	AQ-18	P6	土師器	壺	破片	－	7.0	－	ヘラケズリ	ナナメハケ、ヘラナデ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	86	AQ-16	P75、AR-16P89	土師器	壺	破片	－	7.0	－	ナデ	ナナメハケ	にぶい黄褐 10YR5/4	黒色・白色粒子・金色雲母	良	古墳前期	反転実測
71	87	AU-12	AU-12P22・23、AW-12P6	土師器	壺	破片	－	6.0	－	ナデ、木葉痕	ナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
71	88	AS-15	P32	土師器	壺	破片	－	8.0	－	ナデ？	ヨコハケ（不鮮明）	外：暗赤褐 5YR3/2 内：にぶい赤褐 5YR4/4	小石、黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
72	89	AR-16	P103	土師器	壺	破片	－	4.8	－	ヘラケズリ、ナデ	ヘラケズリ後指ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良	古墳前期	

第 4 表　V区土器観察表（14）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
72	90	AL-20	P8、AK-19 一括	土師器	壺	破片	－	－	－	ナナメハケ？、赤彩	ナデ	外：明赤褐 7.5YR3/3 内：浅黄橙 10YR8/3	黒色・白色粒子	良	古墳前期	
72	91	AQ-16	P9、AR-16P88・90、AR-16 一括	土師器	壺	破片	－	－	－	ナナメハケ	ヨコハケ（不鮮明）	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	
72	92	AR-15	P43	土師器	壺	破片	－	－	－	ヘラケズリ	ナデ・指ナデ	外：黒褐 7.5YR3/2 内：褐 7.5YR4/4	白色粒子	良	古墳前期	
72	93	AL-19	P5	土師器	台付甕	30%	15.8	－	－	有刻口縁、タテハケ・ナナメハケ	ヨコハケ	明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
72	94	AL-20	P1・2・4・5,6・7・9,10 ～ 16・19 一括、AL-19 一括	土師器	台付甕	60%	11.8	－	－	有刻口縁、タテハケ・ナナメハケ	ヨコハケ、ナデ	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	反転実測
72	95	AN-16	P4	土師器	台付甕	破片	13.8	－	－	タテハケ、ヨコナデ	ヨコハケ、ヨコナデ	にぶい褐 7.5YR5/4、黒褐 7.5YR3/1	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
72	96	AQ-15	P23	土師器	台付甕	破片	17.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテ・ナナメハケ	ヨコハケ	黒褐 5YR3/1	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
72	97	AP-17	P8	土師器	台付甕	破片	17.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ヨコハケ	ヨコハケ	外：褐 7.5YR4/6 内：赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母、石英	良	古墳前期	反転実測
72	98	AS-13	P5、AR-14P6、AF-15 一括、AR-13 一括	土師器	台付甕	破片	19.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	外：にぶい黄褐 10YR5/3 一部黒色 内：橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
72	99	AQ-13	P2 ～ 4・6・8・10・12・13 AQ-13 一括	土師器	台付甕	35%	15.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヨコ・ナナメハケ	ヘラミガキ	外：明赤褐 5YR5/6 内：暗赤褐 5YR3/2	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	100	AK-19	P2 ～ 8・10・11 ～ 13・一括、AK-20 P9、AK-18・AP － 18 一括	土師器	台付甕	70%	15.8	8.0	19.4	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ・指ナデ	ナデ、ナナメハケ	にぶい黄褐 10YR5/3、灰褐 10YR4/1、にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	
73	101	AW-11	P51・69・70・一括、AV-11 一括、AW-10 一括	土師器	台付甕	45%	13.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	粗いヨコハケ	黒褐 7.5YR3/2	黒色・白色粒子	良	古墳前期	
73	102	AL-17	P4、一括	土師器	台付甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、ナナメハケ、ミガキ	ヨコナデ、ナナメハケ	外：にぶい赤褐 5YR5/4 内：にぶい橙 5YR6/4	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	103	AL-19	P2、AM-19 P1	土師器	台付甕	破片	－	－	－	タテ・ナナメハケ	ヨコハケ	外：にぶい赤褐色一部黒く変色 内：黒褐 7.5YR3/2	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	104	AS-15	P19、一括	土師器	台付甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ナナメハケ	黒褐 10YR3 /2	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	105	AL-18	P3 ～ 5、一括	土師器	台付甕	破片	－	－	－	タテ・ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：黒褐 7.5YR3/1	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	106	AP-16	P31	土師器	台付甕	20%	－	－	－	タテハケ	ナデ	褐 10YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	
73	107	AO-18	P10、一括	土師器	台付甕	20%	－	8.0	－	ヨコナデ、タテハケ	ヘラケズリ、ナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	古墳前期	
73	108	AN-16	P7、AN-16・AM-16 一括	土師器	台付甕	15%	－	9.0	－	ヨコナデ、タテ、ナナメハケ	ヘラケズリ、指ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	109	AU-15	P9 ～ 11、AU-15 一括、AF-15 一括	土師器	台付甕	30%	－	9.4	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	110	AQ-13	P7	土師器	台付甕	25%	－	7.8	－	タテハケ	ナデ、ヨコ・ナナメハケ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	古墳前期	反転実測
73	111	AL-18	P1	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳前期	
73	112	AN-16	P5、一括	土師器	台付甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	黒褐 5YR2/1、にぶい赤褐 5YR4 /4	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	
73	113	AO-17	P10	土師器	台付甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ヨコハケ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい黄橙 10YR6/4	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	
73	114	AR-16	P3、AR-15 一括、AS-15 一括	土師器	台付甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ナナメハケ、ナデ	外：にぶい褐 7.5YR5/3 内：暗灰黄 2.5Y5/2	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	
73	115	AN-19	P5・10	土師器	台付甕	破片	－	－	－	ヨコ・タテ・ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ	橙 7.5YR6/6、黒褐 2.5Y3/2	白色粒子	良	古墳前期	
73	116	AQ-15	P31・54	土師器	台付甕	破片	－	－	－	タテ・ナナメハケ	ナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい黄褐 10YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期	
74	117	AM-16	P5・6、一括	土師器	S 字甕	15%	12.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	指ナデ・オサエ	外：黒褐 5YR3/1 内：にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期後半	
74	118	AN-16	一括	土師器	S 字甕	破片	13.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	指ナデ・オサエ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期後半	反転実測
74	119	AR-16	P48	土師器	S 字甕	破片	12.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	指ナデオサエ	外：灰褐 7.5YR4/2 内：橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期後半	反転実測
74	120	AN-19	P2・3・9、一括	土師器	S 字甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ナデ	外：にぶい褐 7.5YR5/4 内：橙 7.5YR6/6	白色粒子、金色雲母	良	古墳前期後半	
74	121	AN-15	P10、一括	土師器	S 字甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ナデ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：褐 7.5YR4/3	金色雲母	良	古墳前期後半	
74	122	AM-16	P2・4 、一括、AN-16 一括、AM-17 一括	土師器	S 字甕	破片	－	－	－	ナナメハケ	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/6、にぶい橙 5YR7/4	金色雲母	良	古墳前期後半	
74	123	AN-19	P4、一括	土師器	S 字甕	破片	－	9.6	－	ナデ、ヨコナデ	指オサエ、ナデ	橙 5YR6/6	赤色・白色粒子	良	古墳前期後半	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（15）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
74	124	AM-16	P8・9	土師器	叩き甕	40%	12.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タタキ	ヨコナデヘラケズリ、ナデ	外：にぶい赤褐 2.5YR4/4 内：暗褐 7.5YR3/3	黒色・白色粒子、小石	良	古墳前期初頭	煤付着、剥離あり
74	125	AL-19	P1・3・4・6	土師器	甕	45%	－	4.4	－	ナナメハケ、ヘラケズリ	ヨコ・ナナメハケ	外：明赤褐 5YR5/6 内：褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
74	126	AO-17	P6・7・9	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ、ヘラケズリ	ヨコハケ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳中期	反転実測
74	127	AS-13	P16・17	土師器	甕	破片	16.8	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	外：黒褐 7.5YR2/2 内：にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
74	128	AR-16	P86	土師器	甕	破片	14.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子	良	古墳中期	反転実測
74	129	AN-15	P2・5	土師器	甕	15%	16.4	－	－	口縁部ヨコナデ、指オサエ、ナナメハケ	ヨコナデ	にぶい褐 7.5YR6 /3	黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
74	130	AQ-16	P6・7・8、AQ-15 P55・58	土師器	甕	40%	13.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ（不鮮明）	ヘラナデ、ナデ	橙 7.5YR6/6	白色粒子	良	古墳中期	反転実測
74	131	AQ-15	P6・10～18・67・68、一括	土師器	甕	35%	14.8	5.0	10.3	口縁部ヨコナデ、指オサエ、ヘラナデ	ヘラナデ、指ナデ・オサエ	外：にぶい褐 7.5YR5/3・黒褐 7.5YR3/1、内：橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳中期	反転実測
75	132	AT-15	P4、一括、AU-15P1・4、AT-16・AU-15・16 一括	土師器	甕	30%	13.8	－	－	口縁部ヨコナデ・ナデ	ナデ・指オサエ	明赤褐 5YR5/6 一部黒 10YR2/1	黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
75	133	AV-11	P15、AV-12P42	土師器	甕	破片	11.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヨコナデ	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/4 口縁部黒く変色	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
75	134	AO-18	P11	土師器	甕	破片	12.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ?	ヘラケズリ、ナデ	橙 7.5YR7/6	黒色・白色粒子	良	古墳中期	
75	135	AV-12	P4	土師器	甕	破片	16.4	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	外：黒褐 7.5YR3/2 内：にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
75	136	AO-19	P3	土師器	甕	破片	14.8	－	－	口縁部ヨコナデ、タテ・ナナメハケ	ヨコハケ	褐 7.5YR4/6	白色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
75	137	AS-15	P10・11・30・37、一括	土師器	甕	破片	17.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ナデ	にぶい赤褐 5YR4/3	小石、赤色・白色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
75	138	AS-15	P5・6・36、一括	土師器	甕	破片	15.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヘラナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
75	139	AN-16	P9・10	土師器	甕	破片	13.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	指ナデ・オサエ、ナナメハケ	外：黒 10YR2/1 内：明褐 7.5YR5/6	小石、黒色・白色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
75	140	AT-16	P12	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：にぶい黄褐 10YR5/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳中期～後期	
75	141	AT-15	P6	土師器	甕	破片	－	－	－	タテ・ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳中期～後期	
75	142	AS-16	P2・3・23	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ（不鮮明）	にぶい黄褐 10YR5/4	小石、白色粒子	良	古墳中期～後期	
75	143	AS-15	P20、AS-15 一括	土師器	高杯	破片	18.8	－	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期中頃	反転実測
75	144	AL-17	P1～3、一括、AM-17 一括、AQ-16 一括、AL-19 一括	土師器	高杯	60%	17.8	9.8	10.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ヘラケズリ、ナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子・金色雲母	良	古墳前期中頃	反転実測
75	145	AS-16	P39	土師器	高杯	破片	15.6	－	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期中頃	反転実測
75	146	AQ-14	P8・9	土師器	高杯	20%	16.6	－	－	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期前半	反転実測
75	147	AR-16	P61	土師器	高杯	破片	－	9.8	－	穿孔、ミガキ（不鮮明）	ヘラケズリ、ヨコハケ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期～中期	反転、穿孔
75	148	AK-20	P1～5	土師器	高杯	40%	－	9.4	－	ヘラミガキ	粘土充填、ナデ	黒褐 10YR3/1、にぶい黄褐 10YR5/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期～中期	反転実測
75	149	AN-19	P12	土師器	高杯	40%	－	－	－	指オサエ、赤彩	赤彩、ヨコハケ	赤褐 2.5YR4/6 上部の内面、浅黄橙 7.5YR8/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳前期～中期	反転実測
76	150	AQ-18	P7	土師器	鉢	破片	7.8	－	－	口縁部ヘラケズリ、ヘラミガキ（不鮮明）	ヘラミガキ、ナデ	にぶい黄褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
76	151	AQ-14	P2	土師器	鉢	破片	10.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ナナメハケ、ナデ	明褐 7.5YR5/6	黒色粒子	良	古墳前期	反転実測
76	152	AO-16	P5	土師器	杯	破片	12.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	外：橙 5YR6/8 内：橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	古墳前期	反転実測
76	153	AV-12	P62	土師器	杯	破片	13.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラナデ	ナデ？	明赤褐 7.5YR5/6	黒色粒子	良	古墳中期	反転実測
76	154	AW-13	一括、AX-13 一括	土師器	杯	破片	12.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ	橙 2.5YR6/8	赤色・白色粒子	良	古墳中期	
76	155	AV-12	P48・50、一括	土師器	杯	20%	14.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
76	156	AW-12	一括、6 住一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳中期	反転実測
76	157	AR-14	P2・3、一括	土師器	杯	破片	14.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ、赤彩	ヨコナデ、ナデ、赤彩	赤褐 2.5YR4/8	黒色粒子	良	古墳中期	反転実測
76	158	AQ-17	P1・18	土師器	鉢	80%	13.0	2.6	7.0	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラナデ	明赤褐 5YR5/6	金色雲母	良	古墳中期	反転実測
76	159	AP-16	P11、AP-17P4・20・一括	土師器	杯	40%	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ	明褐 7.5YR5/8	砂粒子、赤色粒子	良	古墳中期	反転実測
76	160	AR-15	P56	土師器	杯	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	古墳中期	外、内一部黒
76	161	AQ-15	P38	土師器	杯	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	赤褐 5YR4/6	赤色・白色粒子	良	古墳中期	
76	162	AS-13	P2	土師器	杯	破片	10.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
76	163	試掘 7 トレ	一括	土師器	杯	破片	11.4	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良	古墳中期～後期	わずかに黒く汚れている 反転

第４表　Ⅴ区土器観察表（16）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
76	164	AP-14	P41、AP-15 一括	土師器	杯	80%	14.0	5.0	5.6	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ヘラミガキ	橙 7.5YR7/6	砂礫、赤色・白色粒子	良	古墳中期～後期	
76	165	AT-16	一括	土師器	杯	破片	16.6	－	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
76	166	AN-16	P1、AN-15・AO-15 一括	土師器	杯	80%	11.6	3.0	4.8	ハケミガキ	ハケミガキ	橙 5YR7/6	黒色・白色粒子	良	古墳中期～後期	
76	167	AR-17	P8 ～ 13,・21・28、AR-17・AQ-17・14 住一括	土師器	杯	90%	13.2	4.6	7.0	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳中期～後期	
76	168	AK-21	P1	土師器	杯	破片	11.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ナデ、指オサエ	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
76	169	AO-16	P8・17、AP-15P8	土師器	杯	破片	－	－	－	ヘラミガキ (不鮮明)	ヘラミガキ	外：明赤褐 5YR5/6 内：橙 7.5YR7/6	赤色・黒色・白色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
76	170	AV-12	P3、12 住一括	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ヘラケズリ、ナデ	ヘラミガキ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	古墳中期～後期	反転実測
76	171	AO-18	P4	土師器	杯	破片	－	－	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	古墳中期～後期	
76	172	AX-10	一括、AX-10、P13・19、1 住 P5	土師器	杯	35%	14.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	にぶい赤褐 2.5YR4/4	黒色・白色粒子	良	古墳～奈良時代	反転実測
76	173	AW-10	一括、AW-11 一括、AX-10P12	土師器	杯	25%	14.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	古墳～奈良時代	反転実測
76	174	AV-12	P28・6・7 住一括、AV-11、P35・45・56・57、AW-11P56、AV-11 一括、AW-12 一括	土師器	杯	75%	13.2	2.0	4.3	ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・白色粒子	良	奈良時代	器面が荒れている
77	175	AP-15	P9	土師器	杯	50%	11.6	7.4	4.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明褐 7.5YR5/6 内：橙 7.5YR6/8	砂粒子	良	9C 前半	反転実測
77	176	AP-18	P13	土師器	杯	30%	10.0	6.0	3.9	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子、雲母	良	9C 前半	反転実測
77	177	AR-17	P6	土師器	杯	15%	9.8	6.0	4.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半	反転実測
77	178	AR-16	一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半	反転実測、刻書
77	179	AU-12	一括、AU-13 一括	土師器	杯	30%	10.6	6.0	4.0	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半	反転実測
77	180	AR-17	一括	土師器	杯	破片	9.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半	反転実測
77	181	AO-18	P1・2、AO-19 一括	土師器	杯	35%	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR7/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測、墨書・刻書
77	182	AO-18	P21・22	土師器	杯	70%	10.8	5.0	4.2	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	183	試掘 4 号トレ	一括	土師器	杯	20%	11.6	5.8	3.5	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、墨書「キ」
77	184	AQ-16	P21	土師器	杯	40%	10.8	6.0	3.5	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	185	AR-16	一括	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	186	AR-16	一括	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	187	表土	一括	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	188	AU-14	P7、一括	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	189	AR-16	一括	土師器	杯	破片	9.2	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	190	AN-16	P16	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	191	AQ-14	P6	土師器	杯	破片	9.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	192	AR-16	一括	土師器	杯	破片	9.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	193	AT-16	一括	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	194	AP-14	一括	土師器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	外：黄褐 10YR5/8 内：にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	195	AU-13	一括	土師器	杯	破片	11.5	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/8	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	196	AV-12	一括	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	197	AS-14	一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	刻書
77	198	AP-17	一括	土師器	杯	破片	11.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	199	AQ-17	P10	土師器	杯	破片	16.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	200	AW-11	P71	土師器	杯	破片	9.8	4.4	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	201	AS-14	P9、一括	土師器	杯	20%	11.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
77	202	AQ-17	P16	土師器	杯	破片	10.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色粒子、金色雲母	良	9C 後半	反転実測
77	203	AO-18	一括	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	204	AQ-18	一括	土師器	杯	破片	11.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 2.5YR6/6	黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	205	AO-18	一括	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	206	AP-15	P1	土師器	杯	破片	8.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	褐 7.5YR4/6	白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	207	AR-17	一括	土師器	杯	15%	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	208	AT-13	P3、一括	土師器	杯	15%	11.6	5.0	3.9	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：褐灰 5YR4/1	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	209	AW-11	P64	土師器	杯	25%	12.8	6.0	4.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	210	AP-16	P18	土師器	杯	破片	15.2	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明褐 7.5YR5/6 内：黒 7.5YR2/1	赤色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
77	211	AT-13	一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測

第 4 表　V区土器観察表（17）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
78	212	AV-12	P26	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
78	213	AX-10	一括、AX-9 一括	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
78	214	AX-10	P21	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
78	215	AU-11	P4	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
78	216	AQ-16	P20	土師器	杯	破片	16.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
78	217	AU-14	P3	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
78	218	AT-15	P17	土師器	杯	破片	14.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
78	219	AT-15	P21	土師器	杯	破片	14.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
78	220	AW-12	P47	土師器	杯	破片	11.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
78	221	AW-12	一括、AV－11 一括	土師器	杯	20%	12.2	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	222	AW-12	P14	土師器	杯	破片	17.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書？
78	223	AS-15	P21・23、一括	土師器	杯	50%	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、刻書
78	224	AW-10	P1・3・5・68、AW-10 ～ 12 一括	土師器	杯	50%	13.0	5.0	5.0	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	225	AV-13	P14	土師器	杯	破片	14.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	226	AW-12	P7	土師器	杯	破片	15.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/8	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、煤付着
78	227	AS-17	P1	土師器	杯	80%	12.3	4.0	4.2	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	墨書
78	228	AW-10	一括、AX-10 一括、AX-11 一括	土師器	杯	25%	11.6	4.0	4.4	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6 灰黄褐 10YR4/2	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書「王」
78	229	AW-11	一括	土師器	杯	破片	13.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	230	AT-15	P13	土師器	杯	破片	15.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰黄褐 10YR4/2 内：明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	231	AQ-16	P76	土師器	杯	破片	14.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：橙 5YR6/6 内：橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	232	AT-16	P10	土師器	杯	15%	11.6	4.0	3.7	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	233	AW-10	P34	土師器	杯	破片	13.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	234	AW-10	P56	土師器	杯	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR6/4	白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	235	AV-12	P32	土師器	杯	破片	－	14.6	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	236	AV-11	P25、一括	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR6/4	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	237	11 トレ	一括		杯	破片	14.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	238	AW-10	P43・74 、AW-10 一括、AW-11 一括	土師器	杯	40%	15.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：灰黄褐 10YR4/2 内：黒褐 10YR3/1・黄褐 10YR5/3	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
78	239	AW-12	P23	土師器	杯	破片	10.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/2	白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	240	AV-11	P29	土師器	杯	破片	13.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	241	AW-10	P22	土師器	杯	破片	10.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	242	AW-12	P8	土師器	杯	破片	10.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	243	AW-10	P9	土師器	杯	破片	10.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
79	244	AX-10	一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、刻書
79	245	AW-12	一括	土師器	杯	破片	14.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	246	AW-11	一括、AW-10 一括	土師器	杯	破片	14.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	247	AX-10	一括	土師器	杯	破片	12.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい橙 5YR6/4	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、煤付着
79	248	AW-12	一括	土師器	杯	破片	14.2	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	249	AW-12	一括	土師器	杯	破片	13.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐 7.5YR3/2	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	250	AV-11	P23	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	251	AW-10	一括	土師器	杯	破片	14.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	252	AW-11	一括	土師器	杯	破片	13.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	253	AX-11	一括	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	254	AW-11	一括	土師器	杯	破片	12.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	255	AP-15	P24	土師器	杯	破片	14.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	256	AW-11	一括、AW-10 一括	土師器	杯	破片	12.2	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	257	AQ-16	P65	土師器	杯	破片	14.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	258	AR-16	一括	土師器	杯	破片	13.2	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	259	AW-10	一括	土師器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	260	AW-11	P63	土師器	杯	破片	13.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、剥離あり
79	261	AW-12	P22	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	262	AW-11	P19	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測

第 4 表　V区土器観察表（18）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
79	263	AT-15	一括	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：にぶい褐 7.5YR6/3 内：黒 7.5YR2/1	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、内外面煤付着
79	264	AT-15	一括	土師器	杯	破片	12.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：黒 7.5YR2/ 1	黒色・白色粒子	良	10C 前半	
79	265	AX-12	一括	土師器	杯	破片	12.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：黒褐 2.5YR2/1	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	266	AR-16	一括	土師器	杯	破片	15.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	267	AW-10	一括、AW-11 一括	土師器	杯	破片	13.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	268	AU-14	一括	土師器	杯	破片	13.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
79	269	AT-16	一括	土師器	杯	破片	12.2	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	270	AX-11	P20、一括	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	271	AT-16	一括	土師器	杯	破片	14.2	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰褐 7.5YR4/2	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	272	AW-10	P57	土師器	杯	破片	14.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	273	AO-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色	良	10C 前半	反転実測
79	274	AV-12	一括、AU-12P50	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	275	AV-11	一括	土師器	杯	破片	11.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR5/4	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	276	AQ-15	P24・25	土師器	杯	20%	14.0	4.6	5.1	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	277	AW-10	P39、AW-10 一括、AX-11 一括	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
79	278	AW-10	P18	土師器	杯	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
80	279	AW-11	P49	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
80	280	AV-12	P40	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
80	281	AX-11	一括	土師器	杯	破片	12.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、刻書
80	282	AX-10	P8	土師器	杯	破片	11.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
80	283	AW-10	P37・60	土師器	杯	破片	13.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
80	284	AP-14	P4 ～ 6、一括、AP-15 一括	土師器	杯	50%	14.6	6.4	3.8	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 後半	反転実測、外面煤付着
80	285	AR-16	P92	土師器	杯	破片	－	5.4	－	回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい黄褐 10YR6/4	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	286	AP-18	P19	土師器	杯	40%	－	5.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色粒子、雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
80	287	AP-17	一括	土師器	杯	破片	－	6.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	黄褐 10Y5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	288	AN-16	P15	土師器	杯	30%	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	289	AQ-17	P15	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
80	290	AO-18	P3・20	土師器	杯	40%	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	291	AP-18	P18	土師器	杯	40%	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	暗文	橙 7.5YR6/8	赤色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
80	292	AQ-14	P11	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	293	AU-14	P2	土師器	杯	25%	－	4.4	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	294	AU-12	P9	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
80	295	AV-12	P17、AU-12 一括	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色粒子、小石	良	9C 前半～後半	
80	296	AO-19	P4	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	297	AS-14	P4	土師器	杯	20%	－	5.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	298	AU-12	P21・47、AV-13 一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	299	AO-15	P15	土師器	杯	破片	－	5.2	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR7/6	赤色・黒色	良	9C 前半～後半	反転実測
80	300	AQ-14	P3	土師器	杯	15%	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
80	301	AR-16	P59、一括	土師器	杯	破片	－	5.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	302	AT-16	P28	土師器	杯	15%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	303	AU-13	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	304	AQ-16	P31	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	305	AQ-17	P14	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：橙 7.5YR6/6 内：明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	306	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	307	AQ-16	P14	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	308	AP-17	一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/6	赤色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
80	309	AW-10	P45	土師器	杯	35%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	黒褐 10YR3/2	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	310	AS-16	P6、一括、AS-15 一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書
81	311	AW-11	P66・67	土師器	杯	25%	－	4.6	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書
81	312	AT-14	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書
81	313	AU-13	P25	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書「長」？

第４表　Ⅴ区土器観察表（19）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
81	314	AR-17	P26	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書「巾□」？
81	315	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	316	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：黒褐 7.5YR3/1 内：灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書？
81	317	AR-13	P3	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	318	AK-20	一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	黄褐 10YR5/8	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	319	AX-10	一括、AW-10 一括	土師器	杯	30%	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	320	AS-14	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	321	AR-13	一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	322	AR-16	P80	土師器	杯	20%	－	5.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	323	AR-15	一括	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/8	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	324	AS-17	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	325	AP-17	P19・21	土師器	杯	20%	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/6	白色粒子、砂粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	326	AP-17	一括	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/6	赤色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	327	AP-17	P1	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	328	AR-15	P7	土師器	杯	20%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	329	AV-11	P59	土師器	杯	15%	－	4.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	
81	330	AS-16	一括	土師器	杯	破片	－	4.6	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	黒 7.5YR2/1	白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
81	331	AR-16	P77	土師器	杯	破片	－	5.8	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	332	AR-17	P5	土師器	杯	破片	－	3.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	333	AQ-16	P12	土師器	杯	破片	－	4.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	334	AQ-16	P48	土師器	杯	破片	－	4.4	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	335	AO-15	P12	土師器	杯	破片	－	5.2	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	336	AO-16	一括	土師器	杯	破片	－	4.2	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	
81	337	AW-10	P4	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：にぶい赤褐 5YR4/3 内：明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	338	AP-19	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/8	赤色粒子、砂粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	339	AQ-16	P64	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	340	AQ-16	P25	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	341	AP-18	P2	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	342	AS-15	P28	土師器	杯	破片	－	5.6	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	343	AS-15	P8	土師器	杯	破片	－	4.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	344	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい黄褐 10YR6/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
81	345	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	
82	346	AV-11	P16、AV-12 一括	土師器	杯	20%	－	4.2	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書「太東」？
82	347	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	348	AW-10	P20・70、AX-10P26	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：明褐 7.5YR5/6・にぶい黄褐 10YR5/4、内：明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書「南」
82	349	AR-13	P14	土師器	杯	20%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書「合」
82	350	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	外：明黄褐 10YR7/6 内：橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	351	AT-12	P12	土師器	杯	40%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
81	352	AT-15	一括、AT-14 一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	353	AU-12	P39	土師器	杯	破片	－	6.3	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	354	AW-11	P29、58、一括	土師器	杯	50%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	355	AW-10	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	356	AU-12	P46、AV-13P13	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	357	AW-10	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書
82	358	AW-10	一括、AW-11 一括、AV-11 一括	土師器	杯	35%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	359	AQ-13	P9	土師器	杯	50%	－	7.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6 にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	10C 前半	反転実測、墨書「伏」
82	360	AU-12	P43	土師器	杯	破片	－	3.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書、剥離あり
82	361	表土	一括	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：赤褐 5YR4/8 内：灰褐 5YR4/2	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測、墨書

第４表　Ⅴ区土器観察表（20）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
82	362	AP-19	P5	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/8	赤色粒子	良	10C 前半	反転実測、刻書
82	363	AU-12	P41、AU-12 一括	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、剥離あり
82	364	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測、刻書
82	365	AP-18	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	366	AP-19	P2	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/8	赤色粒子	良	10C 前半	反転実測、剥離あり
82	367	AR-15	P53	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	外：にぶい褐 7.5YR5/3 内：黒 10YR2/1	白色粒子	良	10C 前半	反転実測、刻書
82	368	AW-11	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	
82	369	AW-11	P37	土師器	杯	50%	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	370	AV-11	P5・12、一括	土師器	杯	20%	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	371	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	372	AW-11	一括、AX-10 一括	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	373	AX-12	一括	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 2.5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	374	AW-12	P25	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	黒褐 10YR2/2	赤色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	375	AR-17	P14	土師器	杯	破片	－	6.4	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
82	376	AW-11	P44	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	377	AV-11	P64	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	378	AP-15	P32	土師器	杯	25%	－	5.2	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明黄褐 10YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	379	AW-10	P2・28、AW-10・11 一括	土師器	杯	破片	－	3.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい黄褐 10YR4/3 内：にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	380	AR-15	P55	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：橙 7.5YR6/4 内：明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	381	AO-17	P3	土師器	杯	破片	－	4.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	黄褐 10YR5/8	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	382	AW-11	P21	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	383	AW-10	一括、AW-11・AX-11 一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	384	AV-12	P38	土師器	杯	破片	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	385	AW-10	P54、AW-10・11 一括	土師器	杯	40%	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	386	AQ-16	P77	土師器	杯	破片	－	3.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	387	AW-10	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	388	AX-12	一括	土師器	杯	破片	－	5.2	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	389	AW-10	一括	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	390	AV-12	一括、AV-13P10・一括、AU-12 一括、AW－12 一括	土師器	杯	20%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	391	AR-17	P22	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	392	AW-10	P58	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	393	AX-11	P19、一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	394	AT-13	P11	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	395	AW-12	P16	土師器	杯	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	396	AX-10	P22	土師器	杯	25%	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	397	AW-12	P37、一括	土師器	杯	破片	－	3.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	398	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	399	AR-13	P9	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	400	AX-10	P23、24	土師器	杯	25%	－	4.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	401	AW-10	P15、AW-10・11 一括	土師器	杯	25%	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	褐 7.5YR6/4	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	402	AP-16	一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半	
83	403	AS-14	P19	土師器	杯	破片	－	5.2	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	404	AW-11	P52	土師器	杯	破片	－	3.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6、黒 7.5YR2/1	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	405	AQ-15	一括	土師器	杯	破片	－	3.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	406	AP-16	一括	土師器	杯	破片	－	5.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/8	黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	407	AW-11	P22・35、一括	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい黄褐 10YR5/3 内：明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	408	AT-15	P20	土師器	杯	破片	－	4.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	409	AR-13	P8	土師器	杯	15%	－	4.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR6/4	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	
83	410	AW-10	P11 ～ 14	土師器	杯	25%	－	6.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	411	AW-11	P25	土師器	杯	破片	－	7.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測

第 4 表　V区土器観察表（21）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
83	412	AT-16	P29	土師器	杯	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：灰褐 5YR4/2	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 前半	反転実測
83	413	AP-16	P30、一括	土師器	杯	40%	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 後半	反転実測
83	414	AO-16	P6	土師器	杯	30%	－	6.6	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	10C 後半	反転実測
83	415	AQ-18	P52	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	10C 後半	反転実測
84	416	AW-11	P61	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	417	AR-16	P9	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	418	AS-16	P12	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	419	AW-12	P1	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	420	AW-12	P46	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	421	AR-16	P71	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	422	AT-16	P11	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	423	AT-14	P4	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書「＃」
84	424	AR-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	425	AO-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	426	AQ-18	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：灰褐 5YR5/2 内：橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	427	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	428	AT-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	429	AQ-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	反転実測、墨書
84	430	AS-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書、刻書
84	431	AT-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	432	AO-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	433	AR-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	434	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	435	AR-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	436	AT-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書、刻書
84	437	AP-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子、砂粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	438	AT-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	439	AS-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	440	AS-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	441	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 7.5YR7/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	442	AQ-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	443	AQ-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	444	AV-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	褐 7.5YR4/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	445	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 2.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	446	AS-13	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/8	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	447	AR-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	褐 7.5YR4/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	448	AT-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 5YR5/6 内：にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	449	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	外：にぶい橙 7.5YR6/4 内：橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	450	AO-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	451	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	452	AS-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	外：赤褐 2.5YR4/8 内：にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	453	AU-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	454	AO-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	455	AU-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	456	AW-13	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	457	AQ-18	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
84	458	AW-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
84	459	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	9.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/8	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	460	AT-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	461	AV-11	P13、一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書、刻書

第 4 表　V区土器観察表（22）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
85	462	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書、剥離あり
85	463	AO-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	464	AV-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	465	AU-13	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	466	AV-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	467	AX-10	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい黄褐 10YR5/3 内：黒褐 10YR3/1	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	468	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	469	AO-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書、刻書、剥離あり
85	470	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	471	AR-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	472	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	473	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	474	AT-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	475	AW-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	476	AW-10	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書「太東」？
85	477	AV-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	478	AV-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	479	AV-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	480	AV-13	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	481	AR-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	482	AW-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	483	AX-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	484	AT-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	485	AX-10	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	486	AP-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	487	AX-10	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	墨書
85	488	AO-19	P5	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	489	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	490	AQ-17	P13	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子、金色雲母	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	491	AR-14	P8	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	492	AP-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	493	AP-18	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	赤色粒子、砂粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	494	AR-13	P13	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	495	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	496	AR-13	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	外：褐 7.5YR4/6 内：黒褐 7.5YR3/2	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	497	AS-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	498	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	褐 7.5YR4/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	499	AS-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	500	AR-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	501	AW-13	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	502	AP-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：明赤褐 5YR5/6 内：黒 10YR1.7	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	503	AQ-18	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	504	AO-15	P2	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	505	AQ-18	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：橙 2.5YR6/8 内：にぶい橙 7.5YR7/4	金雲母	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	506	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	507	AS-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	508	AV-11	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
85	509	AQ-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	510	AS-15	P16	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文？	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	511	AP-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	512	AV-11	P68	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書

第４表　Ⅴ区土器観察表（23）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
86	513	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	514	AP-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明褐 7.5YR5/6	赤色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	515	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	516	AS-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	517	AS-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	518	AX-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 5YR5/6 内：にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	519	AS-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	520	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色粒子・金色雲母	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	521	AT-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	522	AW-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	523	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	524	AS-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	525	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	526	表土	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	527	表土	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	528	AT-13	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	529	AS-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	530	AT-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：黒褐 10YR3/1 内：にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	531	AS-15	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	532	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	533	AR-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書、剥離あり
86	534	AS-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	黒 10YR2/1	白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	535	AX-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	536	AW-10	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	537	AR-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	538	AQ-17	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	539	AS-14	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	黄褐 10YR5/8	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	540	AT-16	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：明赤褐 2.5YR5/6 内：橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	541	AW-12	一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	542	AW-11	P28	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	543	AW-11	P54	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
86	544	AV-13	P6、AV-12 一括	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	刻書
86	545	AW-11	P39	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
86	546	AW-12	P35	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	剥離あり
86	547	AW-10	P40	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
86	548	AW-10	P23	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	
86	549	AW-10	P16	土師器	杯	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	反転実測
86	550	AO-17	P1	土師器	高台付杯	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、削り出し高台	ロクロナデ	橙 5YR6/8	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	剥離あり
86	551	AU-14	P11、AU-13 一括	土師器	高台付杯	破片	－	6.4	－	ロクロナデ、削り出し高台	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	反転実測
86	552	AR-16	P25・34	土師器	内黒 高台付杯	30%	－	7.6	－	ロクロナデ、削り出し高台	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 5YR5/6 内：黒 2.5Y2/1	白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	反転実測
86	553	AS-14	P1 ～ 3	土師器	高台付杯	30%	－	7.0	－	ロクロナデ、削り出し高台	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～ 10C 前半	反転実測、刻書
87	554	AR-15	P39	土師器	Ⅲ	破片	14.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR5/4	小石、黒色・白色粒子	良	9C 前半	反転実測
87	555	AO-19	P6	土師器	Ⅲ	破片	12.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
86	556	AT-16	P18・19	土師器	Ⅲ	25%	15.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	557	AU-15	一括	土師器	Ⅲ	破片	12.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	外：黒褐 7.5YR3/1 内：にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書
86	558	AR-13	一括	土師器	Ⅲ	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	559	AS-16	P16・34、一括、AR-17 一括、AS-15 一括	土師器	Ⅲ	50%	12.6	4.6	2.5	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 2.5YR4/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書「刀」
87	560	AR-17	P1	土師器	Ⅲ	20%	13.6	5.0	2.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
87	561	AP-18	P4	土師器	Ⅲ	破片	14.2	－	－	ロクリナデ	ロクロナデ、放射状暗文	橙 5YR6/8	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、内面煤付着
87	562	AV-12	P34	土師器	Ⅲ	破片	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	褐 7.5YR4/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（24）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
87	563	AT-12	P5	土師器	Ⅲ	25%	13.0	5.0	2.7	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	564	AP-16	P14	土師器	Ⅲ	30%	12.6	4.4	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	明黄褐 10YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書
87	565	AW-11	一括	土師器	Ⅲ	15%	13.6	9.8	2.0	ロクロナデ	ロクロナデ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、墨書「刀」
87	566	AV-11	一括	土師器	Ⅲ	破片	13.4	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	567	AQ-16	P71	土師器	Ⅲ	破片	12.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	568	AT-13	P1	土師器	Ⅲ	破片	12.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	569	AX-10	一括	土師器	Ⅲ	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	570	AW-11	P9	土師器	Ⅲ	破片	13.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	571	AW-10	P8、一括	土師器	Ⅲ	破片	13.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
87	572	AR-16	P26	土師器	Ⅲ	25%	11.4	4.0	3.1	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
87	573	AX-10	一括、AX-11P10、一括、1 住一括	土師器	Ⅲ	40%	13.6	4.0	3.0	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 2.5YR6/8	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
87	574	AP-14	P7・9	土師器	Ⅲ	50%	13.2	4.0	2.3	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色・黒色粒子、金色雲母	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
87	575	AX-11	一括、P6	土師器	Ⅲ	25%	12.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
87	576	AV-11	一括	土師器	Ⅲ	破片	13.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
87	577	AX-10	一括× 2	土師器	Ⅲ	破片	12.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6、黒褐 2.5YR3/1	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	578	AW-10	P71、2 住一括、1 住一括、AW-10 一括、AX-10 一括、AK-10 一括	土師器	Ⅲ	80%	12.0	3.5	2.4	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測、墨書「南」
88	579	AQ-16	P59	土師器	Ⅲ	破片	12.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	580	AW-10	P17	土師器	Ⅲ	破片	11.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄褐 10YR6/4、黒褐色 10YR3/1	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	581	AX-11	P25	土師器	Ⅲ	破片	11.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	582	AX-10	一括	土師器	Ⅲ	破片	12.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	583	AT-14	一括	土師器	Ⅲ	破片	12.8	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測、墨書
88	584	AW-11	一括	土師器	Ⅲ	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	585	AW-11	一括、AX-11 一括	土師器	Ⅲ	破片	11.6	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	586	AX-10	一括	土師器	Ⅲ	破片	13.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測
88	587	AW-11	P31・32・34・57、一括、AV-11 一括	土師器	Ⅲ	50%	12.8	7.0	2.7	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 後半	墨書
88	588	AW-11	P40、AW-11 一括	土師器	Ⅲ	40%	12.0	4.8	2.3	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 末～ 10C 前半	反転実測、墨書
88	589	AQ-16	P19、一括	土師器	Ⅲ	50%	12.2	4.5	2.7	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 後半	
88	590	AR-15	P37	土師器	Ⅲ	40%	－	6.2	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色・黒色・白色粒子	良	10C 後半	反転実測
88	591	AN-19	P1	土師器	Ⅲ	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
88	592	AP-14	P21	土師器	Ⅲ	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/8	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
88	593	AS-14	P18	土師器	Ⅲ	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
88	594	AQ-14	P12	土師器	Ⅲ	破片	－	6.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
88	595	AO-16	P12	土師器	Ⅲ	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい橙 7.5YR6 /4	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
89	596	AP-15	P36・37	土師器	Ⅲ	破片	－	8.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
89	597	AQ-16	P15	土師器	Ⅲ	破片	－	5.8	－	ロクロナデ、ヘラ切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
89	598	AP-16	P7	土師器	Ⅲ	破片	－	4.4	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明褐 7.5YR5/8	赤色粒子、金色雲母	良	9C 後半	反転実測
89	599	AU-13	P11	土師器	Ⅲ	破片	－	5.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、墨書
89	600	AQ-15	一括	土師器	Ⅲ	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 7.5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測、刻書
89	601	AS-13	P3	土師器	Ⅲ	破片	－	5.4	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	黒色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測、墨書
89	602	表土	表土	土師器	Ⅲ	破片	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測、墨書「□甲」
89	603	AW-11	一括	土師器	Ⅲ	破片	－	8.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測、墨書
89	604	AT-16	P15・20、AS-15P1、一括	土師器	Ⅲ	50%	－	7.2	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測、刻書
89	605	AP-16	一括	土師器	Ⅲ	破片	－	8.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/8	赤色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測、刻書
89	606	AR-16	一括	土師器	Ⅲ	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	刻書
89	607	AT-15	P12、AT-16P34	土師器	Ⅲ	破片	－	6.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
89	608	AQ-18	P1	土師器	Ⅲ	破片	－	6.6	－	ロクロナデ、回転糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
89	609	AQ-16	P47	土師器	Ⅲ	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
89	610	AQ-16	P46	土師器	Ⅲ	破片	－	5.0	－	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	外：橙 7.5YR7/6 内：黄灰 2.5Y4/1	赤色・黒色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
89	611	AU-13	一括	土師器	Ⅲ	40%	－	5.8	－	回転糸切り、ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
89	612	AT-13	一括	土師器	Ⅲ	破片	－	5.0	－	底部ヘラ切り	ロクロナデ	外：明赤褐 5YR5/6 内：灰黄褐 10YR4/2	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（25）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
89	613	AT-15	P10	土師器	皿	破片	－	6.2	－	糸切り、ヘラケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	外：橙 5YR6/6 内：橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
89	614	AT-16	一括	土師器	皿	破片	－	6.0	－	回転糸切り、ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
89	615	AS-17	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	灰褐 5YR4/2	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	墨書
89	616	AW-11	P10	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	刻書
89	617	AW-11	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい橙 5YR6/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	墨書
89	618	AR-17	P2	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	刻書
89	619	AO-16	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	墨書
90	620	AT-16	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい褐 7.5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	墨書
90	621	AO-17	P12	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	墨書
90	622	AO-15	P14	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色	良	9C 後半	
90	623	AN-17	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	回転糸切り、ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、放射状暗文	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色粒子	良	9C 後半	刻書
90	624	AR-16	P1	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 後半	刻書
90	625	AP-17	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色粒子	良	9C 後半	刻書、剥離あり
90	626	AP-14	一括	土師器	皿	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色粒子	良	9C 後半	刻書
90	627	AP-14	P38	土師器	高台付皿	30%	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：明褐 7.5YR5/6 内：黒 7.5YR2/1	赤色粒子	良	10C 後半	反転実測
90	628	表土下	一括	土師器	高台付皿	破片	－	9.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	10C 後半	反転実測
90	629	AX-11	P13	土師器	蓋	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐 5YR5/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	
90	630	AS-13	一括	土師器	蓋	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	
90	631	AT-13	P5	土師器	蓋	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	
90	632	AR-15	P3	土師器	蓋	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	
90	633	AQ-16	P49	土師器	蓋	破片	3.5	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	黒色粒子	良	9C 前半～後半	
90	634	表土	一括、AT-16 一括	土師器	蓋	破片	16.8	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 7.5YR6/6	赤色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測、刻書
90	635	AR-13	P2	土師器	蓋	破片	15.8	－	－	ロクロナデ、渦巻状暗文	ロクロナデ、渦巻状暗文	にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
90	636	AR-17	一括	土師器	蓋	破片	15.8	－	－	ロクロナデ、渦巻状暗文	ロクロナデ、渦巻状暗文	橙 5YR6/6	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
90	637	AR-14	P11	土師器	蓋	破片	－	－	－	ロクロナデ、渦巻状暗文	ロクロナデ、渦巻状暗文	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	
90	638	AQ-16	一括	土師器	蓋	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	良	9C 前半～後半	
90	639	AR-16	P29・51・68	土師器	内黒鉢	25%	21.6	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	外：明赤褐 5YR5/6 内：黒褐 2.5Y3/1	白色粒子	良	9C 後半	反転実測
90	640	AU-13	一括 AU-14 一括、AT-13 一括	土師器	内黒鉢	15%	20.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ、放射状暗文	外：にぶい褐 7.5YR5/3 内：黒 2.5Y2/1	赤色・黒色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
90	641	AP-14	P1・29・33、AQ-15P59	土師器	鉢	20%	23.0	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明褐 7.5YR5/8	赤色・白色粒子	良	9C 後半	反転実測
90	642	AX-11	P11・12	土師器	鉢	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐 2.5YR5/6	赤色・黒色粒子	良	9C 後半	反転実測
90	643	AO-14	P1・2	土師器	鉢	破片	－	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	ヘラミガキ	明赤褐 5YR5/6、にぶい赤褐 2.5YR4/4	黒色・白色粒子	良	9C 後半？	墨書？
90	644	AS-16	P31	土師器	甕	破片	19.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	黒色・白色粒子・金色雲母	良	9C 後半	反転実測
90	645	AP-18	P12 一括	土師器	甕	破片	20.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナデ、指ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 後半	反転実測
91	646	AO-16	P13	土師器	甕	破片	19.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	褐色 7.5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	647	試掘３号トレ	一括	土師器	甕	破片	20.4	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	648	AO-18	一括	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	
91	649	AQ-15	P35	土師器	甕	破片	15.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	650	AQ-16	P30・37・45・一括	土師器	小甕	40%	19.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	651	AP-16	P38	土師器	小甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：黒褐 5YR3/1 内：にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	
91	652	AP-14	P27	土師器	小甕	破片	15.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母、石英	良	9C 前半～後半	反転実測
91	653	AW-10	P21・47	土師器	小甕	破片	18.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4 黒 7.5YR1.7/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	654	AR-15	P35	土師器	小甕	破片	18.0	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：赤褐 5YR4/6 内：灰褐 5YR4/2	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
91	655	AP-14	P37	土師器	甕	破片	21.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	黄褐 2.5Y5/4	白色粒子、金色雲母、石英	良	9C 前半～後半	
91	656	AR-16	P23・30	土師器	甕	破片	－	7.0	－	ナナメハケ、木葉痕	指ナデ・オサエ	外褐 10 YR4/6 内明赤褐 5YR5/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	
91	657	AQ-18	P3	土師器	甕	破片	－	7.0	－	ナデ、木葉痕	ヨコハケ	外：灰黄 10YR4/2 内：明赤褐 5YR5/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測

第４表　Ⅴ区土器観察表（26）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
91	658	AR-16	P73	土師器	甕	破片	－	6.0	－	ナナメハケ、ナデ、木葉痕	指ナデ・オサエ	赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	
91	659	AR-14	P1	土師器	甕	破片	－	7.0	－	ナデ、木葉痕	ヨコナデ	外：にぶい黄褐 10YR5/4 内：褐 7.5YR4/6	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
91	660	AS-14	P23	土師器	甕	破片	－	7.0	－	ナデ、木葉痕	ヨコハケ	オリーブ褐 2.5Y4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	661	AU-15	P2・5	土師器	甕	破片	－	8.0	－	タテハケ、木葉痕	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	662	AQ-15	P42	土師器	甕	破片	－	8.0	－	ナデ、木葉痕	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	663	AW-12	P33	土師器	小甕	破片	－	8.0	－	ナデ、木葉痕	ヨコハケ	褐 7.5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	664	AT-14	P1	土師器	小甕	破片	－	7.0	－	ヘラナデ、木葉痕	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
91	665	AU-14	P10	土師器	甕	破片	－	－	－	ナナメハケ、木葉痕	ナデ	にぶい赤褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
91	666	AQ-18	一括	土師器	甕	破片	－	8.0	－	ナナメハケ（不鮮明）、ナデ、木葉痕	ナナメハケ	にぶい黄褐 10YR4/3	金色雲母	良	9C 前半～後半	反転実測
92	667	AW-11	P2	土師器	甕	破片	30.6	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	668	AV-12	P1・18、AV-11P3	土師器	甕	破片	31.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	669	AP-15	P31	土師器	甕	破片	26.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ	褐 7.5YR4/4	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母、石英	良	10C 前半～後半	
92	670	AT-16	P41、一括	土師器	甕	破片	26.8	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	赤褐 2.5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	671	AW-11	P33	土師器	甕	破片	28.4	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ナナメハケ	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	672	AU-12	P29	土師器	甕	破片	29.0	－	－	口縁部ヨコナデ、指オサエ	ナナメハケ	外：暗褐 7.5YR3/3 内：にぶい赤褐 5YR5/4	赤色・黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	
92	673	AP-15	P26・AQ-18P10	土師器	甕	破片	29.0	－	－	口縁部ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	明赤褐 5YR5/8	白色粒子、金色雲母、石英	良	10C 前半～後半	
92	674	AW-12	P17	土師器	甕	破片	－	－	－	ナナメハケ（不鮮明）	指ナデ、ナナメハケ（不鮮明）	にぶい赤褐 5YR6/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	
92	675	AP-16	P12	土師器	甕	破片	－	10.0	－	タテハケ（不鮮明）、木葉痕	ヨコ・ナナメハケ	外：褐 10YR4/6 内：黒褐 10YR3/1	白色粒子、金色雲母、石英	良	10C 前半～後半	反転実測
92	676	AW-12	P34	土師器	甕	破片	－	9.0	－	ナデ、木葉痕	ナデ	外：黄褐 2.5YR5/3 内：赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子	良	10C 前半～後半	反転実測
92	677	AQ-16	P5	土師器	甕	破片	－	10.0	－	ナデ、木葉痕	ナナメハケ	にぶい黄褐 10YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	678	AW-10	P24	土師器	甕	破片	－	9.0	－	タテハケ（不鮮明）、木葉痕	ヨコ・ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	679	AO-16	P11	土師器	甕	破片	－	9.0	－	タテハケ、木葉痕	指オサエ・ナナメハケ	外：明赤褐 2.5YR5/6、内：にぶい褐 7.5YR5/4・黒褐 7.5YR3/2	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	680	AS-16	P9、一括、AQ-17一括	土師器	甕	破片	－	9.0	－	ナナメハケ（不鮮明）、木葉痕	ナデ	褐 7.5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
92	681	AW-10	P50、AW-10	土師器	甕	破片	－	10.0	－	タテハケ（不鮮明）、木葉痕	ヨコハケ	褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
93	682	AQ-16	P70	土師器	甕	破片	－	9.0	－	ナデ、木葉痕	ヨコハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
93	683	AP-14	P31	土師器	甕	破片	－	8.0	－	ヘラケズリ、ナデ、木葉痕	ナナメハケ	オリーブ褐 2.5Y4/4	赤色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
93	684	AQ-16	P17	土師器	甕	破片	－	12.0	－	ナデ、木葉痕	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
93	685	AT-15	P1	土師器	甕	破片	－	9.0	－	ナナメハケ、ナデ、木葉痕	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
93	686	AQ-16	P73	土師器	甕	破片	－	10.0	－	ナデ、木葉痕	ナナメハケ	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子	良	10C 前半～後半	反転実測
93	687	AO-17	P2	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	688	AT-16	P9	土師器	小甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、ナデ	ナナメハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	689	AP-14	P17	土師器	小甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ナデ、ヨコナデ	外：黒 7.5YR2/1 内：極暗褐 7.5YR2/3	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	690	AR-16	P102	土師器	小甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ナデ、ヨコナデ	外：褐 7.5YR4/3 内：黒褐 10YR3/1	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	691	AW-11	P14	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ（不鮮明）	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	692	AU-16	P1	土師器	小甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：にぶい赤褐 7.5YR4/4 内：黒褐 5YR3/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	693	AX-12	P8	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ナナメ・ヨコハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	694	AT-16	P6	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 2.5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	695	AQ-16	P79	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	黒褐 5YR3/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	696	AO-16	P14	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ	ヨコハケ	にぶい黄橙 10YR6 /4	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
93	697	AQ-17	P9	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	698	AW-11	P18	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、ナナメハケ（不鮮明）	ヨコ・ナナメハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	699	AP-16	P5	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	700	AO-15	P1	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	701	AQ-16	P74	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子・金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	702	AQ-16	P1	土師器	甕	破片	－	－	－	ヨコナデ、ナナメハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/3	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	703	AT-16	P7	土師器	甕	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ	ヨコハケ	にぶい赤褐 5YR4/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	704	試掘４号トレ	P5	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	黒褐 7.5YR3/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	

第 4 表　V区土器観察表（27）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	器種	部位・残存率	法量（cm）			成形及び調整技法（外面）	成形及び調整技法（内面）	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
							口径	底径	器高							
94	705	AT-15	P5	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	外：黒褐 10YR3/2 内：にぶい褐 7.5YR5/4	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	706	AT-16	P2	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ	赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	707	AW-12	P26・28・32・39	土師器	甕	破片	－	－	－	タテハケ	ヨコハケ	暗褐 10YR3/3	白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
94	708	AS-14	P7	土師器	高坏	破片	－	13.0	－	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	赤褐 5YR4/8	黒色・白色粒子	良	10C 前半～後半	反転実測
94	709	AR-16	P52	土師器	羽釜	破片	21.6	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコナデ	褐 7.5YR4/3	白色粒子、金色雲母	良	10C 前半～後半	反転実測
94	710	AP-14	P15	土師器	羽釜	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：にぶい黄褐 10YR4/3 内：褐 10YR4/4	白色粒子、金色雲母、砂礫	良	10C 前半～後半	
94	711	AU-15	P7	土師器	羽釜	破片	－	－	－	口縁部ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ	外：黒褐 7.5YR3/1 内：褐 7.5YR4/3	黒色・白色粒子 、金色雲母	良	10C 前半～後半	
94	712	AP-14	P42	土師器	羽釜	破片	－	－	－	ヨコナデ	ヨコナデ	赤褐 5YR4/6	白色粒子、金色雲母、石英	良	10C 前半～後半	
95	713	AR-16	P45	須恵器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰 10Y5/1	白色粒子	良	8C ～ 9C	反転実測
95	714	AQ-16	P29、AR-17 一括	須恵器	杯	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰 N5/、内：灰 5Y6/1	白色粒子	良	8C ～ 9C	反転実測
95	715	AU-14	P1	須恵器	長頸瓶	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰 5Y6/1、内：灰白 5Y7/1	黒色・白色粒子	良	9C 前半～後半	反転実測
95	716	AR-17	P4	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	ナデ	外：灰白 10YR7/1 内：灰黄褐 10YR4/2	黒色・白色粒子	良	9C ～ 10C	
95	717	AR-16	P8、一括、AR-17 一括、AS-16P28	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	ナデ	外：灰白 10YR7/1 内：灰黄褐 10YR4/2	黒色・白色粒子	良	9C ～ 10C	
95	718	AQ-15	P52	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	ナデ	外：灰 5Y4/1 内：黄灰 2.5Y6/1、灰黄 2.5Y7/2	黒色粒子	良	9C ～ 10C	
95	719	AQ-14	P13	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	指オサエ、ナデ	外：オリーブ黒 5Y3/2、内：暗オリーブ 2.5Y4/4、浅黄 2.5Y7/4	白色粒子	良	9C ～ 10C	
95	720	AP-15	P28	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	ヨコナデ	灰 10Y5/1	黒色・白色粒子、金色雲母	良	9C ～ 10C	
95	721	AQ-17	P11	須恵器	甕	破片	－	－	－	タタキ	ナデ	外：淡黄 2.5Y8/4 内：黒褐 2.5Y3/1、灰黄 2.5Y7/2	白色粒子	良	9C ～ 10C	
95	722	AP-16	P32	灰釉陶器	椀	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：にぶい黄橙 10YR6/4 内：灰白 10YR7/1	白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	723	AS-17	一括	灰釉陶器	椀	破片	10.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白 2.5Y7/1	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	724	AW-10	P55	灰釉陶器	椀	破片	17.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰 2.5Y6/1	緻密	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	725	AR-16	一括	灰釉陶器	皿	破片	12.0	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰白 2.5Y7/1 内：黄灰 2.5Y6/1	白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	726	AV-11	P36	灰釉陶器	椀	破片	13.4	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰白 10YR7/1 内：灰黄 2.5Y7/2	緻密	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	727	AP-16	一括	灰釉陶器	椀	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	灰 5Y6/1	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	
95	728	試掘 7 号トレ	一括	緑釉陶器	椀	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	オリーブ灰 2.5G5/1	緻密	良	9C 後半～ 10C 後半	
95	729	AS-12	一括	灰釉陶器	椀	30%	－	8.0	－	ロクロナデ、回転糸切り（不鮮明）、高台貼付	ロクロナデ	灰白 2.5Y8/2	白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	730	AP-15	P27、AP-16P10	灰釉陶器	椀	破片	－	7.8	－	ロクロナデ、回転糸切り（不鮮明）、高台貼付	ロクロナデ	灰黄 2.5YR6/2	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	731	AO-15	P10	灰釉陶器	椀	破片	－	7.4	－	ロクロナデ、回転糸切り（不鮮明）、高台貼付	ロクロナデ	黄灰 2.5Y6/1	白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	732	AW-10	P25	灰釉陶器	皿	破片	－	6.0	－	ロクロナデ、回転糸切り（不鮮明）、高台貼付	ロクロナデ	灰白 2.5YR7/1	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	733	AQ-18	P9	灰釉陶器	椀	25%	－	5.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、高台貼付	ロクロナデ	灰黄 2.5YR6/2	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	734	AQ-16	P60	灰釉陶器	椀	破片	－	6.8	－	ロクロナデ、回転糸切り、高台貼付	ロクロナデ	褐灰 10YR6/1	黒色・白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	735	AP-18	P3・8、AO-16 一括	灰釉陶器	長頸瓶	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：灰オリーブ 7.5Y6/2 内：オリーブ 5Y5/6	白色粒子、砂礫	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測
95	736	AT-15	P16	灰釉陶器	長頸瓶	破片	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	外：オリーブ黄 7.5Y6/3 内：灰 7.5Y5/1	白色粒子	良	9C 後半～ 10C 後半	反転実測

第 5 表　V区土製品観察表（1）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	残存率	法　量（cm）					重量（g）	特　徴	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
						上径	下径	長さ	径	孔径							
96	1	3 号住	P8	土錘	完形	1.3	1.1	6.2	1.8	0.4	19.4	線刻あり（×印）	明赤褐 5YR5/6	白色粒子、雲母	良	平安時代	
96	2	3 号住	P10	土錘	完形	1.1	1.4	3.8	1.7	0.4	15.0		赤褐 5YR4/6	黒色・白色粒子、雲母、石英	良	平安時代	
96	3	3 号住	P12	土錘	完形	1.4	1.6	4.9	1.7	0.3	16.7	線刻あり	明褐 7.5YR5/6	白色粒子、雲母	良	平安時代	
96	4	3 号住	P11	土錘	完形	1.6	1.2	4.7	1.7	0.4	16.2	線刻あり	赤褐 5YR4/8	白色粒子	良	平安時代	
96	5	3 号住	P13	土錘	完形	1.3	1.1	4.5	1.6	0.5	11.3		赤褐 5YR4/6	雲母	良	平安時代	
96	6	3 号住	P19	土錘	ほぼ完形	1.1	1.2	5.0	1.7	0.4	11.4	線刻あり	明赤褐 5YR5/6	白色粒子、石英　雲母	良	平安時代	

第５表　Ⅴ区土製品観察表（2）

図	番号	出土地点	注記番号	種別	残存率	法量（cm）					重量（g）	特　　徴	色　調	胎　土	焼成	時　期	備　考
						上径	下径	長さ	径	孔径							
96	7	４号住	P69	土錘	完形	0.9	0.7	5.1	1.6	0.4	11.0		黒褐 10YR3/2	砂粒子、金色雲母	良	平安時代	
96	8	５号住１号カマド	カマドP1	土錘	完形	1.4	1.4	6.3	1.9	0.2	22.1		褐 7.5YR4/6	砂粒子、金色雲母	良	平安時代	
96	9	６号住	P36	土錘	70%	1.4	1.7	4.6	1.6	0.4	16.4	底部（下部）欠けている	明褐 7.5YR5/6	白色粒子、金色雲母、石英	良	平安時代	
96	10	６号住	P40、一括	土錘	70%	1.4	1.4	6.1	1.8	0.4	16.5	線刻あり	褐 7.5YR4/6	赤色・白色粒子、金色雲母	良	平安時代	
96	11	８号住	P2	土錘	ほぼ完形	1.3	1.2	5.6	1.6	0.4	13.8		明褐 7.5YR5/6	砂・白色粒子	良	平安時代	
96	12	８号住	P3	土錘	完形	1.2	1.2	3.5	1.6	0.45	7.8		明黄褐 10YR6/8	白色粒子、金色雲母	良	平安時代	
96	13	８号住	P4	土錘	完形	1.2	1.2	3.9	1.6	0.4	10.5		明褐 7.5YR5/6	砂粒子	良	平安時代	
96	14	８号住	P19	土錘	完形	1.2	1.1	4.8	2.0	0.4	15.7		にぶい褐 7.5YR5/6	砂粒子	良	平安時代	
96	15	９号住	P6	土錘	50%	1.3	1.6	3.6	1.5	0.3	12.7	底部（下部）欠けている	にぶい褐 7.5YR5/6	白色粒子	良	平安時代	
96	16	９号住	一括	土錘	破片	－	－	－	1.4	－	2.7		明褐 7.5YR5/6	白色粒子、石英	良	平安時代	
96	17	AQ-17	P8	土錘	完形	0.9	1.0	3.9	1.6	0.3	8.4		明黄褐 10YR6/6	白色粒子	良	平安時代	
96	18	AR-16	P5	土錘	50%	1.1	－	3.7	1.7	0.3	10.2	底部（下部）欠けている	橙 7.5YR6/6	白色粒子、雲母、石英	良	平安時代	
96	19	AR-16	P54	土錘	完形	1.2	1.4	4.7	2.0	0.4	19.7		明褐 7.5YR5/6	白色粒子、石英	良	平安時代	
96	20	AS-13	一括	土錘	50%	－	－	3.8	1.5	0.5	6.2	上・下部共に欠けている	明赤褐 5YR5/6	砂粒子	良	平安時代	
96	21	AU-12	P31	土錘	完形	1.6	1.4	3.6	1.9	0.4	13.5		明黄褐 10YR6/6	砂粒子	良	平安時代	
96	22	AV-11	P32	土錘	30%	1.0	－	2.4	1.7	0.4	6.0	底部（下部）欠けている	明赤褐 5YR5/6	雲母	良	平安時代	
96	23	AV- １２	P35	土錘	50%	1.0	－	3.6	1.6	0.35	9.5	底部（下部）欠けている	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子、石英	良	平安時代	
96	24	AW-11	P1	土錘	50%	0.9	1.6	3.0	1.5	0.4	8.0	底部（下部）欠けている	明黄褐 10YR6/6	砂粒子	良	平安時代	

第６表　Ⅴ区石器・石製品観察表

図	番号	出土地点	注記番号	種　別	欠損状況	法量（cm）			重量（g）	石　材	時　期	備　考
						長さ	幅	厚さ				
97	1	２号住	一括	凹基鏃	完存	1.5	1.8	0.2	0.2	黒曜石	縄文中期～弥生中期	
97	2	２号住	一括	凹基鏃	完存	2.6	1.7	0.3	0.9	黒曜石	縄文中期～弥生中期	
97	3	６号住	S-4	有茎鏃	先端部欠損	2.1	1.7	0.6	1.9	頁石	縄文中期～弥生中期	
97	4	９号住	S-1	有茎鏃	先端部・茎部欠損	1.8	1.8	0.5	1.3	黒曜石	縄文中期～弥生中期	
97	5	11号住	カマド一括	凹基鏃	左脚部欠損	1.4	1.3	0.2	0.4	黒曜石	縄文中期～弥生中期	
97	6	AX-12	S-1	凹基鏃	完存	2.15	1.1	0.3	0.6	黒曜石	縄文中期～弥生中期	
97	7	２号住	S-1	叩き石	完存	13.3	7.8	4.1	588.9	安山岩	平安時代	
97	8	１号集石	S-1	磨石	一部欠損	11.1	6.2	5.3	476.1	砂岩	平安時代	
98	9	AM-16	S-1	磨石	完存	10.1	7.7	5.6	617.4	砂岩	平安時代？	
98	10	AO-15	S-1	磨石	完存	8.3	6.2	3.6	271.0	砂岩	平安時代？	
98	11	AP-14	S-1	磨石	1/2欠損	4.5	6.2	3.8	168.7	砂岩	平安時代？	
98	12	１号集石	S-2	砥石	ほぼ完存	6.9	2.1	1.8	37.5	凝灰岩	平安時代	

第７表　Ⅴ区鉄製品観察表

図	番号	出土地点	注記番号	種　別	法量（cm）			重量（g）	特　　徴	X線写真番号	保存処理番号	時　期	備　考
					長さ	幅	厚さ						
99	1	３号住	F1	刀子	12.1	1.6	1.1	14.0	鞘の木質残存	⑤	⑤	平安時代	
99	2	５号住２号カマド	F1	刀子	4.2	1.0	0.4	4.5		⑦	⑦	平安時代	
99	3	６号住	一括	刀子	2.9	1.4	0.3	2.7		⑨	⑨	平安時代	
99	4	６号住	F1	刀子	8.9	1.3	0.5	8.4		⑧	⑧	平安時代	
99	5	13号住	一括	刀子	9.5	1.2	0.5	9.1		⑩	⑩	平安時代	
99	6	15号住	F1	刀子	8.6	1.3	0.6	10.8	鞘の木質残存	⑪	⑪	平安時代	
99	7	AP-16	F1	刀子	6.4	1.7	0.3	3.7		⑮	⑮	平安時代	
99	8	１号集石	F3	刀子	19.5	1.5	0.6	32.1		①	①	平安時代	
99	9	１号集石	F2	鉄鏃	7.7	1.3	0.5	5.2		③	③	平安時代	
99	10	AP-18	F1	鉄鏃	6.6	1.1	0.5	6.0		⑯	⑯	平安時代	
99	11	AO-16	F1	鉄鏃	6.7	1.0	0.4	6.6		⑭	⑭	平安時代	
99	12	AW-12	F1	鉄鏃	14.6	1.5	0.6	12.2		㉒	㉒	平安時代	
99	13	AX-10	F1	鉄鏃	5.3	2.9	0.1	9.4	有茎、中央部に孔２ヶ所	㉔	㉔	平安時代	
99	14	AX-11	一括	釘	3.3	1.3	0.4	1.7		㉓	㉓	平安時代	
99	15	１号集石	F1	釘	3.1	0.8	0.3	1.6		②	②	平安時代	
99	16	AW-10	F1	釘	5.3	0.5	0.4	3.7		㉑	㉑	平安時代	
99	17	AV-11	F1	釘	5.4	0.6	0.4	2.7		⑳	⑳	平安時代	
99	18	AS-16	F1	釘	5.4	0.3	0.5	2.7	鉤状に曲げてある	⑱	⑱	平安時代	
99	19	AS-14	一括	釘	4.4	0.6	0.4	2.1		⑰	⑰	平安時代	
99	20	４号住	F1	釘	4.8	1.3	0.5	3.3		⑥	⑥	平安時代	
99	21	AS-17	F1	釘	9.1	0.9	0.6	11.1		⑲	⑲	平安時代	
99	22	２号住	F1	釘	9.0	0.7	0.7	9.2		④	④	平安時代	

第４章　滝沢遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県南都留郡富士河口湖町河口に所在する滝沢遺跡は、河口湖北東の山地より流下する河川によって形成された小規模な扇状地上に立地する。本遺跡の発掘調査では、弥生～平安時代の遺構・遺物が確認されており、とくに平安時代の集落跡が主体であることが確認されている。また、今回の発掘調査においても、平安時代の竪穴住居跡や集石、中世以降の掘立柱建物跡や土坑、溝状遺構が確認されている。

本報告では、滝沢遺跡Ｖ区より検出された遺構の年代や、平安時代における植物利用の検討を目的として、自然科学分析調査を実施する。また、今回の分析調査では、後述するように微細物分析によって骨片類が得られたことから、当該期における動物利用の検討を目的として、動物遺存体分析を合わせて実施している。

Ⅰ．放射性炭素年代測定・炭化材同定

１．試料

試料は、滝沢Ｖ区の２号住居跡、6 号住居跡、1 号集石、1 号焼土から出土した炭化材４点（№１～４）である。試料№は、分析項目毎に付されており、放射性炭素年代測定試料は２号住居跡が№17、６号住居跡が№18、1 号集石が№19、1 号焼土が№20 である。ここでは、放射性炭素年代測定試料の履歴（由来）を検討するため、同分析に供した炭化材を樹種同定試料としたことから、分析結果にはそれぞれの試料№を付している。

放射性炭素年代測定に供した試料は、２号住居跡 炭化材（№1,17）は接線面が約 1cm、放射面が約 1.3cm を呈する破片、６号住居跡 炭化材（№2,18）は横断面が約 1/2 ～ 1/3 程度残存する半径約 3cm の芯持材、1 号集石 炭化材（№3,19）は横断面が約 1/2 ～ 2/3 程度残存する半径約 2cm の芯持材、1 号集石 炭化材は横断面が約 1/2 程度残存する半径約 2.5 ～ 3cm の芯持材である。このうち、№17 は観察範囲内における最外年輪を含む部位、№18 ～ 20 はそれぞれ辺材部より採取した炭化材片を分析試料としている。

２．分析方法

（1）放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸･アルカリ･酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO2 と鉄･水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。測定年代は 1,950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON

CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正に用いる放射性炭素年代（補正年代）は、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ（σは統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、2σは真の値が 95% の確率で存在する範囲）の値を示す。また、表中の相対比（確率分布）とは、σ、2σの範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

（2）炭化材（樹種）同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考とし、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3．結果

（1）放射性炭素年代測定

各遺構から出土した炭化材の同位体効果による補正を行った測定年代（補正年代）は、2 号住居跡 炭化材

第 8 表　放射性炭素年代測定結果

試料				樹種	補正年代 (yrBP)	δ13C (‰)	測定年代 (yrBP)	測定機関 Code.
No.	地区	遺構	性状					
№17	滝沢Ⅴ区	2 号住	炭化材	トネリコ属	1,190 ± 30	-26.45 ± 0.59	1,210 ± 20	IAAA-92712
№18	滝沢Ⅴ区	6 号住	炭化材	ブナ属	1,200 ± 30	-29.44 ± 0.83	1,280 ± 30	IAAA-92713
№19	滝沢Ⅴ区	1 号集石	炭化材	ブナ属	1,200 ± 30	-25.95 ± 0.64	1,210 ± 20	IAAA-92714
№20	滝沢Ⅴ区	1 号焼土	炭化材	カヤ	4,490 ± 30	-20.55 ± 0.59	4,410 ± 30	IAAA-92715

第 9 表　暦年較正結果

試料名	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正年代（cal）				相対比	測定機関 Code.
№17 滝沢Ⅴ区 2 号住 炭化材 (トネリコ属)	1,190 ± 25	σ	cal AD 782 - cal AD 790	cal BP 1,168 - 1,160	0.102	IAAA-92712
			cal AD 810 - cal AD 880	cal BP 1,140 - 1,070	0.898	
		2σ	cal AD 772 - cal AD 895	cal BP 1,178 - 1,055	0.984	
			cal AD 925 - cal AD 937	cal BP 1,025 - 1,013	0.016	
№18 滝沢Ⅴ区 6 号住 炭化材 (ブナ属)	1,204 ± 29	σ	cal AD 778 - cal AD 832	cal BP 1,172 - 1,118	0.621	IAAA-92713
			cal AD 836 - cal AD 869	cal BP 1,114 - 1,081	0.379	
		2σ	cal AD 709 - cal AD 747	cal BP 1,241 - 1,203	0.080	
			cal AD 766 - cal AD 894	cal BP 1,184 - 1,056	0.920	
№19 滝沢Ⅴ区 1 号集石 炭化材 (ブナ属)	1,196 ± 25	σ	cal AD 780 - cal AD 792	cal BP 1,170 - 1,158	0.140	IAAA-92714
			cal AD 806 - cal AD 874	cal BP 1,144 - 1,076	0.860	
		2σ	cal AD 725 - cal AD 738	cal BP 1,225 - 1,212	0.019	
			cal AD 771 - cal AD 893	cal BP 1,179 - 1,057	0.981	
№20 滝沢Ⅴ区 1 号焼土 炭化材 (カヤ)	4,485 ± 30	σ	cal BC 3,330 - cal BC 3,262	cal BP 5,280 - 5,212	0.442	IAAA-92715
			cal BC 3,251 - cal BC 3,215	cal BP 5,201 - 5,165	0.229	
			cal BC 3,183 - cal BC 3,157	cal BP 5,133 - 5,107	0.164	
			cal BC 3,125 - cal BC 3,099	cal BP 5,075 - 5,049	0.165	
		2σ	cal BC 3,343 - cal BC 3,089	cal BP 5,293 - 5,039	0.976	
			cal BC 3,049 - cal BC 3,032	cal BP 4,999 - 4,982	0.024	

（№17）が 1,190 ± 30yrBP、6 号住居跡 炭化材（№18）が 1,200 ± 30yrBP、1 号集石 炭化材（№19）が 1,200 ± 30yrBP、1 号焼土 炭化材（№20）が 4,490 ± 30yrBP を示す。また、これらの補正年代に基づく暦年較正結果（測定誤差σ）は、2 号住居跡 炭化材（№17）が calAD782-calAD880、6 号住居跡 炭化材（№18）が calAD778-calAD869、1 号集石 炭化材（№19）が calAD780-calAD874、1 号焼土 炭化材（№20）が calBC3,330-calBC3,099 である。

（2）炭化材（樹種）同定

結果を第 8 表に示す。炭化材は、針葉樹 1 分類群（カヤ）と広葉樹 2 分類群（ブナ属・トネリコ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・カヤ（*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.） イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には 2 本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1 分野に 1-4 個。放射組織は単列、1-5 細胞高。

・ブナ属（*Fagus*） ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に 2-3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・トネリコ属（*Fraxinus*） モクセイ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または 2 個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3 細胞幅、1-20 細胞高。

4．考察

滝沢Ⅴ区 2 号住居跡および 6 号住居跡、1 号集石から出土した炭化材の較正年代は、いずれも 8 世紀後半～ 9 世紀中頃および後半であった。このことから、これらは同時期の遺構の可能性がある。これらの各遺構から出土した炭化材は、2 号住居跡が落葉広葉樹のトネリコ属、6 号住居跡と 1 号集石がともに落葉広葉樹のブナ属であった。確認された分類群のうち、ブナ属は山地の落葉広葉樹林において主たる構成種となる種類（ブナ）を含み、木材は重硬で強度が高い材質を有する。トネリコ属は、尾根筋等に生育する種類（アオダモ類）や湿地林を構成する種類（ヤチダモ類）を含み、木材は重硬で強度が高い。

住居跡から出土した炭化材については、出土状況等の確認が必要であるが、構築部材に由来するものであれば、いずれも強度の高い木材が利用されたことが推定される。なお、試料の観察では、2 号住居跡 炭化材は小破片であり、6 号住居跡 炭化材は小径木であったことから、部位等の検討が必要である。本遺跡では、I 区の 2 号住居跡から出土した炭化材にヤナギ属が確認されているが、強度・保存性が低い木材であること、ウマの頭蓋骨と共に出土していることから、構築材ではなく頭蓋骨に伴う炭化材と考えられている（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2007）。一方、1 号集石の炭化材もブナ属であったことから、住居跡と同じ樹木が燃料材にも利用されたことが推定される。

縄文時代中期前半頃の較正年代を示した 1 号焼土の炭化材は、針葉樹のカヤであった。カヤは、暖温帯性常緑広葉樹林を構成する種類であり、木材は重硬で強度・耐水性が高い。1 試料のみの結果であることから、住居跡や集石における樹種構成との比較は困難であるが、燃料材としてカヤが利用されたと考えられる。縄文時代の炭化材の調査事例では、III 区 1 号土坑から出土した燃料材の可能性がある炭化材が広葉樹のカエデ属に同定されている。

この他に、郡内地域における炭化材の調査事例によれば、上野原小学校遺跡（旧上野原町）の 7 世紀後半

の竪穴住居跡床面から出土した炭化材で針葉樹のモミ属と落葉広葉樹のクヌギ節が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2003)。また、燃料材については、塩瀬下原遺跡（大月市）の平安時代とされる 10 号焼土から出土した炭化材に針葉樹のカヤ、広葉樹のムラサキシキブ属、モモ、コナラ属、アカガシ亜属とタケ亜科が混在する組成、縄文時代後期とされる竪穴住居跡下部焼土の炭化材に落葉広葉樹のイヌシデ節とクリが確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2001)。

Ⅱ．微細物分析・種実同定

１．試料

試料は、1 号住居跡カマド 焼土（№.7)、3 号住居跡カマド 焼土（№.8)、5 号住居跡カマド 焼土（№.9)、5 号住居跡 2 号カマド 焼土（№.10-1,10-2)、6 号住居跡 焼土（№.11)、9 号住居跡 焼土（№.12)、10 号住居跡カマド 焼土（№.13)、10 号住居跡カマド内土器（№.14)、9 号土坑（2 号住居跡 2 号カマド 焼土）(№.15)、1 号焼土（№.16）より採取された土壌 11 点と、6 号住居跡（№.5）および AW-10（№.6）より出土した炭化物 2 点である。これらの試料のうち、土壌試料を対象に微細物分析、炭化物を対象に種実同定を行う。各試料の詳細は、結果と共に第 10 表に示す。

２．分析方法

微細物分析は、土壌試料 1.0kg（№.7 は 600g、№.14,16 は 150g）を容器に広げ、常温で数日乾燥させる。乾燥後の試料を肉眼やルーペで観察し、目に付いた炭化物や動物遺存体、土器を拾い出す。乾燥抽出後の試料を水を満たした容器に投入し、浮いた炭化物をすくい取って回収する。容器を傾斜させて浮いた炭化物をφ 0.5mm の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20 ～ 30 回程度)。残土をφ 0.5mm の篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定可能な種実や炭化材（主に径 4mm 以上)、動物遺存体、土器などを抽出する。

抽出された種実遺体および種実同定試料（№.5,6）を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994)、中山ほか（2000）等との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。微細物分析で得られた炭化材、不明炭化物、動物遺存体、土器、分析残渣は、70℃ 48 時間乾燥後の重量を表示し、炭化材は最大径、動物遺存体と土器は個数と最大径を併せて表示する。分析後は、種類毎に容器に入れ、保管する。

３．結果

結果を第 10 表に示す。各遺構から採取された土壌および炭化物からは、木本 2 分類群(広葉樹のオニグルミ、モモ）11 個、草本 6 分類群（イネ、アワ近似種、ヒエ近似種、キビ近似種、イネ科、マメ科）55 個、計 66 個の種実遺体が検出された。この他に、炭化材や木材組織が確認されない部位・種類不明の炭化物、動物遺存体、土器なども確認された。炭化材は、各土壌試料より検出され、№.7 で最も多く、最大重量 1.92g を量る。動物遺存体は、№.8,9,10-1,10-2,11,15 から検出され、最大重量 0.56g（No.9)、を量る。土器は№.9,10-1,10-2,11,14 から計 15 個検出された。

検出された種実遺体群は、全て炭化しており、状態不良である。栽培種は、モモ、イネ、アワ（近似種)、ヒエ（近似種)、キビ（近似種）が確認された。炭化物試料では、№.5 がオニグルミの核（10 個)、№.6 がモモの核（1 個）であった。土壌試料では、№.10-2 からイネの穎（3 個)、アワ近似種の穎・胚乳（8 個)、ヒエ近似種の穎・胚乳（2 個)、キビ近似種の穎・胚乳（1 個)、№.11 からはアワ近似種の穎・胚乳（21 個)、キビ近似種の胚乳（1 個)、イネ科の胚乳（7 個)、№.13 からはマメ科の種子（1 個)、№.15 からはイネの穎（11 個）が検出された。以下に、検出された種実の形態的特徴等を記す。

第 10 表　微細物分析・種実同定結果（1）

試料名		性状	炭化植物 オニグルミ 核 破片	モモ 核 破片	イネ 穎 破片	アワ近似種 穎・胚乳 完形	アワ近似種 胚乳 完形	ヒエ近似種 穎・胚乳 完形	ヒエ近似種 穎・胚乳 破片	キビ近似種 穎・胚乳 完形	キビ近似種 胚乳 破片	イネ科 胚乳 完形	イネ科 胚乳 破片	マメ科 種子 完形	残渣 重量(g)	分析量 重量(g)	備考
No.5	滝沢Ⅴ区 6号住	種実		1											—	—	半分, 長さ 19.45, 幅 16.08
No.6	滝沢Ⅴ区 AW-10	種実	10												—	—	計 1/2 個体程度
No.7	滝沢Ⅴ区 1住カマド 焼土	土壌													121.61	607.19	
No.8	滝沢Ⅴ区 3号住カマド 焼土	土壌													250.67	1002.46	
No.9	滝沢Ⅴ区 5号住カマド 焼土内白色土	土壌													112.31	1003.28	
No.10-1	滝沢Ⅴ区 5住2カマド 焼土①	土壌													187.96	1003.87	
No.10-2	滝沢Ⅴ区 5住2号カマド内 焼土②	土壌			3	1	7	1	1	1					234.63	1003.97	
No.11	滝沢Ⅴ区 6号住 焼土	土壌				1	20				1	5	2		155.05	1000.92	
No.12	滝沢Ⅴ区 9号住カマド 焼土	土壌													248.46	1000.18	
No.13	滝沢Ⅴ区 10住カマド 焼土	土壌												1	252.39	1002.58	臍確認
No.14	滝沢Ⅴ区 10住カマド P40 土器内	土壌													23.01	150	
No.15	滝沢Ⅴ区 9号土坑内焼土(2号住2カマド)	土壌			11										282.94	1002.82	
No.16	滝沢Ⅴ区 AZ-12 1号焼土 焼土	土壌													38.91	150.91	

第 10 表　微細物分析・種実同定結果（2）

試料名		性状	炭化材 重量(g)	炭化材 最大径(mm)	不明炭化物 重量(g)	動物遺存体 数量(個)	動物遺存体 重量(g)	動物遺存体 最大径(mm)	土器 数量(個)	土器 重量(g)	土器 最大径(mm)	残渣 重量(g)	分析量 重量(g)
No.5	滝沢Ⅴ区 6号住	種実											
No.6	滝沢Ⅴ区 AW-10	種実											
No.7	滝沢Ⅴ区 1住カマド 焼土	土壌	1.92	14.55	＜0.01							121.61	607.19
No.8	滝沢Ⅴ区 3号住カマド 焼土	土壌	＜0.01	2.77	＜0.01	44	＜0.01	3.47				250.67	1002.46
No.9	滝沢Ⅴ区 5号住カマド 焼土内白色土	土壌	＜0.01	3.68	＜0.01	>200	0.56	7.96	5	2.25	21.26	112.31	1003.28
No.10-1	滝沢Ⅴ区 5住2カマド 焼土①	土壌	0.03	4.38	＜0.01	144	0.3	13.18	3	0.55	11.94	187.96	1003.87
No.10-2	滝沢Ⅴ区 5住2号カマド内 焼土②	土壌	0.12	6.2	0.02	59	0.03	3.33	3	0.71	13.77	234.63	1003.97
No.11	滝沢Ⅴ区 6号住 焼土	土壌	0.43	13.47	0.02	16	<0.01	3.83	1	0.53	17.66	155.05	1000.92
No.12	滝沢Ⅴ区 9号住カマド 焼土	土壌	0.1	4.7	＜0.01							248.46	1000.18
No.13	滝沢Ⅴ区 10住カマド 焼土	土壌	0.02	3.96	＜0.01							252.39	1002.58
No.14	滝沢Ⅴ区 10住カマド P40 土器内	土壌	0.04	4.33	＜0.01				3	6.91	29.57	23.01	150
No.15	滝沢Ⅴ区 9号土坑内焼土(2号住2カマド)	土壌	0.26	6.94	＜0.01	3	＜0.01	3.15				282.94	1002.82
No.16	滝沢Ⅴ区 AZ-12 1号焼土 焼土	土壌	0.37	8.26								38.91	150.91

＜木本＞

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura）　クルミ科クルミ属

核の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば、長さ 3-4cm、径 2.5-3cm 程度の頂部が尖る広卵体。破片は計 1/2 個体程度。最大個体は縦に 1 周する縫合線に沿って割れた半分未満で、大きさは 1.8cm 程度。核は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る 2 つの大きな窪みと隔壁がある。

・モモ（*Prunus persica* Batsch）　バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならばやや偏平な広楕円体で頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1 本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。破片は縫合線に沿って割れた半分で、長さ 19.45mm、幅 16.08mm。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として

粗いしわ状にみえる。核の内側表面は平滑で、種子 1 個が入る楕円状の窪みがみられる。

＜草本＞

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

　穎の破片が検出された。炭化しており黒色、一部は灰化しており灰白色を呈す。完形ならば、長さ 6-7.5mm、幅 3-4mm、厚さ 2mm 程度のやや偏平な長楕円体で、基部に斜切状円柱形の果実序柄と 1 対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は 5 脈、内穎は 3 脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。果皮は薄く柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。破片は最大 1.3mm 程度。

・アワ近似種（*Setaria* cf. *italica* (L.) P.Beauv.）　イネ科エノコログサ属

　穎・胚乳が検出された。炭化しており黒色、胚乳は長さ 1.3-1.6mm、幅 1.2-1.5mm、厚さ 0.8-1.0mm 程度の半偏球体。背面は丸みがあり、基部正中線上に径 0.5mm 程度の馬蹄形の胚の凹みがある。腹面は平ら。胚乳表面はやや平滑で、穎（果）の破片が付着する個体がみられる。穎は薄く、表面には横方向に目立つ顆粒状突起が配列する。

・ヒエ近似種（*Echinochloa* cf. *utilis* Ohwi et Yabuno）　イネ科ヒエ属

　穎・胚乳が検出された。炭化しており黒色。胚乳は長さ 1.3mm、幅 1.2mm、厚さ 0.8mm 程度の半狭卵体で、背面は丸みがあり腹面はやや平ら。基部正中線上に胚乳の長さの 2/3 以上を占める縦長で馬蹄形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面で、穎の破片が付着する。穎は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が縦列する。

・キビ近似種（*Panicum* cf. *miliaceum* L.）　イネ科キビ属

　穎・胚乳が検出された。炭化しており黒色。胚乳は、長さ 1.9-2.2mm、幅 1.8mm、厚さ 1.0mm 程度のやや偏平な広卵体。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部正中線上には、径 0.5mm 程度の馬蹄形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面で、穎（果）の破片が付着する個体がみられる。穎は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が縦列する。

・イネ科（Gramineae）

　胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ 1.5mm、径 0.6mm 程度のやや偏平な長楕円体。背面は丸みがあり、基部正中線上には胚の痕跡が長さ 0.4mm 程度の楕円状に窪む。腹面は偏平。胚乳表面は粗面で、微細な縦筋がある。

・マメ科（Leguminosae）

　種子が検出された。炭化しており黒色、長さ 3mm、幅 2mm、厚さ 1.7mm のやや偏平な長楕円体。腹面の子葉合わせ目上に細長い長楕円形の臍がある。種皮は薄く表面はやや平滑だが、焼き崩れており、状態は悪い。小粒であることから、現時点では栽培種のマメ類とは区別しているが、今後、検討の余地がある。

４．考察

　竪穴住居跡カマドの焼土から検出された炭化種実は、栽培種ではイネ、アワ（近似種）、ヒエ（近似種）、キビ（近似種）などが検出された。これらの栽培種は、5 号住居跡、6 号住居跡、2 号住居跡から検出され、検出量は 6 号住居跡で最も多く、次いで 5 号住居跡、2 号住居跡である。1 遺構あたりの検出量が少なく、山梨県内の地域・時期別の傾向（櫛原 ,1999）との比較は困難であるが、イネあるいはアワ（近似種）主体とする、イネおよびアワ・ヒエ・キビ（近似種）が万遍なく検出されるという傾向が看取される。郡内地域では、栽培種の利用に関わる調査事例が少ないことから、本遺跡を含めさらに資料の蓄積を行い、評価・検討することが望まれる。また、6 号住居跡からは、モモ（核）が検出されたことから、モモの利用も指摘される。

　一方、栽培種以外の分類群では、AW-10 からオニグルミ（核）、6 号住居跡からイネ科（胚乳）、10 号住居

跡からマメ科（種子）1 個が確認された。オニグルミは、渓流沿いの肥沃地などに渓畔林を形成する落葉高木で、核内部の子葉が核内部の子葉が生食・長期保存可能な有用植物である。おそらく、本遺跡周辺域の河川沿いの森林などから、植物質食糧として採取されたと考えられる。イネ科やマメ科は、調査区周辺域の草地環境に由来する可能性や栽培種に由来する可能性があるが、この点については状態が悪く、詳細な検討には至らない。なお、1 号焼土では、炭化材が検出されたが、種実や動物遺存体は検出されなかったため、上記した植物質食糧として利用可能な有用植物や動物利用については不明である。

Ⅲ．動物遺存体

1．試料

試料は、II. の微細物分析によって検出された動物遺存体である。滝沢遺跡では、これまでの発掘調査の結果、平安時代の竪穴住居跡から土器などと共に漁労具とされる土錘が確認されている。動物遺存体の観察では、魚類の骨片類が混じる状況が観察されたことから、本遺跡における平安時代頃の漁労対象の検討を目的として調査を行った。試料の詳細は、結果とともに第 12 表に示す。

第 11 表　検出分類群一覧

脊椎動物門　Phylum　Vertebrata
　硬骨魚綱　Class　Osteichthyse
　　条鰭亜綱　Subclass　Actinopterygii
　　コイ目　Order　Cypriniformes
　　コイ科　Family　Cyprinidae
　　ウグイ亜科　Subfamily　Leuciscinae
　哺乳綱　Class　Mammalia

2．分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

3．結果

検出された分類群は、ウグイ亜科、コイ科、魚類、獣類である（第 11 表）。結果を第 12 表に示す。4 軒の

第 12 表　骨同定結果

試料 No.	地区	試料名	分類群	部位	左　右	部分	数量（個）	重量（g）
№8	滝沢Ⅴ区	3 号住カマド 焼土	魚類	鰭棘等		破片	5	＜0.00
				不明		破片	35	＜0.00
№9	滝沢Ⅴ区	5 号住カマド 焼土内白色土	ウグイ亜科	第 1 椎骨			1	＜0.00
				腹椎			5	＜0.00
			コイ科	腹椎			3	＜0.00
				尾椎			1	＜0.00
			コイ科？	第 2 椎骨？		破片	1	＜0.00
			魚類	咽頭骨		破片	1	＜0.00
				尾舌骨		破片	1	＜0.00
				歯牙			7	＜0.00
				方骨	左	破片	1	＜0.00
				尾椎			1	＜0.00
				椎骨		破片	19	＜0.00
				鰭棘等		破片	90	0.03
				不明		破片	785	0.20
			獣類	不明		破片	16	0.21
			岩片				2	＜0.00
№10-1	滝沢Ⅴ区	5 住 2 カマド 焼土①	魚類	椎骨		破片	4	＜0.00
				鰭棘等		破片	11	＜0.00
				不明		破片	132	0.04
			獣類	不明		破片	5	0.26
№10-2	滝沢Ⅴ区	5 住 2 号カマド内 焼土②	魚類	鰭棘等		破片	11	＜0.00
				不明		破片	47	0.03
№11	滝沢Ⅴ区	6 号住 焼土	魚類	鰭棘等		破片	6	＜0.00
			獣類	不明		破片	12	＜0.00
№15	滝沢Ⅴ区	9 号土坑内焼土 (2 号住 2 カマド)	獣類	不明		破片	3	＜0.00

竪穴住居跡カマド 焼土から検出された骨片は、いずれも白色化した焼骨であった。このうち、3 号住居跡カマド（№8）、5 号住居跡 2 号カマド（№10-1,10-2）、6 号住居跡 焼土（№11）2 号住居跡カマド（№15）の 5 試料から検出された骨片は、魚類ないし獣類の破片であったが、種類を特定するに至らない。また、5 号住居跡カマド（№9）から検出された骨片は、ウグイ亜科の第 1 椎骨・腹椎、コイ科の腹椎・尾椎、コイ科？第 2 椎骨？、魚類の咽頭骨・尾舌骨・歯牙・左方骨・尾椎・椎骨・鰭棘、獣類破片であった。

4．考察

平安時代の竪穴住居跡カマドの焼土からは、ウグイ亜科、コイ科など淡水性魚類、獣類の骨片が検出された。また、魚類は、椎体からみて小型サイズ（10cm 以下）と推定される。ウグイ亜科、コイ科などの淡水性魚類は、河口湖およびそれに注ぐ河川などに棲息していたとみられる。上述したように、土錘などの漁労具が出土していることなどを考慮すると、これらの魚類が漁猟対象となっていたと考えられる。一方、獣類については、いずれも細片であり状態も悪かったため種の同定には至らなかったが、上記した魚類とともに利用されていたことが推定される。

引用文献

林　昭三 ,1991, 日本産木材　顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

石川茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

櫛原功一 ,1999, 炭化種実から探る食生活 - 古代～中世を中心に -, 櫛原功一（編著）, 帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集 2 食の復元　遺跡・遺物から何をよみとるか , 株式会社岩田書院 ,81-98.

中山至大・井之口希秀・南谷　忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 . 東北大学出版会 ,642p.

パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2001, 塩瀬下原遺跡（第 4 次調査）の自然科学分析 .「塩瀬下原遺跡（第 4 次調査）桂川流域下水道終末処理場建設に伴う発掘調査報告書」, 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 191 集 ,113-122.

パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2003, 上野原小学校遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類 .「上野原小学校遺跡 II　町立上野原小学校給食施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」, 上野原町埋蔵文化財調査報告書第 10 集 , 上野原町教育委員会 ,55-57.

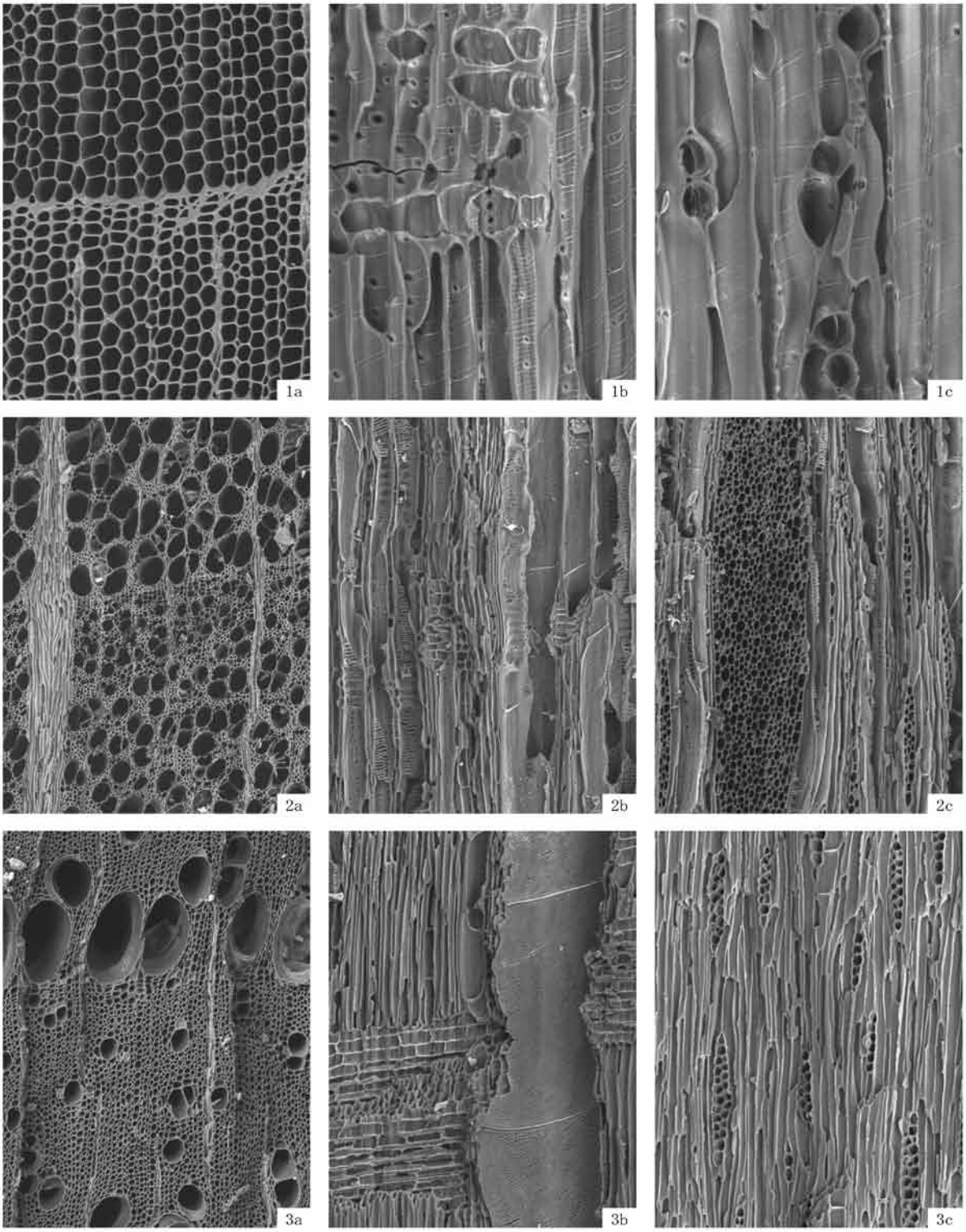
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2007, 滝沢遺跡の自然科学分析 .「滝沢遺跡・疱橋遺跡・谷抜遺跡－　一般国道 137 号河口 2 期バイパス建設工事に伴う埋蔵文化材発掘調査報告書」, 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 247 集 ,167-171.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].

島地　謙・伊東　隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

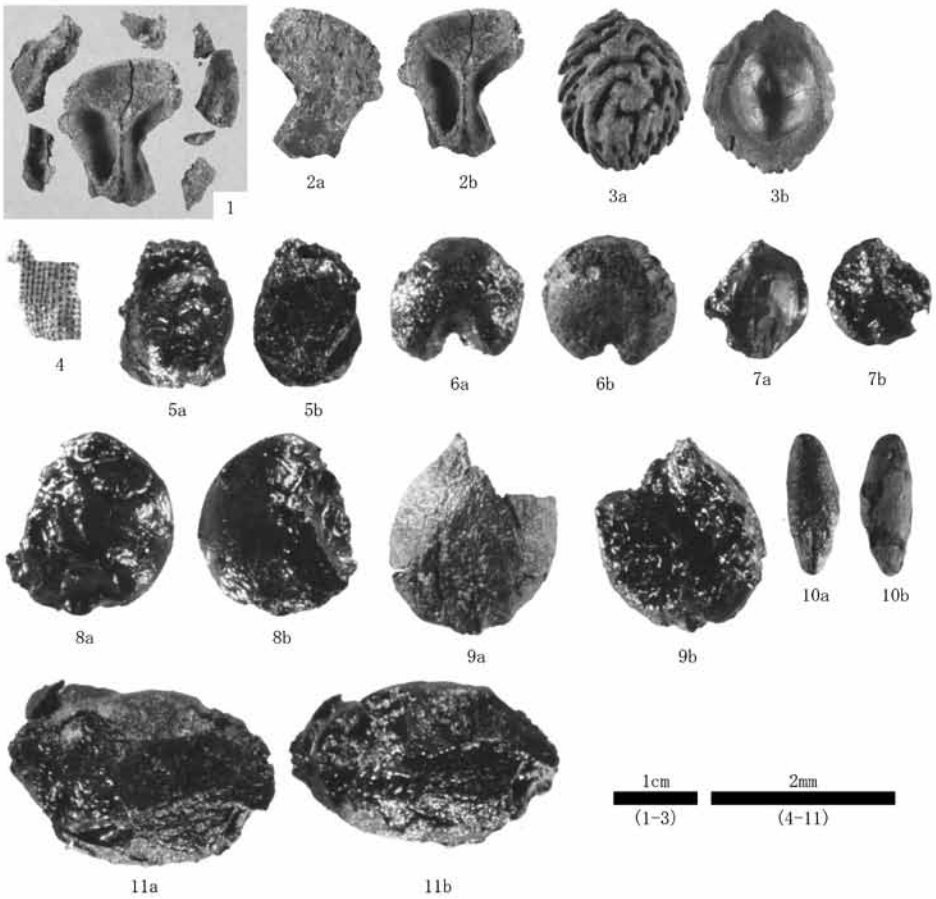
図版1 炭化材



1. カヤ(No.4)
2. ブナ属(No.2)
3. トネリコ属(No.1)
a:木口, b:柾目, c:板目

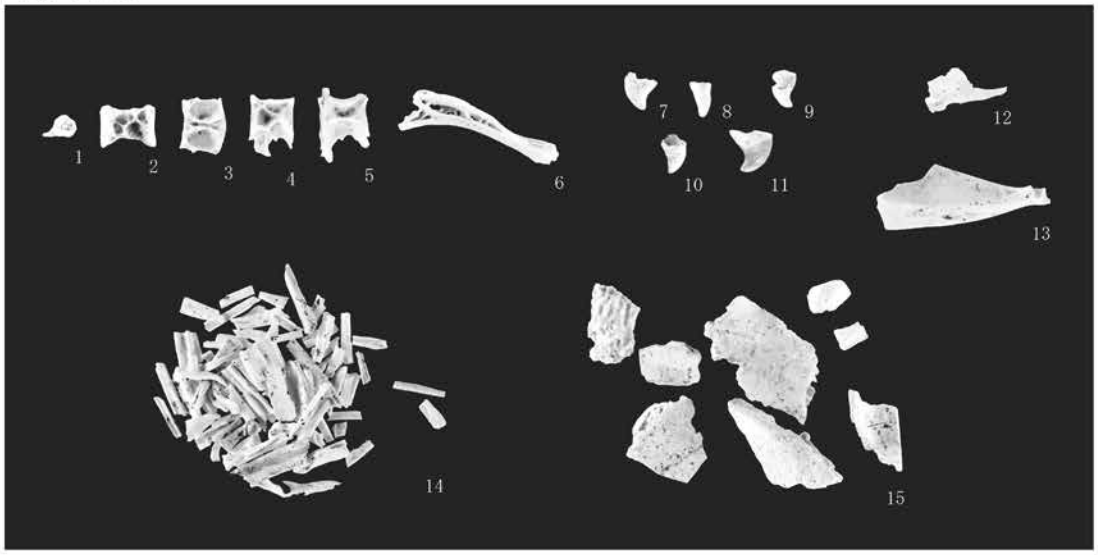
200 μm:2-3a
200 μm:1a, 2-3b, c
100 μm:1b, c

図版2 種実遺体



1. オニグルミ 核(No.6)
2. オニグルミ 核(No.6)
3. モモ 核(No.5)
4. イネ 穎(No.15)
5. アワ近似種 穎・胚乳(No.10-2)
6. アワ近似種 胚乳(No.11)
7. ヒエ近似種 穎・胚乳(No.10-2)
8. キビ近似種 穎・胚乳(No.10-2)
9. キビ近似種 胚乳(No.11)
10. イネ科 胚乳(No.11)
11. マメ科 種子(No.13)

図版3 出土骨



5mm (1-13)　1cm (14-15)

1. ウグイ亜科第1椎骨(No. 9)
2. ウグイ亜科腹椎(No. 9)
3. ウグイ亜科腹椎(No. 9)
4. コイ科腹椎(No. 9)
5. コイ科尾椎(No. 9)
6. コイ科？第2椎骨？(No. 9)
7. 魚類歯牙(No. 9)
8. 魚類歯牙(No. 9)
9. 魚類歯牙(No. 9)
10. 魚類歯牙(No. 9)
11. 魚類歯牙(No. 9)
12. 魚類左方骨(No. 9)
13. 魚類尾舌骨(No. 9)
14. 魚類鰭棘等(No. 9)
15. 獣類部位不明破片(No. 9)

第５章　総括

はじめに

滝沢遺跡における今回の第２次調査では、縄文時代から中世・近世に至るまでの多くの遺構・遺物が発見された。その中心となるのは、第１次調査と同様、平安時代中頃の９世紀から 10 世紀にかけてのものである。

ここまで検出遺構及び出土遺物の実測図掲載に本報告書の大半を割くこととなったが、ここでは第２次調査の成果について、平安時代を中心に弥生・古墳時代についても若干触れ、まとめとしたい。

第１節　平安時代の遺構・遺物について

（１）土器編年と遺構の変遷について

第１次調査では、出土した甲斐型土器群の型式変化をもとに、甲斐型土器編年（同研究グループ 1992）による編年･年代観に対比させ、奈良･平安時代を７段階に時期設定している（以下、ここでは仮称「滝沢編年」とする）。そして､これに第２次調査資料を加えたものが第 13 表であるが､ここでは山梨県史における編年（山下・瀬田 1999）も加えた。

第２次調査の遺構出土土器は、滝沢編年３段階（甲斐型Ⅷ期）以降７段階（甲斐型Ⅻ期併行）までのものが確認できる。第１次調査にあった第２段階（甲斐型Ⅶ期）のものはなく、逆に第１次調査ではなかった第７段階（甲斐型Ⅻ期併行）の資料がある。

なお、第１次調査では、９世紀後半代は甲斐型Ⅸ期・Ｘ期に併行する第４段階として設定しているが、第２次調査におけるＶ区の住居跡出土土器及び遺構の切り合い関係からは、Ｖ区１号・３号住居跡を第３段階まで引き上げることは難しく、甲斐型Ⅸ期とＸ期にそれぞれ併行する段階に分けることが必要になってくる。よって、ここでは滝沢編年第４段階を古段階（甲斐型Ⅸ期併行）と新段階（甲斐型Ｘ期併行）にひとまず細分しておきたい。

（２）墨書土器・刻書土器について

墨書土器について一瞥しておくと、第１次調査で多く確認された「夲人」の墨書は、第２次調査では少なく、明確なものは６号住居跡の１点のみであり（第 45 図№.29）、可能性のある３号住居跡出土のⅢ（第 37 図 17）を含めても少ない。反対に、「刀」は第２次調査のみで出土しており、２号住居跡（第 34 図№.13）、８号住居跡（第 48 図№.７・11）、遺構外（第 87 図№.559・565）で確認できる。また、「南」（第 82 図№.348、第 88 図№.578）や「東」（第 82 図№.346、第 34 図№.12・第 85 図№.476 も可能性あり）が記されたものもあり､「東」については最近では山梨市の三ヶ所遺跡において「東大」出土例があるが､滝沢遺跡で「東」の上に「太」と思われる墨書が確認できる。この他､記号では「キ」（第 60 図№.２､第 77 図№.183）があり、「＃」（第 57 図№.２、第 84 図№.423）は第１次・第２次ともに確認できるものである。

一方、刻書土器（線刻土器を含む）については、第１次調査では確認されていない「川」の字の墨書土器が特徴的である。６号住居跡（第 46 図№.36）、８号住居跡（第 48 図№.12･14）をはじめ、遺構外出土土器（第 78 図№.223）などにおいても確認できる。「川」の字については、同じ河口地内にある西川遺跡において８世紀中葉～後葉の須恵器杯に記された例があり、やはり河口の地名に関わるものであろう。

（３）「河口駅」をめぐって

第１次・第２次調査を通じて、古代甲斐国三駅の一つ「河口駅」に直接関わるような遺構・遺物は発見されなかったが、地元富士河口湖町教育委員会による地道ながらも精力的な調査も続けられ、徐々にではあるが確実に平安時代のこの地域一帯の集落の立地や構造が明らかになってきている。そして「河口駅」の所在が、今後発掘調査により明らかになる日はそう遠くないと思われる。

第 13 表　甲斐型土器による編年対照表

<table>
<tr><th>甲斐型土器編年</th><th>山梨県史</th><th>時　期</th><th>滝沢遺跡第１次</th><th>滝沢遺跡第２次</th></tr>
<tr><td>Ⅴ期</td><td rowspan="2">Ⅲ期</td><td>８世紀後半</td><td colspan="2" rowspan="2">〔奈良・平安時代第１段階〕</td></tr>
<tr><td>Ⅵ期</td><td>８世紀末</td></tr>
<tr><td>Ⅶ期</td><td rowspan="2">Ⅳ期</td><td rowspan="2">９世紀前半</td><td colspan="2">〔奈良・平安時代第２段階〕</td></tr>
<tr><td>Ⅱ区３ｂ号住</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅷ期</td><td></td><td colspan="2">〔奈良・平安時代第３段階〕</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>Ⅱ区２号住</td><td>Ⅴ区９号住・15 号住・１号集石</td></tr>
<tr><td>Ⅸ期</td><td rowspan="3">Ⅴ期</td><td rowspan="3">９世紀後半</td><td colspan="2">〔奈良・平安時代第４段階〕</td></tr>
<tr><td></td><td>（古）Ⅴ区１号住・３号住・
７号住？・13 号住</td></tr>
<tr><td>Ⅹ期</td><td>Ⅰ区２号住・５号住
Ⅱ区１号住・3a 号住</td><td>（新）Ⅴ区２号住・８号住</td></tr>
<tr><td>Ⅺ期</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">９世紀末
～
10 世紀初頭</td><td colspan="2">〔奈良・平安時代第５段階〕</td></tr>
<tr><td></td><td>Ⅰ区３号住
Ⅱ区６ｂ号住</td><td>Ⅴ区５号住・６号住・10 号住</td></tr>
<tr><td>Ⅻ期</td><td rowspan="2">Ⅵ期</td><td rowspan="2">10 世紀前半</td><td colspan="2">〔奈良・平安時代第６段階〕</td></tr>
<tr><td>Ⅰ区１号住
Ⅱ区４号住・５号住・6a 号住</td><td>Ⅴ区４号住・12 号住・14 号住</td></tr>
<tr><td>ⅩⅢ期</td><td>Ⅶ期</td><td>10 世紀後半</td><td colspan="2">〔奈良・平安時代第７段階〕
Ⅴ区 11 号住</td></tr>
</table>

第２節　　弥生時代・古墳時代の遺構・遺物について

（１）方形周溝墓について

Ⅳ区で発見された１号方形周溝墓は、四隅に陸橋部をもつタイプで、東海から関東にかけての東海道沿いの地域で見られるが、県内では、甲府市上の平遺跡でわずかに検出されているのみである。その意味でも、方形周溝墓の波及時期やそのルートの解明に重要な資料であり、結果的にこれまでの県内での初現時期を遡らせることになったが、その形態やこの遺跡の立地を考慮すれば、県内最古の方形周溝墓であることに問題はないであろう。また、今回は１基のみの発見であったが、現状は低地となっているものの、確認面までが浅かったことを考慮すれば、周辺にも存在した可能性はあるだろう。

（２）遺構外出土土器について

Ⅳ区及びⅤ区遺構外出土土器を概観してみると、縄文時代中期の土器に始まり、弥生時代から古墳時代にかけての土器もかなり多く、調査時に平安時代の土器と思われていたものが、その後の整理作業の段階で古墳時代のものであることが判明しているものもある。そして、平安時代においてもⅤ区３号住居跡出土の相模型甕（第 38 図 24）、５号住居跡出土の信州系内黒土器（第 40 図 18）、６号住居跡出土の武蔵型甕（第 47 図№53）などの外来系土器が見られるが、弥生時代後期の中部高地型櫛描文土器（第 68 図 34）は北から、山梨県内では４遺跡目の出土となる古墳時代初頭の畿内系叩き甕（第 74 図 124）は南からというように、交通路が整備される以前に、古代の道を介して東海道諸地域、御坂峠を越えた甲府盆地、信濃との交流によって多くの文物がもたらされおり、まさに交通の要衝と呼ぶにふさわしい地域であった。

おわりに

滝沢遺跡の発掘調査は、第１章で報告した通り今後も計画され、継続している。平成 23 年度は 10 ～ 11 月にかけて、残された電気施設建設部分のうち、山側（Ⅵａ区）の 738㎡について第３次調査が行われた。Ⅴ区から続く住居跡の存在が明らかになっており、残された間の区域（Ⅵｂ区）にもさらに住居跡が存在することが確実となった。ここで十分に行うことができなかった、土器編年及び編年に基づいた集落の変遷等については、最後の第４次調査が終了した段階で、改めてまとめの考察を行いたい。

【参考文献】

・石川日出志　2003 「関東・東北地方の土器」『考古資料大観』第 1 巻　弥生・古墳時代　土器Ⅰ　小学館
・石黒立人　2003 「中部地方の土器」『考古資料大観』第 1 巻　弥生・古墳時代　土器Ⅰ　小学館
・稲垣自由　2010 「甲府盆地における弥生中期後半から後期の櫛描文土器」『中部高地における櫛描文系土器の拡散』山梨県考古学協会 2010 年度研究集会資料集　山梨県考古学協会
・大隅清陽　2009 「酒折宮伝承と古代の甲斐」『ヤマトタケル東征伝承を考える』第 37 回古代史サマーセミナー公開シンポジウム　同実行委員会・山梨県立博物館
・甲斐型土器研究グループ　1992 『甲斐型土器－その編年と年代－』甲斐型土器研究グループ第 1 回研究集会資料山梨県考古学協会
・櫛原功一　2011 「三ヶ所遺跡」『2010 年度下半期　遺跡調査発表会要旨』山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会
・小林健二　2006 「山梨県出土の畿内系叩き甕に関する覚書－甲府市塩部遺跡の調査から－」『研究紀要 22』山梨県立考古博物館・山梨県埋遺贈文化財センター
・小林健二　2010 「古墳時代における甲斐の地域社会－土器編年と墳墓の変遷－」『山梨県考古学協会誌』第 19 号山梨県考古学協会
・坂本美夫・末木健・堀内真　1983 「甲斐地域」『神奈川考古』第 14 号　シンポジウム奈良－平安時代土器の諸問題と周辺地域の様相－　神奈川考古同人会
・杉本悠樹　2010 「富士河口湖町　西川遺跡の調査成果について（報告）」『山梨県考古学協会誌』第 19 号山梨県考古学協会
・田尾誠敏　2000 「富士を望む三県の畿内産土師器－静岡県・山梨県・神奈川県－」
・立花実　2010 「神奈川県西部地域における弥生時代後期の土器様相と中部高地型櫛描文土器」『中部高地における櫛描文系土器の拡散』山梨県考古学協会 2010 年度研究集会資料集　山梨県考古学協会
・中山誠二　1993 「甲斐弥生土器編年の現状と課題－時間軸の設定－」『研究紀要 9』山梨県立考古博物館・山梨県埋遺贈文化財センター
・平野修　1992 「山梨県内出土の墨書土器と線刻土器」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第 4 集　帝京大学山梨文化財研究所
・正木季洋　2007 『滝沢遺跡・疱橋遺跡・谷抜遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 247 集　山梨県教育委員会ほか
・山下孝司・瀬田正明　1999 「第２章　山梨県の考古学編年・５　奈良・平安時代の編年」『山梨県史』資料編２原始・古代２　考古（遺構・遺物）　山梨県
・横浜市歴史博物館　2012 『企画展　火の神　生命の神－古代のカマド信仰をさぐる－』横浜市ふるさと歴史財団

写 真 図 版

発掘体験セミナー（平成 21 年 8 月 22 日）

Ⅳ区の調査

Ⅳ区全景

Ⅳ区調査風景

Ⅳ区土層堆積状況

Ⅳ区 1 号方形周溝墓主体部土坑

Ⅳ区土器出土状況

Ⅴ区の調査

Ⅳ区全景

Ⅴ区 1・2 号住居跡調査風景

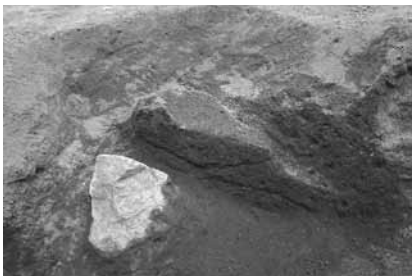
Ⅴ区 1 号住居跡カマド

Ⅴ区 1 号住居跡土器出土状況

写真図版 2

Ⅴ区 2 号住居跡 1 号カマド

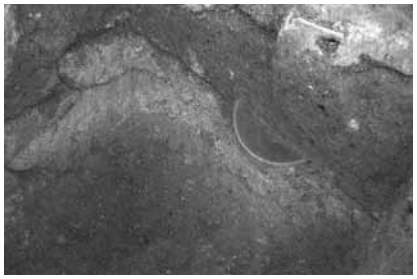
Ⅴ区 2 号住居跡 1 号カマド土器出土状況


Ⅴ区 2 号住居跡 2 号カマド

Ⅴ区 3 号住居跡

Ⅴ区 3 号住居跡土錘出土状況

Ⅴ区 3 号住居跡カマドと出土土器


Ⅴ区 3 号住居跡カマド内焼土と土器

Ⅴ区 4・5 号住居跡

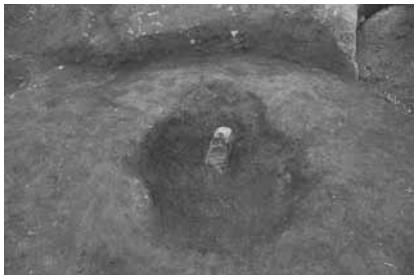
Ⅴ区 4 号住居跡土器出土状況

Ⅴ区 4 号住居跡カマド

Ⅴ区 5 号住居跡 1 号カマド土器出土状況

Ⅴ区 5 号住居跡 2 号カマド①

Ⅴ区 5 号住居跡 2 号カマド②


Ⅴ区 5 号住居跡 2 号カマド③

Ⅴ区 6 号住居跡

Ⅴ区 6 号住居跡土器出土状況

Ⅴ区 6 号住居跡カマド

Ⅴ区 7 号住居跡・1 号溝状遺構

Ⅴ区 8・9 号住居跡

Ⅴ区 8 号住居跡カマド

Ⅴ区 8 号住居跡土器出土状況

Ⅴ区 8 号住居跡耳皿出土状況

Ⅴ区 9 号住居跡カマド

Ⅴ区 9 号住居跡土器出土状況

Ⅴ区 10 号住居跡

Ⅴ区 10 号住居跡カマド

Ⅴ区北壁・10 号住居跡土層堆積状況

Ⅴ区 11 号住居跡

Ⅴ区 11 号住居跡カマド

Ⅴ区 12・13 号住居跡

Ⅴ区 12 号住居跡土器出土状況

Ⅴ区 14 号住居跡

Ⅴ区 14 号住居跡カマド

Ⅴ区 15 号住居跡

Ⅴ区 15 号住居跡土器出土状況

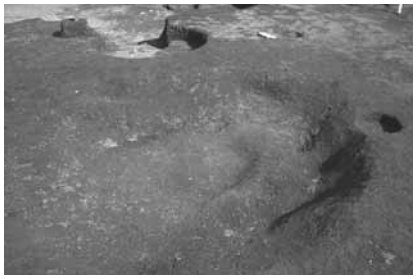
Ⅴ区 15 号住居跡カマド

写真図版 4

Ⅴ区 1 号集石

Ⅴ区 1 号集石土器出土状況

Ⅴ区 1 号集石刀子出土状況


Ⅴ区 1 号竪穴状遺構

Ⅴ区 1 号焼土

Ⅴ区 2 号焼土

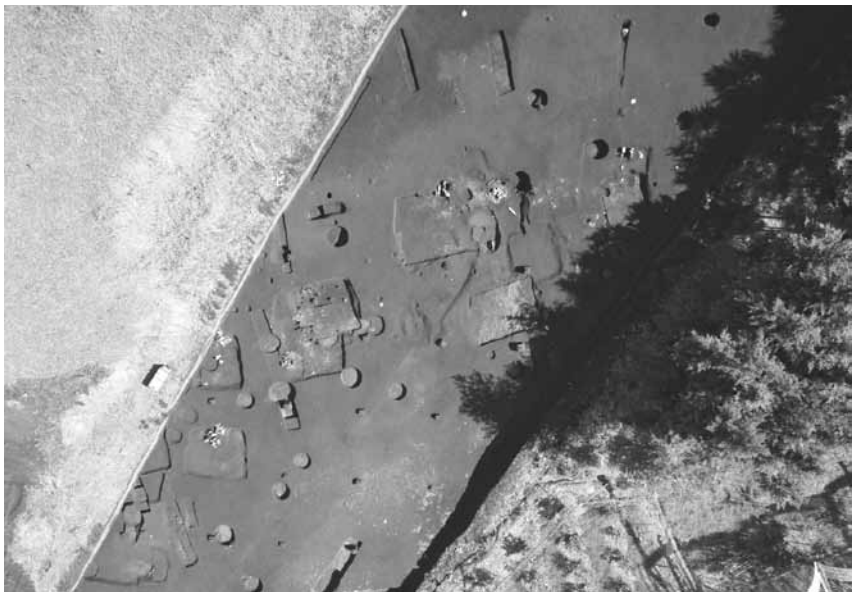
Ⅴ区 4 号焼土

Ⅴ区 1 号掘立柱建物跡

Ⅴ区 2 号溝・27 号土坑

Ⅴ区 3 号溝状遺構

Ⅴ区 1 号土坑


Ⅴ区住居群と土坑群

Ⅴ区 AY-9 グリッド弥生土器出土状況

Ⅴ区 AN-16 グリッド土師器出土状況

Ⅴ区 AX-10 グリッド鉄鏃出土状況

Ⅳ区出土弥生土器（条痕文）

Ⅳ区出土弥生土器（浅鉢）

Ⅴ区 1 号住居跡出土土器

Ⅴ区 2 号住居跡出土土器

Ⅴ区 3 号住居跡出土土器（1）

Ⅴ区 4 号住居跡出土土器

Ⅴ区 5 号住居跡出土土器（1）

Ⅴ区 5 号住居跡出土土器（2）

Ⅴ区 6 号住居跡出土土器（1）

Ⅴ区 6 号住居跡出土土器（2：須恵器長頸壺）

写真図版 6

Ⅴ区 3 号住居跡出土土器（2：相模型甕）

Ⅴ区 6 号住居跡出土土器（3：武蔵型甕）

Ⅴ区 8 号住居跡出土土器（1）

Ⅴ区 8 号住居跡出土土器（2）

Ⅴ区 8 号住居跡出土土器（3）

Ⅴ区 10 号住居跡出土土器（1）

Ⅴ区 9 号住居跡出土土器

Ⅴ区 10 号住居跡出土土器（2）

Ⅴ区 11 号住居跡出土土器

Ⅴ区 12 号住居跡出土土器

Ⅴ区 14 号住居跡出土土器

Ⅴ区 15 号住居跡出土土器

Ⅴ区 1 号集石出土土器

Ⅴ区 4 号焼土出土土器

Ⅴ区遺構外出土土器（No. 100）

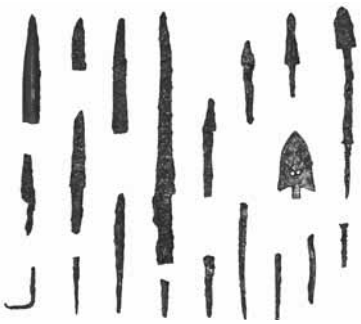
Ⅴ区遺構外出土土器（No. 124）

Ⅴ区遺構外出土土器（No. 65）

Ⅴ区遺構外出土土器（No. 144）

Ⅴ区遺構外出土土器（No. 164・166・167）

Ⅴ区出土石器・石製品



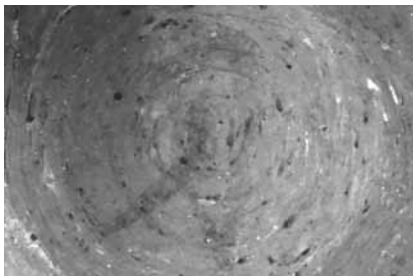
Ⅴ区出土鉄製品

写真図版 8

Ⅴ区出土墨書土器

Ⅴ区 1 号住居跡（No. 5「江南」？）

Ⅴ区 2 号住居跡（No. 12「太東」？）



Ⅴ区 2 号住居跡（No. 13「刀」）

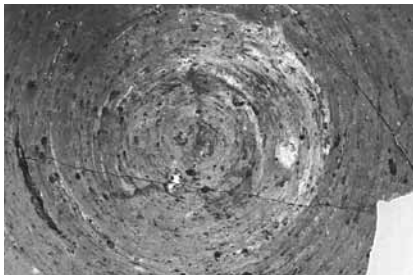
Ⅴ区 3 号住居跡（No. 1「九」）

Ⅴ区 4 号住居跡（No. 1「不」？）

Ⅴ区 4 号住居跡（No. 19「連」）

Ⅴ区 5 号住居跡（No. 11「又」）

Ⅴ区 6 号住居跡（No. 29「本人」）

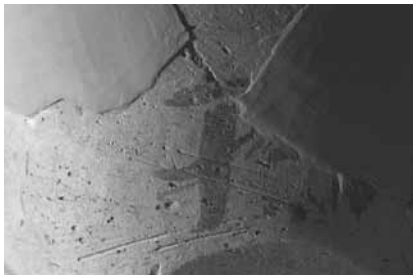


Ⅴ区 8 号住居跡（No. 11「刀」）

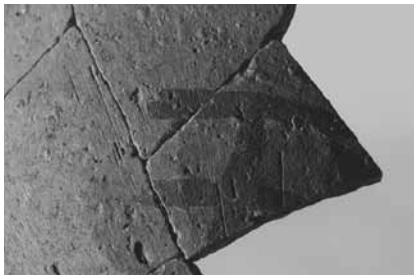
Ⅴ区 12 号住居跡（No. 2「＃」）

Ⅴ区 15 号住居跡（No. 2「キ」）

Ⅴ区遺構外（No. 183「キ」）

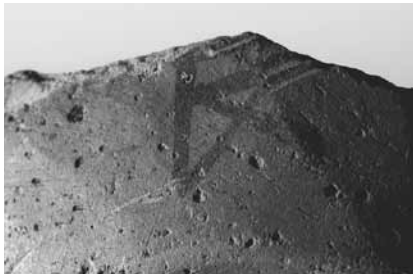


Ⅴ区遺構外（No. 227）



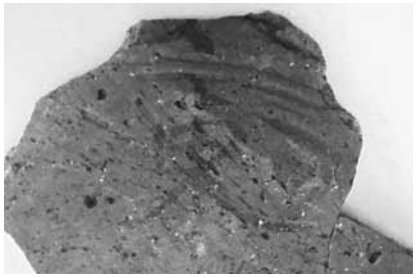
Ⅴ区遺構外（No. 228「王」）

Ⅴ区遺構外（No. 311）



Ⅴ区遺構外（No. 313「長」？）

Ⅴ区遺構外（No. 314「巾□」？）



Ⅴ区遺構外（No. 346「太東」？）

Ⅴ区遺構外（No. 348「南」）

Ⅴ区遺構外（No. 349「合」）

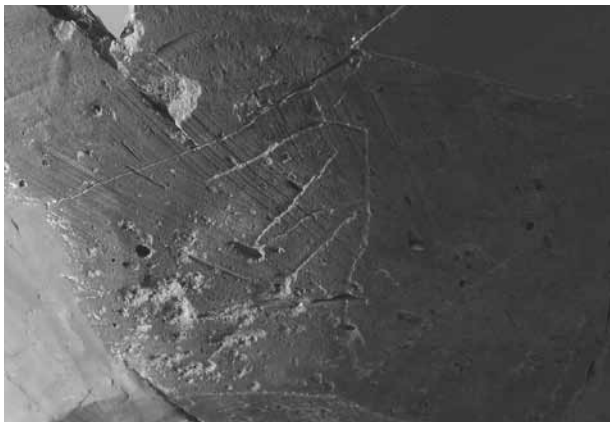
Ⅴ区遺構外（No. 359「伏」）

Ⅴ区遺構外（No. 423「＃」）

Ⅴ区遺構外（No. 578「南」）

Ⅴ区遺構外（No. 602「□甲」）

Ⅴ区出土刻書土器

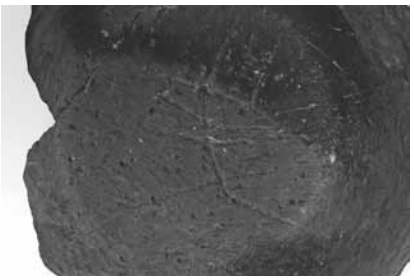

Ⅴ区 5 号住居跡（No. 11）

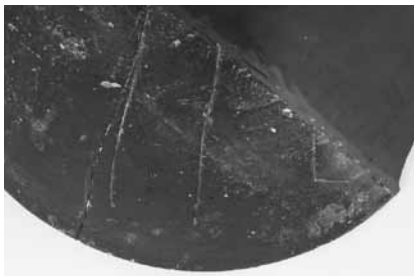
Ⅴ区 6 号住居跡（No. 1）

Ⅴ区 6 号住居跡（No. 36）

Ⅴ区 8 号住居跡（No. 12）

Ⅴ区 8 号住居跡（No. 14）


Ⅴ区遺構外（No. 182）


Ⅴ区遺構外（No. 223）

Ⅴ区遺構外（No. 318）

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	たきざわいせき（だいにじ）
書　　名	滝沢遺跡（第２次）
副　　題	一般国道 137 号吉田河口湖バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第 282 集
著　者　名	小林健二
発　行　者	山梨県教育委員会・山梨県県土整備部
編　集　機　関	山梨県埋蔵文化財センター
所 在 地・ 電 話	〒 400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923　TEL055-266-3016
発 行 年 月 日	2012 年３月 23 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
たきざわいせき	やまなしけんみなみつるぐんふじかわぐちこまちかわぐち	19430	河－11	35° 31′ 12″	138° 46′ 37″	20090528 ～ 20091028	3,020	一般国道 137 号吉田河口湖バイパス建設
滝沢遺跡（第２次）	山梨県南都留郡富士河口湖町河口 534 ほか							

所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
滝沢遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 平安時代 中世 近世	竪穴住居跡、集石、焼土、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、方形周溝墓、溝状遺構、土坑、ピット	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、土製品、石器・石製品、鉄製品	平安時代の土師器「甲斐型土器」が大量に出土し、これらの中には墨書土器・刻書土器も多数含まれる。弥生時代では、県内最古となる方形周溝墓が発見された。

要　　約

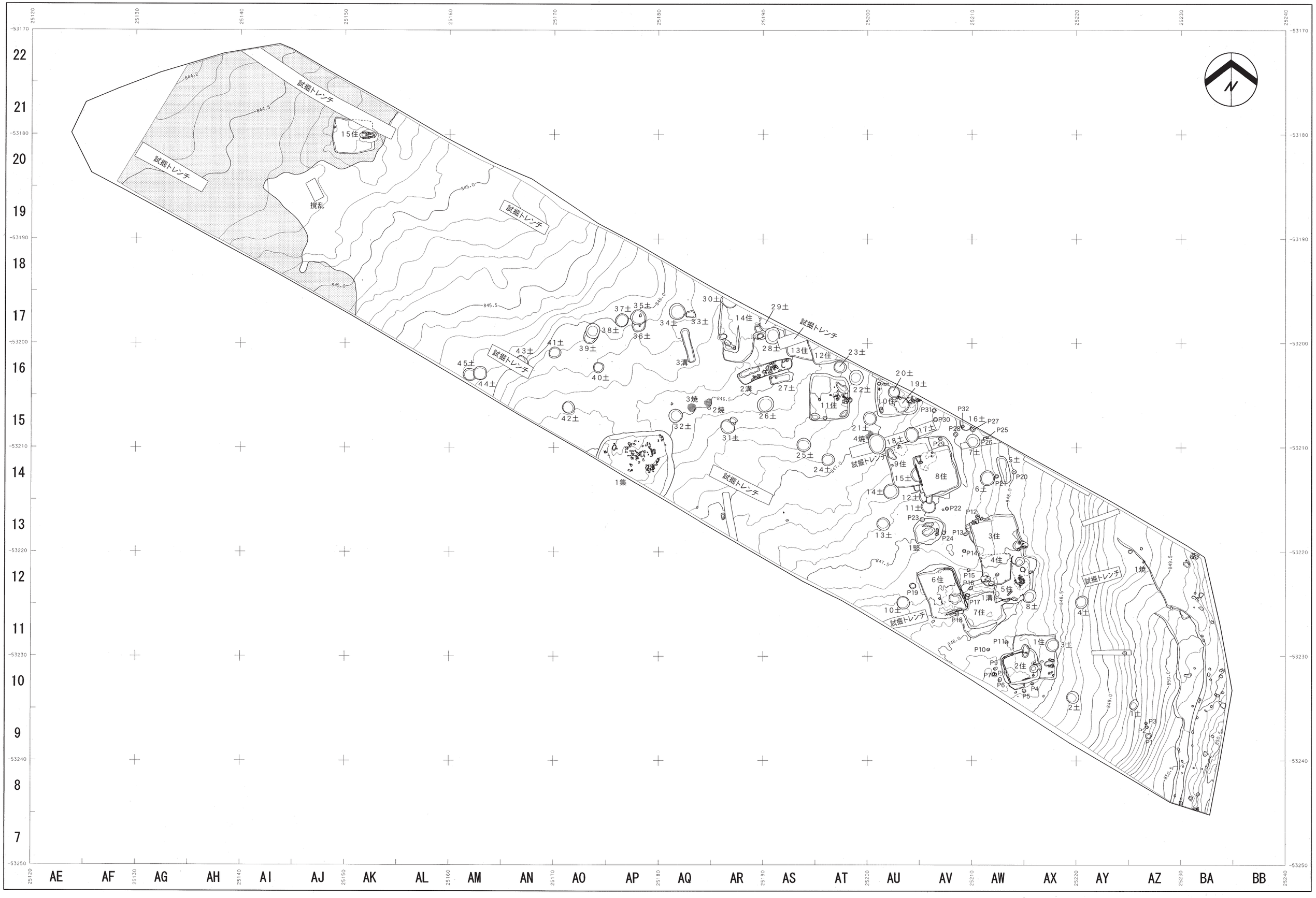
本遺跡の調査は一般国道 137 号吉田河口湖バイパス建設工事に伴い実施された。遺跡は御坂山塊、御坂山・三ツ峠山の南麓で、河口湖の北東部の標高 840 ～ 850 mにかけての緩やかな斜面上に立地している。古代の官道「甲斐路（御坂路）」に沿って広がっていた集落で、平安時代（9 世紀末～ 10 世紀代）の竪穴住居跡 15 軒、集石遺構 1 基、溝状遺構 1 条、縄文・古墳・平安時代の焼土遺構 4 基、中世以降の掘立柱建物跡 1 棟、溝状遺構 2 条、土坑 44 基、平安時代以降のピット 32 基、時期不明の竪穴状遺構 1 基の他、弥生時代中期の方形周溝墓 1 基が検出された。平安時代の土器には墨書・刻書が多く見られ、弥生・古墳時代の土器も多く、古代の道を介した東海道諸地域、甲府盆地、信濃との交流をうかがわせる。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 282 集

滝沢遺跡 (第２次)

― 一般国道 137 号吉田河口湖バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書 ―

印刷日　2012 年（平成 24 年３月 19 日）
発行日　2012 年（平成 24 年３月 23 日）
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923
TEL 055-266-3016　FAX 055-266-3882
発　行　山梨県教育委員会
山梨県県土整備部
印　刷　株式会社峡南堂印刷所


試掘トレンチ
撹乱
15住
1集
1竪
1溝
2溝
3溝
1焼
2焼
3焼
4焼
1住
2住
3住
4住
5住
6住
7住
8住
9住
10住
11住
12住
13住
14住
1土
2土
3土
4土
5土
6土
7土
8土
9土
10土
11土
12土
13土
14土
15土
16土
17土
18土
19土
20土
21土
22土
23土
24土
25土
26土
27土
28土
29土
30土
31土
32土
33土
34土
35土
36土
37土
38土
39土
40土
41土
42土
43土
44土
45土
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P22
P23
P24
P25
P26
P27
P28
P29
P30
P31
P32
844.2
844.5
845.0
845.5
846.0
846.5
847.0
847.5
848.0
848.5
849.0
849.5
850.0
850.5
N
0 2 5 10 20m
1/300

滝沢遺跡　V区　全体図